

# 福井工業高等専門学校 自己点検・評価報告書



平成25年2月

独立行政法人 国立高等専門学校機構  
**福井工業高等専門学校**



## まえがき

本校は、本年度で創立48周年を迎え、この間、本科卒業生約6,800名、専攻科修了生約350名を社会に送り出し、わが国の産業発展に寄与するとともに地域社会に多大の貢献を果たしてきた。国立高等専門学校は、主として公費で運営されており、その運営状況を外部に公開し、内容を国民に積極的に説明するとともに、改善に努めることが求められている。本校は平成16年の法人化から9年経過しようとしており、平成21年度からは第2期中期計画に基づいて教育研究活動を展開している。本校の教育プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)により認定され、認定校としての社会的評価を得るとともに、本校専攻科修了生は技術士一次試験が免除され、最短26歳で技術士の資格が取れることとなっている。本校は今年度、平成17年以来2回目となる大学評価・学位授与機構による機関別認証評価とJABEE技術者教育プログラムの中間審査を受審した。

これらの受審を通じて感じられたのは、教育研究の改善・充実に向けた日頃の継続的な取組が如何に大事であるかということである。

本校では、自己点検・評価委員会を中心として「福井高専教育点検システム」を整備し、普段から本校の教育内容のレベル維持に努めている。本自己点検・評価報告書は、平成24年2月にまとめた同報告書に続くもので、本校の教育・研究活動の全貌を記載している。

上記福井高専教育点検システムでは、計画(Plan)、実施及び運用(Do)、点検・検証(Check)、見直し・改善(Action)の、いわゆるPDCAサイクルが常時運用されるが、その要が毎年刊行されている本報告書であり、外部に公開して第三者のご批判、評価、ご意見を戴くことをその目的とする。本校では、学外からの意見を仰ぐため、福井工業高等専門学校外部有識者会議を設置し、本校の教育研究目標と計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について助言と勧告を得ることとしており、本書はそのための基礎資料としても利用に供される。

本書が本校内外で活用されて、本校の教育研究の一層の改善・充実につながることを願っている。

平成25年2月

福井工業高等専門学校

校長 池田大祐



## 自己点検・評価について

本自己点検・評価報告書中の「点検・評価」は、文部科学省独立行政法人評価委員会の項目別評価基準を準用し、本校の「達成度評価」として、以下のとおり用いました。

- S：計画をはるかに上回る実績を残した
- A：達成度100%以上
- B：達成度70%以上～100%未満
- C：達成度70%未満

# 目 次

## ま え が き

### 自己点検・評価について

I. 本校の沿革・現況及び特徴・ . . . . .	1
II. 目的・ . . . .	4
III. 平成24年度年度計画・ . . . .	8
IV. 自己点検評価	
IV-1. 全学的に関する事項	
教務関係・ . . . . .	1 9
学生指導関係・ . . . . .	3 6
学寮関係・ . . . . .	4 5
進路指導関係・ . . . . .	4 8
研究活動関係・ . . . . .	5 6
地域・社会貢献活動関係・ . . . . .	5 8
国際交流関係・ . . . . .	6 4
国際交流関係（留学生）関係・ . . . . .	6 7
施設整備関係・ . . . . .	6 9
管理運営関係・ . . . . .	7 2
財務関係・ . . . . .	7 8
IV-2. 各学科・教室等に関する事項	
（各学科・教室等における「1. 教育理念・教育目標、2. 将来計画、3. 重点課題、 4. 進学・就職指導状況、5. 特色ある教育・研究の取り組み・活動等、6. 点検・ 評価、7. 改善課題・方策」を記載しております。）	
機械工学科・ . . . . .	8 3
電気電子工学科・ . . . . .	8 7
電子情報工学科・ . . . . .	9 5
物質工学科・ . . . . .	9 9
環境都市工学科・ . . . . .	1 0 3
一般科目教室・ . . . . .	1 0 8
専攻科・ . . . . .	1 1 3
IV-3. センター等に関する事項	
（センター等における「1. 現状、2. 点検・評価、3. 改善課題・方策」を記載し ております。）	

学生相談室・保健室・ . . . . .	1 1 8
図書館・ . . . . .	1 2 3
創造教育開発センター・ . . . . .	1 2 6
総合情報処理センター・ . . . . .	1 3 1
地域連携テクノセンター・ . . . . .	1 3 7
教育研究支援センター・ . . . . .	1 4 1

#### IV－4. 委員会等に関する事項

(委員会等における「1. 現状、2. 点検・評価、3. 改善課題・方策」を記載しております。)

教育システム推進委員会・ . . . . .	1 4 4
情報セキュリティ推進委員会・ . . . . .	1 4 6
J A B E E委員会・ . . . . .	1 4 7
研究紀要委員会・ . . . . .	1 4 8
遺伝子組換え委員会・ . . . . .	1 4 9
知的財産教育委員会・ . . . . .	1 5 1
ネットワーク委員会・ . . . . .	1 5 2
安全衛生委員会・ . . . . .	1 5 3

#### V. 総括・ . . . . . 1 5 4

#### VI. 資料一覧

・ 科学研究費助成事業（科研費）申請・採択状況一覧・ . . . . .	1 5 7
・ 科学研究費助成事業（科研費）採択内訳・ . . . . .	1 5 8
・ 外部資金受入一覧・ . . . . .	1 6 0
・ 民間との共同研究受入内訳・ . . . . .	1 6 1
・ 受託研究受入内訳・ . . . . .	1 6 5
・ 寄付金受入内訳・ . . . . .	1 6 6
・ 出前授業・公開講座実施一覧・ . . . . .	1 7 0
・ 出前授業実施内訳・ . . . . .	1 7 1
・ 公開授業実施内訳・ . . . . .	1 7 9
・ 公開授業実施一覧・ . . . . .	1 8 3
・ 教員の派遣一覧・ . . . . .	1 9 0



## I. 本校の沿革・現況及び特徴

### 1 沿革・現況

福井工業高等専門学校は（以下本校）は昭和40年4月1日、国立学校設置法の一部改正する法律により発足した。昭和40年武生市緑町（現越前市）の仮校舎で第1回入学式が挙行され、昭和41年に鯖江市下司町の本校舎に移転し、現在にいたっている。発足時の学科構成は、機械工学科、電気工学科、工業化学科であった。これは、工学の基礎となる機械・電気・化学となる学科が構成されたものであるが、工業化学については福井県が繊維及び染色関係の企業が多いことにより設置されたものである。

また、昭和45年度には「土木工学科」が増設されたが、これは、福井県が大手の土木業者を多く出している土木県であるとともに、当時の土木技術者不足に対応するためである。さらに、昭和63年度には情報社会の到来を受けて、ハードとソフト両面の情報処理技術者を育成する「電子情報工学科」が増設された。

その後、平成5年度に土木工学科を時代の要請に沿うべく「環境都市工学科」として改組した。また、平成7年度に工業化学科を「物質工学科」として改組し、材料工学コースと生物工学コースの二つのコース制とした。さらに、高専5年間の教育課程の上に、創造的な研究開発や先端技術に対応できる人材の育成するため平成10年には、専攻科（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）が設置された。平成17年度には、電気工学科を「電気電子工学科」とした。これは電気工学科卒業生にも、近年の進展する電子技術を基礎から教育する必要があるため、学科の改組を行ったものである。現在では、5学科・2専攻、学生1,045名規模の教育・研究機関に発展してきており、本校の現況は下記のとおりである。

(1) 所在地 福井県鯖江市下司町

(2) 学科等構成

①本科

機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、物質工学科、環境都市工学科

②専攻科

生産システム工学専攻、環境システム工学専攻

(3) 学生数及び教職員数

①学生数（平成25年1月現在）

学科学生 993名（定員1,000名）

専攻科学生 52名（定員40名）

②教職員数（平成25年1月現在）

教員数 77名 職員数 43名

## 2 特徴

教育の特徴としては、豊かな創造力とデザインマインドを持つ技術者を育成するため、「ものづくり教育」を進め、NHKアイデア対決ロボットコンテストでも毎年のように上位に入賞し、平成5年度と平成9年度の2度にわたって最高の賞であるロボコン大賞を獲得するとともに、平成12～22年度にかけては毎年連続して、全国大会出場を果たした。

本校を目指す中学生に対しては、アドミッションポリシーを示すとともに、平成17年度には、入学時に学科を決められない中学生のために、2年次より転科可能な「工学基礎コース」を全国で初めて設置した。

また、福井高専は地元で立脚した学校及び地元で開かれた学校を目指し、産官学共同研究を進めている。福井県における産官学共同研究ネットワークの中心の一つである「地域連携テクノセンター」では、地元で密着した共同研究を進めている。福井県の伝統産業である和紙の生産者組合、福井県和紙工業協同組合と地元町の依頼により「伝統産業支援室」を設置（平成16年10月）し、和紙に関する共同研究を行っている。

さらに、福井高専の立地する鯖江市は世界最大の眼鏡枠生産地でもあることから、福井県眼鏡工業組合とも新しい産官学共同研究事業を開始し、「地場産業支援室」を設置（平成17年4月）して眼鏡枠材料に関する共同研究を行っている。また、平成17年5月には、これら地域社会との連携をさらに深めるため、本校は近隣2市1町と包括的な連携である「地域連携協定」を結び、さらなる共同研究・出前授業・リカレント教育に取り組んでいる。

国際連携としては海外学生派遣制度の他、平成17年度からオーストラリアのBallarat大学と提携し、学生の相互交換留学制度を開始することとした。平成18年5月には、本校学生17名がBallarat大学へ1週間留学し、英会話と現地の文化歴史に関する学習を行った。平成22年3月にも2週間、本校学生9名を留学させるとともに、平成23年12月にはBallarat大学の学生9名を受け入れ、本校学生との交流を図った。今後も引き続き、同大学と本校は相互交換留学制度を続けることで合意している。

学校運営の評価として、平成14年度に校外の有識者による外部評価委員会（平成16年度から「評議員会」、平成21年度から「外部有識者会議」）を毎年開催し、その都度結果を開示している。

本校本科の全学科の4、5年と専攻科の全専攻（生産システム工学専攻、環境システム工学専攻）の1、2年の教育課程を融合複合した「環境生産システム工学」教育プログラムは、平成16年度日本技術者教育認定機構（JABEE）から、社会の要求を満たしている技術者教育プログラムであると福井県内の高等教育機関では最初に認定を受けた。認定期間の満了に伴い平成21年10月に継続審査を受審し、平成22年5月には、平成2

1年度からの認定継続が認められた。ただしこの際、専門工学の定義等が分かりにくいとの指摘を受け、今年度入学生からはこれらを改善した教育プログラムを展開しており平成24年11月には中間審査の受審をした。

さらに、平成17年11月には(独)大学評価・学位授与機構による「高等専門学校機関別認証評価」を受審し、平成18年3月に「改善事項なし」との評価結果が同機構から公表された。平成24年11月には2回目の「高等専門学校機関別認証評価」を受審するなど、高等教育機関として自立的・自律的に教育・研究、組織運営等の質の改善に向け、鋭意努力を行っている。



## Ⅱ．目的

### 福井工業高等専門学校使命

福井工業高等専門学校は、基本理念に基づいて、国際社会で活躍できる実践的技術者を育成するとともに、地域社会に貢献することを使命としている。

### 基本理念

- ・創造性豊かな人材を育成する。
- ・幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う。
- ・高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う。
- ・環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う。
- ・地域と連携した産官学共同研究の推進を図る。

### 教育方針

- ・技術者として必要かつ十分な基礎力と専門技術を習得させる。
- ・個性を伸ばし、独創的能力の開発に努力する。
- ・教養の向上に努め、良識ある国際人としての成長を期する。
- ・健康の増進に努め、身体的精神的に強じんな耐久力を育成する。
- ・規律ある日常生活に徹し、明朗、かつ達な資性のかん養を図る。

### 養成すべき人材像

本校の養成すべき人材像は以下のとおりである。

「優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者」

### 学習・教育目標

#### 【本科(準学士課程)】

RA 多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

- ① 人間社会の基本的な仕組みを理解し、様々な地域の言語や歴史・伝統などの文化を多面的に認識できる。
- ② 様々な地域における芸術とそれに根ざした価値観を、認識・理解する意識を持つ。

RB 数学とその他の自然科学、及び専門分野におけるものづくり、環境づくりに関する基礎能力を身に付ける。

- ① 数学とその他の自然科学に関する基礎知識を理解できる。
- ② 専門分野における基礎知識・技術に基づいて情報を処理し、工学的現象を正しく理解できる。

RC 技術者に必要なデザインマインドを身に付ける。

- ① 課題に対して自主的に問題を発見し、解決方法を探求して問題解決能力の重要性を認識できる。

RD 国際社会で活躍するためのコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

- ① 英語による基礎的な対話や文章が理解でき、自分の意見を表現できる。
- ② 日本語の文章や言語作品を的確に理解・鑑賞でき、自分の思いや主張を適切に日本語の談話や文章で表現できる。
- ③ 分かりやすい図表等を作成し、それを用いて日本語により効果的な説明ができる。

RE 実践的能力と論理的思考能力を身に付ける。

- ① 実験・調査などの経験を通してデータの解析法を学び、理論との比較や考察などができる。
- ② 課題の背景を理解し、習得した知識を生かして適切な方法を選んで実験・調査などを遂行し、データを解析・考察することにより、結果を客観的に説明できる。
- ③ 身体・健康・スポーツに関する知識と実践力を獲得するために各自の能力に応じて目標を設定し、個人あるいはグループで課題を達成できる。

#### 【専攻科課程】

JA 地球的視点から多様な文化や価値観を認識できる能力を身に付ける。

- ① 異なる地域に属する人々がもつ文化や、それに根ざした価値観などを多面的に認識できる。
- ② 持続可能な地球社会を構築するという目的意識のもと、種々の分野における人間の活動や文明が地球環境に与える影響について理解できる。
- ③ 技術者が社会に対して負うべき責任を明確に自覚したうえで、工学に関する学術団体が規定している倫理綱領を理解し、説明できる。

JB 数学とその他の自然科学、情報処理、及び異なる技術分野を含む問題にも対処できる、ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける。

- ① 工学的諸問題に対処する際に必要な、数学とその他の自然科学に関する知識を理解できる。
- ② 工学的諸問題に対処する際に必要な、情報処理に関する基礎知識を理解できる。
- ③ 得意とする専門技術分野を持つことに加え、他の技術分野を積極的に吸収して、持続可能な社会の構築を意識したものづくりのプロセスに対応できる。

JC 技術者に求められる基礎的なデザイン能力を身に付ける。

- ① 構造物または製品を設計する際に、複数の技術分野についても意識しながら、つくる目的を理解し、機能性・安全性及び経済性に加えて、環境負荷の低減・快適性などを考慮できる。
- ② 新しく出会った課題について、自ら問題点を発見しようとする意識を持ち、既知の事柄と未知の事柄とを識別したうえで、それらを蓄積・整理できる。

③ 既成概念にとらわれない創造性豊かな発想のもと、自分の専門分野以外の技術分野を含む課題について、多様な観点から検討・考察し、その結果を具体的に示せる。

④ 異なる分野の人を含んだグループでの協議及び共同作業を通して、解決方法について複数の候補を見いだし、その中から最も適切なものを選択できる。

JD 国際社会で活躍する技術者に必要なコミュニケーション基礎能力を身に付ける。

① 英語による日常的な内容の文章や対話を理解でき、英語により自分の意見を適切に表現できる。

② 得意とする専門技術分野に関わる英語論文等の内容を日本語で説明できる。

③ 自分の意見・主張などを、相手を意識した規範的な表現を用いて日本語の談話や文章で表現できる。

④ 日本語による口頭発表や討議において、自らの報告・聴衆への対応・他者への質疑などを行える。

⑤ 正確で分かりやすいグラフや図表を、必要に応じて用意できる。

JE 実践的能力及び論理的思考能力を総合的に身に付ける。

① 得意とする専門技術分野を含む複数の工学分野において、与えられた実験・演習課題の工学的意義を理解し、提示された方法を計画・実行することにより、定められた期限までに妥当な結果を導ける。

② 数学や情報処理の知識・技術を用いて、実験または数値シミュレーションの結果を統計的に処理し、その結果を評価して、対象としている工学的現象の成り立ち・仕組み等を理解し、説明できる。

③ 技術者が経験する実務上の工学的な諸問題を認識し、それらを具体的に示せる。

④ 自ら明確に設定した目標を達成するため、詳細な計画を立て、それに沿って継続して努力できる。

⑤ 考察対象に関する見解を論理的に構築し、それに基づいた問題解決のための仮説を立て、適切な実験・解析方法を選択できる。

## アドミッションポリシー

### 全学科共通

- ① ものづくり、環境づくりに興味がある人
- ② 基礎学力が備わっている人
- ③ 新しい目標にいつもチャレンジする人
- ④ 国際社会で活躍したいと思っている人
- ⑤ 自分で課題を考え、解決する能力を身に付けたい人

### 機械工学科

- ① 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムや、環境、福祉、宇宙工学などの分野に興味がある人



- ② サイエンスを学び、ものづくりに創造性を発揮して、人間社会に貢献したい人
- ③ 機械を創る材料、動かすエネルギー、制御する情報など幅広い技術を身に付けた人

#### 電気電子工学科

- ① ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
- ② 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人
- ③ 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

#### 電子情報工学科

- ① コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
- ② ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- ③ 未来の IT 機器の開発をやってみたい人

#### 物質工学科

- ① 化学と生物の世界へ第一歩を踏み出したい人
- ② 地球に優しいものづくりをしたい人
- ③ バイオの技術で社会に貢献したい人

#### 環境都市工学科

- ① 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
- ② 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
- ③ 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

#### 専攻科

- ① 得意とする工学分野の基礎能力（数学的素養を含む）を身に付けている人
- ② 何事にも自主的・能動的に臨む姿勢を持つ人
- ③ ものづくり・環境づくりに意欲のある人
- ④ 多様なシステムを理解し、創造的にデザインする能力を身に付けたい人
- ⑤ 国際社会で活躍できる実践的技術者を目指す人
- ⑥ 学士（工学）の学位を取得したい人

### Ⅲ．平成24年度年度計画

#### Ⅲ－1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置

##### 1 教育に関する事項

##### (1) 入学者の確保

- HPのトピックスを頻繁に更新し、最新の情報を発信できるように努める。
- 昨年度に引き続き、入学志願者確保のためにインターネットやコミュニティーラジオその他のメディアを通して積極的に情報発信を行い、高専の認知度向上を図るとともに、中学校のみならず小学校や子供会を通しての出前授業を行い、広い世代へ直接触れ合う機会を増やし、高専のブランド力向上と親しみやすいイメージの醸成に努める。また、ICTを活用した学生主体での情報発信室をアントレプレナーサポートセンターと連携を取りながら学内に設置し、より近い世代から中学生にアピールを図る。さらに、県主催の企画と連携を図り、科学教育啓発の取り組みの中で高専のPRを行う。
- 本校のオープンキャンパスは二十数年の歴史を持ち、その時々状況に応じ内容を変更してきたが、さらに中学低学年にもアピールできるように内容を精査して、高専へ興味を向けさせるきっかけを作る段階から、徐々に進学意志を固めてもらえるような工夫をした三つの企画を段階的に配置し、生徒や保護者の意識向上を図る。
- 公共のイベントを利用して小学生や地域住民への認知度を向上させる取り組みを行う。
- 中学校の求めに応じ学校単位での説明会を積極的に行う。さらに、女子学生を確保するために、女子中学生と保護者を対象にした体験学習会を開催するのに加えて、パンフレットや広報誌などを発行し、積極的にPRを行う。また、文化的イベントを通して、高専の新たな側面を積極的にアピールする。
- 中部日本海5高専共同PRサイトを活用して更なる情報発信を行うとともに、現役学生による編集委員会を活用して、時勢に見合ったサイト運営を行う。
- 各種広報資料は、毎年広報対象者の反応を見ながらフィードバックをかけ作り直しており、今後ともより利用価値の高いものにするように努める。
- Webの充実にも引き続き取り組み、より分かりやすく、興味のある内容にブラッシュアップして行く。さらに別サイトとして、学生主体での情報発信を試み、近い世代間での親近感や共感を醸成し、高専理解を進める。
- 出前授業や公開講座等の開催を通して、地域社会における高専の認識度・存在感の向上に向けた情報発信を図る。
- 本校のアドミッションポリシーに沿った入試であることを今年度も引き続き検証し、その結果に基づいて改善策等を検討する。
- 世情の変化を見据えたアドミッションポリシーであるかの検証を行う。

- 今年度の専攻科学生募集要項に語学スキルの記入欄を新設し、国際的に活躍できる技術者となる人材の確保に努める。
- 専攻科入試に専門科目試験を導入して 3 年が経過したことを受けて、その効果を検証する。
- 入学者に対して春季休業期間中に主要科目の課題を課して、入学者の学力水準の維持を図る。
- 入試倍率の確保に向け、PR 活動の充実を図るとともに、15 歳就学人口の年度推移を把握し、実効性のある施策を実施する。
- 機械工学科では、中学生に受け入れ方針（求める人物像）をより分かりやすくするために、アドミッションポリシーの見直しを行う。
- 電気電子工学科では、入学志願状況を全国レベルで調査するとともに、新入生に対するヒアリングを行い、志願者増に向けた具体策を講ずる。
- 電子情報工学科では、今年度女性教員を採用したことを踏まえ、女性視点での女性技術者の魅力をアピールするための活動に取り組み、女子中学生の志願者増加を目指す。
- 物質工学科では、アドミッションポリシーの一部変更も視野に入れて、より効果的な広報活動のための学科パンフレットの見直しを検討する。さらに、小中学生・保護者を対象にした公開講座や出前授業等を積極的に開催・実施し、学科の魅力を広くアピールする。
- 環境都市工学科では、地域での認識度を向上させ入学志願者増に結び付く具体策を検討し、実施する。
- 一般科目教室では、公開講座などの地域貢献活動により、魅力ある高専のアピールに努める。
- 専攻科では、学習・教育目標と関連科目の成績との関係を、選抜区分ごとに継続して検討する。また、本科生を対象にして、専攻科担当教員と現役専攻科生から専攻科の魅力や優位性等を伝える機会を設ける。

## （２）教育課程の編成等

- モデルコアカリキュラムと現行カリキュラムとのすり合わせシミュレーションを行い、モデルコアカリキュラムとの整合性の確認作業を行う。
- 機械工学科では、他学科と共同で授業・教材を開発し、創成科目の一つであるＣ言語応用の授業内容を検討する。
- 電気電子工学科では、昨年度改訂したカリキュラムとモデルコアカリキュラムとの整合性についての確認作業を行う。
- モデルコアカリキュラムの電子情報工学科への適用を検討するため、各科目担当者により、現行の電子情報工学科カリキュラムとの比較で不足している項目の洗い出し



作業を行う。

- 物質工学科では、現行の「コース制（「材料工学コース」・「生物工学コース」）」教育カリキュラムとモデルコアカリキュラムとの整合性を確認して、更なる教育の質の向上及び改善を目指す。
- 環境都市工学科では、今年度、地域の要請を受けて建築系科目を導入したカリキュラムの履修学生が卒業することを受け、就職開拓を含め適切な進路指導を行う。また、モデルコアカリキュラム（試案）の作成に協力する。
- 一般科目教室では、「モデルコアカリキュラム（試案）」を踏まえ、従来の授業展開のあり方を検討しつつ、授業の質の向上と新たな授業方法の可能性の追求に努める。
- 専攻科カリキュラムの内容が、モデルコアカリキュラムが提示している到達レベルに達しているか検討するとともに、全国高専教員フォーラムに専攻科担当教員を派遣する。
- 次期中期計画の策定に向けて、本校の5つのキーワード(機能創成、情報、エネルギー、安全・アメニティー、環境)を基軸とした新しい教育体制への移行、及びこれまで実施してきた括り入試における人員の拡大を視野に入れ、より実効性のある教育システムの構築のための意見の集約を図る。
- 企業や卒業生へのアンケートを踏まえ、高度化のための議論を深める。また、学生や保護者の志向動向に合わせ、制度制定後8年を迎えた工学基礎コース（括り入試）を拡大の方向で改善させるべく検討を行っており、今年度その意見の集約等を図る。
- 学生には到達度試験に加え達成度評価シートを作成させ、学生自らが状況を把握するための定点観測としてそれらを活用する。
- 英語に関しては、TOEICの受験を推奨しており、授業の中にも取り入れる形に国際社会で通用するコミュニケーション能力育成の一環とする。
- 教育活動の改善・充実に資するため、在学生による授業評価の調査を実施し、教員にフィードバックする。
- 各種コンテスト及び高専体育大会に積極的に参加するとともに、そのための環境整備に努める。
- 今年度、東海北陸地区高等専門学校ロボットコンテスト2012の運営を主管校として行う。

### (3) 優れた教員の確保

- 実効的かつ実践的な専門教育を行っていくために、企業・機関などでの豊富な実務経験や技術士の資格を有する教員や、他の教育機関での経験を有する教員の採用に向けて努力する。
- 高専・両技科大間教員交流制度の活用により、教育研究活動の活性化と連携を深めるとともに、教育の質の向上に努める。

- 技術士の資格を有する有識者を招聘して、教員を対象にした講演会・研修会の開催を検討する。
- 常勤教員に対して技術士の資格取得を奨励する。
- 実効的かつ実践的な専門教育を行っていくために、企業・機関などでの豊富な実務経験や技術士の資格を有する教員や、他の教育機関での経験を有する教員の採用に向けて努力する。
- 教員公募に際しては、『本公募では、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。』と明記するなど、女性教員の採用に向けての努力をする。
- 女性教職員が働きやすい環境の整備に努める。
- 教員の能力向上のため、ファカルティディベロップメント(FD)の組織的な実施を図る。
- 公開授業週間を年間行事予定の中に組み込み、充実を図る。
- 教員の教育力向上のための研修会・講演会を企画する。
- 福井県内の大学間連携事業での共同のFD活動に参加する。
- 教職員の勤務意欲の高揚及び本校の活性化を図ることを目的に、職務に精励し、その功績が顕著な者を対象に、今年度も校長表彰を行う。
- 教育研究の発展と活性化のために、国内外での研究員制度を周知するとともに奨励する。
- 北九州高専で開催される ISATE2012 への教職員の積極的な参加を促す。

#### (4) 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- 福井県内の高等教育機関と連携を取りながら、e-learning を中心にした教材の開発を行っており、実証普及の段階を迎えていることを受けて、教員に幅広く参加・利用を求める。
- 他高専の開発したコンテンツなども精査を行い、積極的に授業に取り入れていくようアナウンスを行う。
- 機械工学科では、機械工作実習、創造工学演習、C言語応用、知能機械演習、アイデア設計工学などの実技系科目や創成科目を通して、実践的なものづくりセンスと創造力を学生に身に付けさせる。
- 電気電子工学科では、昨年度大幅に改定したカリキュラムについて、新規導入科目、見直し科目の内容の評価を行う。
- 電子情報工学科では、モデルコアカリキュラムの中で、現行の電子情報工学科カリキュラムで不足している項目について、現行カリキュラムに取り入れた場合における、電子情報工学科全体の達成目標との整合性の確認を行う。
- 物質工学科では、現行の「コース制（「材料工学コース」・「生物工学コース」）」

教育カリキュラムとモデルコアカリキュラムとの整合性を確認して、更なる教育の質の向上及び改善を目指す。

- 環境都市工学科では、モデルコアカリキュラム（試案）の作成に協力する。
- 一般科目教室では、語学や数学教育などで運用中の e-learning についてコンテンツを充実させつつ、活用度を高める。SNS 利用による在宅学習支援体制構築のために、県内の高等教育機関との連携も図る。
- エンジニアリング・デザイン教育の充実を図るためのカリキュラム変更を検討する。
- 「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集を参考に、本校専攻科で導入できる事例を検討する。
- 専攻科カリキュラムの内容が、モデルコアカリキュラムが提示している到達レベルに達しているか検討するとともに、全国高専教育フォーラムに専攻科担当教員を派遣する。
- 企業技術者等活用プログラムに「地域の匠を活用した科学クラブの共同教育」のテーマで応募し、今年度の採択を目指す。
- 学習・教育目標等の修正を行った教育プログラムにおける自己点検書を作成し、今年度 JABEE 中間審査を受審する予定である。
- 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の受審を、11月頃に予定している。
- 中部日本海の5高専連携によるPRを兼ねた学生間交流、学生会主催の交流会や、寮生会同士の連絡交流会など複数の交流会活動を支援する。また、これらの様子をWebで公開して行く。
- 教育研究活動発表会等を通じて、特徴的な事例を収集し、本校のプログラムに取り入れていけるように検討する。また、本校の事例も積極的に公開するように教員に働きかけるとともに、全国高専教育フォーラム等への参加を促す。
- 機械工学科では、機械のエンジニアとしての基礎能力を養うために、「機械設計技術者3級試験」の資格取得を奨励し、受験対策のための補講を行う。
- 電気電子工学科では、平成22年度から参加してきた工業所有権情報・研修館（INPIT）の知的財産教育推進協力校事業に、今年度も参加する。
- 電子情報工学科では、近隣の大学との連携の一環として、連携機関との学習資源の共有システムとしてのフレックスの運用に取り組んでおり、この成果を、全国高専教育フォーラムや高専教育にて投稿・発表を行う。
- 物質工学科では、更なる教育の質の向上及び改善を目指して、基礎科目（低学年）及びコース別専門科目・専門共通科目（高学年）におけるより効果的な授業内容と方法についてそれぞれ詳細に検討する。
- 環境都市工学科においても、関係するモデルコアカリキュラム（試案）の作成に協力する。

- 一般科目教室では、各教科内での授業経験の交流を図るとともに、教科間ではクラス単位での授業実践に関する情報交換などを行い、より効果的な指導方法を検討する。
- エンジニアリング・デザイン教育の充実を図るためのカリキュラム変更を検討する。
- 「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集を参考に、本校専攻科で導入できる事例を検討する。
- 専攻科カリキュラムの内容が、モデルコアカリキュラムが提示している到達レベルに達しているか検討するとともに、全国高専教育フォーラムに専攻科担当教員を派遣する。
- 今年度予定されている高等専門学校機関別認証評価や JABEE の受審を通して、教育の質の保証のために教育プログラムの充実を図る。
- モデルコアカリキュラム（試案）における機械系分野の技術者が備えるべき専門的能力を学科教員に周知する。
- 電気電子工学科では、学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりを通して、エンジニアリングデザイン教育のさらなる充実を図る。
- KOALA に記載された他高専の事例を参考に、電子情報工学科に適用可能な事例を調査し、教育方法改善への検討を行う。
- 物質工学科では、更なる教育の質の向上及び改善を目指して、基礎科目（低学年）及びコース別専門科目・専門共通科目（高学年）におけるより効果的な授業内容と方法についてそれぞれ詳細に検討する。
- モデルコアカリキュラム（試案）の作成に協力する。
- 一般科目教室では、「モデルコアカリキュラム（試案）」を踏まえ、教科ごとの授業展開のあり方に関して情報交換を行い、先行的事例を検討し、教育方法の改善に努める。
- エンジニアリング・デザイン教育の充実を図るためのカリキュラム変更を検討する。
- 「エンジニアリングデザイン教育等」に係る取組事例集を参考に、本校専攻科で導入できる事例を検討する。
- 専攻科カリキュラムの内容が、モデルコアカリキュラムが提示している到達レベルに達しているか検討する。
- 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の受審を、11月頃に予定している。
- 本科4年生及び専攻科1年生におけるインターンシップの推進と充実を図る。
- 今年度も継続して、専攻科1年生全員が希望するインターンシップ先へ派遣できるように指導する。
- 専攻科カリキュラムへの共同教育の導入を継続して検討する。
- 企業技術者等活用プログラムに「地域の匠を活用した科学クラブの共同教育」のテーマで応募し、今年度の採択を目指す。



- 学生に対し、長岡技科大を中心にしたアドバンストコースに積極的参加を促すとともに、その運営に協力する。
- ASETを引き継いだISTSには毎年参加しており、ISATEも含め今後ともそれを継続しながら国際社会でのプレゼンテーション能力育成を図る。
- 平成22年度の校舎改修を機に設置されたe-learning室を中核として、県内高等教育機関との連携で、共同で教材を開発し、教員への参加呼びかけを含め、実運用へ向けて準備を行う。
- TV会議システムを有効に利用した授業形態を検討する。

#### (5) 学生支援・生活支援等

- 学生に対してきめ細やかな対応をするため担任制度を継続、充実するとともに、それぞれの学生の状況にあわせて学習及び生活の両面からサポートを行う。
- 学生相談室のさらなる充実を図り、学生のメンタルヘルス管理を十分に行う。また、関係教職員のスキルアップのため校内外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ派遣する。
- 私費留学生や他高専からの入学者の進路指導、学習指導及び就学支援を継続する。
- 前年度までの学生寮(女子寮棟を含む)の改修をうけ、学寮生活全体の満足度や施設充実度の調査を行い、優先順位を検討して整備を図る。
- 前年度の長期及び短期女子留学生の受け入れ経験に基づいて、受け入れ態勢の改善と整備を進める。
- 寮生会活動の活性化のための支援を行い、寮生活の改善を寮生会と協力して進める。また、寮生の生活面での指導や精神面での相談を適宜行ない、寮生の生活を支援していく。
- 夏期の暑さ対策について検討を進める。
- 前年度に引き続き、学生の英語力向上を図るための英語多読図書の整備を積極的に行う。
- 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。
- 専攻科における企業情報、就職・進学情報などの情報提供や相談体制の在り方を検討する。
- 「キャリア教育セミナー(合同企業説明会)」や「大学・大学院合同説明会」を開催し、求人票・閲覧管理システムを利用することにより、企業情報、就職・進学情報などの学生への提供体制を充実する。低学年を含めたキャリア講演会等の行事を開催し、全学年を通じたキャリア教育の充実を図る。
- 独立行政法人日本学生支援機構などと緊密に連携し、各種奨学金制度などの学生支援に係る情報を学生に提供する。



#### (6) 教育環境の整備・活用

- 今年度、身体に障害を有する学生が入学してきたことに伴い、避難経路を含めて未整備個所のバリアフリー対策を講ずる。
- 前年度に計画した設備整備マスタープランを見直し、より実効性の高い教育研究設備の整備に努める。
- 図書館への入館者増等に伴う狭隘化のため、今年度図書館の改修申請を行う予定である。
- 環境都市工学科の老朽・狭隘・耐震改修のための工事を行うとともに、人感センサーによる照明装置等の省エネ機器を導入する予定である。
- 実験実習授業の初回には高専機構より配布された「実験実習安全必携」に基づいて、安全教育を必ず実施する。また教職員には、各自の安全管理の意識向上を図るための講習会・研修会等の開催を検討する。
- 職場環境改善のために、月1度の割合で安全点検巡視を実施し、リスク低減に努める。

#### 2 研究に関する事項

- 「全国高専テクノフォーラム」等に参加・出展して、本校の研究成果の発信を行い、他高専との共同研究のための交流を行う。
- 科学研究費補助金の採択件数を増やすため、学内の有識者による申請書へのアドバイス制度を設けるとともに、学外有識者による講演会の開催を検討する。
- 新任教員を科学研究費補助金説明会に参加させ、科学研究費補助金制度とその意義の理解を図る。
- 外部資金を獲得するため、外部研究資金の公募一覧を全教員にメールで配信する。
- 全教員を対象に自己点検を兼ねて研究活動評価のための調査を行う。
- 地域で開催される「丹南産業フェア」，「北陸技術交流テクノフェア」，「さばえものづくり博覧会」等に参加・出展して、本校の研究活動の成果を広く発信する。
- 「ジョイントフォーラム」の開催や「異業種交流研究会」との連携により、本校の知的資源の紹介と、地域のニーズの把握に努め、両者のマッチングの機会を設ける。
- 長岡・豊橋両技術科学大学の出身教員を中心に、連携研究の推進方法について検討する機会を設ける。
- 初任者職員向け知的財産講習会及び知的財産管理システム操作説明会に担当職員を派遣する。
- 知的財産に関する講演会等を開催する。

### 3 社会との連携、国際交流等に関する事項

- 共同研究に利用可能な施設や設備の調査とデータベース化を行い、今後の効率的な整備計画を検討する。
- ニュースレターの発行とホームページのコンテンツの充実を図り、地域社会にセンターの活動と教員等の研究を紹介する。
- 地域連携テクノセンターが主催又は共催するコンテストを通して地域社会へ貢献するとともに、『ジョイントフォーラム』を開催して産業界との交流を図る。
- 小中学校、公共施設や地元商店街等において、ものづくりやデモ実験を主とした出前授業を実施し、理科教育支援を行う。
- 前年度参加した公開講座受講生からの要望を受けて、一般教科目関連の講座を新規に立ち上げ、高満足度が得られるように内容の充実を図る。
- 本校同窓会「進和会」が「全国高専同窓会連絡会」等を通じて、他高専の同窓会組織と連携することを支援する。
- 北九州高専で開催される ISATE2012 への教職員の積極的な参加を促す。
- ISTS2012 に学生及び教職員が参加するよう働きかける。
- 高専機構本部が実施する海外インターンシップ制度に積極的に応募するよう働きかける。
- シンガポールのテマセク・ポリテクニクに短期留学生を派遣することを検討する。
- 交流協定を締結しているオーストラリアのバララット大学との具体的な交流活動を行う。
- 他国の高等教育機関との交流協定の締結に向けて具体的計画を立てる。
- 留学生(女子留学生を含む)の受け入れのための現在の寮施設について、留学生からの聞き取り調査を行い、受け入れ拡大へ向けた改善点の明確化を行なう。
- 短期の留学生の受け入れの場合の施設利用の課題についても前年度の経験に基づいて検討する。
- 北陸3県の高専で協力しながら、各高専に在学する留学生相互の交流会を実施する。
- 本校の独自企画として、日帰りの県外研修、スキー学習、学寮内でのミニパーティー等を開催し、これらを通して交流が図れるように工夫を加える。

### 4 管理運営に関する事項

- 校長のリーダーシップのもと、戦略的かつ計画的な資源配分を行う。
- 外部有識者会議の意見等を踏まえ、本校の教育研究や、学生の学習及び生活支援体制等の質の向上を目指す。
- 機構本部が作成した、「コンプライアンス・マニュアル」及び「コンプライアンスに関するセルフチェックリスト」を活用し、教職員のコンプライアンスの向上を図る。
- 全教職員に冊子を配布し、コンプライアンスに対する意識向上を図る。

- 高専相互会計内部監査を実施し、他高専と共通課題について情報を共有するとともに、改善策について検討する。
- 学内において定期検査を実施し、不正経理を防止する。
- 学生・教職員の安否確認システムの導入を推進する。
- 高専機構本部から配布された緊急連絡用の P H S 電話機を、適正な場所に配置し有効使用するとともに、緊急時に備える。
- 年 3 回（春季・秋季・冬季）開催される「東海・北陸地区校長会議」に参加し、情報交換を行う。このうち今年度春季は、本校が主管して「東海・北陸地区校長会議」を開催する。
- 給与支給明細書の WEB 配信の承諾率を高める。
- 平成 2 4 年度においても継続的にソフトウェアライセンス管理を行う。
- 他機関で実施している研修会に積極的に参加させ、事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。
- 職務に関して、高く評価できる教職員に対して毎年実施している校長表彰を、今後とも継続して実施する。
- 近隣大学との人事交流を引き続き積極的に行う。
- 前年度に高専機構が校内 L A N システムとして一括調達した高専統一認証基盤及びファイアウォールについて、今年度はそれらの機器との整合性を図り、また情報セキュリティ対策を考慮した校内 L A N システム機器の導入（平成 2 5 年 4 月稼働）に向けて計画的な取り組みを行っていく。

### Ⅲ－２ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置

- 業務の効率化を更に推進し、一般管理費については 3 %，その他については 1 % の節減を目標に努力する。
- 契約にあたっては、原則、一般競争契約とし、競争性や透明性を高める。
- 複数年契約を実施し業務の効率化を図る。
- 発注業務における WEB 調達システムの運用を完全実施する。
- 給与支給明細書の WEB 配信の承諾率を高める。

### Ⅲ－３ 予算（人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画。）

- 校長のリーダーシップのもと、効果的な執行に配慮した予算配分を行う。具体的には、校長裁量経費の申請者に対して校長がヒアリングを実施し配分額を決定し、校長裁量経費プロジェクトを実施する。

### Ⅲ－４ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

#### １ 施設・設備に関する計画

- 環境都市工学科棟の老朽・狭隘・耐震改修のため改修工事を実施する。
- 環境に配慮した機械・設備の導入を引き続き図り，光熱水料の節減に努める。
- 電力需給の逼迫に伴う対策として，夏季及び冬季時の空調機器の管理を徹底し，省エネを図る。
- 前年度に計画した設備整備マスタープランを見直し，より実効性の高い教育研究設備の整備に努める。

#### ２ 人事に関する計画

- 教員の力量を高めるため，高専・両技科大学への教員人事交流制度を活用する。
- 近隣の大学との交流を引き続き積極的に行う。
- 他機関で実施している研修会に積極的に参加させ，事務職員・技術職員の一層の能力向上を図る。
- 事務の合理化を進めるとともに，職員配置の見直しを検討する。

## IV. 自己点検評価

### IV-1. 全学的に関する事項

#### ○ 教務関係

##### 1. 基本方針

教務活動は、本校の基本理念や教育方針に沿った教育を行うための業務運営が主たる活動である。このため、学習・教育目標を達成し、社会のニーズに即した優秀な人材を育成するための、最も効果的なカリキュラム編成、授業方法、評価方法の研究と実施が重要な職務と考える。また、これらの目標を達成するために入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保に向けた取り組みも重要な業務に挙げられる。ここでは現在の本校の教務活動に関し、教務関連の課題と今年度の対応を概説し、数年来続けている原子力人材育成教育、3年目を迎えた長岡技術科学大学との戦略的技術者育成協働教育や特に課題となっている入学志願者確保に関する対応も含め述べることにする。

##### 2. 教務関連の課題と今年度の対応

本校の基本理念である、「\*創造性豊かな人材の育成 \*幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育 \*高度に情報化した国際社会に対応する教育 \*環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育」を行うため、養成すべき人材像を規定し、それに沿う形で本科(準学士課程)と専攻科課程に学習・教育目標を設定してカリキュラム編成を行っている。本年度受審した大学評価・学位授与機構による機関別認証評価においても「基本理念があり、それに沿ったカリキュラムが編成されているか」が最重要事項とされており、今後とも、このことに留意したカリキュラム編成研究が肝要と考える。

平成18年度に高等専門学校設置基準が改訂され、高等専門学校にこれまでの履修単位ばかりでなく、自己学習をより重要視した学修単位を60単位まで導入することが認められたが、本校では各学科の高学年に講義演習タイプの学修単位として約20単位を導入したのみで、実質的な講義の時間数は変えていない。一方、4・5年に専攻科と同様な単位換算の講義タイプの学修単位を導入する高専もあるが、本校では近々社会情勢の変化に呼応する『高専機能の高度化』の議論を始める予定であり、その中のテーマの一つとして取り上げて行きたいと考える。

本校では平成17年度より、中学生・保護者の要望と低学年の創造教育進展のために、低学年のクラス編成と入試制度、カリキュラムを改訂した。具体的には、学力入試で各科8名の工学基礎コースを設け、2年進級時に本人の志望と成績により転科が可能になる制度である。これは高専への入学の意思はあるものの、希望学科が絞り込めないという生徒・保護者や中学校教諭からの意見に基づいて、全国高専で初めて本校が導入した制度であり、平成25年度の学力受検者の約8割が希望している。実際



の転科の状況は、平成17年度には14名、18年度5名、19年度11名、20年度6名、21年度5名、22年度4名、23年度4名、24年度5名が転科している。また、この制度を設けるに当たり、1年の1クラスを工学基礎コース、他のクラスを混合学級とした。さらに、ものづくり科学という創成型の授業を開始するなどのカリキュラムの改訂を行った。この制度による卒業生として3期送り出した状況のなかで、工学基礎コースに関する学生アンケート等を実施し制度の総括を行っている。また本年実施された機関別認証評価でもこれらの取り組みは評価できる項目として取り上げられている。本校では工学基礎コースの精神を生かしながら、早期キャリア教育など時代の要請に対応した高専教育を実現するために、今後とも適切な制度の改変に取り組んで行く。

法令遵守の観点から6年前より導入した1コマ100分授業の問題点を改善するため、できるだけ3.5コマ（50分授業では7限）で終了できるように時間割を編成しているが、現状では解決できないことも多く、授業時間に関する運用基準の弾力化を踏まえ、90分半期1単位の体制に戻し、1日4コマ実施でも午後4時頃に終了できるようにカリキュラムの改訂を検討している。

平成20年度より8、9月を夏休みとする学事日程を採用した。そのため9月中の学生指導の一環として、9月末に学力強化週間を設け、成績不振の学生を対象に基礎学力の強化を図る行事を一昨年度より開始した。今年度も昨年度と同様、低学年の参加者が多く、夏休み課題の確認・指導、授業の復習・補講、仮進級解除、再試験、一斉試験、校外研修、資格試験の指導など多岐にわたる内容で実施された。

学力強化週間は、夏休み終盤の9月末に、主として成績不振の学生を指導することで、該当学生が後期のスタートをしやすいなどの効果も期待できる。基礎学力向上は本校で最も取り組むべき課題の一つであり、今後も今年度の実施結果を参考に内容の改善を検討していきたい。

発達障害・学習障害の学生に対する支援については、本校でも人数的には少ないが対象となる学生が出てきており、該当学生の教務に関する支援を行うため、平成21年度特別支援ワーキンググループを平成22年に特別支援室（構成メンバー：教務主事（室長）、学生相談室長（副室長）、看護師、カウンセラーなど）に格上げして、支援が必要な学生毎に支援チームを設けて対応を開始したが、これまで身障者を含め3名の学生が支援対象になっている。また、この身障者の受け入れに合わせバリアフリー化を一層進め、修学環境整備のために鋭意努力を行っている。

本校の本科（準学士課程）と専攻科課程には前述の学習・教育目標が明確に設定されており、各学習・教育目標の達成度の評価を学生自らができるように達成度評価シート等を整備し、キャリア養育の一環として、自身の現状把握と将来像を考えるための重要な施策としている。

### 3. 原子力人材育成教育、長岡技術科学大学との戦略的技術者育成協働教育

ここ数年本校は、高専機構本部主導（文部科学省公募）と本校独自（経済産業省公募）の2つの原子力人材育成補助プログラムに採択されている。本校では、これまでに高等専門学校における教育制度の大きな特徴であるくさび形教育カリキュラムに原子力関連の教育を一部導入して実践してきた。本補助事業では、それをさらに充実発展させ、低学年から高学年にわたる継続的な授業や実験・実習に加えて特別講演会・施設見学会の開催や卒業研究等による組合せを導入したプログラムによって、特に放射線に関する基礎的な知識と技術の習得並びに理解の更なる促進を図り、原子力施設の集中地域である福井県はもとより、国内の原子力産業界で求められている幅広いエンジニアリングスキルを身につけた実践的な技術者の育成と、データを基に風評などに左右されず正しい評価ができる人材育成を目的とし、特に東日本大震災以降、特に後者に力を入れたプログラムを実践している。

平成22年度より6年間の事業として、長岡技術科学大学が高専機構と協働し、戦略的技術者育成アドバンスドコース事業を開始することになり、6高専がこの事業に参加することになった。本校は同事業を推進するための協力校に選出され、同事業を本校の学生に対し推進することになった。実質2年度目を迎えた今年は、新たに4年生13人、5年生1人の学生が加わり、先導科目と位置付けされ工学的課題に対する解決方法を理解して問題解決に向けたアクションをとる能力等を育成することを目的として夏季休業期間に開講された“集中セミナー・集中ラボ演習”に9名の学生が参加し、また最先端工学の現状について学び、今後技術者が果たすべき役割について考え、成長するための基礎力を養う等の目的で開講された“先端技術講座”に4名の学生が参加した。また、本校5年生を対象にしている“数学特講”に加え、本年度からは英語特講を新たに加え、長岡技術科学大学の担当教員と本校教員が連携して授業を行い、学生に分かりやすく、かつ興味深く説明しながらより高いレベルの興味を涵養するように学生に教授している。加えて、国際化の流れの中で日本を認識する目を養う観点から、学生3名を海外視察へ派遣することを決定した。なお、帰国後は有意義な取り組みであったことをアピールするための報告会等を予定している。

### 4. 入学者確保とその状況

本校の基本理念に沿った教育を進め、また、本校の教育レベルの維持・向上を図るためには、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な課題である。過去3年間の入試倍率の詳細な推移を以下の表に示すが、ここ数年間の総合倍率で見ると18年度の1.7倍から1.5倍へと少しずつ低下する傾向にあり、志願者の確保が急務との認識に立ち、これまでの結果を検証し①入試に関する1年生へのアンケート調査、②推薦基準の改正、③入試会場の増設、④全中学生配布用入試リーフレットの作成、⑤入試関連行事の見直しと改善、⑥推薦募集枠の増加などを行った結果、平成22年

度は1.6倍に回復した。さらに、平成23年度にはキャンパスツアーの新企画を5月と早い段階に導入するなど広報活動の強化を図ったところ、1.7倍にまで向上した。昨年度からは10月にも「キャンパスリサーチ」と名付けたオープンキャンパスを開催し、本校の認知度向上に努めたが、15歳人口の減少に歯止めが掛からない状況で、本校志願者と同水準の学生が希望する進学3高校の入学定員が据え置かれるなか、24年度は1.6倍となった。本年度は、15歳人口が一举に300人近く減少するため、丹南地区を中心に進路担当の教員に対しこれまでにまして丁寧な対応を行ったところ昨年並みの1.6倍を確保することができた。

＜過去3年間の入試倍率の推移＞ ( ) 内は女子で内数。

年 度	学 科 [募集人員]	機 械 [40]	電気電子 [40]	電子情報 [40]	物 質 [40]	環境都市 [40]	計 [200]
H24	志願者数	64(2)	57(2)	73(10)	64(22)	57(23)	315(59)
	合格者数	40(2)	40(2)	40(8)	41(17)	40(17)	201(46)
	倍 率	1.6	1.4	1.8	1.6	1.4	1.6
H23	志願者数	78(2)	76(8)	64(10)	54(26)	76(25)	348(71)
	合格者数	40(1)	40(5)	40(8)	41(20)	40(12)	201(46)
	倍 率	2.0	1.9	1.6	1.4	1.9	1.7
H22	志願者数	51(1)	55(3)	80(10)	82(20)	55(10)	323(44)
	合格者数	41(1)	40(3)	40(5)	40(12)	40(9)	201(30)
	倍 率	1.3	1.4	2.0	2.1	1.4	1.6

(注)平成24年度入学者選抜試験中学校別合格者数をこの項目最後に添付する。

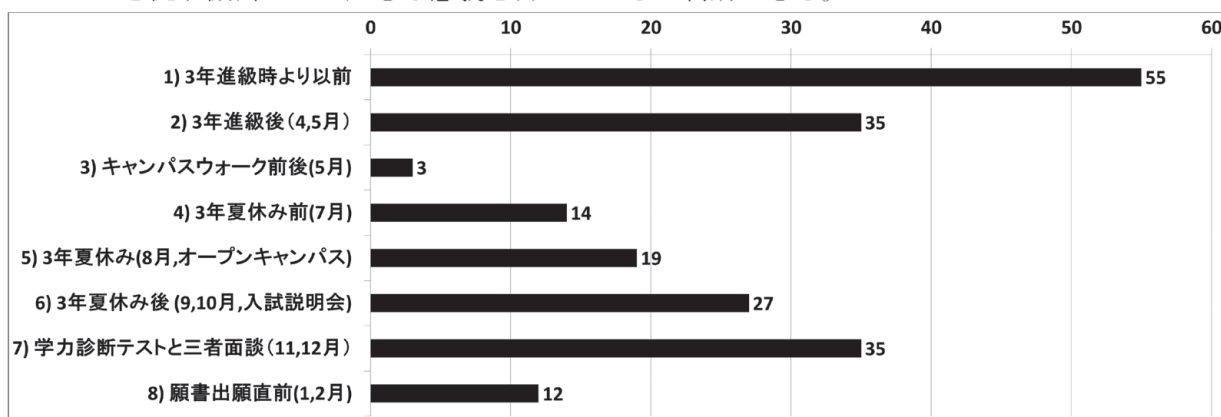
#### (1) 入試に関する1年生へのアンケート調査

4月に新1年生に対し、入試に関するアンケート調査を実施し、今年度の入試に関する方針を決定するための基礎資料とした。以下に例として、高専受験の決定時期、本校を志望した理由とアドミッションポリシーに関するデータを示す。

##### ① 高専受験の決定時期

高専受験の決定時期としては、昨年度は「11、12月の3者面談の頃」が最も多く、「3年進級時より以前」、「3年夏休み後」の順で回答者数が多かった。今年度も次図に示すように、高専受験の決定時期の回答者数は昨年度とほぼ同様、「3年進級時より以前」が最も多く、続いて「11、12月の3者面談の頃」そして、「3年進級後」と「3年夏休み後」はほぼ同数となっている。これにより、学年を問わず参加できる5月開催のあじさいオープンキャンパス（現キャンパスウォーク）は、特に中学低学年時から本校への進学意識を啓発する格好の機会と

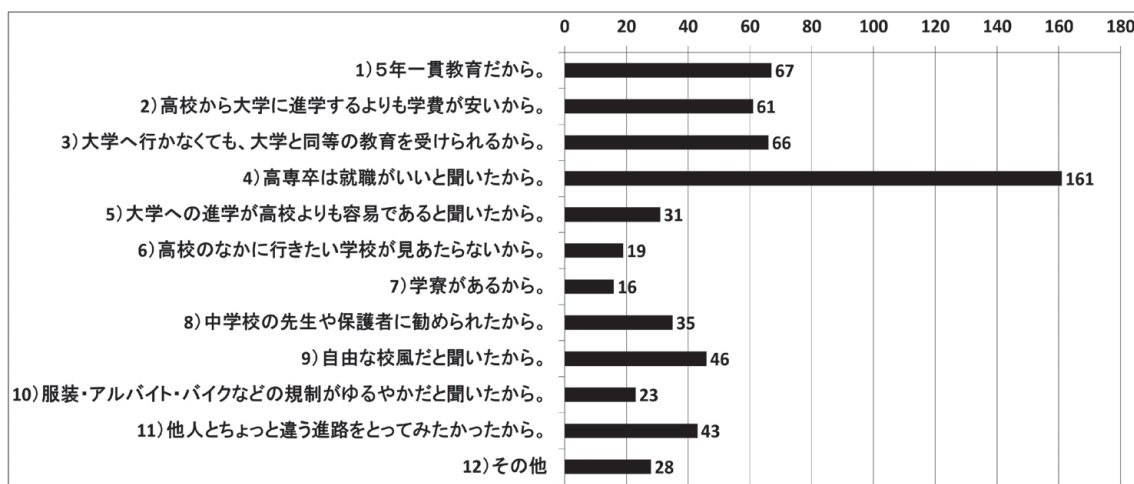
いえる。さらに、8月と10月に行ったオープンキャンパスも本校への進路選択を促す機会として大きな意義を持っていると判断できる。



＜高専受験の決定時期＞

## ② 本校を志望した理由

本校を志望した理由を複数回答可で集計したところ、次図のように、「高専卒は就職がいいと聞いたから」が一番多くなり、2番目が「自由な校風に憧れたから」、3番目が「5年一貫教育だから」であり、「大学へ行かなくても、大学と同等の教育を受けられるから」もほぼ同数であり、このような傾向は昨年度とほぼ同様であり、最近の社会経済状況を反映していると思われるが、「高専卒は就職がいいと聞いたから」の回答者数は昨年度よりも増加しており、就職という将来問題を中学生も強く意識しているといえる。また、「高校から大学に進学するよりも学費が安いから」と「大学への進学が高校よりも容易であると聞いたから」という経済面も考慮した将来の進学を挙げた学生数も、昨年度とほぼ同数あり、保護者や中学教員へのアピールとしては重要な事項の一つと考えられる。



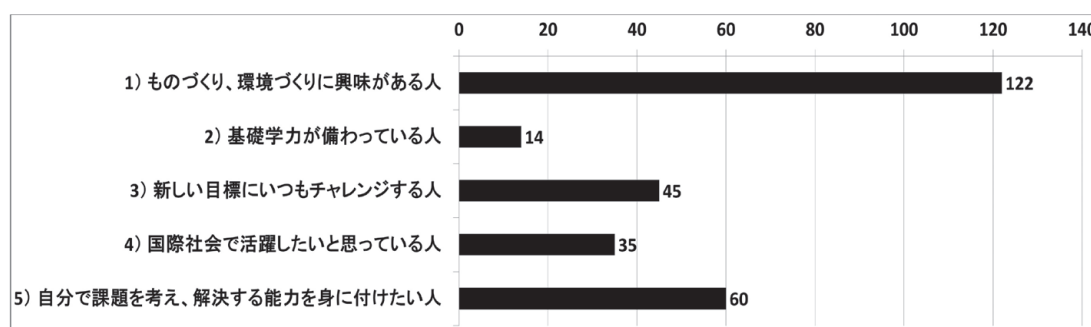
＜福井高専を志望した理由（複数回答可）＞



### ③ アドミッションポリシー

福井高専のアドミッションポリシーの中で、魅力を感じ、福井高専志望の理由となったものは何かを複数回答可で質問したところ、次図のように「ものづくり、環境づくりに興味がある人」の回答者数が昨年度と同様に一番多い。この項目は本校で一番重視している項目であり、アドミッションポリシーに沿った学生が入学しており、適切な状況と考えられる。なお、それ以外の傾向は昨年度とほぼ同様であり、3～5の項目への回答者数はほぼ同数であった。

このアンケートは、各学科のアドミッションポリシーに対しても同様に行っており、ここでの評価を受けて機械工学科はポリシーの項目を変更している。

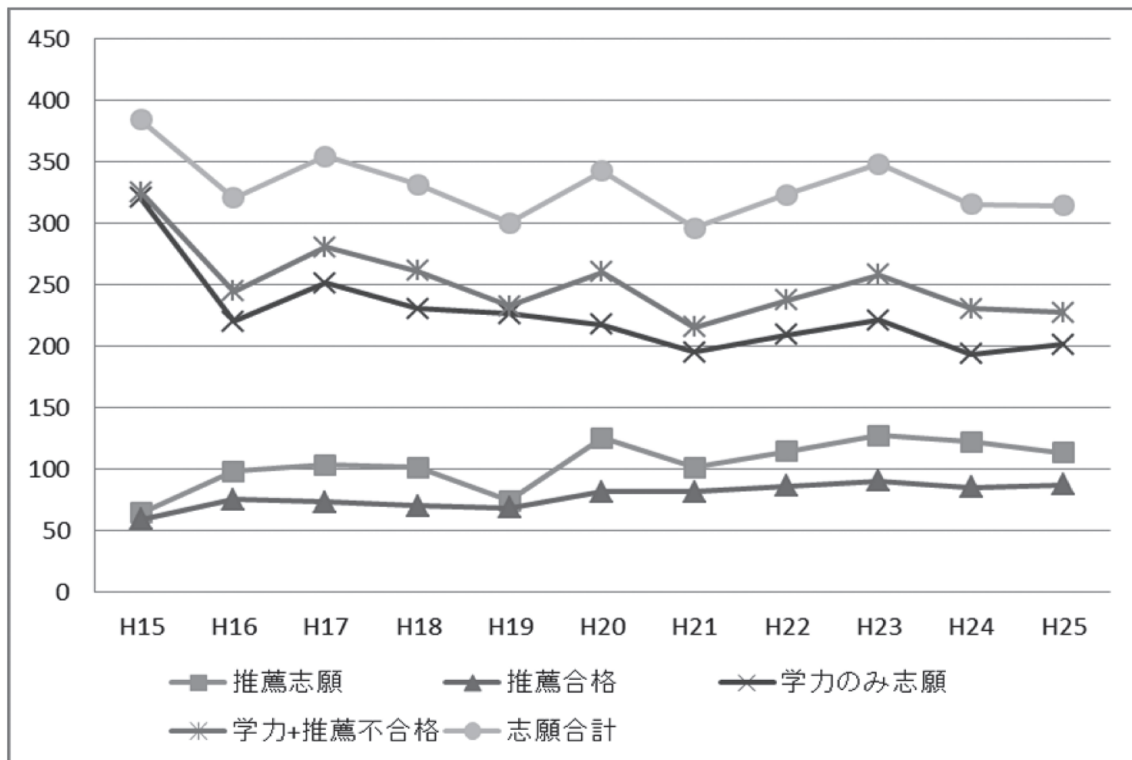


＜アドミッションポリシーの中で福井高専志望の理由となったもの（複数回答可）＞

### （２）推薦基準の検討

本校の教育レベルの維持とさらに教育内容を向上するために、入学生の質の向上と適正な志願倍率の確保は重要な問題である。中学生の生徒数の減少とともに、本校の入試倍率は平成17年度1.8倍、18年度1.7倍、19年度1.5倍と低下傾向が続いていたが、20年度に推薦基準の改訂（緩和）を行い、1.7倍にまで回復した。21年度は入学者の質はまずまずであったが、倍率は1.5倍に減少した。22年度は推薦募集枠を1名増加し、入試会場の改善と広報活動の強化を行い1.6倍に回復した。下図に入試志願者数の推移を示す。





入試志願者数の推移（人）

平成20年度に改訂した内容は以下のとおりである。

- (a) 推薦要件の緩和（対象学年を2、3年とし、基準点数を68点以上に低減）
- (b) 募集人員を30％程度から35％程度に5％（各科2名）増加

次に、平成22年度に改訂した内容は以下のとおりである。

- (a) 募集人員を35％程度から15名程度に増加（2.5％（各科1名）増加）
- (b) イ要件の「科学の分野」を「科学や技術の分野」に改正

この改定案は、過去の入試データ及び入学後の成績との相関を詳細に検討して割り出しており、入学後の1年生の成績を調べてみると、この基準で推薦入学した学生の成績は問題がなく適性であることを確認している。今年度の推薦要件についてもいくつか改正案を提案し検討したが、最終的に基準は変更せずに、広報活動を充実することで対応することにした。しかしながら、推薦要件イの項目はさらに広い見地で考えることが妥当と思われ、現在課外活動や社会貢献なども考慮に入れる方向で検討を行っている。

### （3）入試会場の5会場体制の整備

福井高専会場と滋賀県彦根市会場以外に、19年度に嶺北北部のあわら市、20

年度に嶺南の敦賀市、そして21年度は人口の多い福井市に学力検査会場を新設し、学力検査は5会場体制になった。21年度の福井市会場は、JR福井駅に隣接し、交通の便が良いアオッサ7階の放送大学福井学習センターで実施した。22年度から福井市会場の収容人員を増加し、受験生の地域制限を撤廃してより利用しやすくするため、同じアオッサの6階フロアを全て占有して入試を行えるようにした。これに伴い、1年間の意見聴取と周知を経て、本年度より会場の環境が厳しいあわら会場を福井会場に統合した。

#### (4) 入試配付資料の改善、カレッジガイドのデジタルパンフ化、キャンパスグッズの製作

入試関連の中学生に対する本校紹介用資料としては、冊子体のカレッジガイドを用いており、中学校訪問時や郵送で県内全中学校及び滋賀県・石川県の中学校に指定部数を配布し、オープンキャンパスや入試説明会等の参加者に渡している。なお、本校ホームページにカレッジガイドのデジタルパンフレットを掲載し、いつでもカレッジガイドがパソコン画面で本をめくるように見られるよう改善した。

また、各県立高校の紹介資料が中学生全員に配布されているのに対応するため、小型のリーフレットを作成し福井県内の中学生全員に配り、また、6～7月の福井県及び滋賀県の中学訪問時に持参し3年生全員への配布を依頼した。また、2年時の進路指導の授業での使用を目的に、県内の中学校2年生全員に配布していただくよう依頼し、滋賀、石川県内中学校には指定部数を9月に郵送している。

なお、引き続き本校のロゴマークの入ったキャンパスグッズ（クリアファイル、シャープペンシル、蛍光ペンやうちわ等）を製作し、オープンキャンパス等で配布した。

#### (5) 入試関連行事の見直しと改善

##### ① 校長・副校長による県内の中学訪問と挨拶（4、5月）

年度の当初に校長・副校長が丹南及び福井・敦賀地区の主要中学校を訪問し、各中学校校長に対して前年度の志願者派遣に対する謝意を伝えるとともに本校に対する要望事項などをお聞きしている。また、副校長が残りの県内のほぼ全ての中学校を訪問し、前年度の御礼と今年度の入試関連行事の予定やオープンキャンパスへの参加を依頼した。1年生のアンケート結果で「就職が良いこと」が志望動機で最も多いことから、就職（不況時の高い求人倍率）と進学状況に加え、力を入れている海外の視察事情などを中心に分かりやすく説明した印刷物を作成し、訪問時に配布した。

##### ② KOSEN キャンパスウオーク 2012（5月）

KOSEN キャンパスウオーク 2012 を連休後半の5月12日（土）に開催した。1

～3年までの中学校生徒、教員及び保護者対象に、校舎、各実験室や女子寮等の施設・設備見学をスタンプラリー形式で行い、併せて相談コーナーで本校の教育・学生生活・入試等の質問に答えることで、本校を身近に感じてもらうことを目的としたものであった。当日は生徒数が296名、全体で480名の参加があり、女子中学生の参加者数は男子中学生のそのの半分以上であった。

参加者へのアンケート調査では、満足度に関しては「大変良かった」と「良かった」への回答者の割合は中学生で98%、全体では97%と非常に高かった。また、自由記述欄への記述は168件あり、その主な内容として、“各学科の特徴が分かった”、“行きたい学科の内容が理解できた”や“学生が伸び伸びと勉強していることが分かった”等の良い感触の感想が161件と全体の96%を占めていた。

③ 中学校訪問（6月中旬～7月上旬）

6月中旬から7月上旬にかけて、県内のほぼ全中学校と滋賀県の中学校を副校長、学科長・一般科目主任、教務主事補が分担して訪問した。昨年度から、教員ができるだけ2人体制で訪問することとし、詳細な訪問マニュアルも作成した。さらに今年の入試や進路情報などの分かりやすい印刷物を作成し配布した。応募者が減少傾向の滋賀県は教務主事団が2人体制で訪問した。また、2年前入試会場として敦賀会場を新設したため、若狭地区の中学校もほぼ全校を訪問した。さらに石川県の中学校の中で、昨年応募者のあった福井県側の加賀市、小松市の中学校を訪問した。

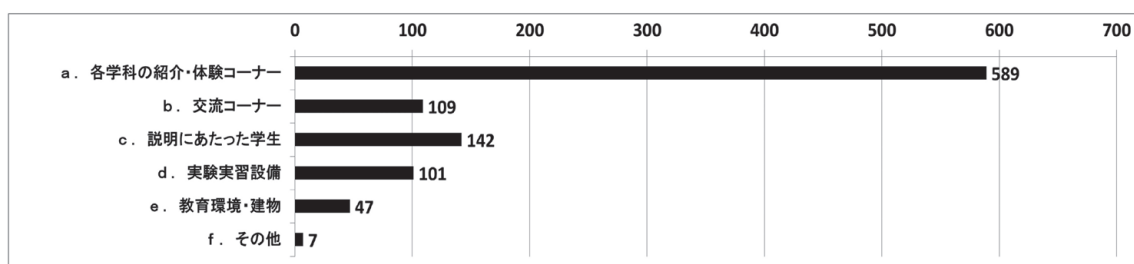
④ キャンパスツアー2012（8月）

毎年夏に、本校の各学科の内容を中学3年生・保護者・中学校関係者に紹介するために開催しており、昨年度の同時期に開催していたオープンキャンパスを、キャンパスツアーと名称を改め、保護者も参加しやすいように今年度も土曜日に開催した。このイベントは、各学科の5年生が準備して実際にデモ実験等を体験できるように中学生に人気がある。今年度の最終的な参加者は、生徒467名、保護者233名、教員26名（総数726名）となり、昨年度よりも総数で32名多かった。

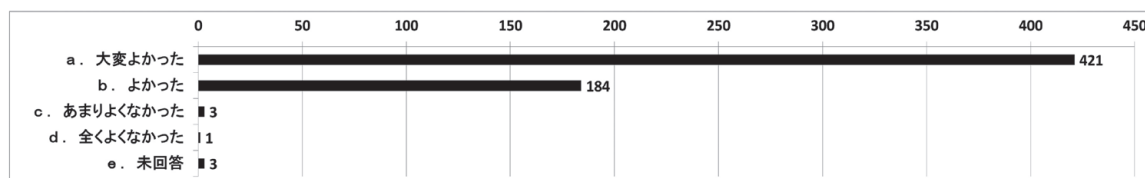
キャンパスツアー実施後のアンケート結果は、以下のとおりである。昨年度と同様であるが、各学科が工夫を凝らし体験コーナーが充実していたため、学科のデモ実験等のコーナーの評価が高かった。また、全体の満足度も非常に高く、回答者のほぼ全員が「大変良かった」または「良かった」と回答した。開催日に関してもアンケートを採ったが、「どの時期でも良い」が最も多く、続いて現在の日程（8月第一土曜日）、7月下旬の順であった。本校の学事日程も特段の予定も無いため、来年度も今年度のような日程で良いと判断される。なお、オープンキャンパスの見学方式として、固定した学科でなく現在のような5学科全部を見

学する方式の方が良いと回答した生徒が大多数を占めた。

(a) 印象に残ったこと



(b) 満足度

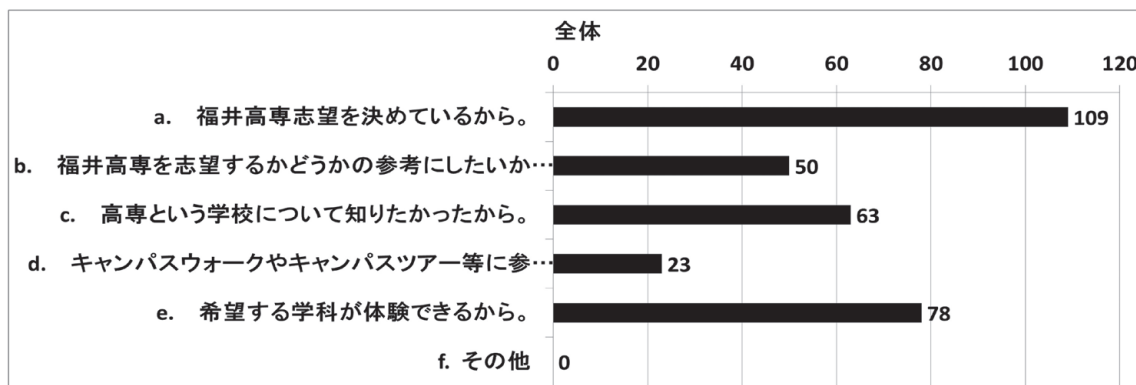


⑤ キャンパスリサーチ（10月中旬）

昨年高専際の開催時期に合わせて行っていた、オープンキャンパス第3弾のキャンパスリサーチを、今年は日程の諸事情で10月6日（土）に中学3年生のみを対象に開催した。当日、161名（男子129名、女子32名）の参加者は希望する2学科での授業を体験してもらい、これを通して学科の内容や特徴についての理解を深める機会を提供した。授業体験後は、高専際に参加する中学生も多くみられ、本校の文化的な雰囲気的一端にも触れていた。

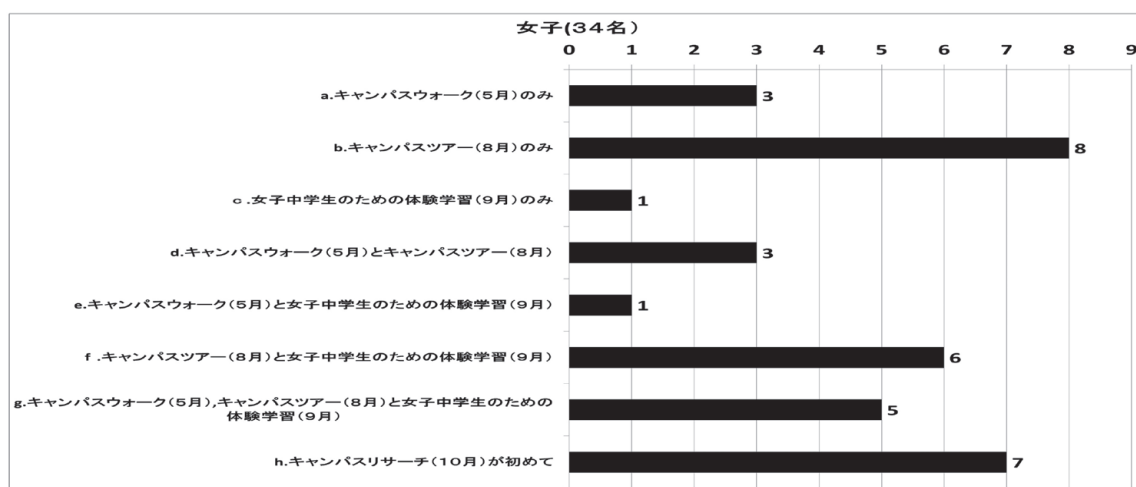
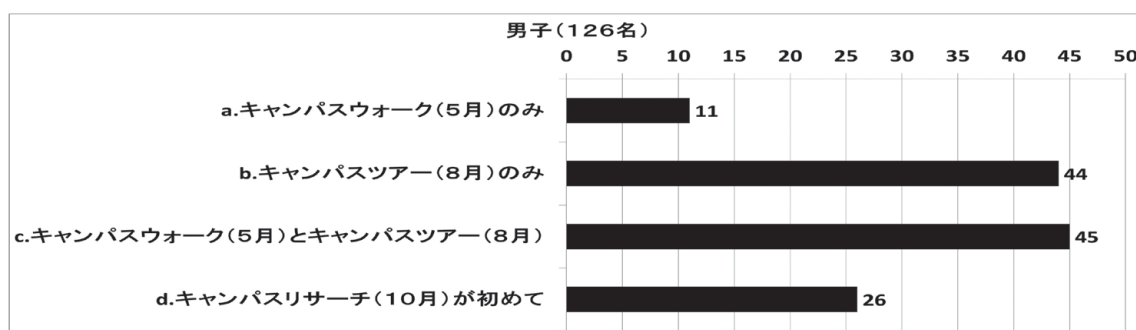
キャンパスリサーチ終了後、参加者に対してアンケート調査を行った。キャンパスリサーチへの参加動機の調査結果（複数回答可）を次図に示した。同図によると「a. 福井高専志望を決めているから」と「e. 希望する学科が体験できるから」の回答者数の総数割合は、全体の約57%に達している。e. の事項の回答者数には a. での回答者も含まれており、本校第一志望学科と第二志望学科を明確に決定し、学科選択のミスマッチを避けようとする意図で、キャンパスリサーチに参加した中学生も多いように思われる。

(a) 参加動機（複数回答可）



また、今年度行われたオープンキャンパスにどの程度参加したかについての調査結果を男子中学生と女子中学生に分けて、次図に示した。ほとんどの参加者はこれまでに開催したオープンキャンパス等に1回、ないし2回参加していることが分かる。その一方、今回が初めてという参加者も参加者全体の約20%を占めており、11～12月に予定されている3者（中学生、保護者、担任）面談に向けての準備のためにこの機会を利用したものと考えられる。

(b) オープンキャンパスへの参加状況





最後にオープンキャンパスの参加者を過去7年間で比較した（下表）。この表からも分かるように、今年度の参加者は5月、8月、10月の合計で1,367名あり、昨年より188名減少したが、参加中学校は昨年度より64校増え延べ270校となり、中学校関係者に高専という名前が浸透してきている証だと思われる。

＜過去7年間のオープンキャンパス参加者・参加校数の推移＞

区 分		参加校	参 加 者			
			生徒	保護者	教諭	計
24 年度	5 月	48	296	177	7	480
	8 月	87	467	233	26	726
	10 月	135	161			161
	計	270	924	410	33	1,367
23 年度	5 月	62	401	221	7	629
	8 月	91	449	217	28	694
	10 月	53	232			232
	計	206	1,082	438	35	1,555
22 年度	5 月	53	340	168	6	514
	6 月	65	307	166	18	491
	8 月	89	440	213	31	684
	計	207	1,087	547	55	1,689
21 年度	6 月	59	341	216	24	558
	8 月	82	413	183	25	621
	計	141	754	399	49	1202
20 年度	6 月	56	263	153	30	446
	8 月	80	395	139	35	569
	計	136	658	292	65	1,015
19 年度	6 月	49	301	170	26	497
	8 月	78	435	116	30	581
	計	127	736	286	56	1,078
18 年度	6 月	38	235	84	15	334
	8 月	76	317	117	29	463
	計	114	552	201	44	797

⑥ 入試相談・学校紹介コーナー（8月、11月）

8月25日（土）、26日（日）に開催された「おもしろフェスタ in サンドー

ム福井 2012」の高専コーナー及び11月16日（金）～18日（日）開催の「さばえものづくり博覧会」において、入試相談や学校紹介のブースを設け、高専の紹介と入試の案内を行った。その結果、会場を訪れた保護者小中学生が相談に訪れていただき、長い目で見た入試対策として今後も継続すべきと考えている。

⑦ 中学校訪問等（9月）

丹南地区及び福井・嶺北北部地区の中学校を9月末に訪問し、募集要項等を持参した。今年度の入試情報や入試説明会の参加依頼、中学校主催の高校説明会への積極的参加などを説明した。

⑧ 入試説明会（10～11月）

福井県、滋賀県内を幾つかのブロックに分けて、校長・副校長・学科長・一般科目主任・教務主事補によって本校の紹介と入試の実際についての説明会を行っている（福井県10会場（11回）、滋賀県6会場）。昨年とほぼ同じ形式で実施しており、会場の一部を変更し、福井県内の説明会は、福井会場（2回）と高専会場（2回）以外は副校長と教務主事補がチームを組んで説明会を行った。なお、募集要項の内容や入試問題等の内容を昨年より多く分かりやすくしたスライドを作成し、入試説明会のマニュアルを改訂した。学科紹介用のスライドは、統一したデザインで各学科に作成を依頼した。過去5年間の入試説明会の参加者数の推移を下表に示すが、昨年度より生徒数で11名、合計で25名増加した。

また、各中学校が主催する高校説明会にも積極的に参加するようにしている。今年度は14校から参加依頼があり、副校長が5回、教務主事補が9回出席し入試に関する話を行った。

＜過去5年間の入試説明会参加者数、県教委発表の高専希望者数（9月集計）の推移＞

	生徒	保護者	教諭	計	県教委
24年度	269	277	70	616	
23年度	258	272	61	591	291
22年度	351	337	61	749	312
21年度	285	256	80	621	283
20年度	268	223	65	556	254

5. 留学生受け入れ状況

本校では、諸外国との相互理解と友好の増進に寄与するため、平成3年度から外国人留学生を受け入れ、今年度までに62名に達している。今後も国際協力のため積極的に受け入れを続けたい。また、他の学生にとっても学校・クラス内に留学生と日常的に接することは、国際社会の一員であることの理解や、国際感覚を身に付ける観点からも有益と考えられる。

平成24年度の留学生の在籍状況は下表のとおりである。

国 名 学年・学科等		マレーシア	モンゴル	バングラディッシュ	合 計
3 年	機械工学科	1			1
	環境都市工学科		1		1
	小 計	1	1		2
4 年	機械工学科	1			1
	物質工学科		1		1
	小 計	1	1		2
5 年	機械工学科	1			1
	電気電子工学科			1	1
	物質工学科		1		1
	小 計	1	1	1	3
専攻科 2 年	生産システム 工学専攻		1		1
	小 計		1		1
合 計		3	4	1	9

## 6. 在校生の状況

平成24年度の在籍状況は以下のとおりである。（平成25年2月1日現在）

<本科>

学 科	定 員		現 員					
	学級	学科	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	合 計
機械工学科	40	200	41 (2)	41 (1)	39 (1)	39 (0)	42 (1)	202 (5)
電気電子工学科	40	200	40 (2)	44 (6)	40 (2)	42 (3)	37 (2)	203 (15)
電子情報工学科	40	200	40 (7)	41 (5)	39 (5)	35 (4)	43 (5)	198 (26)
物質工学科	40	200	41(17)	39(20)	42(12)	35(12)	38(12)	195 (73)
環境都市工学科	40	200	40(17)	47(13)	34 (7)	39(10)	35(10)	195 (57)
合 計	200	1,000	202(45)	212(45)	194(27)	190(29)	195(30)	993(176)

( ) 内は女子で内数

	F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	合計
1 年クラス別	39(8)	40(10)	40(10)	40(10)	43(7)	202(45)

<専攻科>

専攻	1年	2年	合計
生産システム工学専攻	14 (0)	17 (0)	31 (1)
環境システム工学専攻	11 (5)	10 (2)	21 (7)
合計	25 (5)	27 (2)	52 (7)

( ) 内は女子で内数

平成 24 年度入学者選抜中学校別志願者数等一覧

中学校名	推薦選抜合格者						学力選抜合格者						合格者計						志願者合計					
	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計
明倫中学校			1			1	1					1	1		1			2	1		2			3
光陽中学校							1			1		2	1			1		2	1			1	2	4
明道中学校							1					1		1				1		1				1
進明中学校				1		1										1		1	1			1		2
成和中学校																			1	1				2
安居中学校										1		1				1		1			1	1		2
大安寺中学校											1	1					1	1		1			1	2
至民中学校				1		1				2		2			2	1		3	2		5	1		8
灯明寺中学校					1	1											1	1			1		2	3
藤島中学校																			1		1			2
大東中学校								1	1			2		1	1			2	1	2	3			6
足羽中学校		1		1		2	2	2	3	1	1	9	2	3	3	2	1	11	3	5	3	2	1	14
鷹巣中学校							1					1	1					1	1					1
森田中学校	1			1	1	3							1			1	1	3	2		2	1	1	6
社中学校			1			1				1		1			1	1		2			1	1		2
足羽第一中学校				1		1										1		1				1	1	2
越廼中学校											1	1					1	1					1	1
清水中学校			1			1		1	2	1		4		1	3	1		5		1	3	1		5
松岡中学校							1		1	1		3	1		1	1		3			2	2		4
永平寺中学校							1					1	1					1	1				1	2
上志比中学校										1		1				1		1				1		1
開成中学校		2			1	3								2			1	3		2	1	1	1	5
陽明中学校	1	1			1	3	1	1				2	2	2			1	5	2	3		2	1	8
上庄中学校																			1					1
尚徳中学校									1			1			1			1			1			1
和泉中学校	1					1							1					1	1					1
勝山南部中学校		1			1	2								1			1	2		1			1	2
勝山中部中学校	1		1			2							1		1			2	1		1			2
勝山北部中学校		1				1								1				1		1	1			2
芦原中学校					1	1	1					1	1				1	2	1				3	4
金津中学校				1		1		1		1	1	3		1		2	1	4		1		2	1	4
三国中学校					1	1			1			1			1		1	2			1		2	3
丸岡中学校				1	1	2		3	1	1	1	6		3	1	2	2	8		3	1	3	2	9
丸岡南中学校			2			2	1				1	2	1		2		1	4	1	1	2		1	5
春江中学校	1	1	1	1	3	7	1		1	3		5	2	1	2	4	3	12	2	3	3	6	4	18
坂井中学校										1		1				1		1				2	1	3
鯖江中学校		1	4	1		6			1	1	3	5		1	5	2	3	11	1	1	8	4	3	17
中央中学校	1	1		1	1	4		1	3		1	5	1	2	3	1	2	9	4	2	5	1	5	17
東陽中学校			2	1	2	5	2			1		3	2		2	2	2	8	2	1	2	2	2	9

中学校名	推薦選抜合格者						学力選抜合格者						合格者計						志願者合計					
	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計	M	E	EI	C	B	計
武生第一中学校	1		1			2	3			1	3	7	4		1	1	3	9	3	1	3	4	5	16
武生第二中学校	1				1	2	3	1	1	1		6	4		1	1	2	8	4	1	1	2	3	11
武生第三中学校				1		1	1			1	2	1				1	1	3	2		1	2		5
武生第六中学校							1					1	1					1	1					1
万葉中学校			1		1	2		5		1	1	7		5	1	1	2	9	2	6	2	2	2	14
武生第五中学校										1		1				1		1				1		1
南越中学校	1	2				3	1	1			1	3	2	3			1	6	2	3	1	1	1	8
池田中学校				1	1	2										1	1	2				1	1	2
南条中学校																				1				1
今庄中学校							1				1	2	1				1	2	1				1	2
河野中学校							1					1	1					1	2					2
朝日中学校			1			1	1				1	2	1		1		1	3	2		1		1	4
宮崎中学校				1		1									1		1	2		1	1			4
越前中学校							1					1		1				1		1		1		2
織田中学校										1		1				1		1				1		1
気比中学校		2				2	1				1	2	1	2			1	4	2	3		1		6
松陵中学校				1		1			1	1		2			1	2		3			1	2	1	4
角鹿中学校		1				1								1				1		1			1	2
栗野中学校		1		1	1	3		2		1	2	5		3		2	3	8	2	4	2	3	3	14
小浜第二中学校								1				1		1				1		1				1
美浜中学校		1				1								1				1		1				1
福井大学教育地域科学部附属中学校									1			1			1			1			1			1
福井工業大学附属福井中学校		1				1			1			1		1	1			2		1	1			2
福井県小計	9	17	16	16	18	76	26	21	21	22	22	112	35	38	37	38	40	188	56	54	65	58	56	289
堅田中学校	1					1							1					1	1					1
瀬田中学校							1						1	1				1			1			1
志賀中学校										1		1				1		1				1		1
彦根中央中学校																				1				1
彦根南中学校																			1		1			2
鳥居本中学校									1			1			1			1			1			1
朝桜中学校		1	2			3								1	2			3		1	2			3
湖東中学校	1					1							1					1	1					1
中主中学校																							1	1
甲西中学校																			1					1
日野中学校	2					2							2					2	2					2
双葉中学校																			1		2			3
マキノ中学校																			1					1
朽木中学校																						1		1
安曇川中学校				1		1										1		1				1		1
滋賀県小計	4	1	2	1		8	1		1			3	5	1	3	2	0	11	8	1	8	3	1	21
東和中学校				1		1										1		1				1		1
板津中学校																						1		1
美川中学校																					1			1
石川県小計				1		1										1		1			1	2		3
尾西第一中学校(愛知県)								1				1		1				1		1				1
藍中学校(兵庫県)																						1		1
合 計	13	18	18	18	18	85	27	22	22	23	22	116	40	40	40	41	40	201	64	57	73	64	57	315
男	12	16	11	7	8	54	26	22	21	17	15	101	38	38	32	24	23	155	62	55	63	42	34	256
女	1	2	7	11	10	31	1	0	1	6	7	15	2	2	8	17	17	46	2	2	10	22	23	59



#### 7. 点検・評価・

本校における教務系の統括する範囲は広く、また取り組むべき課題もその質・量共に多岐にわたるため、その自己評価を一言で述べることは難しいが、これまで述べてきたように、状況分析を適切に行うことによる現状認識と、そこから抽出された課題に対する改善への取り組みは、PDCAサイクルの考えに即し機能していると判断する。

よって、現時点においての達成度評価はAと判断する。

#### 8. 改善課題・方策

自己分析による改善課題抽出や改善方策は前述のとおりであり、校長のリーダーシップの下、教職員の協力を得ながら一つずつ真摯に対応して行くことが何より肝要と考える。

## ○ 学生指導関係

### 1. 基本方針

本校の学生指導に関する基本方針は

- ① 毎日、規則正しい生活を送ること
- ② よき学生としてのマナー（社会規範）を身につけること
- ③ 自ら考え、自ら進んで学ぶ姿勢を示し、真摯な態度で学業に取り組むこと
- ④ 文化・芸術・スポーツに親しみ教養を高めること
- ⑤ 自身の将来像を描き、その実現のために計画的に実行すること

の5つにある。これは本校開学以来の学生への指導方針を明文化したものであり、平成23年5月に全教職員、学生に周知した。

### 2. 学生支援

前述の基本方針に沿って行う学生指導に関する福井高専の教育の目的は、個性を尊重しつつ社会にも通用する知育・徳育・体育のバランスのとれた人間になることを学生に教授することにある。この目的を達成するため、本科5年間において福井高専の教育システムの根幹として担任制度が設けられている。本科の5年間は15歳から20歳までの幅広い年齢の若者が対象となるが、本校では入学時から学生と呼び、例えば1年生の学生であっても自立した責任ある行動をとるよう指導している。入学時から卒業に至るまで担任によるきめ細やかな5年間の一貫した教育・指導を行い、学生に社会的責任を自覚させ、社会に通用する卒業生を育てる努力をしている。この高専独自の5年一貫の担任による指導体制は、福井高専卒業生が社会から評価を受け、高い求人倍率を誇っている大きな理由の一つであり、今後も継続し充実させていくことが大切であると考えらる。

担任の業務は多岐にわたり、例えば、学生生活全般の指導（友人関係、生活・行動の把握（欠課、欠席の点検）、各種届け出の指導等）、学業成績・悩み等についての個別相談、さらに学年に応じた学校行事の指導・企画・引率等がある。また、全学年で保護者懇談会を実施しており、家庭との意思疎通を図ることも担任の重要な業務のひとつである。クラス担任は、1、2年を一般科目教室教員、3～5年を各専門学科の教員が担当し、担任補佐（3年は一般科目教室教員）がそれを支援する。各学年の横の連携を強くするために学年主任制度を導入し、担任は進路指導室と連携しながらキャリア教育の充実を図っている。

担任のスキルアップを図るため、平成24年度教員研修（クラス経営・生活指導研修会）に2名の教員が参加、平成24年度東海・北陸地区高等専門学校新任教員研修会（学生相談関係、課外活動関係、キャリア教育関係）には研修教員として4名、アドバイザーとして2名の教員が参加した。また、学生たちの学生生活を充実させるため

に表 1 に示すような多様な講演会を各学年で行った。

表 1 学生を対象とした講演会

学 年	講演の内容など	日 程
1 年生	新入生オリエンテーション（高専の学生としての心構え、学校生活の過ごし方、勉強の仕方、服育の講演）	4 月 12 日，13 日
	性教育に関する講演会	10 月 24 日
2 年生	「服育」講演会	10 月 10 日
	煙草の害について	12 月 12 日
3 年生	「服育」講演会	9 月 26 日
	交通講話	11 月 14 日
4 年生	薬物乱用に関する講演会	5 月 21 日
5 年生	税と年金	12 月 4 日

次に、多感な青年期にあたる学生の人格形成に大きな影響を与えるものが課外活動である。本校の教育方針の中で「健康の増進に努め、身体的・精神的に強じんな耐久力を育成する」と謳っており、将来技術者として健康的に活動し、また協調性やコミュニケーション能力を習得するためにも課外活動は重要な位置を占めるものと考えられる。元来、高専制度には、5 年間じっくりと課外活動に打ち込めるという利点があり、これを生かして本校では体育系・文化系において多数のクラブが活動している。また、課外活動の安全管理の一環として、クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルを作成し、さらに今年度も学生と教職員を対象に救命救急法講習会を実施した。

次に、本校には学生全員によって構成される学生会があり、学生会役員が中心となり、体育祭、高専祭、弁論大会、壮行会、クラブ紹介等の学校行事やクリーン大作戦、献血等のボランティア活動などを自主的に企画・運営している。ここでは学生会役員会及びクラブ予算の決定を行う学生総会等が運営機関として設けられ、広報活動としての学生会誌の発行も行っている。学生会の活動に参加することにより、協調性、自主性、リーダーシップや企画力などが育成されることから、クラブ活動と同様に学生会活動も継続して支援していく必要がある。

さらに、本校では、実際に体を動かして経験の中から生きた知識を習得する「体験型ものづくり教育」を推進し、これらに関連するコンテストへの参加を積極的に奨励している。全高専が参加し、全国大会が催されるロボットコンテスト（ロボコン）、プログラミングコンテスト（プロコン）、デザインコンペティション（デザコン）の他多くのコンテストに今年度も参加した。特に今年度は、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト 2012 東海・北陸地区大会を主管し、運営にあたった。

また、上記以外にも、第5回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト（石川高専主管）、第6回八光熱の実験コンテスト（株式会社八光電機主催）、パソコン甲子園（会津大学主管）、第2回小水力発電アイデアコンテスト（株式会社デンソー主催）に参加をした。

平成24年度アクションプランに則り、メンタルヘルス関連への対応強化として、全教職員対象のメンタルヘルス・関連FDを実施した。

ボランティア活動に関しても、学生会が主体となったクリーン大作戦、本校初めての保育ボランティアを実施した。さらに高専祭の企画のひとつとして被災体験を行い、防災のあり方を通して学生と地域住民との交流が図られた。また、出前授業や公開講座などでも講師補助として学生たちが積極的に参加している。出前授業は、鯖江市、越前市、福井市の12個所の小学校や公民館などで、出前授業を行い、補助学生として延べ43名の学生が参加し、小学生とその保護者のべ605名と交流を深めた。公開講座については、9講座に27名の学生が講師補助として参加した。

本年度、学外の方たちと学生との交流について、上述の事項に加え、「地域の匠を活用した科学クラブの共同教育」により、6つの部活動の学生が、11名の地域企業の方の指導を受け、それぞれの活動（ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティション、出前授業など）に生かす試みがなされた。また、中部日本海5高専共同PRサイトの学生編集委員会が開催され、舞鶴、石川、富山、長岡の各高専の学生9名、教職員5名、本校学生5名、教職員2名が参加した。さらに、「小水力発電アイデアコンテスト」に参加する予定の学生9名が水車の構造や発電システムについて企業の方（2名）に3回にわたって指導を受けた。

学生達の健康を護り、学習機会を保障するために、平成20年度より麻疹の対策及び調査を実施している。その結果、現在組織としての麻疹耐性率(十分量の抗体を持つか、あるいはワクチンを接種したもの)が学生・教職員を含めた学校組織として95%を超え、疫学的に麻疹の連鎖感染リスクを払拭できたことは大きいと考えられる。また、教職員に対してはインフルエンザの予防接種を推奨し、感染リスクの低減の努力を行っている。

以上のように、本校では、担任制度の充実を図り、クラブ活動・学生会活動・ものづくり関連コンテスト等の課外活動を奨励し、健康管理・安全管理及びメンタルヘルス関連の対応強化やボランティア活動への取り組みなどを通して、5年一貫教育の利点を生かした人格形成の人間教育を実践していると自負する。

### 3. 学生の主な活動状況

(1) 新入生歓迎会・クラブ紹介 平成24年4月11日（水）

(2) 新入生オリエンテーション合宿

平成24年4月12日（木）・13日（金） 奥越高原青少年自然の家で実施

メンタルヘルスの話、インターネットの講演、教務関係の話、服育の講演  
クラスミーティング、学校生活の話

- (3) 学生総会 平成24年4月18日(水)
- (4) 第47回体育祭 平成24年4月27日(金)
- (5) 舞鶴高専交歓試合  
平成24年5月20日(日) 福井高専・舞鶴高専で開催
- (6) 平成24年度福井県高等学校春季総合体育大会  
平成24年6月1日(金)～6月3日(日) 県内各地で開催  
陸上、男子バスケットボール、男女バレーボール、男女卓球、水泳  
サッカー、男女剣道、男子テニス、軟式野球が参加  
成績 軟式野球が優勝、テニス(男子)団体がベスト4  
水泳 女子100mバタフライ、200m個人メドレー 各3位
- (7) 第47回北陸地区高等専門学校体育大会壮行会 平成24年6月27日(水)
- (8) 第47回北陸地区高等専門学校体育大会 富山高専射水キャンパスが担当で開催  
平成24年6月30日(土) ラグビー、陸上  
平成24年7月1日(土) 野球  
平成24年7月7日(土)・7月8日(日) 本大会  
成績 総合第2位(男子総合第3位、女子総合第2位)  
団体 男子テニス、女子ソフトテニス、女子卓球が優勝  
個人 陸上(男子200m、男子5000m)、テニス(男子ダブルス)、  
水泳(男子100m平泳ぎ)、卓球(女子ダブルス)、女子剣道(個人)が優勝
- (9) 第45回全国高等専門学校サッカー選手権北信越大会  
平成24年7月14日(土)・15日(日) 富山高専が担当で開催  
成績 優勝
- (10) 救急救命法の講習会  
平成24年8月1日(水) 鯖江・丹生消防組合署員2名による講演及び実習  
体育系クラブ学生39名、教職員10名参加
- (11) 第36回全国高等学校総合文化祭(囲碁部門)  
平成24年8月8日(水)・9日(木)  
第36回全国高等学校総合文化祭富山県実行委員会が主催
- (12) 第47回全国高等専門学校体育大会  
男子テニス 平成24年8月21日(火)～23日(木) 松江高専が担当で開催  
成績 男子団体 3位 男子ダブルス 準優勝  
陸上競技 平成24年8月25日(土)・26日(日) 米子高専が担当で開催  
サッカー 平成24年8月24日(金)～28日(火) 宇部高専が担当で開催



- 剣 道 平成24年8月26日(日) 米子高専が担当で開催  
卓 球 平成24年8月18日(土)・19日(日) 津山高専が担当で開催
- 水 泳 平成24年8月26日(日) 広島商船高専が担当で開催
- (13) 第19回全国高等専門学校将棋大会  
平成24年8月22日(水)～24日(金) 函館高専が担当で開催
- (14) 保育ボランティア  
平成24年9月7日(金) 鯖江市神明保育園 学生4名が参加
- (15) アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2012  
東海・北陸地区大会  
平成24年10月14日(日) 福井高専が担当で開催  
競技課題は「ベスト・ペット」  
本校Aチーム「Crab Pet」 アイデア賞、特別賞  
本校Bチーム「れっぱちびぱん」
- (16) 全国高等専門学校第23回プログラミングコンテスト全国大会  
平成24年10月13日(土)・14日(日) 有明高専が担当で開催
- (17) 第9回クリーン大作戦  
平成24年10月17日(水)  
JR鯖江駅～高専までの3コースと校内の清掃奉仕活動
- (18) 平成24年度弁論大会  
平成24年10月18日(木)  
6テーマ(内1テーマはエキシビジョンマッチ)で実施
- (19) 第48回高専祭  
平成24年10月19日(金)～21日(日)  
テーマ「NOW～今だからできること～」  
被災体験、ライブコンサート、球技大会、吹奏楽コンサート、  
少林寺拳法演武会、合気道演武会、アマバンライブ、ビンゴ大会、  
献血、露店 他  
被災体験(平成24年10月20日(土)・21日(日) 本校校舎内  
地域住民27名、防災士会メンバー2名、本校学生21名(防災リーダー  
16名を含む)、本校教職員3名が参加。
- (20) 中部日本海5高専共同PRサイトの学生編集委員会 福井高専が担当で開催  
平成24年10月20日(土)・21日(日)  
舞鶴、石川、富山、長岡の各高専の学生9名、教職員5名、本校学生5名、  
教職員2名が参加
- (21) 全国高等専門学校デザインコンペティション2011 in 小山

- 平成24年11月10日(土)・11日(日) 小山高専が担当で開催
- (22) 第5回東海北陸地区高等専門学校英語スピーチコンテスト  
平成24年11月17日(土) 石川高専が担当で開催
- (23) 第32回近畿高等学校総合文化祭和歌山大会(囲碁部門)  
平成24年11月23日(金)・24日(土)  
第32回近畿高等学校総合文化祭実行委員会が主催
- (24) 第28回北信越高等学校囲碁選手権大会  
平成24年12月15日(土)・16日(日) 北信越高等学校文化連盟が主催
- (25) 学生総会 平成25年1月23日(水) 開催
- (26) 第2回小水力発電アイデアコンテスト  
平成24年3月9日(土)・10日(日) 三重県いなべ市で開催
- (26) 学生会誌「青塔」発行 平成25年3月
- (27) 外部資格取得状況(平成23年度の主なもの)について  
英語検定2級:3名、英語検定準2級:32名、工業英語検定3級:16名、工業英語検定4級:7名、CAD利用技術者試験2級:10名、機械設計技術者試験3級:11名、デジタル技術検定試験2級制御:1名、デジタル技術検定試験2級情報:14名、基本情報技術者試験:1名、第三種電気主任技術者:2名、第二種電気工事士:3名、X線作業主任者:6名、危険物取扱者乙種4類:1名、測量士補:3名、

#### 4. 奨学金受給状況・授業料免除実施状況一覧（平成24年度）

##### 日本学生支援機構奨学生

（平成24年5月1日現在）

日本学生支援機構	本 科(人)					専攻科(人)		合 計(人)
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	1 年	2 年	
対 象 者	10	14	8	19	14	1	1	67

##### その他奨学生

（平成24年5月1日現在）

種 類		貸与月額	本 科(人)					専攻科(人)		合 計(人)
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	1 年	2 年	
福井県	自宅通学	18,000 円		1	1	2				4
	自宅外通学	23,000 円	1				1			2
越前市	1～3 年生	9,000 円	1							1
	4～5 年生	20,000 円								0
あしなが 育英会	自宅通学	25,000 円		2		1				3
	自宅外通学									
合 計			2	3	1	3	1	0	0	10

##### 入学料免除実施状況

区 分	免除対象額	申請(人)	許可(人)
免除対象者	84,600 円	8	2

##### 入学料徴収猶予実施状況

区 分	猶予対象額	申請(人)	許可(人)
徴収猶予対象者	84,600 円	5	3

##### 授業料免除実施状況

区 分	免除対象額	前期分(人)	後期分(人)
全額免除対象者	117,300 円	24	23
半額免除対象者	58,650 円	11	9
不許可者	—	7	9

## 5. 点検・評価

- (1) 今年度は7種類のコンテストに出場した。北陸地区高専体育大会では21種目の競技に出場し、4種目で優勝し、総合成績2位の成績であった。全国高専体育大会ではテニスの団体がベスト4進出、男子ダブルスが準優勝であった。体育会系の部活動を支援するための救急救命法の講習会も表2に示すように近年参加学生が増えている。また、東海北陸高等専門学校ロボットコンテスト2012の運営も行うことができたため、達成度評価はAと判断する。

表2 救急救命法の講習会参加学生数（5年間）

年度	H20	H21	H22	H23	H24
人数	25	26	18	37	39

- (2) ボランティア活動として、クリーン大作戦、保育ボランティアの実施に加え、被災体験を実施した。クリーン大作戦に関しては参加した61%の学生が満足をしている。また、被災体験を学校内で行うことは大変珍しく、これは本校独自の取り組みであるといえる。さらに、出前授業、公開講座の講師補助としても学生は学外の人たちと積極的に関わった。さらに、今年度は、他高専の学生、企業の方たちとの交流も行っている。この被災体験、企業の方たちとの交流は当初の計画を上回る実績を残したといえるため、達成度評価はSと判断する。
- (3) 担任のスキルアップのための研修会に教員を派遣した。また、表1に示したとおり、学生の学生生活をサポートするために各学年に対して講演会を開催した。特に、「服育」の講演会に関しては、1年生から3年生まで学年に応じた内容を目指しており、本校独自の取り組みといえる。以上のように当初の計画どおり実施することができたため、達成度評価はAと判断する。

なお、「学生相談室」の部分の評価は、「学生相談室・保健室関係」の章を参照されたい。

- (4) 日本学生支援機構奨学生は67名、その他奨学生は10名である。また、入学料免除許可者は2名、入学料徴収猶予許可者は3名、授業料免除対象者は、全額免除47名、半額免除20名であった。当初の計画どおり実施することができたため、達成度評価はAと判断する。
- (5) 東日本大震災において被災した学生が在学した場合、授業料免除等の経済的支援の情報及び民間団体による各種奨学金の情報を提供する計画であったが、平成24年4月現在、本校には東日本大震災において被災した学生が在学していない。したがって、この項目は実施されていないが、制度設計は行われているため、達成度評価はBと判断する。

## 6. 改善課題・方策

- (1) コンテストや体育大会に関して積極的な参加を促すことができたため、達成度評価をAとした。しかし、その成績を見ると（「3. 学生の主な活動状況」参考）各部活動が全て活発に活動しているわけではないことが読み取れる。そこで、来年度は部活動の活性化を狙ってワーキンググループを立ち上げる。ここで、部活動活性化のためにどのような方策があるか、どのような環境を整えればよいのか議論する。
- (2) 学生のボランティア活動などの社会奉仕体験活動については、来年度もこれらの地道な活動を継続していく必要がある。ただし、活動内容の主なものは校報紙「青武台だより」での報告を行っているが、学生の行った活動をさらに社会に発信する方法を考える必要がある。情報発信の方策を検討したい。
- (3) 学生のメンタルヘルス等にかかわる教職員のスキルアップのため、来年度以降も継続的にメンタルヘルス関係の研修会などに、積極的に参加することを進めていくことが大切であると考ええる。
- (4) 今年度より、学生への伝達方法を主として掲示板によるものとしているが、この伝達方法に関する実態調査が必要であると考ええる。
- (5) 東日本大震災において被災した学生が在学することとなった場合には、授業料免除や奨学金などの情報をしっかりと伝達したいと考える。



## ○ 学寮関係

### 1. 基本方針

学寮は遠隔地からの入学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置されている。そのために、施設、設備の充実と安全・安心な寮生活の維持には特に力を入れており、生活指導の面では原則全教員が交替で寮監として当直し、寮生と直に触れ合うことにより教育目標を果たすよう努めている。

### 2. 寮生の受け入れ状況

学寮は「青武寮」と称し、収容定員は245名である。東寮・西寮・南寮・北寮の4棟に分かれており、北寮は女子留学生の受け入れも可能な設備を整へ女子寮として改修されている。平成24年度の在籍は以下のとおりである。

平成24年度在籍寮生数

平成24年12月1日現在

学年 学科	1年	2年	3年	4年	5年	合 計
機 械 工 学 科	14 (1)	11	9 (1)	11	13	58 (2)
電気電子工学科	12	10 (2)	9 (1)	10 (2)	7	48 (5)
電子情報工学科	10 (2)	9 (2)	6	6 (1)	3 (1)	34 (6)
物質工学科	7 (2)	12 (7)	8 (3)	9 (4)	7 (1)	43 (17)
環境都市工学科	10 (4)	9 (2)	6 (1)	7	6 (2)	38 (9)
合 計	53 (9)	51 (13)	38 (6)	43 (7)	36 (4)	221 (39)

( )は女子で内数

留学生は、3年生2名、4年生2名、5年生3名

### 3. 活動状況

学生寮の管理運営は、寮生の安心・安全の確保を的確に図るべく寮関係教職員と寮監とが緊密に連携を取りながら行なっている。施設・設備面での改善も優先順位を設けて実施している。寮生活の円滑化と充実を図るため、寮生会を組織し、その自主的な活動として寮祭を始め多くの寮内行事を企画し活発に実行している。教職員も寮生会を積極的に支援している。また、国際化を視野に3年次からの外国人留学生の受け入れを行なっている。平成23年度からは短期の外国人留学生の受け入れも実施している。国際的な視野を養うために留学生と他の寮生との交流の促進を図っている。更に、オープンキャンパスなどでは中学生や保護者に対する学寮案内を通して積極的に

施設等の公開をしている。

#### 4. 点検・評価

- (1) 寮監と関係教職員との連携は、寮監日誌での情報交換と寮生の点呼簿の引き継ぎを通して平成24年度も適切に行われている。平日の寮監開始時には口頭での必要事項の連絡を行っており、達成度評価はAと判断する。
- (2) 寮生の安全確保のため、平成24年度は防災訓練の際、寮生防災組織の確認と新たに屋内消火栓による放水訓練を5年生中心に行った。防災食(保存食と水)の配布と新たな取り組みを行なったため、達成度評価はAと判断する。
- (3) 東寮に設置しているAEDの使用法の研修をかねて救急救命講習会を12月に開催した。教職員15名、学生30名の参加があった。本来定期的を実施する性格のものであるため、達成度評価はBと判断する。
- (4) 短期留学生の受け入れは、香港VTCからの女子学生4名を平成25年1月に1週間受け入れた。4年生の女子寮生3名にチューターを依頼した。寮生会として歓迎会をもち交流を進めることができた。この取り組みは、派遣国・大学等の有無によるが、受け入れが発生した今年度に関しての達成度評価はAと判断する。
- (5) 施設の改修等では、当初の限られた予算の範囲内で工夫し、以下のとおり改善を図った。また、高専機構本部へ積極的に予算要求を行い「留学生の居室・補食談話室及びシャワー室の改修」と「エアコンの設置」が認められ、年度末に工事を予定している。よって、計画以上のことが実施(予定)されたため、達成度評価はAと判断する。

(平成24年度の改善箇所等)

南寮玄関防雨・防雪防止仮囲い(ビニール張り)取設工事  
食器返却シンク・水切り台更新(学寮食堂厨房設備)  
冷蔵庫(ガラス扉)更新(学寮食堂設備)  
北寮渡り廊下雨樋補修工事  
東寮・北寮自転車小屋増設工事  
東寮渡り廊下場応接シート(両面巻上げ式)補修工事  
中央棟廊下防雪シート(両面巻上げ式)取設工事  
電気スチームコンベクションオープン更新(学寮食堂厨房設備)  
西寮北側渡り廊下屋根天井配管塗装補修工事  
中央棟玄関階段補修  
ティーサーバー(給茶機)更新(学寮食堂設備)  
エアコン架台設置工事

- (6) 寮生会指導に関しては、役員会を中心に、新入生歓迎会、寮祭、スポーツ大会、ク

クリスマス会、5年生を送る会、寮生会誌の発行等計画していた行事をほぼ全て実行することができた。よって、達成度評価はAと判断する。

- (7) 寮生指導に関しては、生活面・行動面での日常的な個別指導と寮生全体への指導と支援を主事団で分担して今年度も実施してきた。また、6月にメンタルヘルスへの理解を目的とした講習会を高学年と低学年にそれぞれ1回ずつ実施した。

寮生アンケートを実施して、寮生活の満足度と実態調査を昨年度に引き続き行った。結果は概ね満足していることが読み取れた。学寮生の実態調査を毎年行なうようになって3年目であり、今後の継続した実態の把握と調査が必要である。よって、達成度評価はAと判断する。

## 5. 改善課題・方策

- (1) 寮生アンケートの結果から、概ね寮生活には満足しているが、ア) 男子浴室が狭い点、イ) 西寮の1年生の学習時間の確保等に課題があることが読み取れる。男子浴室に関しては、予算措置が必要なためすぐに改善することは難しい。1年生の学習時間に関しては、生活指導の中でも強調していきたい。また、上級生の支援等を得ての学習指導を平成24年度試行したが、実施時期や方法などを検討したい。
- (2) 安全な寮生活のための確保のための課題として、ア) 男子寮へのカードキーシステムの導入、イ) 寮生の自主防災組織の毎年の確認、ウ) 定期的な防災訓練とAED等の講習会の実施があげられる。アについては、設備投資が必要であるが男子寮全体の管理システムの再検討が同時に必要となる。そのためのカードキーシステム導入時の管理体制の検討を始める。
- (3) 寮生会への指導と寮生指導の課題として、平成24年度から寮生会役員を5年生から4年生へと変更したが、寮生会の中心を4年生で担っていくことを定着させるために、寮生会役員への支援と寮生の指導を次のように充実させる。ア) 寮生会役員会と寮務主事団との懇談会を年間数回開催する。イ) 寮生総会を前・後期1回は実施し必要な生活指導を行う。ウ) 区長への支援と区長の指導能力向上を図る。
- (4) エアコンの設置に伴う寮生の健康確保と寮生保護者会の運営協力の課題については、以下の諸点がある。ア) エアコンの利用についての指導指針を決定する。イ) 寮生保護者会は、平成24年度にエアコンの管理のために設立したもので、平成25年度からは独自の予算執行となる。そのため、寮生保護者会役員との連絡を密にして円滑な運営ができるように協力する。

## ○ 進路指導関係

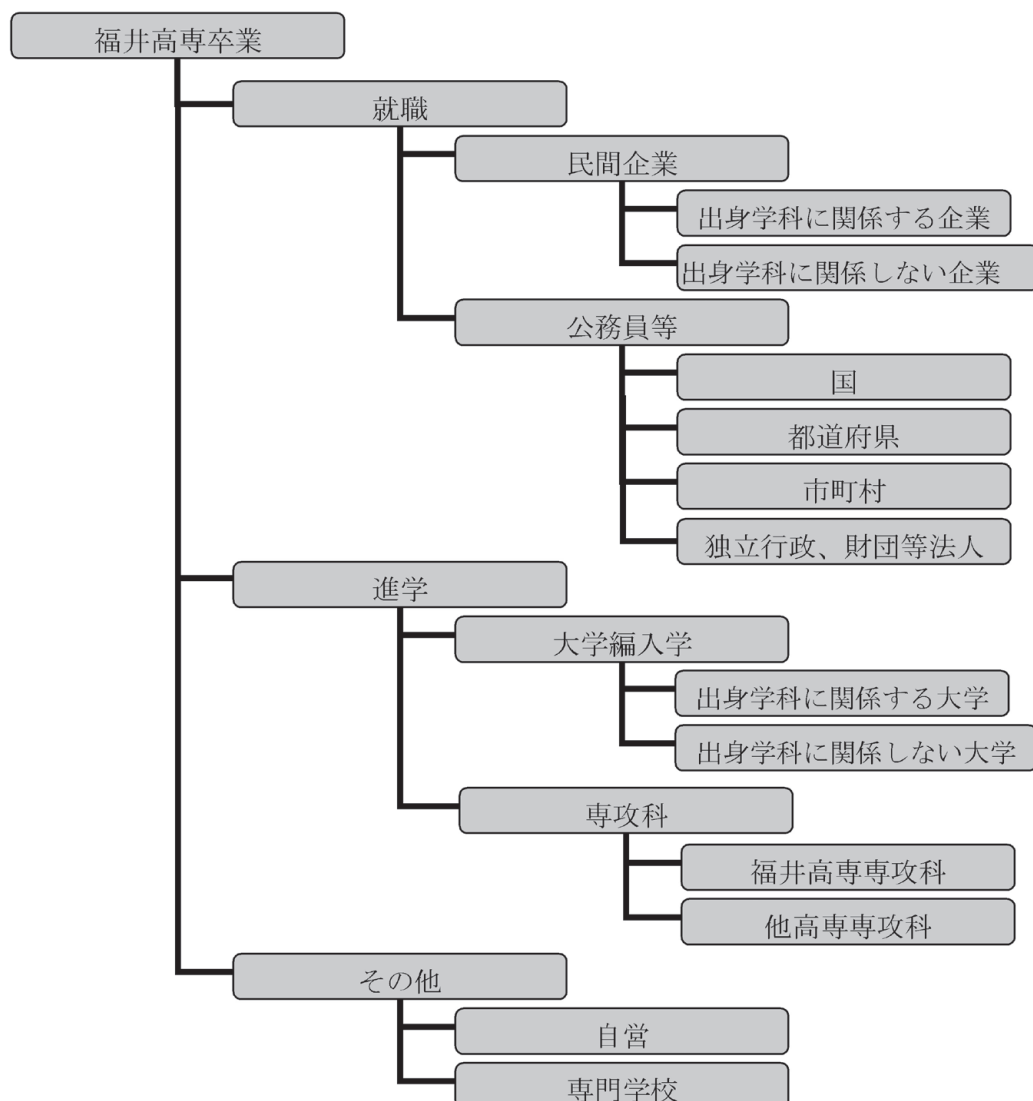
### 1. 基本方針

高等専門学校は設置以来、卒業生の産業界での活躍もあり、求人倍率が高倍率が続けてきた。また、高学歴社会を望む社会の風潮から大学編入を求める時期もあったが、近年は価値観の多様化によって学生は就職、専攻科進学、大学編入学、専門学校などへと幅広い選択をするようになってきた。本校では、将来技術者として活躍を期待される学生の重要な決定事項である進路について、進路指導委員会と各学科が綿密な連絡をとりながら学生の指導に当たっている。また、キャリア教育にも力を入れ、低学年から「社会において自立できる力の養成」を目標とした方針を立てている。

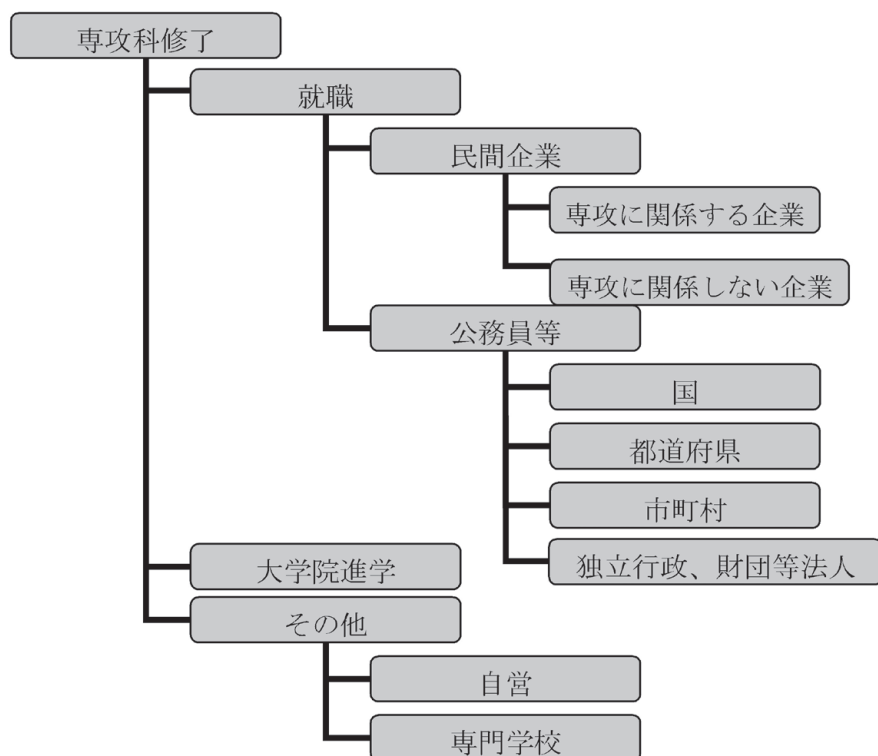
### 2. 本校卒業後・修了後の進路

本科生及び専攻科生の進路を下図に示す。

(本科生の場合)



(専攻科生の場合)



本科生の場合、平成21年度までは、専攻科の設置や大学の編入生受け入れ数の増加などによって、進学を希望する学生数が増え、ほぼ半数が大学編入学もしくは専攻科進学という傾向にあった。しかし、他の高等教育機関に比べ、高専卒業生の就職内定率がこの不況にもかかわらず好調な理由（平成24年度、就職を希望する学生に対する求人倍率は、本科については約1.7倍、専攻科については約4.3倍）により、徐々に就職希望者が増えてきた。本校では、平成24年度卒業予定者の場合、就職者と進学者の比率は62：38である。なお価値観の多様化によって、出身学科にそれほど関係しない企業や大学へ進むことを希望する学生もいる。平成25年1月末現在、本科生に関し進学予定者を含めた進路内定率は約99%となっており、専攻科の進路内定率は、平成24年12月の時点で既に100%に達している。

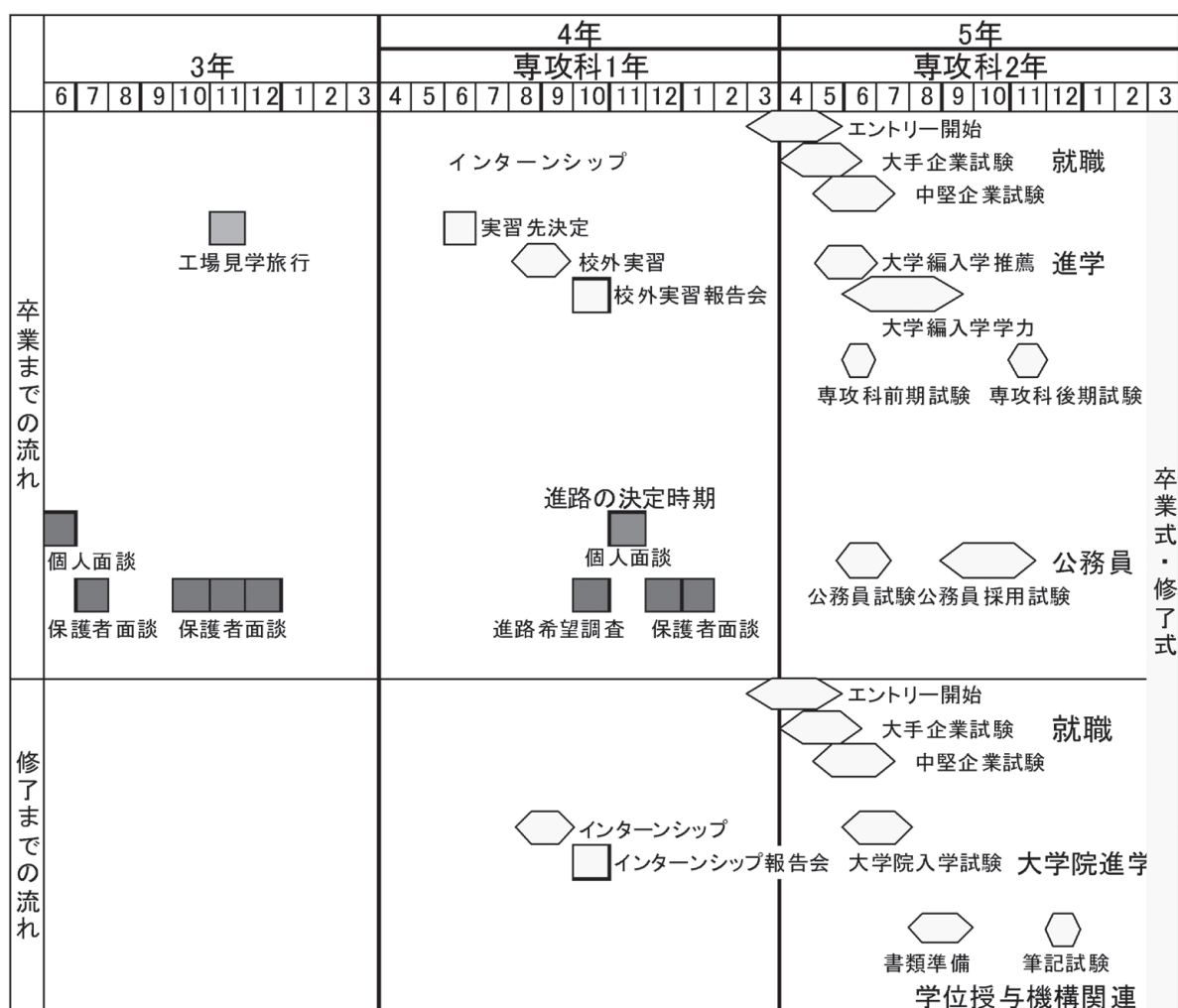


### 3. 進路決定の流れ

就職に関しては、本科4年生、専攻科1年生の3月には全国規模の大手企業の就職活動が始まる。環境系では、公務員試験を受ける学生も多いが、専攻科2年生で受験できる公務員試験は、国家Ⅰ種、国家Ⅱ種、福井県Ⅰ種、市町村などである。本科5年生で受験できるものは、国家Ⅱ種、国家Ⅲ種、福井県Ⅱ種、市町村などである。また消防官、警察官や防衛省、気象庁、海上保安庁などの職員採用試験がある他、独立行政法人や財団法人と呼ばれる公務員に準じた進路もある。

進学に関しては、本科では5月頃から推薦選抜による編入学試験が、また6月からは学力選抜による編入学試験が始まる。専攻科生に対する大学院の入試は、6月頃から始まる。

以上のような就職・進学について、学生に対してタイムテーブルで示したものが下表である。



## 4. 進学・就職先一覧

(平成23年度)

進学・就職先一覧 (平成24年3月卒業・修了者)						平成24年3月31日現在	
機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	専攻科	進学・就職	
進 学 (12名)	進 学 (15名)	進 学 (15名)	進 学 (17名)	進 学 (12名)	進 学 (3名)	(3)	
福井工業高等専門学校専攻科	5 福井工業高等専門学校専攻科	6 福井工業高等専門学校専攻科	3 福井工業高等専門学校専攻科	4 福井工業高等専門学校専攻科	6 茨城大学大学院	1	
金沢大学	1 長岡技術科学大学	2 千葉大学	1 長岡技術科学大学	5 北海道大学	1 福井大学大学院	1	
福井大学	2 金沢大学	1 福井大学	6 福井大学	3 岐阜大学	1 奈良先端科学技術大学院大学	1	
豊橋技術科学大学	2 福井大学	2 豊橋技術科学大学	3 豊橋技術科学大学	4 豊橋技術科学大学			
三重大学	1 岐阜大学	1 京都工芸繊維大学	1 京都嵯峨芸術大学 (姫路学部)	1 三重大学			
京都工芸繊維大学	1 豊橋技術科学大学	3 神戸大学	1	和歌山大学	1		
	和歌山大学	1		福井工業大学	1		
就 職 (22名)	就 職 (25名)	就 職 (17名)	就 職 (19名)	就 職 (18名)	就 職 (23名)	(10)	(13)
●県 内<6名>	●県 内<6名>	●県 内<8名>	●県 内<6名>	●県 内<10名>	●県 内<14名>	(3)	(11)
越前ボリマー㈱	1 関アイジェビタ	1 関アイジェビタ	1 エス・ジェイ化成㈱	1 湖井波木材	1 越前市役所		1
関越江村田製作所	1 共同コンピュータ㈱	1 関アートテクノロジー	2 酒井化学工業㈱	1 坂川建設㈱	2 関サカイエルコム		1
信越化学工業㈱武生工場	1 関江村田製作所	1 関イワシタ	1 産業技術教育支援センター	1 鯖江市役所	1 酒井化学工業㈱		1
関福井村田製作所	1 信越化学工業㈱武生工場	2 信越化学工業㈱武生工場	1 信越化学工業㈱	1 敦賀市役所	1 鯖江丹生消防組合		1
森永北陸乳業㈱	1 関福井村田製作所	1 関サンバーフォー	1 南高島商事	1 広瀬病院	1 武生特殊鋼材㈱		1
レンゴー㈱武生事業所	1	1 日信化学㈱	1 日信化学㈱	1 福井県	1 タカフオースサイト㈱		1
		1 関松浦機械製作所	1	福井市	1 東洋染工㈱		1
				関ホクコンプロダクト	1 敦賀市役所		1
				関西村組	1 旭エンジニアリング㈱		1
●県 外<16名>	●県 外<19名>	●県 外<9名>	●県 外<13名>	●県 外<8名>	福井県		2
アポットジャパン㈱	1 大京ガス㈱	1 株式会社エフエスエスエンジニアリング㈱	1 出光興産㈱	1 関西電力㈱	1 福井システムズ㈱		
オブテックス㈱	1 関西電力㈱	2 関NTTふらら	1 関西電力㈱	1 国土交通省近畿地方整備局	1 増永眼鏡㈱		1
木谷電器㈱	1 京セラ㈱	1 大京ガス㈱	1 京セラ㈱	1 中部電力㈱	1 ヨシダ工業㈱		1
キャノン㈱	1 関きんでん	1 関西電力㈱	1 第一工業製薬㈱	1 東海旅客鉄道㈱			
京セラ㈱設備養生工場	1 セイコーエプソン㈱	1 向洋電機㈱	1 ダイキン工業㈱	1 東京都	●県 外<9名>	(7)	(2)
大同工業㈱	1 武田薬品工業㈱	1 関 SEBACS	1 東燃ゼネラル石油㈱	1 東芝エレベーター㈱	1 アドソル目通㈱		1
ダイニチ工業㈱	1 中部電力㈱	2 関日立メデイコ	1 御豊田中央研究所	1 関 N I P P O	1 K B セーレン ㈱		
大和製罐(株)	1 東海旅客鉄道㈱	1 関富士通マーケティング	1 東レ㈱	1 前田道路㈱	1 グローバルシステムズ㈱関西支店(神戸)		1
東レエンジニアリング㈱	1 西日本旅客鉄道㈱	1 安川エンジニアリング㈱	1 日東電工㈱豊橋事業所		1 関高木製作所		
日東電工㈱豊橋事業所	1 日新電機㈱		1 日本貨物鉄道㈱関西支社		1 多賀町役場		1
日本車輛製造㈱	1 日本電設工業㈱	1	1 日本原子力発電㈱		1 大日コンサルタント㈱		1
林テレン㈱	1 日本原子力発電㈱		1 日本原子力発電㈱		1 日本原子力発電㈱		
ビューテック㈱	1 北陸電力㈱	3	雪印メグミルク㈱	1	1 バイオニア㈱川越事業所		1
兵神製菓㈱	1 (財)北陸保安協会	1			1 北陸通信工業㈱		1
北陸電力㈱	1 関古野工業所	1					
関村田製作所八日市事業所	1						
その他(1名)			その他(2名)	その他(1名)	その他(1名)		
日本経営言語学大学院	1		1 自営	1 京都建築専門学校	1 大阪ハイテクノロジー専門学校	1	
			1 武生看護学校	1			

(平成24年度)

進学・就職先一覧 (平成25年3月卒業・修了予定者)						平成25年1月31日現在	
機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	専攻科	進学・就職	
進 学 (17名)	進 学 (14名)	進 学 (16名)	進 学 (10名)	進 学 (13名)	進 学 (8名)	(5)	(3)
福井工業高等専門学校専攻科	5 福井工業高等専門学校専攻科	3 福井工業高等専門学校専攻科	5 福井工業高等専門学校専攻科	2 福井工業高等専門学校専攻科	3 北陸先端科学技術大学院大学	2	
神戸工業高等専門学校専攻科	1 長岡技術科学大学	2 筑波大学	2 長岡技術科学大学	1 千葉大学	1 金沢大学大学院	1	1
長岡技術科学大学	1 筑波大学	1 金沢大学	1 福井大学	3 長岡技術科学大学	1 福井大学大学院		2
金沢大学	3 千葉大学	1 福井大学	5 信州大学	1 金沢大学	1 名古屋大学大学院		1
福井大学	2 電気通信大学	1 豊橋技術科学大学	2 豊橋技術科学大学	1 福井大学	1 豊橋技術科学大学大学院		1
岐阜大学	2 福井大学	1 大京大学	1 大京大学	1 岐阜大学			
豊橋技術科学大学	2 豊橋技術科学大学	2	1 岡山大学	1 豊橋技術科学大学			
三重大学	1 大京大学	2		1 滋賀県立大学			
	広島大学	1		1 天理大学			
就 職 (23名)	就 職 (23名)	就 職 (26名)	就 職 (26名)	就 職 (21名)	就 職 (15名)	(10)	(5)
●県 内<8名>	●県 内<4名>	●県 内<10名>	●県 内<10名>	●県 内<10名>	●県 内<8名>	(6)	(2)
関アゴ	1 関越江村田製作所	1 関アイジェビタ	1 関アクロス	1 旭臨産業㈱	1 アポット ジャパン㈱		1
関イワシタ	1 関ゼン設備事務所	1 ES㈱	1 清川メッキ工業㈱	1 関大西商事	1 パナソニック㈱デバイス社		2
関エチアンドエフ	1 パナソニック㈱デバイス社	1 関ALL CONNECT	1 サカイオーベックス㈱	1 オカモト織工㈱	1 福井工業高等専門学校		1
信越化学工業㈱武生工場	1 関友技研㈱	1 関サカイエルコム	2 酒井化学工業㈱	1 関グリーンシェルター	1 関松浦機械製作所		1
東工シャッター㈱	1	1 関ナチュラスタイル	1 信越化学工業㈱	1 鯖江市役所	1 レンゴー 関福井工場		1
(有)バークラフト	1	1 パナソニック㈱デバイス社	1 関SHINDO	1 セキサンシーシー㈱	1 関ALL CONNECT		1
関福井村田製作所	1	1 浜本テクニカル㈱	1 武生特殊鋼材㈱	1 丹南消防組合	1 丸一調査設計㈱		1
関レーラテック	1	1 福井市役所	1 日信化学工業㈱	1 関広広組			
		1 (有)やなせ和紙	1 パナソニック㈱デバイス社	1 関西村組	1		
			1 レンゴー 関金津事業所	1 福井県警	1		
●県 外<15名>	●県 外<19名>	●県 外<16名>	●県 外<16名>	●県 外<11名>	●県 外<7名>	(4)	(3)
関西電力㈱	1 アポットジャパン㈱	1 関アットウェア	1 旭化成㈱	1 NTTインフラネット㈱	1 井関農機㈱		1
京都機械工具㈱	1 大京ガス㈱	1 出光興産㈱東加賀田所	1 大京シーリング印刷㈱	1 大阪ガス㈱	1 RBセーレン㈱		1
G.T.N Tech	1 関西電力㈱	2 関西電力㈱	1 関西電力㈱	2 小野田ケミコ㈱	1 小島プレス工業㈱		1
JXエンジニアリング㈱	1 キリン ビール㈱製造工場	1 京セラコミュニケーションシステム㈱	1 K B セーレン ㈱	1 関西保潔工業㈱	1 日本原子力発電㈱		1
島津プレジジョンテクノロジー㈱	1 関エチアンドエフ	1 向洋電機㈱	1 スガイ化学工業㈱	1 清水建設㈱	1 関湧池組		1
信越化学工業㈱富山江津工場	1 関高木製作所	1 (株)国立印刷局	1 第一工業製薬㈱	1 東芝エレベーター㈱	1 堀野フイネス㈱		1
関高木製作所	1 武田薬品工業㈱	1 関ZYXX	1 第一三共プロファーマ㈱	1 西日本旅客鉄道㈱	1 ヤマナミ㈱		1
T O W A ㈱	1 中部電力㈱	2 関SEBACS	2 ダイキン工業㈱	1 日本ビソノ㈱			
関高木製作所	1 東海旅客鉄道㈱	1 セイコーエプソン㈱	1 大同工業㈱	1 前田道路㈱			
日本車輛製造㈱	1 関日本電産	1 西日本電信電話㈱	1 大日本インキ化学工業㈱	1 関レーラテック			
日本バイリーン ㈱製造工場	1 財団法人北陸電気保安協会	1 日新電機株式会社	1 関東京セローベル	1 若菜建設㈱			
パナソニック㈱アプラインス社	1 北陸電力㈱	2 日本たばこ産業㈱(中日本エリア)	1 日東電工㈱豊橋事業所				
マルホ㈱	1 三菱電機ビルテクノサービス㈱	1 バイオニア㈱	1 日本ユニコ㈱				
関森精機製作所	1 関明電舎	1 兵神製菓㈱	1 メタウォーターサービス㈱				
YKK㈱	1 関古野工業所	1 三電電機㈱神戸製作所	1 ユニテカ㈱				
	1 レンゴー 関武生工場	1					
その他(1名)			その他(1名)				
福井産業技術専門学校	1		1				

## 5. 現状

本校の本科では、伝統的キャリア教育として、2年生で校外研修（県内企業等見学、1日）、3年生で工場見学旅行（国内企業等見学、4日）、4年生で夏期休業中のインターンシップ（国内企業等、1～2週間）を経て進路の選択を行ってきた。5年生進級後就職や進学の実験に臨んでいるが、就職、進学ともに適切な結果になっている。

しかしながら、最近、大学生の就職活動が非常に厳しくなっている中、高専の就職が比較的好調なことから就職希望者が増加しており、就職に関するキャリア教育の重要性が増してきた。また、産業や職業の状況が変化、多様化している中で、学生が適切な職業選択を行えるよう、早い段階から職業意識の形成を行い、自らが主体的に企業研究を行う環境を整える必要が生じてきた。そのため新キャリア教育として、1～3年生には、地域企業の経営者や本校教員によるキャリア教育セミナー（講演会）や先輩講座を企画した。4年生や専攻科1年生には、就職対策講座を系統的に実施した。特に、3・4年生や専攻科生には、主体的に企業を研究させるため、合同企業説明会（90社参加）を開催した。なお、自分の進路を考えるための資料として、キャリアポートフォリオの作成を各学年で取り組んだ。

その他に、就職活動の利便性向上と企業研究のツールとしての活用を目的に、福井高専独自の求人サイト「求人票・掲示板閲覧システム」をWeb上に構築し、パソコンや携帯から就職情報を入手できるようにした。以下に主なキャリア教育活動の概要を項目毎に記す。

### （1）キャリア教育セミナー（講演会）、先輩講座

1～3年生には、本校教員による講演会を前期に開催した。後期には、1年生と3年生に地域企業の経営者による職業研究セミナー、2年生には5年生や専攻科生が講師となり進路決定までの体験を話す先輩講座を学科ごとに開催した。4年生や専攻科生には、就活の専門家を講師に招き、インターンシップや合同企業説明会の心構え、求人サイトの利用法、面接・エントリーシート等の就職直前対策講座を系統的に3回開催した。

<講演会「キャリア形成について」、講師：進路指導委員会委員長、副委員長>

①1年生対象：4月5日、②2年生対象：7月4日、③3年生対象：5月23日

<職業研究セミナー「①社会で働くということ、②社会において求められる人材」>

①1年生対象、11月7日、講師：大電産業(株)代表取締役今村善孝氏

②3年生対象、1月16日、講師：東工シャッター(株)代表取締役佐々木知也氏

<先輩講座、2年対象>

①11月14日、講師：5年生、専攻科1年生、会場：2年生5教室

内容：就職、進学を決めるまでの体験談、専攻科の説明

<就職対策講座（4年生・専攻科1年生対象、講師：(株)アイバック>

①7月9日、「インターンシップ対策、コミュニケーション力向上策」

② 10月3日、「合同企業説明会対策、本校求人サイトの利用法」

③ 2月18日、「面接・エントリーシート等の就職直前対策」

(2) キャリア教育セミナー（合同企業説明会）

12月6日（木）に、本校と関連の深い企業等90社（半数強の47社が県内企業）が参加し、本科3・4年生と専攻科1年生の約400名を対象に、高専では実施例の少ない合同企業説明会を開催した。昨年度までは本校第一体育館で10～11月に実施したが、3回目となる今年度は、初めて学外（鯖江市嚮陽会館）で開催し、参加企業数が約20社増加した。合同企業説明会の実施風景を以下に示す。



合同企業説明会風景（嚮陽会館第一会場）



合同企業説明会風景（嚮陽会館第二会場）

(3) 大学・大学院合同説明会、専攻科説明会

10月27日（土）、本科3、4、5年生及び専攻科1、2年生の進学希望者を対象に、大学・大学院進学のための合同説明会を開催した。昨年度より2大学多い全国11大学・大学院から講師を招き、各大学・大学院の特色の説明がなされた。また、専攻科の希望者減への対策として、専攻科説明会を新たに2～4年生の全学生対象に実施した。

(4) 本校独自の求人サイト「求人票・掲示板閲覧システム」、ポートフォリオ

本校では、高専の就職制度に対応した本校独自の求人サイト「求人票・掲示板閲覧システム」を昨年度から開発し、今年度より本格的に運用を開始した。このサイトにより、パソコンや携帯電話から今年度や過去の求人情報を各種条件で検索することができ、就職活動の利便性が向上するとともに、主体的な企業研究に活用できる。

また、他高専では実施例の少ないポートフォリオを、昨年度から本科で導入を開始しており、今年度も継続して取り組んだ。なお、低学年ではクラス替えがあることから、1～2年生用として、キャリアポートフォリオという名称の資料保管ファイルを配布した。



## 6. 点検・評価

就職活動への対策強化を主目的に、進路指導委員会では2年前より、新しいキャリア教育活動の企画を導入している。今年度は昨年度の企画で指摘されていた反省点や課題を検証し、改善した内容で実施した。

まず、1年生では、企画数が1件と少なかったため、経営者による職業研究セミナーを追加した。「社会で働くということ」を分かりやすく講演していただき、好評であった。

2年生では昨年度開始した新企画「研究室訪問」が、実施内容に統一性がなく成果が不十分な学科があったという反省から、5年生や専攻科生が進路について説明する「先輩講座」という企画に改善して実施した。アンケート結果からは、大いに参考になったが70%（参考になったでは98%）と好評であり、来年度も継続実施することになった。

高学年では、3回目となる合同企業説明会を、就職活動の開始時期が12月になったことに対応して、12月初旬に遅らせて開催した。寒さ対策のため、会場を本校体育館から鯖江市の公共施設に変更したが、参加企業数が90社と以前より約20社増加し、県内企業も約50社が参加した。学生が地域企業を学ぶ良い機会にもなり、人材面で地域産業に貢献する行事と位置づけることができた。さらに、大学等で就活指導をしている専門家を講師に招き、昨年度より回数を増やし、就職対策講座を系統的に3回実施した。

進学に関しては、参加大学数を増やして大学・大学院説明会を実施することができ、新たに2～4年生に対し専攻科説明会を開催した。

本校独自に構築した求人サイト「求人票・掲示板閲覧システム」については、今年度より本格的に運用を開始した。学生はパソコンや携帯から本校用の就職情報を入手できるようになり利便性が向上した。ポータルサイトに関しては、昨年度からの取組を継続し、低学年には専用の資料保管ファイルを使用することにした。

以上のように、低学年から複数のキャリア教育を実施することができ、計画を上回る成果が得られている企画があることから、達成度評価はAと判断する。

## 7. 改善課題・方策

最近の新入生アンケート結果では、本校への入学志望動機として就職が良いからと答える学生が非常に多くなっていることから、就職に力点を置いた活動を今後とも継続する必要がある。また、就職活動の時期が早期化し、厳しくなっていることから、低学年から進路を考えるキャリア教育を導入していくことが重要になっている。本校は他高専と比べ、キャリア教育がかなり充実していると判断されるが、今後とも問題点を検証しながら推進すべきである。

改善に関しては学生へのアンケート結果等を参考に検討していくが、特に、今年度



初めて学外で開催した合同企業説明会は、実施形態など問題点を委員会で検証し、それに基づき次年度改善していく予定である。また、本校独自の求人サイト「求人票・掲示板閲覧システム」については、合同企業説明会等の情報配信など、学生が利用しやすくなるよう改善していきたいと考えている。

なお、本校の組織として、進路を担当している進路指導室と進路指導委員会の位置づけが不明確な状況になっている。キャリア教育の重要性を学生が認識し、中学生など学外へキャリア教育の活動状況をアピールしていくためにも、キャリア支援室（センター）等に名称を変更し、学生に見える組織にするよう検討する。

## ○ 研究活動関係

### 1. 現状

研究改善委員会では、教員の研究に関する自己点検として毎年研究活動評価調査を実施している。評価項目として研究成果の発表、学協会の委員等の支援、研究資金の獲得などである。表1に平成24年度の研究活動評価調査結果を示す。ただし、表中の（ ）内数字は昨年度の結果を表す。今回も、評価期間を3年間（平成21～23年度）で、評価の上限を24点とし、24点を4段階のランク（A、B、C、D）に分類して評価した。24点は、毎年1篇の査読有論文の成果が出ていることに相当する。表1より十分な研究活動をしているとみなされるランクAの教員は57名で昨年度と比較して1%増加した。ランクB及びランクCの教員はそれぞれ8名となりランクDの教員は1名に減少した。この結果は、昨年度のランクDの教員が上位ランクに移動した格好になっている。また、最高評価点は203点であった。

科学研究費補助金の獲得に向けて、新採用の教員を日本学術振興会主催の科学研究費助成事業に関する研修会へ派遣し、科学研究費補助金申請へのモチベーションを高めている。そして、申請書の書き方の参考資料として採択された申請書のコピーを全教員に配布している。また、外部資金獲得経験者による申請書へのアドバイス・面談制度を設け採択率の向上を図っている。さらに、学内向けウェブサイトにも外部資金公募一覧を掲載し、月初めに該当月の締切公募情報を全教員にメールで配信している。

平成24年度の科学研究費補助金の採択件数は8件（新規：4件、継続：4件、総額：2,184万円）で、前年度と比較して採択件数は2倍に、総額は2.6倍になった。また、平成25年度の申請件数は47件であった。

共同研究は11件、総額は2,467,000円、寄付金受入件数は18件で、総額は6,040,000円である。

科学研究費補助金に採択された研究テーマに動物実験を伴う研究があったので、環境省の動物愛護に関する基準及び文部科学省の基本指針等踏まえ、動物実験等に関する規則を制定した。

表1 平成24年度研究活動評価調査結果

ランク	人数	割合 %
A : 24 点以上	57 (58)	77 (76)
B : 16 点～23 点	8 (6)	11 (8)
C : 8 点～15 点	8 (8)	11 (11)
D : 0 点～7 点	1 (4)	1 (5)

豊橋科学技術大学と高等専門学校との人事交流の一環として今年度は教員1名が派遣されている。また、平成25年度の高等専門学校機構の在外研究員として1名がドイツへ、さらに高等専門学校間の人事交流として1名が他高等専門学校への派遣が予定されている。

## 2. 点検・評価

研究活動評価調査結果によれば、ランクがA以上である教員が8割近くおり、十分な研究活動等を行っていると思われる。

本校の科学研究費補助金採択率及び総額は改善傾向にあるが決して多くない。この要因のとなっているのは本校の全教員数に対する科学研究費補助金申請率が約6割に留まっていることであり、特に人文・社会系教員の申請率が低い。科学研究費補助金は他の競争的研究資金と異なり、あらゆる分野における研究支援する助成費であるため、すべての教員に申請する機会を提供している。申請者には、校長裁量経費への応募資格が与えられているが、採択率及び申請率の向上にこれは有効に機能していないと思われる。

約8割の教員が十分な研究活動を行っており、科学研究費補助金の採択件数及び総額が改善傾向にあることから、達成度評価はBと判断する。

## 3. 改善課題・方策

科学研究補助金等外部資金採択件数を増やすには、教員への学内研究費の配分方法の見直しが望まれる。現在の学内研究費の配分方法が外部資金獲得への弊害に多少なっていることは否めない。したがって、科学研究費補助金等外部資金獲得者及び申請者に対して設備マスタープランへの申請資格を付与するなどのインセンティブを考慮し、研究活動評価結果を加味した研究費配分方法が考えられる。

## ○ 地域・社会貢献活動関係

### 1. 現状

本校の教育研究資源を地域社会に還元することに加え、国立高専機構の第2期中期計画の「小・中学校に対する理科教育支援の機会を増大するとともに、取組事例を総合データベースに蓄積・共有し活用する。」と「満足度調査において公開講座の参加者の7割以上から評価されるように、地域の生涯学習機関として各学校における公開講座の充実を図る。」に基づき、公開講座、出前授業、福井県大学連携リーグ連携企画講座(主催：大学連携リーグ)及び福井県生涯学習大学開放講座(主催：福井県生涯学習センター)への講師派遣、そして福井高専音楽のタベークラシックコンサート—の一般開放を行っている。

本年度は、小中学生や一般を対象にした公開講座については表1に示すように21件を、また小中学校等での出前授業については表2に示す22件を実施した。表1に示す以外の公開講座としては、女子中学生の理工系分野への進路選択支援として本校5学科とサイエンスクラブが用意したものづくり・デモ実験体験後、2名の本校OGによる理系分野への女性進出の意義についての基調講演と懇談会を開催した“女子中学生と保護者のための公開講座・懇談会”(図1)がある。出前授業についても表2以外のものとして本校の課外活動クラブであるサイエンスクラブが鯖江市民ホールつつじ等で行った“サイエンス教室”(図2)と、サンドーム福井を会場に開催された“おもしろフェスタ”(主催：福井県産業会館)(図3)がある。このような公開講座や出前授業の開催に際しては、学生の帯同や協力を求めることが多く、学生にとっても地域社会と接触する機会ともなり、教育効果も期待できる。

さらに、福井県大学連携リーグ連携企画講座、及び福井県生涯学習大学開放講座にはそれぞれ英語科を始めとする教員4名(延べ7講座を担当)と、環境都市工学科教員1名(1講座を担当)を派遣し、イギリス文化、暮らしの科学や自然環境等をテーマに講演し、教員の研究成果を地域に還元した。また、福井高専音楽のタベークラシックコンサート—は、本校学生の情操教育の一環として平成21年度から実施している事業であり、地域社会への文化的貢献の観点から聴衆席の一部を一般住民の方々にも開放し、本年度はピアノとハープの奏者をお招きして、12月に鯖江市嚮陽会館にて開催した(図4)。





図1 女子中学生と保護者のための公開講座・懇談会の様子



図2 サイエンスクラブによる“サイエンス教室”



図3 サンドーム福井における“おもしろフェスタ”



図4 福井高専音楽のタベークラシックコンサート



表1 H24年度の公開講座実施一覧

講 座 名	日 時	対象者	募集数(人)	受講者数(人)	受講料
自律ロボット製作入門	6/16(土) 9:30~16:30	1日, 6.5h 中学生	8人	8	無料
親子科学教室(科学は身近にあふれてる。さあ科学のとりかたを学ぼう！)	7/22(日) 13:00~17:00	1日, 4h 小学3~6年生(保護者要同伴), ※1家族から参加は1組と扱う	21組	17	無料
小さな大工さん講座「建築模型をつくろう！！」	7/28(土) 10:00~16:00	1日, 5h 小学5~6年生, 中学生	16人	15	無料
電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	7/28(土) 13:30~16:30	1日, 3h 中学生	10人	7	無料
やってみようソーラーカー手作り教室	7/29(日) 10:00~16:00	1日, 5h 小学生 (保護者要同伴)	20組	20	無料
夏休みの自由研究講座「ちからとかたち」	7/29(日) 13:00~17:00	1日, 4h 小学4~6年生	13人	12	無料
中学生のための作文講座	8/5(日) 10:00~14:00	1日, 3h 中学3年生	15人	15	無料
光を追いかけるロボットカーを作ろう	8/10(金) 13:30~16:30	1日, 3h 中学生	10人	10	無料
多面体を作ろう	8/11(土) 10:00~12:00	1日, 2h 小学生, 中学生	20人	4	無料
電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」	8/11(土) 13:30~17:00	1日, 4h 小学4~6年生(保護者要同伴), 中学生 ※1家族から参加1名まで	10組	10	無料
光ったり動いたりする「スライム」や「人工いくら」を作ってみよう	8/11(土) 13:30~16:30	1日, 3h 小学生 (低学年は保護者要同伴)	15組	15	無料
関数を体験しよう	8/18(土) 10:00~12:00	1日, 2h 中学生	20人	11	無料
中学生のための社会科講座-高専の入試問題で学ぼう	8/25(土)10:00~15:00 8/26(日)10:00~12:00	2日, 6h 中学3年生	30人	13	無料
中学から始めるバスケットボール・オフENSE編-1on1を得意にする！-	8/28(火),29(水) 各9:00~12:00	3日, 9h 中学生	10人	2	無料
初めての簡単プログラミング	9/1(土),2(日) 各13:00~16:00	2日, 6h 小学4~6年生	15人	8	無料
オリジナル菓をつくろう2012	9/1(土) 13:30~15:30	1日, 2h 中学生	5人	4	無料
英検3級合格をめざして -受験対策講座-	9/22(土),29(土),11/4(日) 各10:00~12:00	2日, 6h 中学生以上	20人	11	6,400円 (中高生は無料)
英検準2級合格をめざして	9/29(土),30(日) 各13:00~16:00	2日, 6h 中学生以上 (英検3級取得者が望ましい)	20人	7	6,400円 (中高生は無料)
親子で作るはじめてのオリジナル写真年賀状	11/3(土) 13:00~16:30	1日, 3.5h 小学生, 中学生 (保護者要同伴)	15組	7	無料
中学生のための国語講座-古典の心を読む	12/9(日) 14:00~16:00	1日, 2h 中学3年生	20人	18	無料
英文法基礎講座	12/15(土),16(日) 各10:00~14:30	2日, 7h 中学3年生	20人	15	無料

表2 H24年度の出前授業実施一覧

学科	実施日時	時間	出前授業先	標 題	スタッフ数			受講者数
					合計	教職員	学生数	
物質	5月13日	13:00～16:00	国高ふれあいセンター	液体窒素とスライム時計	4	4		30
機械	6月16日	10:00～13:00	越前市大虫小学校	親子でおもちゃ作り体験	13	4	9	120
機械	6月17日	13:00～15:30	明新小学校	親子で作る工作	7	3	4	74
物質	6月30日	9:30～12:30	福井市 和田小学校	超低温の世界	4	4		100
電気電子	7月7日	9:00～11:00	東十郷小学校体育館ランチルーム	おもしろ科学実験とものづくり	2	1	1	60
電気電子	7月14日	9:30～11:30	鯖江市東小学校多目的ホール	おもしろ科学実験とものづくり	2	1	1	41
電子情報	7月28日	13:00～16:00	越前市武生第二中学校	越前市中学ロボットコンテスト製作教室	2	2		40
物質	7月29日	12:15～15:15	定友公民館	超低温の世界	5	5		40
電子情報	8月19日	13:00～15:30	福井市エルバ	歯みがきロボット工作教室	1			18
機械	8月21日	13:30～15:30	越前市生涯学習センター	親子でおもちゃ作り体験を作って遊ぼう！	8	3	5	47
電気電子	8月22日	13:00～15:00	神山保育園 学童そらぐみ	おもしろ科学実験とものづくり		1	1	30
電子情報	8月25日	9:00～16:00	越前市武生第二中学校	越前市中学ロボットコンテスト製作教室	2	2		40
電気電子	8月27日	13:30～16:10	越前市生涯学習センター	光と色のファンタジー	2	2		33
物質	9月15日	9:00～12:00	進徳小学校	超低温の世界	5	5		60
物質	9月21日	13:30～16:30	清水小学校	超低温の世界	3	3		80
環境	9月22日	13:00～15:00	鯖江市民活動交流センター	防災ゲーム	4	1	3	21
電気電子	10月20日・21日	10:00～16:00	福井県児童科学館	青少年のための科学の祭典2012「光を利用したものづくり」		1		150
機械	10月27日	9:00～12:00	越前市 王子保小学校	親子でおもちゃづくり体験	10	4	6	81
一般科目教室 (自然系)	10月27日	12:30～16:00	福井市立 清明小学校	正多面体を作ろう	9	6	3	84
機械	12月8日	13:00～15:30	河和田公民館	おもちゃの水車を作ろう	4	1	3	22
電子情報	12月9日	10:00～12:00	鯖江市・らてんぼ	子供向けプログラミング教室	3	1	2	10
電子情報	1月19日	10:00～12:00	鯖江市・らてんぼ	子供向けプログラミング教室及びIT教室	6	1	5	15

## 2. 点検・評価

本年度の公開講座は、主にものづくり、科学系のデモ実験に加えて数学・国語・社会や英語系の内容で実施され、開講した21講座に小中学生延べ235名が参加し、この参加人数は昨年度の参加者数よりも80名多い。昨年度の参加者によるアンケートでは、“数学や国語系の公開講座も開講して欲しい”との要望があり、本年度はそのような要望を受けて複数の講座を新設した。図5は本年度開講した公開講座の内容に対する感想と、その満足度をまとめたものである(回答率92%)。公開講座終了後には、“中学校では実験する機会も少なく、楽しく、良い経験になった。”や“少し難しかったけれど、完成させることができた。”等の感想が多くあり、その結果、参加者の約90%が講座内容は「とても面白い」又は「面白い」と回答していた。さらに満足度についても「だいたい満足」と「充分満足」の合計は昨年度と同様、約97%であった。この数値は、前述した国立高専機構が掲げている「公開講座の参加者の7割以上から評価される」という目標を大きく上回っている。

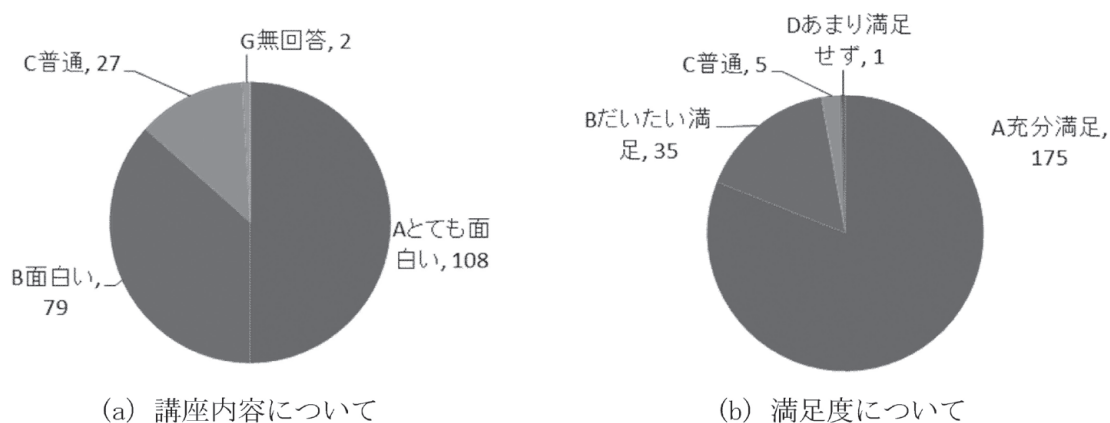


図5 公開講座のアンケート結果

また、“女子中学生と保護者のための公開講座・懇談会”には、県内の女子中学生37名(2年生4名、3年生33名)とその保護者21名が参加した。図6と7は公開講座終了後に調査した満足度の結果(アンケート回収率は、中学生97%、保護者76%)であり、公開講座の内容については図6にあるように、「満足した」と「とても満足した」を加えると96%の参加者が、そして基調講演と懇談会については図7のように98%が「良かった」又は「とても良かった」と回答していた。特に、本年度の新しい試みであった本校OGによる理系分野で活躍する意義ややりがいについての基調講演と懇談会は体験に基づいた内容が主であったため、具体性に富み、非常に理解しやすいところが参加者に受け入れられたものと思われ、実際、「理系の女性の活躍状況が分かった」や「家庭と両立して仕事を続けている生き生きとした姿が素晴らしい」等の意見(図7)があった。

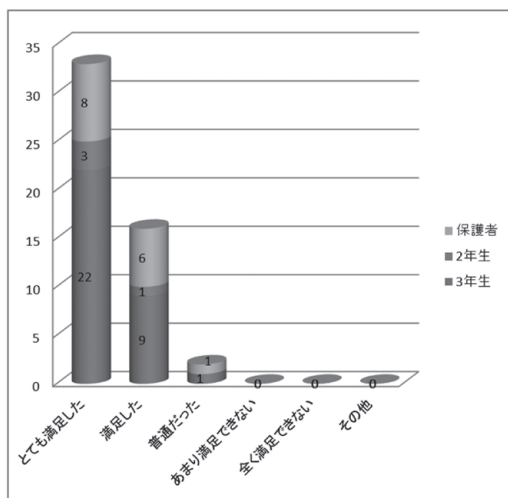


図6 公開講座内容の満足度

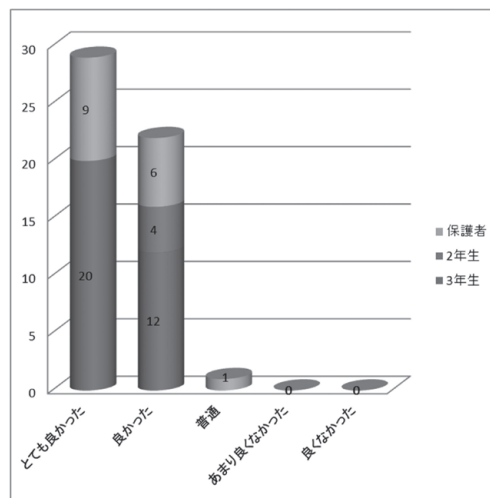


図7 基調講演・懇談会の満足度

表2に示した出前授業については、延べ約1200名の小中学生が受講した。さらに、前述したようにサンエンスクラブによる“サンエンス教室”ではミニイライラ棒の製作や霧箱を用いた放射線の目視観測等に約160名が、そして8月に開催されたサンドーム福井での“おもしろフェスタ”ではクリップモータづくりとパソコン・プログラミングに約500組の親子連れが挑戦しており、いずれも高い評価を得ていた。

福井県大学連携リーグ連携企画講座では各講座30名程度の大学生を含む一般社会人が受講し、いずれの講座も受講生から高い評価を得ている。この内、イギリス文化をテーマにした企画講座は来年度も開催すべく、現在その企画が進行している。また、福井県生涯学習大学開放講座では嶺南高浜町中央公民館を会場に地元住民を主な対象として開講され、その満足度も約84%に達している。

本校の文化的貢献としてのクラシックコンサートの事業も前述したような公開講座や出前授業等と同様、地域では定着しつつあり、本年度も約180名の地域住民の参加があった。アンケートによると96%の方々が「満足」又は「大変満足」に回答しており、“地域の人達との交流を大切に色々な催を開くのはとても良い事だと思う”や“一般者も参加できる事はとてもありがたい”等の感想・意見があった。

以上のことから、達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

本校は、教育研究資源を公開講座、出前授業等を通して地域社会に還元・貢献しており、いずれの事業においても参加者から極めて高い満足度を得ている。これらの事業では、教職員のみならず学生と地域住民との交流も図れ、学生の立場からするとエンジニアリング・コミュニケーション能力の育成の機会ともなるため教育効果も期待できる。理科教育支援等を含む各事業に今後も継続して積極的に取組み、地域社会の活性化等にご貢献したい。

## ○ 国際交流関係

### 1. 現状

#### (1) 平成24年度計画に記載された事項

- ① 9月に、北九州高専で開催された「工学教育の進歩に関する国際シンポジウム (ISATE2012)」に教員2名が参加し、電気電子工学科の教員が創成科目の実施状況についてポスター発表(英語)を行った。
- ② 9月に、シンガポールのテマセクポリテクニクにおいて開催された技術英語研修(高専機構主催、熊本高専担当校)に2名の専攻科生が参加した。
- ③ 11月に、タイのバンコクで開催された「持続可能性技術に関する国際シンポジウム (ISTS2012)」に、テマセクポリテクニク技術英語研修に参加した学生が教員2名と共に参加し、特別研究の内容について英語で論文発表を行った。
- ④ 高専機構が主催する海外インターンシップ事業に、第1次日程(2012年夏実施)及び第2次日程(2013年3月実施)いずれも1名の専攻科生が応募した。
- ⑤ 姉妹協定校であるオーストラリアのバララット大学との交流事業では、隔年で相手校を訪問し交流を深めている。今年度は、本校学生がバララット大学へ訪問する年となっており、訪問学生(15名)が本校英語教員による事前研修後、3月に現地を訪問し、2週間の日程で英語研修プログラムを受講した。
- ⑥ 7月に、国際交流委員長がプリンスオブソンクラ大学(タイ)及びカンボジア工科大学(カンボジア)を訪問し、互いの交流活動の可能性について意見交換を行った。その後、10月に金沢大学を訪問中であったカンボジア工科大学の学生4名が本校を訪問し、学内見学と、短時間ではあるが学生間の交流を行った。一方、プリンスオブソンクラ大学とは同大学工学部との交流協定の締結に向けて、交渉を進めた。

#### (2) その他の事項

- ① 8月に、国際協力機構(JICA)北陸支部主催の研修事業「技術系グローバル人材育成」(於フィリピン)に、本校から2名の教員が参加し、北陸地区の他高専の教員と共に現地視察や議論を行い、問題意識の共有を図った。また、その後実施した校内報告会には多くの若手教員が集まり、活発なディスカッションの場となった。
- ② 8月に、文部科学省主催で開催された国際交流事業「平成24年度アジアユース人材育成プログラム」に、本科3年の男子学生1名が参加した。同プログラムは沖縄各地を会場として約3週間の日程で行われ、アジア各国の学生達数十名が交流を深めた。また、校内報告会を実施した。
- ③ 富山高専が中心となって進めた「ロードマッププロジェクト」(特別教育研究経費)は2か年のプロジェクトであり、今年度が最終年度に当たる。本校は同プロジェクトに連携協力しており、前年度の活動実績をまとめた各種資料をベースとして学生



へのアンケートを実施するとともに、アメリカで活躍している本校卒業生へのインタビュー取材を敢行した。来年度早期に、在籍学生分の成果報告書等が送付されてくるので、今後の学生達のキャリア教育に役立てる。

- ④ 1月に、高専機構が結んでいる国際交流協定の1つである、香港のVTC（国立の職業訓練機関）から「平成24年度短期留学生（受入）プログラム」として4名の女子学生と1名の男性教員を受入れた（写真1）。同機関からの受入れは初めてであり、次年度以降へのテストケースという意味合いで、1週間のみの受入れとなった。短期間であったにもかかわらず、香港の学生達と本校の学生達は活発に交流した。



写真1 香港VTC学生達との交流の様子

- ⑤ 2月に、国際交流に関する講演会を開催した。豊田工業高等専門学校国際交流委員長を講師として迎え、同高専の国際交流の実情をつぶさに紹介していただいた。当日は多数の教職員が聴講し、高専における国際交流の現状について教職員の共通理解を得ることができた。同時に、教職員の国際交流分野における意識の向上を図る良い機会となった。

## 2. 点検・評価

今年度は本校学生の海外派遣及び外国人留学生の短期受入れ、さらに本校教員の海外派遣・研修などについて当初の目標を全てクリアすることができた。

また、年度計画にはなかった交流活動を積極的に実施するとともに、本校独自の交流協定締結に向け海外視察を行うことができた。

以上のことから、達成度評価はAと判断する。

## 3. 改善課題・方策

高専機構に申請した2つの短期留学受入れプログラムのうち、「香港VTCからの学生の受入れ」は実施できた。しかしもう1つのプログラム「キングモンクット工科大

学ラカバン校（KMITL タイ）からの学生の受入れ」については、双方の予定の摺合せができず、実施できなかった。次年度は双方の予定を慎重に打ち合わせることで解決できると思われる。

また、国際交流に関する教職員対象の講演会は今後も継続的に開催することによって、より高い効果が得られると考えている。

## ○ 国際交流（留学生）関係

### 1. 現状

本校は、国際貢献の一環として、モンゴルなど3か国から留学生を3年次に受け入れ(下記参照)、本校の学生と同様な教育や寮生活をしてもらいながら、単に学習の場としてだけでなく、国際化の一つとして異文化交流の大きな柱と位置づけ、力を注いでいる。

### 本年度在学留学生一覧

学科・学年	氏名	区分	留学期間	国籍
専攻科 生産システム 工学専攻2年	ハヤルサイハン 杵(オチ) BAYARSAIKHAN OCH	私費留学生	H23.4～ 25.3	モンゴル
機械工学科 5年	モハマト ハフィズ (ハフィズ) MOHD HAFIZ	マレーシア政府 派遣留学生	H22.4～ 25.3	マレーシア
電気電子工学科5年	マムドット スルタン (タニム) MAHMUD SULTAN	国費留学生	H22.4～ 25.3	バングラデシュ
物質工学科 5年	ハートハヤル バートルスレン (バートルスレン) BATBAYAR BAATARSUREN	国費留学生	H22.4～ 25.3	モンゴル
機械工学科 4年	ザイナル フィルダウス (ザイナル) ZAINAL FIRDAUS B ZAINAL `AMINI	マレーシア政府 派遣留学生	H23.4～ 26.3	マレーシア
物質工学科 4年	スキル ダンザンワンジル (ダンザン) SUGIR DANZANVAANJIL	国費留学生	H23.4～ 26.3	モンゴル
機械工学科 3年	ノルアマルル ビン ノラフマン (アマルル) NOR AMARUL BIN NOR RAHMAN	マレーシア政府 派遣留学生	H24.4～ 27.3	マレーシア
環境都市工学科3年	ナムサライ ドゥグルスレン (ドゥグル) NAMSRAI DUGERSUREN	国費留学生	H24.4～ 27.3	モンゴル

留学生の対応は、教育面では留学生委員会（担任や学科の代表）が、生活面では寮務委員会が受け持ち、留学生からの相談に応じている。また、より身近な学習・生活支援として、チューター(3・4年次の寮生活学生のクラスメート)を一人ずつ用意し、学習と生活両面での支援を実施しており、留学生からの評価は高い。また、下記の行事に記載したように多彩な行事を設け、本校学生だけでなく、地元住民や他高専の学生との交流を幅広く図っている。

- ・ 本年度留学生関連行事

- 4月 3日 平成24年度入学留学生鯖江・越前市長表敬訪問
- 4月 3日 平成24年度外国人留学生チューター委嘱式・オリエンテーション
- 7月 2日 平成24年度第1回外国人留学生委員会
- 7月19日 入国管理行政・申請取次制度講習会（金沢大学）
- 7月19日 福井県留学生交流推進協議会第1回運営委員会（福井大学）
- 10月6・7日 北陸地区高専外国人留学生交流会（富山）
- 11月 福井県留学生交流推進協議会定例総会・第2回運営委員会（福井大学）
- 12月 9日 平成24年度外国人留学生・チューター研修会（ナガシマスパーランド）
- 1月10日 平成24年度留学生との懇談会（福井高専）
- 1月18日 平成25年度入学予定国費留学生（キラル：リズキ・ダルマワソ）との面会  
（東京日本語教育センター）
- 2月17日 平成24年度外国人留学生・チューター体験ツアー（スキージャム勝山）
- 2月 福井県友好大使の推薦  
（5年電気電子工学科・タニム、5年物質工学科・バートル）
- 3月 6日 平成24年度卒業留学生鯖江・越前市長表敬訪問国際交流関係

ここ数年の留学生の進路については下記に示すとおりであるが、その全てが大学進学であり、本校への留学として十分な成果を残すことができている。

- ・ 留学生進路一覧

平成20年度から平成24年度卒業生（14名）

秋田大学（2）、福井大学（3）、筑波大学、長岡技術科学大学（2）、静岡大学、豊橋技術科学大学、東京工業大学、神戸大学、電気通信大学、信州大学

## 2. 点検・評価

上記のような支援体制を実施し、また進路についても納得できる結果を残していることから、達成度評価はAと判断する。

## 3. 改善課題・方策

留学生は、現在日本国費とマレーシア政府派遣の2つを受け入れているが、今後私費での留学が増えてくると予想され、その対応を鋭意検討していきたい。

## ○ 施設整備関係

### 1. 現状

高専機構の第1期及び第2期中期計画における「教育環境の整備・活用」の指針である「産業構造の変化や技術の進展に対応できる実験・実習や教育用の設備の更新、実習工場などの施設の改修をはじめ、耐震性の確保、校内の環境保全、ユニバーサルデザインの導入、寄宿舍の整備、環境に配慮した施設の整備など安全で快適な教育環境の充実に計画的に推進することとし、特に、施設の耐震化率の向上に積極的に取り組む。」に基づいて、本校では平成20年度には本館と機械工学科棟を、平成21年度には電気電子工学科棟、物質工学科棟及び管理棟の改修を実施した。昭和45年度に竣工した土木工学科棟(現在の環境都市工学科棟)については老朽化と耐震基準値( $I_s$  値0.54)が低いため、本校の施設整備計画に基づいて狭隘化解消と耐震を含めた改修工事の概算要求を行ったところ、本年度予算措置が講じられ、10月に改修工事を着手し平成25年3月に竣工予定である。同棟には、ユニバーサルデザインや人感センサーによる照明装置等の省エネルギー機器が導入されていることに加え、実験室等の狭隘化の解消及び共通スペースの拡充によって、環境に配慮し、教員と学生間のみならず学生同士のコミュニケーションも取りやすい快適な教育研究環境を提供できる。なお、同改修工事の実施に伴い、教員室や実験室、演習室等は、工事期間中、図書館や本館及び福利施設に移転し、教育研究に極力支障を来さないように配慮した。

本校では従前より施設整備の充実に図り、全学生に対して快適な学習生活環境の提供に心がけている。このような観点から寮生、外国人留学生及び身障者学生を対象にした各種営繕工事等を本年度も実施した(実施中及び年度内予定を含む)。

各種営繕等の主な事業は下表のとおりである。このうち身障者対策としては、スロープ・自動ドアの設置や段差解消等がその主な内容である。



平成24年度の主な営繕事業

対象者	事業名	対象箇所	事業目的	進捗状況
寮生	・空調電源等改修工事 ・空調架台設置工事	学寮	夏季・冬季の温度対策と環境対策	終了
	学生寮生活環境整備		・学寮中央棟玄関改修 ・渡り廊下防雪シート取替 ・東寮・北寮自転車小屋増設	
留学生	留学生交流推進経費（留学生寄宿舎環境整備事業）	学寮	居室、補食談話室及びシャワー室改修	年度末実施予定
身障者	身障者対策工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子情報工学科棟（正面玄関、1階便所、階段室）</li> <li>・専攻科棟（階段室）</li> <li>・福利施設（正面玄関）</li> <li>・電気電子工学科棟（1階出入り口）</li> <li>・一般教育棟（正面玄関、事務室出入口）</li> <li>・本館（1階北側出入口）</li> <li>・グラウンド（スロープ設置）</li> <li>・プール（通路設置）</li> </ul>	バリアフリー化	実施中

また、平成24年度国立大学法人等施設整備実施予定事業（大臣官房文教施設企画部計画課 平成25年1月15日付、平成24年度補正予算）に、本校の5か年（平成25～30年）整備計画に基づいて要求していた図書館改修と次期要求予定であった地域連携テクノセンターの改修案が盛り込まれ、現在は、その審議結果待ちである。

さらに、平成25年度営繕要求事業としてバリアフリー化工事年次計画に基づき、プールサイドの営繕・庇の設置、環境・省エネルギー対策の一環として電子情報工学科棟の空調設備の整備、アメニティ空間の創出を目的にした中庭整備、及び耐震補強の観点から  $I_s$  値(=0.51)が低い渡り廊下の改修を要求している。

## 2. 点検・評価

現状において記載したとおり、本年度は老朽化・狭隘化解消・耐震を目的にした改修及び、バリアフリー化等の大きな工事が年間を通して実施された。工程には遅延部分と、工事による振動・騒音のため授業や実験等に支障を来す場合もあったが、ほぼ当初の予定どおりに行われた。以上のことを鑑み、総合的な達成度評価はAと判断する。

## 3. 改善課題・方策

教室・実験室等の授業を実施している施設付近での大きな振動・騒音を伴う工事については極力避ける方向で工事日程等を関係者とも検討しているが、予算措置の都合上、工事日程に余裕が持てない場合も少なくない。工事の実施が授業に支障を及ぼさないように、最善の努力を図りたい。また、5か年(平成25～30年)整備計画や、バリアフリー化工事年次計画は緒に付いたところであり、それ以外の営繕事項等も学生による教育環境アンケートを含め、各委員会からの意見・要望等を踏まえて随時見直し、施設マネジメントの充実とメンテナンスを図る。

## ○ 管理運営関係

### 1. 現状

#### (1) 学校運営に関する組織

学校運営に関する組織は、学則、内部組織規則及び事務組織規則において定めており、運営連絡会、学校運営会議、教員会議及び各種委員会がある。管理運営に関する重要事項については、学校運営会議で審議されるが、その決定方針等について、教員会議や各種委員会等へ反映すべく、校内意見の調整を行い、校長が効率的に意思決定を行えるよう運営されている。

運営連絡会は、校長、副校長、校長補佐、事務部長及び課長を構成員とし、学校運営会議に諮る事項及び管理運営の重要事項について機動的な協議をする場としている。

学校運営会議は、校長が議長を務め、副校長（3主事及び企画室長）、校長補佐（専攻科長）、各学科長及び教室主任並びに事務部長で構成されている。

教員会議は、校長及び専任の教員で構成されているため、関係者の意見を十分くみ取り、各事項についての効率的な意思決定とその周知徹底が図られ、効率的な運営ができる態勢となっている。これらの会議は毎月定例的に開催している。また、各種委員会等については、各委員会規則に基づき、専門的分野での見知から効果的な運営が図られている。さらに、教員は各学科に所属し、それぞれの校務を「校務分掌表」のとおり行っている。

事務組織は、事務部長の下に、総務課及び学生課の2課を配置し、各所掌業務を行う体制となっている。また、部課長、課長補佐、係長、技術長、技術班長で構成する事務連絡会を月1回開催し、管理運営事項の連絡調整と意思疎通を効率的に行える態勢となっている。さらに、各委員会規則には担当課を明記するとともに、事務職員も委員として参画する等、必要に応じて直接校務を分担し、機能的に活動している。

#### (2) 中期計画・年度計画並びに自己点検・評価

本校では、国立高等専門学校機構本部が作成した中期計画及び年度計画に対応した、本校独自の中期計画・年度計画を立案し目標を定め、その目標の下、健全な学校運営が図られている。本校で定めた中期計画・年度計画は、教育、研究、社会との連携・国際交流、管理運営等の区分により、具体的な目標を定め、この目標に対する達成状況を把握することで学校全体の総合的な自己点検・評価を行っている。自己点検・評価にあたっては、中期計画・年度計画を踏まえ、学校の活動の総合的な状況に対して行われている。その結果は、「自己点検・評価報告書」に取り纏め、本校ホームページで公表している。

### （３）外部評価の受審

平成１６年度に本校本科４、５年と専攻科の教育プログラム（環境精算システム工学）が日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）により認定された。認定の有効期間が原則６年であることから、平成２１年度に継続審査を受審し、今年度はその結果を踏まえた中間審査を受審したところである。また、大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価は、７年以内ごとに受審することが義務づけられている。今年度は１１月にＪＡＢＥＥの中間審査と機関別認証評価をそれぞれ受審した。なお、ＪＡＢＥＥの中間審査の審査結果は５月に、機関別認証評価の評価結果は３月に通知される。

また、本校では、外部有識者による「外部有識者会議」を開催し、毎年、外部評価を行っており、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、審議・評価を行っている。具体的には、福井県内、技術科学大学の大学関係者、地元の中学校関係者、福井県、地元の産業界、報道関係、商工会議所関係者を委員に招聘し、事前に配付した自己点検・評価報告書を基に外部有識者会議で検証が行われ、自己評価を含む学校運営に関する重要事項についての提言・助言を受けている。この内容については、「外部有識者会議報告書」に掲載し、本校ホームページで公表している。提言・助言については、事項ごとに担当する委員会等へ提起し、具体的な改善方策等の検討からその実施と学校運営会議への報告まで一貫した教育改善システム（PDCA サイクル）が構築され、有効に運用されている。

### （４）危機管理

危機管理体制については、危機管理を総合的かつ計画的に推進するためのリスク管理室の設置を危機管理規則で明確に定め、危機管理に係る事態に組織的に迅速かつ的確に対応をするための体制整備を図っている。

リスク管理室では、台風、インフルエンザ感染症及びポリ塩化ビフェニル（PCB）含有の可能性がある廃棄物紛失等の各種事案の対応、鯖江市の洪水時における一時待避協力事業所の指定並びに教職員のコンプライアンスに関するセルフチェックの実施について審議を行った。（特記事項は後述する。）その他の取組としては、非常災害に対応するための備蓄品の充実を図っており、高専機構から配付された非常用毛布及び簡易トイレとともに寮生の３日分に相当する非常食、飲料水を常備するように努めている。この非常食は、寮祭企画の非常食の試食や地域住民も参加した高専祭企画の被災体験にも提供した。

#### ① PCB含有の可能性のある廃棄物の紛失

５月にPCB含有の可能性のある廃電気機器の紛失事案が判明したため、直ちに内部調査を開始し、７月に福井県当局へ届け出るとともに、リスク管理室会議で対応を審議のうえ、校長裁定により調査委員会を設置した。調査委員会では原

因等の調査及び再発防止策の検討が行われ、9月末に校長へ調査委員会報告書の提出があり、関係機関の指導の下、その結果を11月に本校ホームページで公表した。

## ② コンプライアンスに関するセルフチェック

教職員のコンプライアンスの向上を図るため高専機構が作成した「コンプライアンス・マニュアル」の冊子を全教職員に配付した。また、教職員の意識向上を目的として全教職員（非常勤講師を除く）を対象にした「コンプライアンスに関するセルフチェック」を実施し、その際にチェック結果の提出を求め、実情把握に活用した。

## ③ 緊急連絡体制の整備

学生・教職員への緊急メールの一斉配信システムを導入し、5月から稼働を開始した。

また、高専機構本部から配付された緊急連絡用PHS電話機の携帯式をリスク管理室長及び総務課長が所持し、固定式は総務課長及び学生課長の席に設置することで緊急時に備えるようにしている。

## （5）広報活動

一般社会人や中学生保護者などに本校の現状を紹介するために、広報委員会を設置し、さまざまな広報活動を行っている。その広報活動の一環として、平成19年度から、8月に（財）福井県産業会館が企画するイベント「おもしろフェスタ in サンドーム福井」に参加している。また、同じく平成19年度より本校の紹介を地元コミュニティFM放送である「たんなん夢レディオ」、平成22年度からは地元コミュニティ誌である季刊誌「夢レディオ編集室」で開始した。

また、本校の教育研究活動等の状況は、本校ホームページへ掲載することにより公表しており、分かりやすく公表するという観点から、本校ホームページのトップページの「学校案内」に「教育情報公開」を設定し、教育研究上の目的、教育研究上の基本組織等の基本事項及び教育組織、教員集、各教員の有する学位・業績、入学者受入方針、授業科目、授業方法・内容、年間授業計画並びに施設等の情報を掲載し、広く一般社会に発信している。

## （6）業務運営

### ① 人事交流

今年度は、高専・両技科大間教員交流制度で教員1名を1年間、豊橋技術科学大学へ派遣した。なお、来年度は、同制度で教員1名を1年間、明石高専への派遣が決定している。また、国立高等専門学校機構在外研究員として教員1名が1年間、ドイツの大学への派遣も決定している。

事務職員については、近隣の大学と平成24年7月1日付けで5名の人事交流を行った。



② 事務職員等の研修

事務職員・技術職員の一層の能力向上を図るため、職域研修等に積極的に参加させた。また、海外機関との交流促進、留学生の更なる受入れ等国際化に対応するため、事務系職員の外国語能力の向上が必要であることから、今年度から本校独自の語学研修を企画し、12名が受講した。

③ 職員表彰

職務に関して、高く評価できる教職員に対して毎年実施している校長表彰を3月に実施する予定である。

④ 事務の合理化

総務課では日本技術者教育認定機構（J A B E E）の中間審査及び大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の受審に対応するため、4月に評価・地域連携係の3名を企画推進室員兼務としたこと、環境都市工学科棟改修等による契約等の業務量の増加に対応するため、4月から非常勤職員1名を増員配置した。

また、学生課では保健室に看護師1名を増員し2名体制とすることで保健管理業務の負担軽減と学生支援の充実を図った。

⑤ 再雇用教員の職務内容

再雇用教員の職務内容等について遂行可能なものを整理し、本校における取扱いを校長裁定により定め、平成25年度から適用することとした。

⑥ 職場環境等

毎月定期的に安全衛生委員会を開催し、教職員の安全衛生に関することを審議するとともに、併せて実施する職場巡視点検で当該施設管理者に必要な指導等を行っている。

また、教職員及び学生がその能力を十分に発揮できるような就労環境及び修学環境を維持するため並びに関係者の利益を保護するため、ハラスメント防止等に関する規則制定しており、今年度は、相談員が特定の分野や性別に偏らない適正な配置ができる条項を追加し、1名増員を図った。

さらに、国立高等専門学校機構一般事業主行動計画（平成24年4月18日理事長通知）を受けて本校の行動計画を策定し、ノー残業デーの設定や会議等の開催は原則として17時以降に行わないなど次世代育成支援への取組として教職員へ周知した。

⑦ 男女共同参画推進

男女共同参画推進については、現在、本校では既存組織で対応し、主な取組としては、女性教員の採用に向けて教員公募に際して「本公募では、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には、女性を積極的に採用します。」と明記することや女子更衣室の整備などを行ってきた。平成23年度に国立高専機

構において「男女共同参画行動計画」が策定されたことを受けて、その取組を推進するための具体的な組織の設置について検討を行っている。

#### ⑧ 情報関係

情報基盤である校内LANシステム機器導入について、12月に導入業者を決定し、平成25年4月稼働に向けて計画的な取組が行われている。

また、ソフトウェアライセンスの適正な管理を行うため学校所有のパソコンへのソフトウェア導入の際の留意事項を教職員へ周知するなどの取組を行っている。

## 2. 点検・評価

- ・ 学校運営組織は、適切に役割を分担し効果的に活動している。
- ・ 中期計画及び年度計画の項目を踏まえて本校の総合的な状況に関して自己点検・評価が行われており、その結果は自己点検・評価報告書を作成し、本校ホームページで公表している。
- ・ 自己点検・評価の評価結果については、毎年、外部有識者会議において検証が行われ、その内容については、外部有識者会議報告書に掲載し、公表している。また、改善を必要とする評価結果については、事項ごとに担当する委員会等へ提起し、具体的な改善方策等の検討からその実施と学校運営会議への報告まで一貫した教育改善システム（PDCA サイクル）が構築され、有効に運用されている。
- ・ 外部評価については、法令等に基づく期間内にJABEEの中間審査及び大学評価・学位授与機構の機関別認証評価を受審した。また、毎年、外部有識者会議を開催し、その提言・助言は、学校運営会議及び関係委員会等で対応を検討し、年度計画等に取り入れるなど、外部の意見を反映させている。
- ・ 危機管理体制については、迅速かつ的確に対応するために危機管理規則を定めるとともに、リスク管理室を設置し、危機管理に係る事態に迅速な対応ができる体制を整えている。
- ・ 本校の教育研究活動の状況については、本校ホームページに掲載し、広く一般社会に情報発信している。また、積極的な情報発信手段として、イベントへの参加や地元メディアを利用するなどホームページだけではなく、さまざまな手段を用いて情報を広く分かりやすく社会に発信している。
- ・ 業務運営では、教職員の資質向上のための人事交流・研修と業務に不可欠な情報インフラの整備を計画的に行っている。また、教職員の業務負担軽減に繋がる取組を検討・実施するなど働きやすい職場環境の整備に努めている。ただし、PCB含有の可能性のある廃棄物紛失事案が発生したことから、今後、有識者による講演会を開催するなど廃棄物に関する安全管理体制及び安全管理の具体的な実施が必要となっている。

以上のことから、管理運営関係は、全般的に組織は効果的な活動を行っており、適正な業務が行われていると判断するが、廃棄物の管理体制とその運用に改善を要する点がある。よって、達成度評価はBと判断する。

### 3. 改善課題・方策

- ・ 大学評価・学位授与機構による機関別認証評価受審の際における「自己評価書」の取りまとめ作業において、各種委員会の審議内容等のエビデンス収集に労力を費やした経験から、議事録作成の在り方について改善を要すると認識したため、フォーマットの統一化を図る。
- ・ 産業廃棄物等の安全管理の体制等について、次年度以降も引き続き点検を行う。
- ・ 男女共同参画を推進する組織について、設置に向けて引き続き検討する。

## ○ 財務関係

### 1. 現状

#### (1) 資産及び債務

本校の資産は、平成16年度の法人化に伴い、国から土地及び建物・立木竹、工作物の資産を継承し、教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するため高等専門学校設置基準に基づいた必要な資産を有している。

#### (2) 経常収入

経常的収入源である運営費交付金は、効率化係数対前年度1%減ではあるが、今後も継続的に交付されるため、安定的に確保されている。また、その他の経常的収入源として授業料・入学料及び検定料の他、その他の自己収入として財産貸付料等が継続的に確保されている。

さらに、これらに加え産学連携等研究収入（共同研究・受託研究）、寄付金収入、科学研究費等補助金などの外部資金獲得に向け積極的に取り組み、経常的収入として継続的に確保されている。

#### (3) 外部資金

科学研究費補助金は、採択件数及び金額ともに低落傾向にあったが、平成23年度に外部講師による講演会開催や外部資金申請者に校長裁量経費への申請資格を与えるインセンティブを設けるなどの取組により、平成24年度は増加に転じている。受託研究、共同研究及び寄附金の受入は減少傾向にあり、外部資金獲得のための申請意欲向上のため、外部資金の公募情報一覧をグループウェアラクーダSTに掲載している。その他、企業からの受託研究、共同研究、寄附金等の受け入れにも努力しており、平成23年度から福井高専地域連携アカデミアが技術マッチングコーディネータとして委嘱した福井県発明協会の知財専門家を活用し、会員企業と本校との技術マッチングを推進している。同知財専門家を技術マッチングコーディネータとして委嘱したことは、全ての教員に周知されている。

#### (4) 収支計画及び状況

本校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として予算配分計画を策定し、学校運営会議において審議を行い、予算配分方針に基づき教育研究及び管理運営に必要な経費を配分している。その審議内容、決定事項については、教員会議、事務連絡会議を通じ、教職員に明示され周知するとともに、財務に関しては、収支予算決算額を学校要覧に掲載している。

支出については、財務会計システムで一元管理しており、過大な支出超過はない。

#### (5) 予算配分等

教育研究活動に必要な予算については、予算配分方針に基づき、予算配分案を策定し、学校運営会議で審議の上、決定している。

また、校長のリーダーシップの下、教育研究活動の活性化を図るため、校長裁量経費として留保し、プロジェクト等の募集を行い、申請されたすべての事業について校長ヒアリングを実施し、必要性、有効性、継続性を審査し採否を決定し重点配分を行っている。

さらに、施設・設備については、長期的視野に立った計画的な予算配分を行うため、設備整備マスタープランを更新するための希望調査を校内で行うとともに、大型の施設・整備については、高専機構本部に設備マスタープランで予算要求を行っている。

#### (6) 会計監査等

本校の会計監査等については、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第45条の規定及び福井工業高等専門学校会計内部監査要項に基づき、高専相互会計内部監査、会計内部監査、科学研究費補助金に係る通常監査、定時物品検査を実施し、会計経理についてその事態を把握し、これが常に適正かつ効率的に執行されるよう指導、監督並びに改善を図っている。

#### (7) 業務の効率化

国立高等専門学校機構の第2期中期計画における業務運営の効率化に関する目標を達成すべき措置を受けて、本校の年度計画では経費の削減、契約方式の見直し等の目標を設定している。平成24年度の計画は次のとおりである。

- ① 業務の効率化を更に推進し、一般管理費については3%。その他については1%の削減を目標に努力する。
- ② 契約にあたっては、原則、一般競争契約とし、競争性や透明性を高める。
- ③ 複数年契約を実施し業務の効率化を図る。
- ④ 発注業務におけるWEB調達システムの運用を完全実施する。
- ⑤ 給与支給明細書のWEB配信の承諾率を高める。

## 2. 点検・評価

### (1) 資産及び債務

教育活動等を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有している。また、高専機構本部からの運営費交付金等の範囲内で運営しており、実質的に未払いとなっている債務もなく、健全な運営を行っている。

以上のことから、本校の目的に沿った教育活動等を、将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な資産を有するとともに、債務においても適正である。

### (2) 経常収入

本校の主な経常的収入源である運営費交付金等については高専機構から継続的に交付されており、安定的に確保されている。さらに、文部科学省、高専機構等が公募する各種競争的資金及び寄付金等の外部資金獲得にも積極的に取り組み、安定し



た教育研究活動等が展開できるような体制を整備している。

以上のことから、学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されている。

### (3) 外部資金

科学研究費補助金について、申請件数の拡大及び採択率の向上を目指した講演会開催等の取組の結果、平成24年度は採択件数及び金額ともに前年度と比較して倍増した。その他外部資金についても公募情報の提供を行い、申請意欲の向上を図っている。また、福井高専地域連携アカデミアが委嘱している技術マッチングコーディネータを活用することで、共同研究、受託研究の新規開拓について学校全体で推進している。

以上のことから、学校の目的を達成するために、外部資金獲得の方策を策定し、実行しているが一層の取組が必要である。

### (4) 収支計画及び状況

財務に係る計画等については、本校の目的を達成するため、独立行政法人国立高等専門学校機構が掲げている中期目標、中期計画及び本校の予算配分方針に基づき、教育研究及び管理運営に必要な経費を学校運営会議において審議し策定している。

また、学科（教室）等配分額表においても学校運営会議で審議されたものを教員会議において教職員に明示し周知されるとともに、その具体的施策についても学校運営会議及び教員会議で周知を図り実施されている。

収支決算については、財務会計システムで一元管理されており毎月締め作業を行い確認しているため過大な支出超過になっていない。

以上のことから、収支は適正に管理されており、過大な支出超過はない。

### (5) 予算配分等

学内の予算配分では、事業の継続性及び円滑な実施に配慮した予算配分となっており、その内容は学校運営会議で審議し、その結果を教員会議で明示している。

また、校長のリーダーシップの下、教育研究活動の活性化を図るために校長裁量経費を留保し、申請されたすべての事業について校長ヒアリングを実施し、必要性、有効性、継続性を審査し採否を決定し重点配分を行っている。

さらに、施設5か年計画及び設備整備マスタープランを更新し、長期的な視野に立って計画的な施設・設備整備を実施するための予算配分を行っている。なお、平成24年度補正予算（平成25年1月17日付け国立高等専門学校機構理事長通知）において、国立高等専門学校の教育研究基盤強化経費が措置されることに伴う高専の高度化に必要な教育研究設備等の整備が実施されることになり、これに対応した設備の要求を予定している。

上記のほか、今年度は、環境都市工学科棟改修に伴う移転費及び建物新営設

備費、障害学生の支援のためのバリアフリー化、及び教職員の病休復帰後の業務負担軽減措置に要する予算を高専機構本部へ臨時要求を行い、必要な予算を確保のうえ配分した。

以上のことから、適切な予算配分等がなされている。

#### (6) 会計監査等

本校の内部監査は会計処理に熟知した事務職員により適正な監査を受けている。

また、平成24年5月に国立高等専門学校機構の会計監査法人による平成23年度期末監査が実施された。

なお、平成25年2月には、会計検査院による実地検査を受検予定である。

以上のことから、会計監査等が適正に行われている。

#### (7) 業務の効率化

経費の削減につながる主な取組としては、電力需給の逼迫に伴う対策として、夏季及び冬季に教職員による節電パトロールを実施し、空調機器の管理を徹底し、省エネに努めた。また、CO<sub>2</sub>削減・節電対策の実施を促進するため、環境省が福井県と連携して事業者支援を実施する「平成24年度CO<sub>2</sub>削減ポテンシャル診断・対策提案事業」の対象事業所として参加し、費用効率的な対策の提言を受けた。このような取組を推進することによって一般管理費等の抑制の数値目標の達成に努めている。

契約にあたっては、会計規則に定める一般競争契約適用基準額を超える案件は、原則、一般競争契約の実施を徹底し、基準額に満たない一定額以上の案件にあっては複数者による見積合せを実施し、競争性・透明性を図っている。また、複数年契約の導入は実施可能なものから実施することとし、校内LANシステム機器の導入で適用した。更に、今年度当初に教員等からの発注業務を財務会計システムのWEB機能を利用した発注源入力システムの運用を開始した。

常勤教職員の給与支給明細書のWEB配信の承諾率は、平成23年度末で約72%であったが平成25年1月現在で約84%となっているが、更に受諾率を高める取組が必要である。

以上のことから、業務の効率化については前向きに進められている。

財務関係は、全般的に適正な業務が行われており、障害学生や留学生支援は計画以上の成果が上がった。さらに今後、平成24年度補正予算が措置された場合には計画以上の成果が期待できるが、外部資金獲得や業務の効率化にあっては一層の取組・推進が必要な点がある。よって、達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

- ・ 平成25年度は建物改修及び大型設備の整備が見込まれることから、校長のリー

ダーシップの下、効果的な執行に配慮した予算配分を行う必要がある。

- ・ 科学研究費補助金の申請・採択の向上のための教職員への啓発活動や受託研究・共同研究等の実施に必要な施設・設備の充実を図るなど、引き続き外部資金獲得に向けた取組が必要である。
- ・ 業務の効率化の推進においては、引き続き、経費削減につながる取組として環境・省エネの観点から光熱水量の削減を実施する。契約業務では複数年契約を導入できる契約事案の検討を進める。また、給与支給明細書のWEB配信の承諾率を高める取組にあつては、前年度末と比較して改善しているが、新任教職員オリエンテーション等での周知や個別説明の実施などで一層の推進が必要である。

## IV-2. 各学科・教室等に関する事項

### ○ 機械工学科

#### 1. 教育理念・教育目標

機械工学は、「ものづくり」のための産業基盤として不可欠な学問分野であり、今後も豊かな社会を作り出すために中心的役割を担うと考えられる。機械工学科では「ものづくり」のための基礎的知識や技術を習得させると同時に、機械技術の高度化、多様化にも十分対応できる広い視野と実践的で総合的な設計・開発能力を持った技術者の養成を教育理念とし、次の3つの教育目標を掲げている。

- ・ 機械技術者として必要な基礎学力の育成
- ・ 技術革新、高度情報化社会に対応できる能力の育成
- ・ 創造性・実践的能力の育成及び人間力の育成

また、学科カリキュラムの特徴として、次の3つが挙げられる。

#### ① 一つのものを作り上げる創成科目や実験実習等の体験型科目が充実したカリキュラム

アイデアを出して一つのものを作り上げその性能をコンテスト形式により評価する創成型授業や、実際に手を動かして頭で考える実験実習などの体験型授業が充実している。その科目例として、1年生の「ものづくり科学」、2年生の「機械工作実習」、3年生の「C言語応用」「創造工学演習」、4年生の「知能機械演習」、5年生の「アイデア設計工学」がある。

#### ② 機械工学の基礎学力を身に付けるカリキュラム

機械工学の根幹となる材料力学、熱力学、流れ学、振動工学などの科目においては、課題や演習を多く取り入れ、機械工作法、材料学、機械設計法、機構学などの科目においては、機械製図や機械工作実習などで学んだ例を用いるなどして、分かりやすい説明を心がけ、学生の理解を深めている。

#### ③ コンピュータや情報制御技術を用いて創造力・総合力を養うカリキュラム

先端ロボットに代表されるように、最近の機械は知能化・自動化の技術が目覚しく進歩しており、コンピュータやIT技術を多く取り入れた授業カリキュラムとなっている。

#### 2. 将来計画

前述したように機械工学科では、体験・創成型授業を多く導入しており、これらの授業は機械工学科棟3階の創造工学実験室で実施しているが、デスクトップPCをノートPCにリプレースすることによりレイアウトを変更し、ロボット製作などの作業スペースを広くした。さらに「C言語応用」では、これまで利用していた LEGO

Mindstorm に代わって、プログラミングを重視した Arduino マイコンを用いたサッカーロボットを導入し、制御プログラミングと回路設計・製作を融合した組み込み系技術者の育成のための新しい教育カリキュラムを他学科と共同で開発し 1 台試作した。学生一人で 1 台のロボットプログラミングができるような教材を目指しており、平成 25 年度からの授業で実施する計画である。また、将来的には、学科内の体験・創成型授業科目の内容を精査し充実させるとともに、創成型授業と機械設計製図や工作実習をリンクさせた融合的ものづくり教育の実践を検討したい。

一方、老朽化の激しかった実習工場の工作機械（旋盤、フライス盤、ボール盤、鋳造溶解炉）や、機械工学実験で使用する硬さ試験機や切削動力計などの実験装置が近年更新され、さらに前年度には、水力学実験装置の設備更新が実現した。今年度設備整備マスタープランでは、万能試験機や表面形状粗さ測定機など機械工学実験の基盤となる設備や NC 旋盤や歯車試験機などの設備更新を要求した。今後も、このような設備の更新要求を継続的に実施して実験実習を充実させていくとともに、ナノテクに代表されるように先端的な設備の導入を検討し卒業・特別研究の充実を図りたい。

### 3. 重点課題

平成 24 年度入試における機械工学科の志願者倍率は推薦・学力合せて 1.60 倍と、前年度（1.95 倍）の反動もあって大幅に減少した。特に、推薦の志願者が極めて少なく募集定員に達しなかった。15 歳人口は減少傾向にあり、入学志願者の確保は最重要課題と認識し、オープンキャンパスや体験学習での学科 PR、中学生を対象にした公開講座、出前授業、学科ホームページの充実などを通して、志願者確保に向けた活動を行った。さらに今年度は、学科のアドミッションポリシーを中学生に分かりやすいような表現に見直して、次のように変更した。

- ① 自動車、飛行機、ロボットなどの機械システムや、環境、福祉、宇宙工学などの分野に興味がある人
- ② サイエンスを学び、ものづくりに創造性を発揮して、人間社会に貢献したい人
- ③ 機械を創る材料、動かすエネルギー、制御する情報など幅広い技術を身に付けたい人

また、基礎学力の養成はいつの時代も重要課題の一つである。本学科ではこのことを大きな問題点であると認識しており、学生に基礎学力を養成させることに授業の重点を置いている。

### 4. 進学・就職指導状況

平成 24 年度卒業予定者 41 名のうち、就職希望者は 23 名（卒業予定者の 56.1%）、進学希望者は 18 名（卒業予定者の 43.9%）で、昨年度より進学希望者が多かった。就職希望者の内訳は、県内 7 名（就職希望者の 30.4%）、県外 16 名（就



職希望者の69.6%)で、全員内定を取得し進路が決定している。しかしながら、中には第一志望の就職先に不本意ながら不合格となる者も見受けられた。平成25年3月当学科卒業予定者に対する企業求人数は473名(県内35名、県外438名)、求人倍率は20.6倍で、前年度の求人数450名と比べて微増した。機械工学科の就職先の特徴は、機械関連分野はもちろん、電気電子・情報・化学・材料など極めて幅広い産業分野に及んでいることである。一方、進学希望者18名の内訳は、大学11名、専攻科6名、専門学校1名で、全員進学先を確保している。基礎学力向上に加えて、早い段階でのキャリア教育や編入学試験対策も含めた継続的な進路指導の充実を図っていききたい。

## 5. 特色ある教育・研究の取り組み・活動等

### (1) ものづくり創成科目による創造力やチームワーク力の育成

3年「創造工学演習」では、与えられた課題(テーマ)に対してチームでアイデアを出してグループ討論を行い、1台の操縦型ロボットを製作して、そのロボットの開発コンセプトをプレゼンテーションした後コンテストを行う授業を実施している。今年度は、レスキューロボットの開発を視野に入れて、実際の建物の階段を掃除するロボットのコンテストを実施した。

4年「知能機械演習」では、4人一組のグループで1台の知能ロボット(ライントレースロボット)を製作しコースのタイムを競うデモを行っている。車体及び自作回路の設計製作や制御プログラムを開発することで、機械・電気電子・情報の融合複合教育も実践している。



階段掃除ロボットコンテストの風景



ライントレースロボットの競技風景

### (2) 資格取得の奨励と試験対策の補講

機械工学の専門基礎学力の向上ならびにキャリアアップに繋がる資格取得を目指して、日本機械設計工業会機械設計技術者3級資格の取得を奨励している。資格試験試験対策の補講を、機械工学科教員で分担して9月から11月にかけて土曜日(3h×9回)に実施している。今年度は、夏休み前の早い時期から学生を勧誘し、参

加者は39名であった。

### (3) 環境と地域に根ざした研究活動

環境と地域に根ざした研究活動の例として、小水力発電用水車の設計と設置に関する研究を行っている。具体的には、地元企業と鯖江市と産官学連携し、公園の再開発を目的として環境に配慮した小水力発電用水車の設計・設置に向けた共同研究を実施している。

## 6. 点検・評価

平成24年度計画では、(1)学科のアドミッションポリシーの見直しを行う、(2)他学科と共同で授業・教材を開発しC言語応用の授業内容を検討する、(3)実技系科目や創成科目を通して実践的なものづくりセンスと創造力を学生に身に付けさせる、(4)機械設計技術者3級試験の資格取得を奨励し受験対策のための補講を行う、(5)モデルコアカリキュラムにおける機械系分野の技術者が備えるべき専門的能力を学科教員に周知する、という目標を掲げたが、いずれの計画もほぼ達成できたので、達成度評価はAと判断する。

## 7. 改善課題・方策

改善すべき課題は、学科への推薦入学志願者の確保である。その方策として、オープンキャンパスや入試説明会での学科PRの内容を吟味し、成績優秀な中学生にも機械工学に興味を持ってもらえるように工夫したい。また、中学生を対象にした公開講座、出前授業、学科ホームページの充実などを通して、志願者確保に全力で取り組みたい。

## ○ 電気電子工学科

### 1. 教育理念・教育目標

電気・電子、情報・通信は、社会の基盤技術であり、今後も拡大、発展が予想される。電気電子工学科は、情報・通信から制御、エレクトロニクス、光・電子デバイス、材料、エネルギーまで幅広い知識を学び、独創力を身につけ、社会に対する責任を自覚し、「地球にやさしく、人にやさしい21世紀」をつくる技術者の育成を目指す。

#### (1) 電気電子技術者に必要な専門的かつ総合的な基礎力の育成

電気電子技術者のベースとなる電気回路、電磁気学、電子回路、コンピュータ技術の基礎を学んだ後、光・電子デバイス、エレクトロニクス、コンピュータ、コミュニケーション、新エネルギーといった電気電子、情報通信に関連する幅広い分野の専門科目を習得し、新たな夢の実現に向けた新しい技術を開発する際に必要とされる基礎力を育成する。

#### (2) 幅広い専門分野に適応できる応用力の育成

情報家電や光通信用電子機器を作り出すエレクトロニクス技術、電気自動車やロボット、システムをコントロールする電子制御及びプログラミング技術、インターネットやモバイル通信を実現して情報技術革命を先導する情報通信・情報処理技術、環境に優しいクリーンエネルギー技術などを幅広く学ぶことで、新しい技術開発に適応でき、国際的に通用する電気電子技術者を育成する。

#### (3) 独創力及びコミュニケーション能力の育成

情報技術革命・ナノテクノロジー、新エネルギー技術に象徴される地球規模での科学技術の急速な発展に対応するため、論理的思考能力、表現力、グローバルな視野、さらに諸現象に対する洞察力や知的探求心を培うものづくり教育、実験・実習を中心とした自己獲得型技術教育を通して独創力の育成を図る。さらに、様々な社会体験教育を推進することでコミュニケーション能力を育成する。

#### (4) 下記に示すアドミッションポリシーを提示し、これに対応する電気電子技術者に必要な基礎力を育成する。

- ・ ロボット、システム、コンピュータなどを動かすための電子制御やプログラミング技術を学びたい人
- ・ 情報家電や光通信などに使用する電子回路や情報通信技術を学びたい人
- ・ 電気自動車や太陽光発電などに使われる環境にやさしいクリーンエネルギーや新素材技術を学びたい人

### 2. 将来計画

電気電子工学科は、社会の中長期的な要請に基づき、教育内容の充実を図っていく。  
具体的には、

- ・ 授業内容の充実
- ・ 電気電子工学実験の充実
- ・ 卒業研究、特別研究の充実
- ・ ものづくり・創造性育成教育のさらなる充実
- ・ 工業英語力の向上
- ・ 国家資格の取得をサポートする体制の確立
- ・ 技術者倫理教育並びに知的財産教育の充実
- ・ 放射線教育の充実

### 3. 重点課題

#### (1) 入学志願者の確保

小中学校での出前授業・公開講座・地域連携事業参画・地域企業との共同研究などの活動を通じて地道に小中学生と保護者への電気電子工学科に対する認識を深め、入学志願者の確保へ繋げる。また、現在の電気電子工学科において女子学生が少ないことを考え、女子学生を増やす施策を進める。

#### (2) 専門科目の充実

- ① 基礎学力の向上と定着
- ② 社会的要求に対応した技術者倫理教育並びに創造性の育成を目指した知的財産教育の充実
- ③ 情報機器の発達に伴う情報教育の高度化

以上の目的を実現するため、平成23年12月にカリキュラムの改訂を行なった。

平成24年度より、これらに関連する科目の授業内容を重点的に充実し、さらに学生実験、卒業研究・特別研究の充実を図る予定である。

#### (3) 地域連携、地域貢献の充実

電気電子工学科では、従前より地域との共同研究、地域イベントへの参画、出前授業、公開講座などを実施してきている。それらの実績を踏まえ、これまでの実施内容について精査し改善を図るとともに、電気電子工学分野における学科としての地域連携、地域貢献のあり方についても継続的に検討し、より効果的な施策を推進していく。

#### (4) 放射線教育の充実

福井県には多数の原発が立地しており、電力会社等の原子力関連企業に就職する学生は多い。また、非破壊検査や食品への放射性物質の混入検査など多くの産業分野に、放射線機器の利用が広がっている。従って、放射線教育は今後も必須であると考えている。今年度、文部科学省の原子力人材育成プログラムに採択され、放射線教育を実施してきた。放射線教育の更なる充実を図るため、来年度も学科として応募する。X線作業主任者や第1種放射線取扱主任者に合格者した学生はこの20



年間で78名になる。

#### 4. 進学・就職指導状況

平成24年度卒業予定者37名のうち、就職希望者は23名、進学希望者は14名となった。就職希望者は全員就職先が内定しており、県内4名、県外19名となった。当学科卒業予定者に対する求人企業数は484件にのぼった。電気電子工学科の就職先の特徴は高い求人数に加えて、電気・情報・化学・材料、機械、エネルギーなど幅広い産業分野に及んでいることである。進学希望者14名の進学先の内訳は、大学11名（大阪大学、筑波大学、千葉大学、広島大学、電気通信大学、福井大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学）、福井高専専攻科3名となった。

#### 5. 特色ある教育・研究の取り組み・活動等

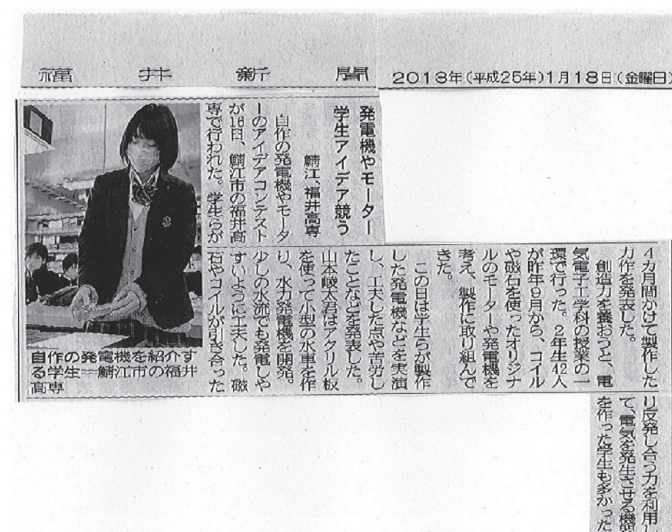
- (1) 2年生の情報処理Ⅰでは、最終課題として各自が作成したプログラムをクラス全員で評価するコンテスト形式のプログラミング演習を行うことにより、創意工夫の発展と1年間の学習成果を実感する教育を実施している。
- (2) 3年生の電子創造工学では、グループによるライントレースマシンの製作を行い、コンテスト形式の競技会で競わせることにより創意工夫の発展とプレゼンテーションを通じた創造性を育む教育を実施している。
- (3) 情報通信工学では、授業の初めに1人8分程度の時間で、最近の情報通信に関する興味を持ったテーマについて学生が自由に選んでパワーポイントを使って発表し、質疑応答を行っている。1回の授業で1人ないし2人が発表し、年間を通じて全員が発表することになっている。
- (4) 専攻科の少人数教育の特徴を活かして、演習課題の解法に関するプレゼンテーション機会を毎回参加学生全員に与えるような教材を作成し、自学自習の動機付けをして教育効果を高める配慮を行うとともに、ディスカッション能力の向上を図っている。
- (5) 中学生を対象とし、自律ロボットの

製作を通じ、ハードウェアからマイコンプログラミングまで、組み込みシステムの基本を習得することを目的として公開講座「自律ロボット製作入門」を実施した。市販のリモコン玩具にマイコン、センサなどを組み込み、参加した中学生は自律ロボットの製作を行った。この公開講座は新聞に取り上げられた（中日新聞6月19日付）。





- (6) 平成24年度知的財産に関する創造力・実践力・活用力開発事業の一環として、ものづくりに必要な知識と技術を実践的に身につけさせるとともに知的財産マインドを育てるためにアイデアものづくりコンテストを各学年で実施している。(このコンテストは新聞に取り上げられた(中日新聞・日刊福井6月14日付、福井新聞10月6日付、福井新聞1月18日付)。



(7) ソーラーカー4号機を製作した。その目的は、電気、機械、制御といった工学基礎分野を実習体験させ、その実践力を育成する点にある。車上に400Wの太陽電池を設置したため、より軽量化、コンパクト化し、運搬が容易になった。さらに、太陽電池だけで運転できるという機能を備えた。子供用のアクセルは手動アクセル、大人用はフットアクセルである。製作に携わった学生は本格的なものづくりが体験でき、ものづくりに対するモチベーションが上がった。(中日新聞・日刊福井7月17日付)。



- (8) これまでの超伝導体にとらわれない新しい方法による超伝導の発現について研究をしている。また教育では、課外として、有志の学生に量子力学・ベクトル解析などの本科教育の補完の意味で、応用数理・物理学について講義・ゼミを行っている。
- (9) 3名の電気電子工学科卒業生で現専攻科学生が国際会議で発表した。2名が専攻科生産システム工学専攻の2年生で、タイで開催された国際会議 (ISTS 2012) で11月に発表した。

山本君の題目は「Recognition of aerial handwritten characters from monocular images」、

浅野君の題目は「Crystal Growth on Aluminum Surface」である。

浅野君は特許出願も行なっている。横浜で開催された国際会議 (IUMRS-ICEM 2012) で9月に発表した学生が専攻科生産システム工学専攻1年の伏里君である。題目は「Brain Wave Electrode using Multi-wall Carbon Nanotube -dispersed Thin Film」である。

## 6. 点検・評価

### (1) 年度計画

#### ①入学志願者の確保

情報家電メーカーの赤字、リストラなどが一昨年来、連日報道され、入試倍率が大幅に低下する情勢にある。こうした状況の中で、オープンキャンパスと公開講座の内容について見直した。また、中学生の満足度を向上させるための工夫をこらした。その結果、アンケート調査の結果が改善した。さらに、出前授業の回数を増やすなどして社会貢献活動を強化した。一方、マスコミを通じた情報発信に努め、合計9回新聞に掲載された。更に、入試説明会において電気電子学科に入ると何が学べるのかに力点を置いた説明を行うようにした。これらの努力の結果、平成25年

度の推薦の応募者は昨年に比べ4名増えた。また、学力検査の応募者は11名に増えた。達成度評価は、Sと判断する。

## ②平成23年度に改訂したカリキュラムの評価

平成23年度に技術者倫理教育や知的財産教育に対する社会的要求の増大、情報化社会の高度化への対応、学生の基礎学力の向上を目指して大幅なカリキュラム改定を行った。本年度はこれら新規導入科目、見直科目の内容について点検・評価を行った。新規導入科目の電気電子工学演習Ⅰ、電気電子工学演習Ⅱ、技術者基礎、電気情報工学のうち電気電子工学演習Ⅰ、電気電子工学演習Ⅱは数学、物理、電磁気、回路の復習を演習形式で行ない、基礎力の強化に努めてきた。電気情報工学は難しいが考え方が面白いとの評判である。技術者基礎は学生の関心が最も高く受講者が多い選択科目である。達成度評価はAと判断する。

## ③知的財産教育の推進

知的財産を創造し、これを保護・活用することによって、我が国を持続的に発展させる知的創造サイクルを確立するために、高専においても知的財産に明るい人材を育成することが求められている。平成22年から工業所有権情報・研修館（INPIT）の知的財産教育推進協力校事業に参加してきた。その狙いの一つは知的財産教育のモデルを構築することにある。平成24年度もこの事業に参加している。1年生から知的財産に興味を持ってもらうために、本学科卒業生で村田製作所の自転車ロボットの制御プログラムを開発し、世界中を飛び回っている吉川氏に講演お願いした。アンケート調査の結果から当初の目標が達成できたと言える。その他の事業についても計画を達成し、成果を得た（年次報告書参照）。知的財産教育の実践が高く評価され、岐阜高専と富山高専並びに東海北陸のテクノセンター長会議（名古屋開催）で特別講演を行うことになった。講演テーマはそれぞれ、「アイデアコンテスト及び課題研究に基づく知的財産教育の推進」、「ものづくりを通じて知的財産を生み出す楽しさ」、「ものづくりを通じて知的財産を学ぶ」であった。達成度評価はAと判断する。

## ④エンジニアリングデザイン教育の推進

エンジニアリングデザイン教育の目的は、問題発見・解決能力の高い技術者を育成することである。この目的を達成するためには、学生が自ら持っている知識・情報・技術を用いて社会的・技術的な問題を自ら発見し、自ら解決することを体験させる必要がある。電気電子工学科では、学年毎にレベルアップするコンテスト形式のものづくりを通して、エンジニアリングデザイン教育を実践している。学生は講義で習得した知識に基づいて考え、計画を立ててものを製作・プレゼンし、評価される。2～4年生対象に「ものづくりアイデアコンテスト」を実施した。3学年の電子創造工学では、グループによるライントレースマシンの製作を行い、コンテスト形式の競技会で競わせることにより創意工夫の発展とプレゼンテーションを通じた創造



性を育む教育を実施している。成果が高専教育に掲載された。3 学年の電気磁気学Ⅱでは、“in situ”型演習・実験を実践し、学生はオリジナルスピーカを制作した。達成度評価はAと判断する。

## (2) 重点課題

### ①女子の入学志願者の確保

電気電子工学科に女子学生が少ないことから、女子学生を増やす施策を進めることが重点課題の一つになっている。これについては「女子中学生と保護者のための公開講座」において、昨年評判の悪かった理論重視の解説をやめ、分かりやすく楽しい解説に改めた。また、入学志願者全体の底上げに努力することにより、女子の志願者を確保することにした。推薦入試の段階では志願者が増えていないので、今のところ達成度評価はBと判断する。

### ②専門科目の充実

平成23年12月にカリキュラムの改訂を行なった。平成24年度より、これらに関連する科目の授業内容を重点的に充実し、さらに学生実験の充実を図る計画をたてた。専門科目の充実については前述の年度計画の項目(2)で評価している。

### ③地域連携、地域貢献の充実

電気電子工学では、地域連携、地域貢献のあり方について検討し、より効果的な施策を推進していくという目標を立てた。出前授業については件数が倍増した。公開講座については充実を図り、一部が新聞に掲載された。来年度は1講座増やす予定である。地域との共同研究については、従来の株式会社エムディエス、株式会社埴エンジニアリング、福井大学、長岡技術科学大学に加え、株式会社イングス（岐阜県郡上市）、若狭湾エネルギー研究センターとの共同研究が加わった。参加した地域のイベントとして、アースデイ越前2012、鯖江環境フェア2012、青少年のための科学の祭典2012、鯖江市のこどもエコクラブ活動交流会2013などがある。達成度評価はAと判断する。

### ④放射線教育の充実

平成23年5月に「放射線教育に関する将来構想」を策定した。電気電子工学科では、24年度に原子力関係の電力会社に6名就職が内定し、原子力工学分野に1名大学編入が決まっている。X線作業主任者や第1種放射線取扱主任者に合格した学生はこの21年間で80名になる。今年度X線作業主任者に2名合格した。今年度も文部科学省の原子力人材育成プログラム補助事業を担った。3名の教員を中心に事業を担当してきた。10月30日に若狭湾エネルギー研究センターで2年生40名が研修を行った。また、12月17日に長岡技術科学大学原子力安全系教授三上喜貴先生を講師にお招きし、原子力施設の安全性や防災対策に関する特別講演会を開催した。演題は「福島事故から考えるシステム安全」で、とても好評であった。聴講者は本科学生79名、長岡技術科学大学大学院学生4名、本校教職員7名であ

った。読売新聞に掲載された。達成度評価はAと判断する。

⑤その他

工業英語力の向上を目指して「平成25年度英語（外国人講師）による専門授業」に応募した。2月末には審査結果が発表される予定である。

7. 改善課題・方策

- (1) 女子学生を増やす独自の施策について手付かずのままである。何をすれば女子児童の関心をつかめるのかを調査し、議論を深めて、小学生対象の出前授業、サンドームフェスタ、青少年のための科学の祭典、鯖江市のこどもエコクラブ活動交流会などで実践する。
- (2) 電気電子工学科では、地域と共同研究を行なっている教員の数が少ない。既に実施している教員の事例紹介を行い、増やしたい。
- (3) 学生が国家資格の取得をサポートする体制が十分でないため、支援の仕組みについて再検討する。
- (4) 電気電子工学演習Ⅰ、Ⅱの内容について点検・確認し、さらに内容の充実を図りたい。



## ○ 電子情報工学科

### 1. 教育理念・教育目標

「情報」とは人間の知的活動を支える根源でありあらゆる問題解決に必須のものである。

電子情報工学科では、インターネットやIT機器の基盤技術であるコンピュータ技術、情報通信技術、及びロボットに代表される制御技術の各分野で、コンピュータと「情報」を駆使して種々の問題を解決するエンジニアの養成を教育目標にしている。

電子情報工学科のアドミッションポリシーは、以下のとおりである。

- ・ コンピュータの仕組みやプログラミングに興味がある人
- ・ ネットワークを活用したり、知能ロボットを動かすプログラムを作りたい人
- ・ 未来のIT機器の開発をやってみたい人

### 2. 将来計画

教育及び実験演習の環境整備に向けて、前年度の無線LAN整備に引き続き、平成24年度は仮想化技術を用いた学科サーバを新たに導入した。これにより、創造系演習や卒研などでの利用目的に柔軟に対応できる環境を整えた。今後はハードウェア開発のためのFPGAの演習環境、高速並列処理や3DCADに利用できるパソコンの導入、さらに実験室などのパソコンの更新を計画している。そしてこれらの更新をうけ実際の実験などで活用すべく、実験指導書などの改訂などに取り組むたい。

学科創設時より学科定員の20%～35%の女子中学生を受入れ、女子卒業生の多くが社会で活躍してきた。しかし平成17年度以降女子学生数の比率低下が続いたが、福井高専全体での女子中学生へのPRの結果、平成23年度には増加に転じ、平成24年度もさらなる増加となり、第1学年では約20%が女子学生となった。今後も、情報系を希望する女子中学生の応募確保を目指し、女子中学生向けの講習会を新たに採用した女性教員を中心に実施している。PR活動以外にも、ICT系学科を目指す女子中学生に対して魅力あるカリキュラムを用意し、女子中学生の志願者数の増加を目指す。

学科アドミッションポリシーにも掲げているように、ICT化が進む現代社会において、新しいサービスやシステムを創造できる人材の育成を引き続き進めていく。平成22年度に、学科内のカリキュラム検討ワーキンググループの結論を踏まえ、ソフトウェア系では最新の先端技術の習得を目指し、平成25年度4年の創造工学演習では、企業の技術者を非常勤講師に招き学科教員と協力して授業を指導することとなった。ネットワーク系科目の強化にあたっては、5年の情報ネットワークにおいて担当教員の交代に合せ、授業の内容をプログラミング演習中心に行うように見直しを行った。

平成24年4月には、本校OBで実践的な開発経験の豊富な男性教員と、電子・電磁気系の研究に携わる女性教員を採用できた。今後は定年退職となる教員の科目の引き継ぎなどをこれらの新任教員を中心に行い、昨年度採用の情報系の新任教員と共に、電子情報工学科の2つの柱となる情報系と電子系の両軸を支える体制を築いていく予定である。

### 3. 重点課題

平成24年度は、4年生のPBL型授業である「創造工学演習」の学習成果の中から全国高専プログラミングコンテストに、課題部門1件、自由部門2件、競技部門に1件の応募を行った。残念ながら本戦参加は競技部門1チームではあったが、このカリキュラムでの作品を元に、「ふくいソフトウェアコンペ」に1チーム、福井県歯科医師会主催の「歯みがきロボットコンテスト」に2チームが参加している。さらに卒業研究の内容を踏まえ、組込み型ソフトウェアデザイン能力を競う「ETロボコン」に1チームが参加を行なっている。このようにPBL型授業の成果を踏まえて、学生が意欲的に各種コンテストに継続的に参加できている。これらの取り組みでは、先端技術の理解も重要であり、平成25年度より、情報系の会社を起業した電子情報のOBを創造工学演習の非常勤指導教員と迎え、本学科教員と共に指導にあたることとなった。

若手教員が主顧問である「IT研究会(同好会)」は、前述の全国高専プログラミングコンテストの参加チームの中心となって活躍している。平成22、23年度に、2名のIT企業技術者を特命准教授に招いた講習会は、平成24年度は「企業技術者活用プログラム」として引き継ぎ、IT研究会の学生を対象に数ヶ月にわたる講習会を実施している。これらの講習会に参加した学生は、「鯖江市Webアプリコンテスト」で最優秀賞を受賞や、情報系企業主催の「jig.jp アプリコンテスト2012」にて敢闘賞を受賞するなどの成果をあげている。

毎週日曜日11時から1時間、地域FM局「たんなん夢レディオ」で放送中の福井高専のPR番組は開始から平成24年度で6年目に入っており、若手教員1名の活躍によって、本高専を広報と地域連携に貢献できている。さらに、地域貢献では、「越前市中学生ロボコン」の準備のための出前授業を実施した。また、プログラミングに興味をもつ小学生を対象の出前授業「子供向けプログラミング教室」を実施している。開催運営協力している歯みがきロボットコンテストの開催前には、「歯みがきロボット工作教室」講座を開催している。

### 4. 進学・就職指導状況

平成24年度の卒業予定者42名のうち、進学希望者は16名、就職希望者は26名(そのうち自営1名、公務員志望1名)であった。進学希望者のうち本校専攻科に5名、国立大学に11名が内定している。内訳は、大阪大学1名、筑波大学2名、金沢

大学1名、豊橋技科大2名、福井大学5名であり、進学希望者全員の合格が決まった。電子情報工学科の平成24年度の求人数は、県内34人、県外377人であった。県内企業に就職内定した学生は8名で、県外企業に就職内定した学生は、東京都2名、神奈川県2名、愛知県2名、長野県1名、大阪府3名、京都府4名、兵庫県2名の合計16名であった。また、県内公務員内定1名、自営業1名の計26名全員の就職内定が決まった。

未だリーマン・ショック後の経済情勢は完全回復とは言えず、各企業の厳しい雇用状況で近年は学校推薦でも内定を受けるのが困難な学生が見られる。さらに情報系企業では、自由応募が非常に増えてきており県内企業でも自由応募が多くなり、学校推薦応募が困難となっている。

## 5. 特色ある教育・研究の取り組み・活動等

重点課題にも示したように、PBL型授業の「創造工学演習」では様々なコンテストへの参加を目標に掲げ、実践的なシステムづくりを実施している。特に組込系ハードウェアやネットワーク技術を取り入れて取り組んでおり、電子系・情報系と幅広い取り組みができるような指導を行なっている。さらに将来計画で述べたように、平成25年度から企業の実践的技術も取り入れるべく、OB技術者を非常勤講師に招きシステム構築の指導協力を予定している。PBL型の授業を低学年でも取り入れるべく平成18年度より2年「情報基礎演習」ではパソコン甲子園などの問題を演習課題に取り入れた、コンテスト形式の演習を、継続して実施している。

一方、電子情報工学科では地域貢献の一環として、福井県歯科医師会の要請を受け、歯みがきの啓蒙及び子どもの理科離れ対策として、平成19年より歯みがきロボットコンテストの運営協力を行なっている。また、地域FM局「たんなん夢レディオ」での活動も、番組制作で学生の協力も得ながら継続し6年目を迎えており、多様な組織との協働に継続して取り組んでいる。

## 6. 点検・評価

重点課題に掲げている、様々なコンテスト参加を目標とした「創造工学演習」では、結果としては目立った入賞などは逃しているものの、今年度は幅広い多様なコンテストに参加しており、全体として応募チームの増加など成果があることから、達成度評価はAと判断する。

入試応募の改善としては、将来計画にて記載したように女子中学生への応募拡大を目的とした講習会などを行い、電子情報工学科の第1学年女子学生数も増加したことから、達成度評価はAと判断する。

ソフトウェア系・ネットワーク系科目の改訂及び情報系科目の充実については、将来計画にて記載したように、ネットワーク系科目の担当を今年度より交代し実際のネ

ットワークプログラミングの演習への移行ができたことや、ソフトウェア系では平成25年度からの創造工学演習での企業技術者を非常勤講師任用ができたことから、達成度評価はAと判断する。

進路指導では、昨年度よりも多い42名という状況の中、就職希望者については自由応募中心の採用に変化しながらもすべての就職希望者の内定が決まり、進学についても同様に全員の進学が決まった。このことから進路指導に関しての達成度評価はAと判断する。

## 7. 改善課題・方策

電子情報工学科では、平成24年4月1名、平成25年4月に1名と教員の定年による退職となる。再雇用により授業担当に大きな変更はなかったが、再雇用期間のうちに科目担当の移行を早急に計画し、これにあわせソフトウェア系科目・ネットワーク系科目については最新技術動向を踏まえた内容の改訂が課題となる。これらの課題は、学科内カリキュラム検討ワーキンググループにて、中堅教員を中心に改善を進めていく。

高専全体では、モデルコアカリキュラムによる高専間のミニマムスタンダードの取りまとめが行われている。電子情報工学科の現行カリキュラムでは、ほぼモデルコアカリキュラムの内容を網羅していることを確認している。しかしながら、計算機システム関連のハードウェア記述言語について、専攻科カリキュラムなどで取り扱うことが望まれているが、現状としてFPGAの実機を利用した実験には至っていない。このことから将来計画にも記載したように、学科予算などを活用し実験機材の導入を図り、学生実験の中に早急に組み込んでいきたい。



## ○ 物質工学科

### 1. 教育理念・教育目標

物質工学科は、材料工学あるいは生物工学の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考能力を備えた実践的で創造性豊かな技術者の育成を目指し、その教育理念は以下の3項目である。

- ① 産業基盤である素材（物質）を化学の視点で学ぶ技術者を養成する。
- ② 科学技術の発展（社会のニーズ）に適応したバイオ・材料技術に関する基礎能力（工学的素養）と、問題点を提起し解決できる能力（創造的デザイン力・総合力）を有する技術者を養成する。
- ③ 持続可能な永続型社会を築くために、材料及び生物資源を有効にかつ環境と調和を図りながら活用することができる技術者を育成する。

すなわち、物質工学科では、材料工学と生物工学の基礎を相互に関連付けながら教育し、新しい技術に対応できる柔軟な思考と応用力を持つ「材料工学、生物工学両面に通じた化学技術者」の育成を目指しており、その具体的な教育目標としては、以下の3項目である。

#### ① 物質工学に必要な基礎科学及び幅広い専門基礎能力の育成

応用数学・工学基礎物理・情報処理・基礎工学概論などの基礎科学を学び、さらに、物質工学の基礎となる無機化学・有機化学・分析化学・生物化学・物理化学・化学工学などを体系的に習得することで、物質の本質を理解し、応用化学及び生物化学的手法により新物質を開発する際に必要とされる幅広い基礎能力を育成する。

#### ② 材料工学あるいは生物工学を得意とする専門能力の育成

材料工学コースでは、無機・有機材料の合成法や物性を習得することで、生物工学コースでは、化学を基礎とした微生物学や遺伝子工学を習得することで、化学品・医薬品・食品等の得意とする専門分野で活躍できる技術者を育成する。

#### ③ 実践的能力及びプレゼンテーション能力の育成

校外研修、工場見学旅行、夏季校外実習などの体験型学習により、実社会における実践力や問題解決能力、プレゼンテーション能力の必要性を認識させながら学んだ知識を真に身に付けさせるために、5年間を通した工学実験により実践力、理論的思考能力を育成し、卒業研究により問題解決能力、プレゼンテーション能力を育成する。

さらに、情報化社会に対応できるように、情報処理・環境関連分野に関するカリキュラムを整備している。



## 2. 将来計画

上記のような物質工学科の教育理念・教育目標を本校第Ⅱ期中期計画の中で立てて実現すべく実行している。特に、本学科の特徴である、本校で唯一独自の「コース制（材料工学コース・生物工学）」教育カリキュラムは今後も堅持し、両分野において基礎となる教科及びそれぞれの専門科目を中心に両コースに関連した共通科目（融合・複合領域）の更なる充実を図る。

また、化学技術者といえどもコンピュータに精通していることが要求されており、各学年に情報処理関連科目を配置して情報教育を実施している。従来、本学科では、公害防止管理者、危険物取扱者、毒劇物取扱責任者、放射線取扱主任者などの化学系の国家資格を取得するように推進してきたが、さらに、情報処理技術関連の免許・資格の取得のための教育指導も行う。

## 3. 重点課題

物質工学科における入学志願者の確保及びその学力水準の維持のための取組としては、「材料工学、生物工学両面に通じた化学技術者」の育成を目指す本学科独自の特徴やその魅力についてより明確にアピールするために、本年度は、特に、学科のアドミッションポリシー（1. 化学と生物の世界へ第一歩を踏み出したい人、2. 地球に優しいものづくりをしたい人、3. バイオの技術で社会に貢献したい人）の一部変更も視野に入れて、より効果的な広報活動のための学科パンフレットの大幅改訂や学科ホームページの充実について検討する。さらに、小中学生・保護者を対象にした公開講座や出前授業についても引き続き積極的に開催・実施し、その授業内容と方法について更なる創意工夫を図る。

また、本学科における専門教育の充実及び学力水準の維持のための具体的な取組としては、前年度までの実験・実習報告書作成技術能力の育成と向上のための実施計画内容の一環として、本年度は、特に、高学年における実験結果・解析データに対する理論的評価と客観的考察を最重視したレポート作成能力の更なる向上を図る。さらに、化学技術者に必要不可欠なコミュニケーション基礎能力の育成とプレゼンテーション能力の向上を目的として、学生実験・実習報告会・校外実習報告会・卒業研究発表会等における効果的なプレゼンテーションのための教育指導方針についても引き続き検討し、基礎科目及び専門科目の授業内容とその方法について創意工夫を図る。

さらに、本学科における平成23年度策定「モデルコアカリキュラム（試案）」適用に係る取組としては、参考となる成り得る他高専・学科の取組事例を精査するとともに、特に、本校で唯一独自の「コース制（材料工学コース・生物工学）」教育カリキュラムを実施している本学科における「同（試案）」適用に係る課題を検討し、更なる教育の質の向上及び改善を目指して、基礎科目（低学年）及びコース別専門科目・専門共通科目（高学年）におけるより効果的な授業内容と方法についてそれぞれ詳細に検討

#### 4. 進学・就職指導状況

- ・ 就職内定者 26（11）名  
（県内15（6）名、県外11（5）名）
- ・ 進学内定者 10（ 1）名  
（専攻科2名（推薦・学力各1名）、大学8（1）名（推薦3名・学力5（1）名）
- ・ その他（自営） 内定者1名

## 5. 特色ある教育・研究の取り組み・活動

## 6. 点検・評価

101

新、学科ホームページの充実、公開講座（４講座）及び出前授業（５件）を実施した。また、本学科における専門教育の充実のための具体的な取組としては、特に、実験・実習レポート作成能力及びプレゼンテーション能力の向上のための授業内容・方法について創意工夫を図った。なお、本学科における「モデルコアカリキュラム（試案）」適用に係る取組としては、学科ワーキンググループにおいて、その内容・方法や取組事例などについて精査分析したが、その適用に係る課題については更に詳細かつ慎重なる検討を要し、かなり改善の余地がある。よって、総合的には、達成度評価はBと判断する。

#### 7. 改善課題・方策

- （１）物質工学科における入学志願者の確保及び学力水準維持のためのより効果的な広報活動の検討（学科アドミッションポリシーの一部変更）
- （２）物質工学科における専門教育の充実のための授業内容と方法（基礎科目・専門科目）の更なる検討
- （３）物質工学科「コース制（材料工学コース・生物工学）」教育カリキュラムにおける「モデルコアカリキュラム（試案）」適用に係る課題の更なる詳細な検討（学科カリキュラムの一部再編成・改訂の必要性）
- （４）物質工学科における学生指導・進路指導、特に女子学生に対する進路（進学・就職）指導の更なる充実

## ○ 環境都市工学科

### 1. 教育理念・教育目標

独立行政法人国立高等専門学校機構は、全国土木工学系 21 学科の呼称である環境都市工学科を、次のように定義づけた。

『世界的な都市化に対応して、人に優しく自然と調和した街を創造するとともに、生活がより安全、快適、便利に営まれるような社会基盤の整備などの環境保全型の技術者の育成を目標としている。そのため、豊かな教養を身につけ、確かな基礎学力に裏づけされた感性を持ち、国際化・高度情報化社会に対応できる技術者の養成を目指している。』

これを受けて、本校の環境都市工学科は、次のことを教育理念として掲げている。

持続可能な地域や環境都市、人間像を追求し、そのことを社会資本として具現化する構想へと導いて、多様な社会基盤施設の計画・設計・整備・維持・更新の在り方・方法論・手続き・技術などを学び、研究し、実践する研究実践型技術者の養成に寄与し、地域との連携に努める。

この前提となるアドミッションポリシー（入学者受入方針）は次のとおりである。

- ① 自然と共生したくらしを営む環境づくりに興味がある人
- ② 快適なくらしを共有するための建物とまちづくりに興味がある人
- ③ 災害から人々のくらしを守るシステムづくりに興味がある人

また、本学科の教育の目的と使命は、社会資本を持続可能にする土木技術者と建築技術者を育成することであり、達成目標として次の 3 つを掲げている。

#### ① 建設技術者に必要な基礎的な学力と能力の育成

社会資本を持続可能にする土木・建築の分野において、基礎的知識と技術を身に付け、論理的思考力を備えた実践的で創造性豊かな建設技術者を育成する。そのため、環境都市工学科では構造力学・水理学・地盤工学などの力学系基礎科目を体系的に教育することに加え、建築計画・環境衛生工学・施工管理学などの基礎科目を重視して、理論に関する学習と演習をとおして理解を深め、応用力を養うことに努めている。さらに、情報化社会に積極的に対応するための情報処理能力の習得にも力を入れている。

#### ② 幅広い専門分野の理論に関する応用力の育成

専門基礎科目を応用し、さらに一步深く踏み込んで、土木・建築の分野に必要な幅広い専門分野についても学習し、社会資本の新設・更新・維持管理・災害復旧に関するいかなる分野に進んでも、十分に活躍できる技術者の養成を目指している。さらに第 5 学年では選択科目（専門科目）を幅広く開講し、学生が将来の進路に応じて選択・習得でき、学習意欲が高まるように配慮している。

#### ③ 実験実習や卒業研究を通じた実践力と創造力の育成



各専門科目の学習速度にあわせ実験実習と設計製図を実施して、身をもって体験しながら理論を理解させ、あわせて実践能力・洞察力の育成にも努めている。さらに、第5学年の卒業研究では学生自身にテーマを選択させ、自発的な調査・研究を促し援助することにより、研究に対する工学的なアプローチ手法を習得させるとともに、成果発表の機会を設けることにより、構成・編集・発表（プレゼンテーション）などの能力の養成に努めている。

## 2. 将来計画

平成21年度入学生から改正建築士法に対応したカリキュラムとした。それによって平成21年度入学生から、指定された選択科目の単位を修得して卒業すると、卒業後4年の実務で一級建築士試験の受験資格が与えられることになる。

本学科は、昭和45年に土木工学科として福井高専に開設された。平成5年に環境問題にも対応できる学科を目指して環境都市工学科に改組した。開設以来、福井県内をはじめとした日本全国の建設系の企業や、国土交通省・福井県・福井市・越前市・鯖江市などの官公庁に多くの卒業生を輩出している。従来は土木系技術者の育成に重点をおいてきたが、近年、入学生の要望や建設業界の動向を踏まえて建築系科目も充実した科目構成とした。なお、現在の5年生（平成20年度入学生）は改正前の建築士法に対応している。

卒業後の一級建築士試験受験資格取得を目指したカリキュラム改正の成果が問われるのは、平成21年度入学生が卒業して一級建築士試験を受験する平成30年である。改正前の一級建築士試験受験資格のある現5年生を対象とすれば平成29年である。しかし、対象学生が卒業するのは1年後であるので、次のことをする必要がある。

### （1）キャリア教育の充実

本学科は前述のようにこれまで土木系技術者を世の中に輩出してきた。しかしながら、昨年からは建築系技術者として社会に出て行く卒業生が出てくる。また、平成21年度入学生からは5学年の選択科目の履修内容によって卒業後の建築士試験受験資格が異なってくる。したがって、在学中に卒業後のキャリアパスを示す必要がある。さらにはキャリアパスを提示することによって、学生の学習意欲の向上を図らなければならない。

### （2）キャリアパスに見合った教育内容の精査

卒業後のキャリアパスを示すと同時に、そのキャリアパスに見合った教育内容を提示し、実践していかなければならない。本学科の土木系技術者教育にはこれまでに培ってきた教育内容や教授方法があるが、建築系技術者教育にはそれがない。建築系カリキュラムをすでに実践している大学、高専との連携を密にしていく必要がある。土木系技術者教育、建築系技術者教育あるいは場合によっては土木建築複合型技術者教育のどれをとってもその分野のエンジニアリングデザイン能力の育成に



関する教育が重要となる。

### (3) 卒業生のキャリアを把握するシステムの構築

環境都市工学科卒業後に卒業生がどのような進路をたどりどのような職に就いているかを知り、卒業生が求めているものを、学科の教育内容及び教授方法に反映させることが、キャリアパスに見合った教育の一番の近道である。社会のニーズをカリキュラムに反映させるには、現に産業界等で豊富な経験を有している卒業生から得た情報を検討していくことが第一である。本学科には同窓会組織として「翔土会」がある。翔土会との連携を深めて、卒業生の意見の集約に努めていく。

## 3. 重点課題

### (1) 環境都市工学科からの情報発信

環境都市工学科で行っていることを広く社会に発信していく。具体的には、①H Pの充実、②出前授業の充実、③オープンキャンパスの充実などがあげられる。社会への情報発信をすることによって環境都市工学科への入学志願者の増加も見込まれる。また、学科に在籍する学生への情報発信も重要である。具体的には、①キャリアパス、②科目の流れ及び科目内容、③取得資格の案内などである。学生への情報発信を充実させることにより、学生の学習への目的意識が高まり、学習意欲の向上に結びつけられる。基礎学力、専門学力の必要性を説明し、それら学力の向上を目指す。

### (2) 同窓会組織「翔土会」との連携強化

卒業後3年から10年の卒業生の意見を聞くことが重要である。本学科で学習した知識と能力が卒業生の進むキャリアにとって価値があるか役立っているかを把握しながら、授業内容を変更していかなければならない。そのためにも卒業生との定期的かつ密な連携をさらに強化する必要がある。この基礎資料として、及び卒業生に対するサービスとして、正確な卒業生名簿を整備するとともに、名簿発行と会員への配布を検討する。

## 4. 進学・就職指導状況

進路指導は、この学年が旧建築系カリキュラム導入の最終学年であり、卒業後4年間の実務を経て一級建築士の受験が可能となるため、3年次より個人面談や進路に関するアンケート調査やセミナーを独自に開催し建設分野での仕事について意識させるようにしてきた。特に3年次の後半より、建設業界の業態や県内外の企業情報について情報提供するとともに、建築関連の資格についての意識付けも行った。また、ポートフォリオの作成を定期的に行い、4年次（10月）の三者面談において進路の方向性を決定させ、進学・就職に対する準備を始めるように指導した。さらに、進路指導委員会が主催した進路指導セミナー、SPI模擬試験などを通じて就業への意識啓発

を図り、学科として、先輩講座、インターンシップ（報告会を含む）などを実施し、進学ではチャレンジを促し、就職では公務員、ゼネコン、コンサルタントなどの職種について説明を行った。

このような進路指導の結果、今年度卒業予定の環境都市工学科16期生34名の進路の内訳は、進学が13名で、進学先としては本校専攻科3名、豊橋技術科学大学（建築系）3名、長岡技術科学大学1名、岐阜大学1名、金沢大学1名、滋賀県立大学（建築系）1名、福井大学（建築系）1名、千葉大学（デザイン系）1名、天理大学1名であった。就職は21名で、就職先としては、公務員では鯖江市、福井県警、丹南消防組合に各1名の計3名、民間企業では清水建設株式会社（建築部門）、西日本旅客鉄道、大阪ガス、東芝エレベータ、株式会社レールテック、日本ビソー、若築建設、NTTインフラネット、小野田ケミコ、関西保温工業などの県外企業へ10名、西村組、セキサンピーシー、日広開発、グリーンシェルター、オカモト鐵工、旭陽産業、大西商事などの県内企業へ10名であった。今年度の特徴として、進学・就職ともに建築系への進路決定が増えたこと、清水建設をはじめ多数の県外企業への就職開拓ができたことがあげられる。

#### 5. 特色ある教育・研究の取り組み・活動等

構造デザインでは、橋の計画から施工に至る建設プロセスを理解するため2つのコンテストを実施している。1つは「West Point Bridge Designer (WPBD)」という橋の設計ソフトウェアを利用したコンテストであり、より経済的で安全な橋を設計する創造力を育成することを目的としている。もう1つは鋼材を用いて実寸で橋長約4mの橋を設計し、橋の美しさ、耐久性、経済性、施工性を競い合うスチールブリッジコンテストである。ここでは、与えられた荷重条件や立地条件を満足する橋を設計する「知力」、実際に部材を加工し組み立てる「体力」、そして、グループ作業によりプロジェクトを進めていく「チーム力」が要求されるため、これまでに身につけた能力の総合力を発揮させることを目的としている。

#### 6. 点検・評価

平成24年度の将来計画では、卒業後の一級建築士試験受験資格取得を目指したカリキュラム改正と並行して、（1）キャリア教育の充実、（2）キャリアパスに見合った教育内容の精査、（3）卒業生のキャリアを把握するシステムの構築という目標を掲げたが、卒業生を講師として実施した先輩講座などにより、具体的なイメージを学生に示した。また、モデルコアカリキュラムにおける土木・建築分野の技術者が備えるべき専門的能力を学科会議等で議論することにより教員に周知することができた。このことから、いずれの計画もほぼ達成できたため、達成度評価はAと判断する。

## 7. 改善課題・方策

改善課題は入学試験の志願者増である。このために、環境都市工学科で行っている教育内容と卒業後の進路を広く社会に発信していく。また、土木・建築分野は地域の環境保全やまちづくりと密接に関わりがあるので、教員の研究内容が地域貢献に役立っていることを社会へ情報発信をすることによって、環境都市工学科への入学志願者の増加を図る必要がある。

平成25年3月に、環境都市工学科棟の改修が竣工し、また、実験実習の設備の多くが高度な機能を備えた機器に更新される。これを機に、学生の教育内容の改善を進め、これと連携して、土木・建築の各専門分野における研究水準を大きく向上させていきたい。

## ○ 一般科目教室

### 1. 教育理念・教育目標

現在、教育方針として公表しているもの及び中期計画に関する目標は以下のとおりである。

#### (1) 要覧その他での紹介

本校の教育は一般科目教育と専門科目教育とから成り立っているが、技術者が一市民としてよりよく生きるためには、専門的な知識や技能だけでなく広く豊かな教養も必要であり、一般科目教室では、教養を身につけさせることを通じて、立派な技術者の育成を目指している。一般科目教育においては、高等学校の教育課程を踏まえ、大学の教養課程に匹敵するレベルの教育内容となるようなカリキュラムが組まれている。国語・歴史・地理・倫理社会・物理・化学・生物・数学・保健体育・英語などの基礎的な科目や情操を育むための美術・音楽、さらに哲学・政治経済学・法学などの多彩な科目を開講している。また、国際化時代に即応するため、外国語教育に特に重点を置き、英語のほか、ドイツ語・中国語といった科目も開講しており、設備の整った語学教室で、外国人講師を含めたスタッフが指導している。なお、専門科目の応用数学・工学基礎物理も一般科目教室で担当している。

#### (2) 中期計画目標

人文・社会系科目（国語・社会・外国語）では、実践的な技術者に必要な言語感覚や総合的な表現力を身に付けさせるとともに、社会的な知識の習得を始めとする自立した洞察力・判断力の養成を目指している。また、国際文化の理解を深めながら、外国語によるコミュニケーション能力を高め、各種検定試験の受験を視野に入れた教育をも目指す。

理数系科目（理科・数学）では、各教科の特性を踏まえ、自然現象の基本的法則や概念を理解させ、思考力・表現力・創造力の育成を図るとともに、問題解決能力の向上を目指し、専門教育への展開を考慮した自然科学系の基礎学力の習得を志向する。体育では、調和のとれた全人的発達を遂げた社会人として豊かで活力あふれる生活が営めるよう、身体・健康に関する知識の習得や身体運動実践能力の獲得を目指した教育をする。

### 2. 将来計画

一般科目教室としては、新入生の受け入れから専門学科への移行がスムーズに行われるように、低学年教育における学習面や学校生活上の問題点などを明らかにしつつ、学生とともに解決策を探っていくことを目指しており、現在に至るまで、各教科担当者、担任、クラブ活動顧問など様々な立場から、教員研究室・セミナー室等を利用して、学習や学校生活の支援及び相談を行ってきている（これらの活動はオフィスアワー

での活動として報告)。こうした点を視野に入れて、3年前、「オフィスアワーを中心とした学生支援体制の構築（仮称）」として、

- ① 現状の把握（実態調査：支援時間・支援環境・内容）
- ② 現状の改善策の検討（学生の問題→関係教員[担任・教科担当・部活顧問等]への連絡体制などの組織作り＝学内組織での位置づけ）、支援環境整備などを将来計画として設定したが、現在の状況は以下のとおりである。

#### （１）現状の把握

成績不振者に対しては各教科で必要な対策（小テスト・追試・補習・課題学習等）を実施し、学習意欲の高い学生へは学外コンテスト（英語スピーチコンテスト、数学選手権）への参加やコミュニケーション能力向上のための各種の語学検定試験受験を呼びかけている。

#### （２）現状改善策の検討

学生の問題点についての情報交換会「スタッフミーティング(仮称)」の開催を適宜実施する。その目的としては、学習到達度の低い学生の把握と教科指導の方向付けや、授業への取り組み状況（生活面も含む）の把握と改善策の検討により、学習意欲の低下・留年・進路変更等の問題に対処するとともに、担任や担当教員が指導上の問題を一人で抱え込むことを防止することにある。また、学生のコミュニケーション能力向上策の一環として語学検定試験の受験奨励と併せて海外留学等も積極的に勧める。

### 3. 重点課題

中期計画との関連で当面の課題としてあげているものは以下の諸点である。

- （１）新入生に対して数学・英語の一斉学力試験を実施し、その動向を把握するとともに、この結果を以後の教育指導や教育課程の改善に役立てる。また、英語のコミュニケーション能力向上を図る方策として、本科の４年・５年次においてＴＯＥＩＣ模擬試験を実施するとともに、ＴＯＥＩＣ試験を校内で行う。
- （２）中学・高校よりの教育支援要請（ＳＰＰ、ＳＳＨ 講師依頼等）や各教育機関、教育委員会からの教員研修事業での協力要請に応じる。

### 4. 特色ある教育・研究の取り組み・活動等

#### （１）物理・工学基礎物理での取り組み

- ① 平成２２年度には、一般教科と専門教科の連携に関連して「物理WG 意見交換会」を開いた。これは、物理教員と、教務主事、各学科代表１名が参加して、「物理・工学基礎物理と専門教科について意見交換することにより、授業内容や授業方法を改善するための方策を見出す。また、修正可能なものから直してフィードバックする。」ことを目的として実施したものである。



交換会では、初めに物理教員から本校の物理教育の現状等を説明した後、専門学科教員と授業内容の希望、低学年物理実験、数学・専門教科との連携などに関して意見交換を行った。その後物理教員が、得られた意見を、すぐに対応可能な項目・将来的な検討項目に分類して教育改善に活かした（現在も継続検討中である）。

② 一般物理と工学基礎物理を担当する（非常勤も含む）物理教員が継続的に打ち合わせを行い、物理から工学基礎物理（応用物理）へのスムーズな移行が可能となるように、授業内容・実験内容などを検討している。

③ 物理の基礎学力定着のため、平成 22 年度から毎年、3 年生に対して夏期休暇中に、1 年から 3 年前期までに学習した全範囲に対する基礎学力試験を実施し、この結果を以後の教育指導や教育課程の改善に役立てている。また、成績上位 10 名の学生を掲示することにより、学生の競争意識を高めている。

## （2）数学科・応用数学科での取り組み

数学・応用位数学科としては、数学検定（団体受検）を学生に奨励している。平成 24 年度は、本校を会場として、7 月 14 日と 1 月 19 日の 2 回実施した。受検人数は 1 回目が 10 名、2 回目が 6 名の計 16 名であった。

今後もいろんな機会を通じて、受検を奨励し、学生の学力向上に努めていきたい。

## （3）英語科での取り組み

英語のコミュニケーション能力向上を図るために、1、2 年次にネイティブスピーカーの授業も含めたアウトプット重視の発信型の活動を多く取り入れた授業を実施している。STEP 英検や工業英検の校内実施のほかにも、TOEIC IP テストを積極的に実施（年 5、6 回）し、特に 3 年生以上の学生に対しては自学自習による資格取得にも機会を多く設けるとともに動機づけにも努めている。

上記の概要を踏まえて、特色ある教育・研究の取り組み・活動の主要例を列記する。

- ・校長裁量経費による、TOEIC® IP Bridge の校内実施
- ・長岡科学技術大学との協働事業による、国際性育成を重視した英語教育の実践
- ・専攻科長直轄による、専攻科英語教育改革プロジェクトの継続実施  
（人文社会科学系英語教育支援室担当）

## （4）社会科での取り組み

社会科では、わが国や国際社会における様々な問題に焦点を当てた授業を節目に実施するなどの取り組みを通じて、授業内容と現実の社会との関わりを意識させるよう心がけている。

# 5. 点検・評価

## （1）重点課題における点検・評価

① 新入生に対する一斉学力試験は、数学・英語ともに、入学直後の授業開始前に実

施し、春休みの課題実施状況なども含めて、新入生の学力把握に努めている。一斉学力試験の結果は、1年生の担当教員（非常勤も含む）が共有し、授業改善や教育指導に役立っていると判断できる。

上記のように着実に成果は上がっているが、一斉試験の結果などについてはなお利用の余地があると考えため、達成度評価はBと判断する。

- ② 教員研修事業の協力については、平成24年12月14日、愛知教育大学の依頼により、新教養課程デザインの一環としてのセミナーにおいて、同課程の一つの柱とされている「ものづくりリテラシー」という概念の外延を定める一助とするため、「ものづくりと言語表現の接点」という題名で、国語科教員が講演を行った。

先方の要請に、十分に応えたため、達成度評価はAと判断する。

(2) その他、現状改善への取り組み等における点検・評価

- ① スタッフミーティングに関しては、平成24年度は2回実施し、クラス担任からの低学年の状況報告を行い、十分な情報の共有ができたため、達成度評価はAと判断する。
- ② 英語科目については、現状と現状改善策で述べたとおり、各種語学検定試験の受験と海外留学を積極的に推奨し、それを受けて各種語学検定試験については延べ約200人が受験するなど学生が意欲的な取り組みをみせた結果、学生のコミュニケーション能力は大いに向上した。これは計画を上回る実績を残したため、達成度評価はAと判断する。

## 6. 改善課題・方策

(1) 英語及び数学の一斉学力試験について

教務へ要請し、年間行事予定に組み込んで頂くようになった。試験結果からは、いわゆる「ゆとり世代」で低下した学力が少しずつ戻っていることが確認できる。まだ、教育課程の改善の必要性はないと判断しているが、今後、試験結果の経年変化などを検討することで、新入生の学力動向を把握し、授業改善や学生指導に活かせるよう努力する。

(2) 英語のコミュニケーション能力の向上について

通常の英語Ⅰ～Ⅴまでの指導とコミュニケーションⅠ・Ⅱの指導の流れにより関連性を持たせて、語学力の定着と蓄積の効率化によって、資格試験の合格者の増加とスコアアップを図ることが必要である。方策としては、各担当教員間のテキストの関連性を高め、語彙・文法学習用の副教材に関しては複数年使用を通じて、学生に知識の定着を実感させ、より上位の資格を目指す自信と方向性を与えることが重要である。

上記の概要を踏まえて、改善課題・方策の主要例を列記する。

- ・英語教育への、いわゆる「多読指導」導入に必要な各種環境整備

- ・国際交流委員会との連携も新たに視野に入れた、国際性育成を重視した英語教育の推進（交換留学、国際学会等における学生支援）
- ・現在実施中の各種英語教育改革プロジェクトの継続的取り組み

## ○ 専 攻 科

### 1. 教育理念・教育目標

#### (1) 概要

専攻科は、高等専門学校5年間の上に、より高度な専門的知識と技術を教授し、創造的な研究開発や先端技術に対応でき、かつ国際的にも通用する人材を育成するために設けられた2年制の教育課程である。修了生は大学評価・学位授与機構（以下「学位授与機構」という。）に申請し、審査の後に学士の学位を授与される。本校の専攻科は、生産システム工学専攻（1学年定員：12人）及び環境システム工学専攻（1学年定員：8人）の2専攻で構成されている。また、本科4、5年次の全学科と専攻科2専攻のすべての教育課程で構成した「環境生産システム工学」教育プログラムを実施しており、このプログラムは日本技術者教育認定機構（略称：JABEE）から社会の要求を満たしている工学（融合・複合、新領域）関連分野の技術者教育プログラムであるとして、平成16年度より認定されている。

#### (2) 目指すエンジニア像と学習・教育目標

専攻科が目指すエンジニア像は『得意とする専門分野を持つことに加え、他の技術分野の知識と能力を積極的に吸収し、自然環境との調和を図りながら持続可能な社会を有機的にデザインすることのできる知識と能力を身に付けた、国際社会で活躍できる実践的技術者』としている。目指す技術者像に照らした専攻科修了時点で修了生が確実に身に付けておくべき知識及び能力として、本自己点検・報告書4ページに示した5つの大項目とそれらを細分化した20の小項目からなる専攻科学習・教育目標を設けている。なお、この学習・教育目標は平成23年度に改定を行ったものである。

内容は、専攻科設置時から目指している得意とする技術分野（本科5年間の学習で身に付けてきた専門分野）の深化に加えて、現在の多様化・国際化した社会状況に対応できるエンジニアリング・デザイン能力を身に付けた技術者となることを念頭に、異なる技術分野の知識と能力を積極的に吸収することを具体的に表現し、学生の到達すべき目標として掲げている。また、企業のグローバル化に伴って必要とされる国際社会で活動ができる人材輩出のための学習・教育目標も掲げている。

ものをつくり出すことあるいはつくり出す過程が自然や社会などの地球環境に与える影響を常に考えられる能力（環境を意識したものづくり）だけにとどまらず、「人間が住みよい環境とは何か」、「人間だけが住みよくてよいのか」をも考慮できる能力（環境づくりができる）の育成を目指して、学習・教育目標JBに「ものづくり・環境づくりに関する能力を身に付ける」としていることが、専攻科学習・教育目標の大きな特徴である。

## 2. 将来計画

目指すエンジニア像や学習・教育目標に照らして専攻科生の知識・能力のレベルアップを図っていくために必要な項目は、研究能力の向上、エンジニアリング・デザイン能力の向上、社会のグローバル化に対応した人材の育成及び専攻科入学者の質の向上に向けた本科との連携の4点であると考えている。以下に具体的な内容を示す。

### (1) 研究能力の向上

専攻科設置当初の目的は研究開発型の技術者の養成にあった。本科5年の卒業研究と専攻科1、2年の特別研究の計3年間の研究従事期間は大学院卒に匹敵する。研究環境の充実及び専攻科生の研究成果発表数を多くしていく施策を検討する。

### (2) エンジニアリング・デザイン能力の向上

多様化した社会から技術者に寄せられるニーズも変化してきている。このことを踏まえて、エンジニアリング・デザイン能力を向上させる技術者教育の必要性が叫ばれており、JABEE認定の重要な審査項目にもなっている。エンジニアリング・デザイン能力とは、必ずしも正解のない問題、トレードオフな問題に対して、実現可能な具体策を見つける能力であるとされている。本校専攻科では、「創造デザイン演習」や「デザイン工学」を通して、この能力の向上を図っている。企業との連携による共同教育を行うことを検討し、専攻科生が社会の要望に応えられる知識と能力をさらに身に付けて修了できるようにする。

### (3) グローバル化に対応した人材の育成

これからの企業は規模の大小を問わず世界を見据えていなければならない。そのような国際社会で活躍するための技術者には語学能力と異文化理解能力の向上が必要である。これらの能力が身に付くようなカリキュラムや授業内容の変更を検討するとともに国際交流委員会と連携をして本校独自の専攻科生の海外派遣活動を検討する。

### (4) 本科との連携

専攻科をより充実させるためには、本科から優秀な学生を迎えることが第一である。早期技術者教育と5年一貫教育による実践的な技術者の養成が高専の特徴である。さらに2年間の専攻科課程を加えた継続した7年一貫の技術者教育は高専本科卒業生にとって最も意義のある進学先であると言える。そしてJABEE認定された技術者教育プログラムを実施していること、学位授与機構への申請と小論文試験合格が必要であるが学士の学位取得ができることなど、実践的な技術者にも研究開発型の技術者にもさらには大学院進学から研究者への道も開かれる。このような専攻科のアピールポイントを積極的に本科生に説明していく。

## 3. 重点課題

### (1) 目指すエンジニア像と学習・教育目標の周知



専攻科生が目指すエンジニア像及びそれに照らした学習・教育目標を理解し、その到達へ向けて行動できるためには、目指すエンジニア像及び学習・教育目標を学生及び教職員への周知を徹底する必要がある。本科生への周知は専攻科志望者の増加及び質の向上にもつながる。

#### (2) 他の研究機関との連携

平成25年4月に福井大学大学院工学研究科との間に教育研究に関する協定を締結する予定である。この協定を有効に活用して専攻科生の学習及び研究に対する意欲の向上を図る。

#### (3) カリキュラムや授業内容の改善

エンジニアリング・デザイン能力及び語学力の向上を目的として平成25年度専攻科入学生より「創造デザイン演習」1単位増、「技術者英語コミュニケーション演習」1単位の新設を行う。「創造デザイン演習」ではこれまで経営工学で行っていた内容を取り込み、さらに技術士や知財に関する内容を取り入れて、これまで行っている問題発見・問題解決演習につなげる。また、「技術者英語コミュニケーション演習」ではネイティブスピーカーによるテクニカルイングリッシュスピーキングやテクニカルイングリッシュライティングをその内容に盛り込むことにしている。この授業内容が学生のレベルアップにつながるように検討を重ねていく。

#### (4) 海外派遣活動への積極的参加

今年度の専攻科生の海外派遣は、国立高専機構主催平成24年度テマセク・ポリテクニック技術英語研修に専攻科2年生を2名派遣、I S T S 2012 (ISTS : International Symposium on Technology for Sustainability) に専攻科2年生を2名派遣、日本台湾包括学術交流協定締結記念 “2012 Japan-Taiwan Symposium on intelligent Green and Orange (iGO) Technology” (日台 iGO シンポジウム2012) に専攻科1年生を1名派遣平成24年度中部日本海高専国際化推進事業 KMITL 学生派遣に専攻科1年生を1名派遣した。このうち、I S T S 2012と日台 i G O シンポジウム 2012では英語による口頭発表を行っている。今後も継続的に専攻科生の海外派遣活動への積極的な参加を促す。そのためには、語学力及び研究能力の向上が必要である。

### 4. 進学・就職指導状況

平成24年3月修了生の進路状況は、生産システム工学専攻では、修了生14名（内女子1名）中、大学院進学者3名、県内就職者3名（内女子1名）、県外就職者7名、その他1名（医療関連の専門学校）であり、環境システム工学専攻では修了生13名（内女子5名）中、県内就職者11名（内女子5名）、県外就職者2名（内女子1名）であった。なお、就職者の内6名が公務員であった。

また、平成25年3月修了予定者の進路予定状況は1月25日現在で、生産システ

ム工学専攻修了予定者16名中、大学院進学予定者5名、県内就職予定者6名、県外就職予定者4名、その他1名（留学生であり帰国する）であり、環境システム工学専攻修了予定者9名（内女子2名）中、大学院進学予定者3名（内女子1名）、県内就職予定者2名、県外就職予定者3名（内女子1名）、未定1名（工学以外の大学院進学希望来年度再受験）である。

## 5. 特色ある教育・研究の取り組み・活動等

本科5学科各々の専門知識の基礎を習得した後、専攻科では得意とする専門知識を深化させる専門展開科目と、今日の多様化した社会に対応できるように、幅広く他の技術分野の知識と能力を身に付けるための専門共通科目を開講している。この専門共通科目の内6科目（技術者倫理、創造デザイン演習、先端材料工学、デザイン工学、環境工学及び地球環境）は必修とし、融合・複合分野の教育プログラムであることを特徴づけている。また、夏季休業期間を利用しコーオプ教育の一環としての約一か月のインターンシップや、北陸技術交流テクノフェアにおいて特別研究の内容を学外の技術者や研究者に説明させるなど、学内にとどまらない技術者教育に力を傾注している。

エンジニアリング・デザイン教育として専攻科ではこれを「デザイン工学」と「創造デザイン演習」の授業で統括的に実施している。ともに出身学科の異なる学生による協働作業を通して「デザイン工学」では地域特産品によるものづくりを、「創造デザイン演習」では福井県内の諸問題を発見し制約条件を考慮した解決案の提示を求める課題を実施している。北陸技術交流テクノフェアでの企業ブース訪問や専門家とのインタビューを取り入れて解決案を提示することを求めている。

現代英語の授業では、TOEICスコア向上の内容に加えて、英語による特別研究内容の発表を前提とした外国人非常勤講師による指導を取り入れている。また、今年度は英語による質疑を取り入れた。

## 6. 点検・評価

平成25年度専攻科入学希望者及び合格者数は前年度を下回った。このことは本科生への専攻科のPR不足であり、目指すエンジニア像の周知及び本科との連携ということに関しての達成度評価はBと判断する。

福井大学大学院工学研究科との教育研究に関する協定を結ぶことができるようになったため、他の研究機関との連携に関しての達成度評価はAと判断する。

カリキュラムや授業内容の改善に関しては、エンジニアリング・デザイン教育及び語学力の向上のための改正を平成25年度入学生より実施することとしたため、その達成度評価はAと判断する。

昨年度は国立高専機構主催の海外インターンシップに1名、ISTS 2012に1

名の派遣であったが今年度は海外インターンシップには選ばれなかったが、延べ6名が海外で研修を行った。したがって、専攻科生の海外研修についての達成度評価はAと判断する。

## 7. 改善課題・方策

専攻科志望者の減少を受けて平成26年度専攻科入試に向けて本科生への専攻科説明会を今年度から実施している。来年度も継続して行うとともに本科の進路指導を担うクラス担任にも積極的に専攻科説明を実施する。

福井大学大学院工学研究科研究室訪問や福井大学教員による講演会を企画し交流を深めることなどを通して、専攻科生の研究へのモチベーションを高める方策を検討する。

エンジニアリング・デザイン能力及び語学力向上のために単位増及び新設した科目（創造デザイン演習、技術者英語コミュニケーション演習）の内容充実を図る。また、そのためにこれらの科目に関連する教員に、エンジニアリング・デザイン及び語学に関する研修会への参加を専攻科として支援する。

国立高専機構主催の海外インターンシップ及び技術英語研修、その他の学生の海外研修へ積極的に参加するように専攻科生に促す。海外インターンシップなどの派遣学生に選ばれるにはTOEICスコアが1つの基準となっている。今後もTOEIC I P試験の校内実施と受験料補助を継続する。

#### IV－３．センター等に関する事項

##### ○ 学生相談室・保健室

###### １．学生相談室

###### （１）基本方針

本校では、学生生活が円滑に送れるように学生の種々の悩み事や問題の相談に応じるため、福利施設の２階に学生相談室を開設している。

###### （２）学生相談室利用状況と相談分野

学生相談室は、教員３名、看護師２名及び非常勤の専門カウンセラー１名の６人体制で運営されている。平成２４年度より、専門カウンセラーの来校を週２日から３日に増やし、学生支援の充実を図っている。今年度の各相談員の担当を表１に示す。

相談室員のスキルアップとして、各種の研修会（障害学生修学支援事例研修会、メンタルヘルス研究集会、全国学生相談研修会など）へ参加した。校内の教職員向けには、メンタルヘルス講演会を７月に開催し、意識の高揚に努めた。学生に対しては、相談室カードやリーフレットなどを配布した。また新入生対象には、年度当初の新入生オリエンテーションでの説明会、各クラスにおけるカウンセラーによるメンタルヘルス説明会及び性格診断テストなどを行った。

表１ 平成２４年度相談員の担当日時

曜日	月	火	水	木	金
放課後 16:15～17:00	14:00-18:00 清水 照代 カウンセラー	中谷 実伸 武井 幸久	14:00-18:00 清水 照代 カウンセラー	15:00-18:00 清水 照代 カウンセラー	中谷 実伸 大久保 茂

表2、表3に平成23年度の月別及び学年別相談室利用者の利用者数と相談分野別の件数を示す。

表2 平成23年度学生相談室、学年別と月別利用者数

	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	23年度
1学年	5	3	0	2	0	0	10
2学年	2	1	0	3	1	3	10
3学年	0	4	0	2	2	1	9
4学年	2	5	0	10	4	0	21
5学年	0	6	0	2	0	0	8
専攻科	0	0	0	0	0	1	1
保護者	5	6	0	0	1	1	13
職員他	13	16	2	13	12	8	64
計	27	41	2	32	20	14	136

表3 平成23年度学生相談室、月別相談内容と相談件数

	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	23年度
メンタル	5	7	0	9	5	4	30
学習	3	3	1	3	4	3	17
不登校	9	7	1	0	0	0	17
進路	1	5	0	15	6	2	29
家族	1	0	0	0	0	0	1
人間関係	1	3	0	0	2	0	6
健康 その他	7	16	0	5	3	5	36
計	27	41	2	32	20	14	136



## 2. 保健室

### (1) 基本方針

学内の保健衛生・学生の健康維持を中心に、あらゆる面で学生をサポートしている。通常の保健業務の他に、学生の精神面における相談業務も行っている。

### (2) 保健室の利用状況

保健室の平成23年度利用状況について表4、5に示す。看護師（2名）にはフィジカルな対応以外にメンタル面における対応もお願いしている（インテーカーとしての対応も含む）。表4は保健室の学年別、表5は相談分野別の利用者数である。

表4 保健室の学年別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	23年度	22年度
1年	11	29	14	26	5	5	20	13	14	11	10	2	160	118
2年	10	16	19	15	5	3	9	16	7	8	9	0	117	136
3年	18	22	11	23	6	4	23	16	13	10	7	1	154	236
4年	22	22	17	34	6	4	24	39	20	22	14	4	228	134
5年	6	20	27	27	6	5	14	24	34	33	30	1	227	229
専攻科1年	3	4	3	2	0	0	4	3	2	4	2	1	28	5
専攻科2年	6	7	2	3	6	0	7	1	1	2	1	2	38	1
保護者	1	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	2	8	9
その他	47	40	33	48	30	24	52	64	33	23	71	52	517	335
	124	160	130	179	64	45	153	176	124	113	144	65	1,477	1,203
													1,477	1,203

※その他・・・オープンカレッジ・職員・卒業生の利用等

表 5 相談分野別利用者数

学年/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	23年度	22年度
いじめ													0	0
不登校													0	5
人間関係		4	2	3	0	0	2	7	0	2	2	0	22	35
学 習	1	1	2	0	0	0	0	0	0	5	0	0	9	9
進 路	2	1	3	2	3	2	4	5	1	7	2	0	32	7
暴 力												0	0	0
その他	79	106	68	109	24	20	95	73	54	53	43	13	737	769
メンタル	42	48	55	65	37	23	52	91	69	46	97	52	677	378
合 計	124	160	130	179	64	45	153	176	124	113	144	65	1,477	1,203

### 3. 点検・評価

平成24年度計画にある「学生相談室のさらなる充実」を図るために、前述のとおり、専門カウンセラーの来校回数を増やした。

学生相談室・保健室関係教職員のスキルアップのために校外におけるメンタルヘルス関係の研修会等へ積極的に参加した。以下はその例である。

表 6 メンタルヘルス研修会参加事例と本校からの参加人数

	研 修 会 名	参加人数
1	平成24年度福井県特別支援教育センター研修講座	1
2	福井県精神保健福祉協会特別講演会	1
3	平成24年度第50回全国大学保健管理協会東海北陸地方部会研究集会及び第39回保健管理担当職研究集会	1
4	平成24年度研修講座「No.14 学校経営の充実をめざして 実施要項 ―特別支援教育のこれから―」	1
5	福井県精神保健福祉協会特別講演会	2
6	第36回北陸地区保健管理担当職研究会	1
7	障害学生修学支援事例研修会	1
8	障害学生支援研修会	1
9	第9回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	2
10	第50回全国学生相談研修会	1

また、学内教職員のスキルアップの一環として、毎年メンタルヘルス研修会を実施している。今年度は7月に富山大学の西村優紀美氏をお招きし「障害に対する基本的知識と障害学生に対する教育支援の実践例」と題したご講演を行っていただいた。

以下に、最近5年間の学内メンタルヘルス研修会参加人数を挙げる。

表7 メンタルヘルス研修会教職員参加人数

年度	参加人数
平成24年度	62
平成23年度	54
平成22年度	38
平成21年度	50
平成20年度	64

以上から計画に対して一定の成果を挙げていると考え、達成度評価をAと判断する。

#### 4. 改善課題・方策

関係教職員が学外のメンタルヘルス関係の研修会で習得した知識や技術などを、より効果的に学内に還元することが課題の1つとして挙げられる。還元の方法としては、たとえば学内教職員向けの講演会やFD活動に関する企画立案などが考えられる。

また、学内教職員向けのメンタルヘルス研修会を継続することにより、多くの教職員に学生のメンタルヘルスに関する知識を持ってもらうことで、結果として、学生が円滑な学生生活を送ることができる環境を整備したい。

## ○ 図書館

### 1. 現状

- ① 本校の図書館は、低学年の学生の教育を始めとして、高学年の学生や専攻科生及び教職員の研究補助、更には、地域住民への貢献等を目的として運営されている。
- ② 図書館は閲覧室と事務室及び1、2階の書庫とからなり、約400m<sup>2</sup>の閲覧室には、100席の閲覧机と約4万冊の開架資料を設置している。
- ③ 1階及び2階の書庫には約5万冊の資料を収容し、閲覧室と同フロアの2階書庫は常時開扉されていて、開架書架同様の利用が可能である。
- ④ インターネットを利用した学外からの蔵書検索も可能で、学外者に対しても資料貸出しを行っている。
- ⑤ 図書館システムは、平成24年度より長岡技術科学大学にサーバーを持つ全国高専統合システムに切り替えて図書館運用を行っている。

#### (1) 学生支援

- ① 学生の教育面では、専門分野の蔵書の充実を図るとともに、一般的な教養書の購入にも努めている。また、「資格試験コーナー」やもの作りと実験のノウハウを簡単に解説した「もの作りコーナー」、「定期試験の過去問題コーナー」、「教科書コーナー」等を設けて、学生の学習の便宜に資している。
- ② 購入する学生用図書は、各学科の教員の推薦によって決めるとともに、学生図書委員によるブックハンティングによって約500冊の図書を購入する等、学生の意見や嗜好を取り込む工夫をしている。
- ③ 平成24年度は英語多読図書約100冊（トータル900冊）を購入して（今後、校長裁量経費で約500冊を購入する予定）、学生の英語に対する関心を高めるとともに、英語力の向上を図れるよう支援している。
- ④ 他高専では例のない取組として、学生と教職員からなる「校友会誌編集部会」による校友会誌「青樹」（特集、随想、読書感想文、創作、詩、短歌等約100作品）を国語科教員の協力を得て毎年作成し発行している。
- ⑤ 学生の総合情報処理センター（以下、センター）時間外利用について、図書館システム上にセンターの時間外入室用ICカードの貸出機能を組み込み、時間外でも図書館でのICカード貸出を可能として学生のセンター時間外利用に応えている。
- ⑥ 図書館設置のパソコンにおいて、本校の就職・編入学状況についての情報をサーバー経由で閲覧することができるようになっており、学生の就職・進学活動の支援に活用されている。

## (2) 研究支援

- ① 研究面では、長岡技術科学大学と高専によるコンソーシアムに参加することで、Science Direct(エルゼビア社)、ACS(アメリカ化学会)、AIP(アメリカ物理学協会)、APS(アメリカ物理学会)の約2,000タイトルの電子ジャーナル及びMathSciNet(アメリカ数学会)、JDreamⅡ(科学技術振興機構)の文献データベースを利用できるようにしている。
- ② 本校で購読していない電子ジャーナル及び雑誌・図書等の文献については、図書館間相互貸借サービス(NACSIS-ILL)を利用して、文献複写・図書を学外から取り寄せるなどして、研究者への研究支援体制を整えている。
- ③ 本校は福井県地域共同リポジトリに参加して、本校の教職員が執筆した学術成果(紀要論文及び雑誌論文等(約300点))を一般公開して、研究者にとっては必須のツールである国立情報学研究所の学術情報データベースサービス「CiNii」から検索・閲覧が可能となっており、外部に向けた積極的な情報発信を行っている。

## (3) 地域貢献

- ① 平日は午前8時30分から午後8時まで、土曜日は午前9時から午後4時30分まで開館して、地域住民の利用に資するとともに、資料の貸出しにも応じている。
- ② 福井県内図書館横断検索システムに参加して、県内主要図書館の蔵書の一括検索と物流システムの活用による蔵書の貸借が可能となっている。

以下、平成23年度末の蔵書構成を表1に、利用状況を表2に示す。

表1 平成23年度末の蔵書構成

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	
和書	7,100	2,868	5,159	5,468	16,614	19,197	923	3,321	3,837	10,623	75,110
洋書	469	359	203	248	3,944	1,557	11	57	1,908	922	9,678
合計	7,569	3,227	5,362	5,716	20,558	20,754	934	3,378	5,745	11,545	84,788
比率 (%)	8.9	3.8	6.3	6.7	24.2	24.5	1.1	4.0	6.8	13.6	100.0

この他に、教育後援会文庫が11,696冊あるので、蔵書の総計は96,484冊になる。



表2 平成23年度の月別利用状況

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出者数	入館者数/日	貸出冊数/日	貸出者数/日
4	25	4,772	1,013	526	190.9	40.5	21.0
5	23	5,827	990	457	253.3	43.0	19.9
6	26	6,770	974	429	260.4	37.5	16.5
7	26	6,957	862	357	267.6	33.2	13.7
8	17	2,474	493	180	145.5	29.0	10.6
9	16	1,556	343	157	97.3	21.4	9.8
10	23	4,350	852	371	189.1	37.0	16.1
11	24	5,617	566	265	234.0	23.6	11.0
12	20	4,200	759	315	210.0	38.0	15.8
1	20	4,088	612	282	204.4	30.6	14.1
2	23	5,721	633	290	248.7	27.5	12.6
3	20	2,243	241	100	112.2	12.1	5.0
計	263	54,575	8,338	3,729	207.5	31.7	14.2

この他に、DVDなどの視聴覚資料の利用者が年間475人

## 2. 点検・評価

- ① 英語多読図書については、平成24年度は校長裁量経費とは別に図書館資料費から工面して約100冊を購入した。
- ② 電子ジャーナルは、平成24年度から新たにAIP（アメリカ物理学協会）、APS（アメリカ物理学会）を購読契約して本校教職員の研究支援を行った。
- ③ 平成24年度から図書館システムを全国高専統一システムに切り替えたことで、業務がより効率的になり、図書館利用者に対するサービスの充実も図ることができた。さらにシステムの年間リース料も1,363,800円から945,396円となり経費を節減することができた。

以上の実績から、達成度評価はAと判断する。

## 3. 改善課題・方策

閲覧室は学生の利用が多く、特に試験期間は学生が勉強する場所が足りなくなるため閲覧機の増加が必要である。また、学生がグループでディスカッションしながら勉強する学習室を図書館に設置することは必要と考えられるが、現在は図書館にスペースがないため実現できない。これらを改善するため図書館スペースの増加を図った図書館改修が必要である。

## ○ 創造教育開発センター

### 1. 現状

#### (1) 創造教育開発センター設立の経緯と業務

本センターは、FD委員会、教育改善委員会等の役割を統合し新たな位置づけを持って2007年度（平成19年度）に発足したセンターである。本センターの主な業務内容として、

- ① 教育改善のためのFD活動の推進
- ② e-Learningなどのメディア活用教育の調査と研究
- ③ カリキュラムの調査と情報集積

を挙げている。なお年度毎にセンター報告書を刊行している。

#### (2) 平成24年度の活動

平成20年度に高専設置基準が改正され組織的なFD活動の義務化がなされ、それにもない、本センターも発足5年目として年間計画をたて活動をしてきた。主な取り組みとしては、公開授業や授業アンケートの実施、FD研修会の開催、福井県大学間連係事業への参加などが上げられる。以下、センターの主要な取り組みについて概観しておく。

##### ① 授業アンケート

授業アンケートに関しては、原則全科目終了時にWeb入力により実施し、結果を各教員に返却しコメントを集め、次年度に学生と教職員に公開している。アンケートの学生評価に関しては、全体的にはほぼ高水準で推移している。学年毎に見ると、ここ数年は隔年で平均点が上下している。平成24年度は前期終了科目については平成24年7月下旬の前期の特別指導期間に実施し、通年・後期科目については平成25年2月の後期の特別指導期間で実施予定である。

学生への公開方法は、印刷製本の形をとらずに、各クラスに関連するものを簡易ファイルとしてクラスに1冊ずつ配布している。一方、アンケートの全体は資料用として分厚いものを1部のみ作成している。また、学内教職員向けにはグループウェア上に公開している。今後もこの形態での資料の配布とネット上での学内向けの公開という形が適当と思われる。

##### ② 公開授業

前期の中間試験終了後に公開授業週間（5日間）を設定している。参観者率は、平成19年度は79%、平成20年度は58%、平成21年度は43%と低下傾向にあったが、平成22年度は50%、平成23年度は54%、平成24年度は75%となり低下に歯止めがかかった。実施方法としては、事前に授業担当者に参観の連絡をし、参観後に感想等を授業担当者とセンターに送る形式である。参観者の感想はどれも良好である。今年度は特に一般科目の常勤教員による非常勤講師の

授業参観が多く見られた。また、従来実施してきた各学科・教室毎年1名ずつの公開授業についても「公開授業に関する教務に関する申し合わせ事項31」を、実施し易いように改正し、継続している。これを公開授業期間に実施する場合もあった。公開授業あるいは公開授業週間の実施により、多くの教員が参観したり参観されたりする形が普通になってきた。

### ③ 大学間連携事業

平成20年度に採択された文部科学省戦略的大学連携事業「個性的な地域創生のための学習コミュニティを基礎とした仮想的総合大学環境の創造」に関して本センターが中心となって様々な取り組みを行ってきた。この連携事業（通称「フレックス」）には、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、敦賀短期大学、福井高専の6大学・短大・高専が参加をしている。この連携事業ではFD活動の協同推進が事業の4つの柱（連携基盤、学生の学習コミュニティ形成、地域と連携した学習コミュニティの形成、相互研修型FD活動の推進）の1つとなっている。センター活動のかなりの部分がこの連携事業の推進にあてられており、各部門で本センターの委員が積極的に参加し事業推進に貢献している。特にフレックス関係では合宿研修が大きな取り組みとなっている。

平成24年度は、仁愛女子短大にて、9月3日～4日に福井県内の7つの高等教育機関と福井商工会議所青年部などから67名（本校から8名）の参加があり、1日目の最初のセッションでは、松下佳代氏（京都大学教授 高等教育推進センター）による「学習の質の保証」の講演と、それを受けてのパネルディスカッション「学習評価と質保証」がもたれた。2つめのセッションでは、「キャリア教育」について企業と高等教育からの取り組みとその視点について意見交換がなされた。2日目には、栗田佳代子氏（大学評価・学位授与機構）による「ティーチング・ポートフォリオ」の講演とミニワークショップがあり、それぞれの教員の教育的視点の発展が、自身の教育活動の振り返りの中から得られることを体験的に実感した。

この合宿研修は、各校単独によるFD活動では深めることが難しい部分を、専門領域と学校の垣根を越えて議論することができる貴重な企画となっている。

### ④ e-Learning の推進

新たなmoodleサーバーを稼働させて利用する環境が整っている。このサーバーでは事前に全学生・専攻科生を各学科・クラス毎にユーザーとして登録し、クラス単位の授業を簡単に利用できるようにしている。

### ⑤ 卒業生等、進路先等へのアンケート

平成20年度に引き続き平成23年下旬に「卒業生・修了生アンケート」「就職先・進学先アンケート」を行った。卒業生・修了生アンケートの郵送には前回同様に進和会の協力を得、ネットによる回答も実施した。平成24年5月の自己点

検・評価委員会へアンケート結果などを報告し、自己点検・評価委員会から学校運営会議へ報告がなされた。

#### ⑥ F D研修会

平成24年度は5月30日(水)に第1回の本校教職員を対象としたF D研修(講演会)を開催した。講師として独立行政法人大学評価・学位授与機構客員教授の野澤庸則氏を招き、「大学評価・学位授与機構からみた高等専門学校の教育改善の在り方」と題した講演が行われ、教職員約80名が受講した。大学・高専の責務、学士課程教育の質的転換等の今後の大学・高専の在り方について分かりやすく解説され、大変有意義な講演会となった。

第2回のF D研修会を6月7日(木)に開催した。研修会では、平成23年度に校長表彰を受けた電子情報工学科の村田助教と他の高等専門学校に9年間勤務後、本校に赴任して3年目の一般科目の加藤准教授から、それぞれ「福井発! ビジネスプランコンテスト2011グランプリ受賞」、「高松高専と福井高専」と題して、表彰対象となったコンテストの概要や他高専で実施されている学生指導の工夫等の紹介がなされた。また、当日紹介ができなかった、環境都市工学科の江本助教による「フレックスとF Dの取り組みについて」と題した講演を8月30日(木)に行った。さらに、JABEE委員会と共催で、12月5日(水)、教職員を対象に「技術士及び技術士制度説明会」と題して第3回F D研修会を開催した。この説明会は、技術士となる人材を輩出する教育機関の教職員として必要な技術士制度の概要の確認と勉強のため開催されたもので、約50名が参加した。講師に、公益社団法人日本技術士会の桶谷治寛技術士(環境・総合技術監理・農業・建設部門)と田村裕美技術士(建設部門)をお招きし、若手技術士の姿や技術士試験などについて、アンケート、インタビュービデオメッセージ、自身の体験などを交えて分かりやすく説明していただいた。説明会後の質疑応答も活発にあり、本校教職員の技術士資格取得に向けてのいい刺激となった。

#### ⑦ 教員間ネットワーク会議

教育改善の一環として、相互に関連する一般科目及び専門科目、あるいは学科をまたぐ学習・教育目標に関連する科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われなければならない。このような連携を行うためのシステムとして教員間ネットワーク会議があり、平成23年度は6分野だった教員間ネットワーク会議を平成24年度は8分野に拡大し、創造教育開発センター員が会議進行役(座長・議事録担当者)として、平成25年2月末をめどに開催する予定である。

## 2. 点検・評価

- ① 授業アンケートについては、5年生の一部の学科と専攻科生については授業時間以外で、他学科の5年生と4年生以下は授業時間内でのW e b入力であったが、入



力自体にはほとんど問題はなかった。アンケート結果を教員に返却しているが、数年間にわたり特にアンケートの数値が低い教員に対して創造教育開発センターとしては特に改善を促してはいない。よって、達成度評価はBと判断する。

- ② 公開授業については、公開授業週間については参観者数が初年度と同じ程度に回復したが、公開授業(教務に関する申合せ事項集31)に関して、開催件数が少ない。よって、達成度評価はBと判断する。
- ③ 大学間連携事業については、特に大きな取り組みである合宿研修への参加を行っているが、創造教育開発センター員が中心で、他の教員の参加が少ない。よって、達成度評価はBと判断する。
- ④ e-Learning の推進については、数学や英語などの科目で実施されている。また、e-Learning 室はCALL教育システムによる英語を主としたコミュニケーション能力の育成の場としても活用されている(週当たり35コマの授業中、17コマが英語関連授業で使用)。よって、達成度評価はBと判断する。
- ⑤ 卒業生等、進路先等へのアンケートについては、実施済みであるが、回答率が、就職先・進学先アンケート(企業・大学等)については平成19~21年度修了生・卒業生の510名に対して回答が281名分(回答率55%)であり、ほぼ良好であったが、修了生・卒業生へのアンケートに関しては591名に対して82名(回答率14%)と少ない回答率であった。よって、達成度評価はAと判断する。
- ⑥ FD研修会については、例年の学内の校長表彰関連教員等による講演会と、平成24年度に実施された機関別認証評価に関する講演会、技術士制度に関する講演会を実施した。他高専に勤務した経験のある教員の話は、今後の参考になったと感じられた。よって、達成度評価はAと判断する。
- ⑦ 教員間ネットワーク会議については、創造教育開発センター員が進行役としては平成23年度から開催している。その議事録は学内からグループウェア上で閲覧可能としており、会議参加教員以外にも議論について知ることができるようになってる。平成24年度も平成25年2月一杯をめどに開催予定である。よって、達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

- ① 授業アンケートについては、アンケート結果の数値が数年にわたって低い教員への指導方法(学科長・教室主任等による指導など)を提案していく。
- ② 公開授業については、公開授業(教務に関する申合せ事項31)の実施件数が少ない。前期だけの公開授業週間を後期にも開催するといった代替案により、公開授業(教務に関する申合せ事項31)を継続するかどうかを平成25年度中に結論を出す。
- ③ 大学間連携事業については、創造教育開発センター員以外の参加がやや少ない。平成25年度の合宿研修が福井高専主催であることから、センター員以外の教職員の



参加を促進し、その後の連携事業への参加の足掛かりとする。

- ④ e-Learning の推進については、研修会などを行い、今以上に多くの教員・学生に利用してもらえるようにする。
- ⑤ 卒業生等、進路先等へのアンケートについては、平成 27 年秋に実施予定の JABEE の継続審査に合わせて平成 26 年下旬にはアンケートを実施する。修了生・卒業生からのアンケート回答数が少ないことについて、次回までに改善策を考える。
- ⑥ FD 研修会については、例年の学内の校長表彰関連教員等による講演会は継続するが、他に講演会についても企画する。
- ⑦ 教員間ネットワーク会議については、会議で話合われた内容についてどのように実行されたかの検証をする時期にきている。平成 25 年度はそれまでの議論についての総括・検証を行う。

## ○ 総合情報処理センター

### 1. 現状

平成22年度に教育用電子計算機システム（以下、「教育用システム」）を更新し、ネットワークブートシステムを導入した。本システムは、クライアント端末（パソコン）のディスクイメージをサーバー側に格納し、一括管理をするシステムである。クライアント端末は起動時にこのイメージをサーバーより読み込みOSを起動し、アプリケーションソフトウェアは端末のローカルハードウェア上で実行するものである。従来の教育用システムと比較して、利用者はネットワークブートシステムを意識することなくパソコン単体の利用と同様の操作手順にて利用できること、CADのような高速処理が必要であるソフトウェアでも快適に動作するという利点がある。また、OSの管理や更新作業を短時間で行えるなど、従来以上に演習室端末の運用・保守・管理を柔軟かつ容易にできるようになった。

総合情報処理センター（以下、「センター」）の4演習室（第1演習室パソコン48台、第2演習室パソコン7台、第3演習室パソコン50台、第4演習室パソコン46台）の平成24年度前期・後期の授業での利用を表1（前期）、表2（後期）に示す。また、平成24年1月から3月、同年4月から12月までの平日17時以降（休日を含む）の時間外利用の状況を表3に、それ以外での利用状況を表4に示す。

平成23年9月に教育用システムにプリント管理システムを導入し、後期から学生個人の1回の出力ページ数、月間の合計出力ページ数などを制限する運用を始めた。

平成24年4月には、教育用システム演習室の全パソコンのOSをWindows 7に更新した。

平成24年1月から3月の教育用システムの時間外利用（平日17時から20時まで）について、時間外アルバイト（時間外利用の運用をする日に1名、専攻科生）を雇用して、運用に当たらせた。同年4月からは、演習室入口に入室管理システムを導入し、時間外利用を希望する学生個人に入室用ICカードを貸し出す運用方式に変更し、事前の時間外利用届の提出を廃止した。

平成24年3月には、安全とセキュリティ確保のためにセンター内4か所に防犯カメラを設置した。また、同年3月末に、演習室の椅子とプロジェクター1台を更新、同年5月にセンター内廊下のセンサー照明化するなど利用環境を改善した。

平成24年3月に機構の一括調達によるファイアウォールと認証サーバーを設置し、同年4月より、稼働させている。このシステムの運用に合わせて、専攻科無線LANの接続方式を見直した。機構からの校内LAN更新予算により、平成25年4月から校内LANの基幹系サーバーを更新し、運用する。導入と運用開始に向けて、平成24年12月より準備作業を進めている。

国立情報学研究所が運営する学術認証基盤である学認への参加の承認を得たので、その手続きを終えた。

センター運営委員会を平成24年8月3日に開催した。委員会では、平成23年度収支決算、第3演習室の非常階段等の新設を含む平成24年度学内営繕要求、環境都市工学科棟改修に伴う第4演習室の移転について報告した。続いて、平成24年度収支予算（案）、校内LAN整備計画（案）を審議し、いずれも承認された。

教育用システム及び校内LANの運用についてセンタースタッフ・ミーティングを定例月1回、開催している。教育用システムの納入業者との間では、随時、システムの運用等に関する打ち合わせを行っている。

## 2. 点検・評価

シンクライアントシステムは、今までは特定の演習室でしか利用できなかったソフトウェアがどの演習室からでも利用可能になるという効果がもたらされている。そのため授業時間割の割り振りや、時間外利用等でのセンター利用に対する融通性がでてきた。

平成24年度の前期・後期の授業では、センターの全演習室は、十分に利用されており、リテラシー教育、情報教育、プログラミング教育に貢献できている。

平成23年度後期から運用したプリント管理システムにより、従前と比較してプリンタ用紙使用量は半減した。平成24年度も、このシステムの効果によりプリンタ用紙の消費削減が図れている。また、演習室パソコンのOSの更新は、十分な調査と検証のもとに適切に行ったものである。

時間外利用については、平成24年1月から3月の期間は時間外アルバイトによる運用の試行であった。同年4月からはICカードによる入室管理システムを導入したので、人手のかからない、人件費等を要しない時間外運用が実現できている。ICカードの貸し出し方式による時間外利用の運用は、面倒な手続きをしなくても利用できるようにしてほしいという学生の要望にも応えたものである。さらに、防犯カメラを導入するなど時間外における安全とセキュリティにも十分な配慮をしている。また、演習室の利用環境の改善にも努めている。

新しいファイアウォールと認証サーバーでの運用を平成24年4月より支障なく始めることができた。平成25年4月からは校内LANの基幹サーバー系を一新し、仮想化システムの導入と新しいグループウェアでの運用を予定しており、その準備を進めている。学認システムへの参加は、国立情報学研究所などがサービスするデータベース等の利用において、シングル・サイン・オンを実現するので、利用者の利便性が高まる。

センター運営委員会では、センターの運営が問題なく行われていることが認められている。定例月1回開催しているセンタースタッフ・ミーティングでは、教育用システム及び校内LANに発生する運用上の問題点や不具合を洗い出し、その解決策を検討し、迅速に具体的な対処をしてきている。また、並行して教育用システムの納入業

者との間で打ち合わせを随時行っているので、教育用システムの運用になんら支障を来していない。

教育用システムについては、原状においてで記載したとおり、授業での利用、放課後での利用を含め、教育用システムとして適切かつ十分な役割を果たしており、達成度評価はAと判断する。

校内LANにおいては、原状においてで記載したとおり、新しく導入したファイアウォール、認証サーバーは問題なく運用できている、また、校内LAN基幹サーバー系の平成25年4月稼働へ向けての準備作業は進められているので、達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

プリンタ管理システムの運用により、プリンタ用紙の資源節約が果たしている。しかし、1回の出力ページ数及び月間合計ページ数の制限など、利用状況を調べるとやや制約が厳しい実情が見られる。授業科目での利用実態を精査して、利用に支障を来たさない柔軟な運用を目指す。

現在、センターに常駐する技術職員は1名である。教育用システム及び校内LANの重要性をかんがみて、創意と工夫をこらした運用支援体制にしたい。教育研究支援センターの協力をあおいで、技術職員の人員配置の現状を改善する。

表1 総合情報処理センター時間割（平成24年度前期）

曜日		第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室 ものづくりアトリエ
月	1	3E 情報処理Ⅱ	5EI 電子情報工学実験Ⅳ	5EI 電子情報工学実験Ⅳ	4B コンクリート構造学Ⅰ
	2				5B 構造デザイン
	3	1ALL ものづくり科学			
	4		5M 機械工学実験Ⅱ	3C 情報処理演習	4B 環境都市工学設計製図Ⅳ
	5				
	6	3M C言語応用			
	7				
	8				
火	1	4EI 電子情報工学実験Ⅲ		2E 情報処理Ⅰ	4M 知能機械演習
	2				
	3			5B 水文学	
	4				
	5	5E 現代制御工学	3M 創造工学演習	4C 情報化学	3B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	6				
	7	1F4 コンピュータ科学入門		1F3 コンピュータ科学入門	5B 数値解析
	8				
水	1			3EI 数値計算	5B 環境保全工学
	2				
	3	2C プログラミング基礎		5E 制御工学Ⅱ	4B 環境都市工学設計製図Ⅲ
	4				
	5	1ALL ものづくり科学		3EI プログラミング応用	1ALL ものづくり科学
	6				
	7				
	8				
木	1	3EI 電子情報工学実験Ⅱ	2M 機械工作実習	2EI プログラミング基礎	
	2				3B 環境都市工学実験実習Ⅱ
	3			4EI 情報構造論	
	4				
	5			4B 環境都市工学実験実習Ⅲ	5B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	6	1F2 コンピュータ科学入門			
	7				
	8				
金	1	2EI 電子情報工学実験Ⅰ	2PS/ES 画像情報処理	4EI 創造工学演習	4M 機械計算力学
	2				5B 構造デザイン
	3				
	4				
	5	2M C言語基礎		1F1 コンピュータ科学入門	5M アイデア設計工学
	6	1F2 コンピュータ科学入門			
	7				
	8				



表2 総合情報処理センター時間割（平成24年度後期）

曜日		第1演習室	第2演習室	第3演習室	第4演習室 ものづくりアトリエ
月	1	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	1ALL ものづくり科学	4B コンクリート構造学Ⅰ
	2				
	3	4C 情報化学		3EI プログラミング応用	5B 数値解析
	4				
	5	4C 物質工学実験Ⅲ		1F1 コンピュータ科学入門	4B 環境都市工学実験実習Ⅲ
	6				
	7				
	8				
火	1	5E 電気電子設計	1ES 環境システム工学演習Ⅱ	4EI 電子情報工学実験Ⅲ	3B 環境都市工学実験実習Ⅱ
	2				
	3	5C 品質管理			
	4				
	5	5C 情報ネットワーク		4EI ソフトウェア工学	
	6				
	7	4C 物質工学実験Ⅲ			
	8				
水	1			5C 設計製図	5B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	2	2EI 電子情報工学実験Ⅰ		5EI 計算機シミュレーション	
	3				
	4				
	5	2C プログラミング基礎		2E 情報処理Ⅰ	
	6				
	7	2PS/ES 経営工学			
	8				
木	1	2M C言語基礎			4EI 情報構造論
	2		5M 機械工学実習Ⅱ	3EI 電子情報工学実験Ⅱ	1PS 計測・制御工学
	3	2EI プログラミング基礎			
	4				
	5			4E 制御工学Ⅰ	4B 環境都市工学設計製図Ⅲ
	6	1F2 コンピュータ科学入門			
	7				
	8				
金	1	1F5 コンピュータ科学入門	2M 機械工作実習	2EI 情報基礎演習	3B 環境都市工学設計製図Ⅱ
	2				
	3	1F4 コンピュータ科学入門		4EI 電子回路Ⅱ	4B 環境都市工学設計製図Ⅳ
	4				
	5	1F3 コンピュータ科学入門		3M 機械設計製図Ⅰ	
	6				
	7				
	8				

備考：後期は、環境都市工学科等改修のため、第4演習室を福利厚生棟1階に移設して運用。

表 3 時間外利用状況（平成 24 年 1 月～12 月）

月	人数	利用日数
1	313 人	14 日
2	174 人	11 日
3	0 人	0 日
合計	487 人	25 日
月平均	162 人	8 日

月	人数	利用日数
4	43 人	8 日
5	322 人	21 日
6	206 人	14 日
7	249 人	16 日
8	87 人	6 日
9	28 人	5 日
10	206 人	18 日
11	219 人	17 日
12	118 人	12 日
合計	1478 人	117 日
月平均	164 人	13 日

※ 4 月から、IC カードシステム導入

表 4 その他の利用状況

利用日	利用内容	利用者
5 / 12	キャンパスウォーク	電子情報工学科
6 / 10	鯖江市防災リーダー養成講座	環境都市工学科
7 / 22	公開講座	教育研究支援センター
9 / 30	鯖江市防災リーダー養成講座	環境都市工学科
10 / 6	キャンパスリサーチ	機械工学科
11 / 3	公開講座	教育研究支援センター

## ○ 地域連携テクノセンター

### 1. 現状

本校の位置する丹南地域は眼鏡枠製造をはじめ、繊維・染色産業や電子・機械・化学工業が盛んであり、加えて、越前和紙、越前打刃物、越前漆器や越前焼の伝統産業を有することから、依然として福井県の経済を支える重要な拠点となっている。

地域連携テクノセンターは、本校の使命である『教育・研究・地域貢献』の対外的な窓口であり、丹南地域のみならず県内全域にわたってより良いサービスを提供するために、以下の事業を展開している。

#### (1) 共同研究、受託研究の受け入れ

地域連携テクノセンターは「地域・文化」、「環境・生態」、「エネルギー」、「安全・防災」、「情報・通信」、「素材・加工」及び「計測・制御」の7つの研究部門から構成されている。平成24年度には県内企業を中心に12件の共同研究の申込みがあり、基礎調査・試験から製品開発にいたる広い範囲で地元産業界と歩みをともにしている。また、各研究部門では共同研究、受託研究の前段階にも当たる技術相談に随時応じており、昨年度も依頼の大部分について難題の本質を見極め、解決の糸口を助言した。

研究の円滑な遂行を助成するために、地域連携テクノセンター内の8つの実験室には誘導結合形高周波プラズマ発光分光分析装置、X線光電子分光装置、超高分解能電子顕微鏡システム、走査型プローブ顕微鏡、超高分解能電界放出形走査電子顕微鏡、試料水平型多目的X線回折装置、超伝導核磁気共鳴装置などを設置している。これらの装置、試験機は企業単独の基礎研究、応用研究や品質管理にも活用されている。

さらに、地域社会との密接な関係を保持し、実益を共有又は還元する目的で、2階には「伝統産業支援室」と「地場産業支援室」とを配している。

#### (2) 研究シーズの公開、各種コンテストの主催・共催

地域連携テクノセンターの活動紹介誌『JOINT』に教員や技術職員の研究シーズを掲載、広く外部に配本して本校の有する人的財産、資源の情報を発信している。これらのシーズは毎年更新して、ニーズとの整合性を図るべく鋭意努力している。また、専攻科委員会との協同のもと北陸技術交流テクノフェアでは専攻科2学年によるシーズ発表を継続している。さらに、平成24年度からは、センター活動の「見える化」を目的として、年3回のニュースレターの発行を始めた。

地域連携テクノセンターが主催する「マグネットコンテスト」には毎回多数の作品が寄せられ、児童、生徒や学生の理科離れ対策の一つとして、独創的な思考力の涵養の一環として役立っている。そのほか、平成22年度以降「越前市中学生ロボットコンテスト」や「歯みがきロボットコンテスト」が共催事業に加わっている。

上記以外にも、全国高専テクノフォーラム、丹南産業フェア、さばえものづくり博覧会などに出展して、地域連携テクノセンターの活動内容及びその成果を公表している。

### (3) 起業家の育成と事業創出の支援

福井県内での起業意欲を高揚し、伝統産業や地場産業の活性化に寄与する目的で、地域連携テクノセンターの3階には「アントレプレナーサポートセンター」を置いている。ここは、地域の産業活性化プランと連携しながら起業のための基礎知識や活動方針を研鑽する施設であり、修了後は地元の行政機関が準備する支援施策に則って事業に着手することになる。

対象者は数年後に起業を志す、もしくは、自らのアイデアを事業に結び付けたいと考える地域の技術者及び本校の学生であり、オフィススペースを半年契約で最長1年間提供しており、平成24年度には3名が入居した。

これら(1)、(2)、(3)に加えて、地域連携テクノセンターでは「JOINTフォーラム」の開催や「丹南地区における緊急連絡システム」の運用などを通して、最近の研究事例・技術開発への取り組みを紹介するとともに地域社会の安全に貢献するべく尽力している。また、平成24年7月からは高専機構運営費交付金対象事業である「企業技術者等活用プログラム」に“地域の匠を活用した科学クラブの共同教育”が採択され、科学技術系クラブの指導者として地域の企業技術者等を招聘する事業を実施した。

活動状況（平成 24 年度）

	事業
5 月	地域連携テクノセンター活動紹介誌『JOINT 2012』の発行
6 月	平成 24 年度 福井高専地域連携アカデミア総会の開催 第 2 回小水力発電アイデアコンテスト合宿に参加 地域連携テクノセンター News letter Vol.1 発行
7 月	企業技術者等活用プログラム『地域の匠を活用した科学クラブの共同教育』の実施 〔平成 26 年 3 月末まで〕 「越前市ロボットコンテストに係る製作講習会・第 1 回」〔共催事業の一環〕
8 月	第 10 回全国高専テクノフォーラム（京都府で開催）に参加、出展 第 6 回きのくに学生ロボットコンテスト・小学生部門（支援事業）講習会及び予選会の開催 「越前市ロボットコンテストに係る製作講習会・第 2 回」〔共催事業の一環〕
9 月	夏休み工作教室（共催）の開催 丹南産業フェア 2012 に参加、出展 第 6 回歯みがきロボットコンテスト（共催）及び表彰式に参加 2012 マナビフェスティバル（生活学習館）に出展 第 18 回マグネットコンテスト（主催）作品募集〔～9 月 30 日〕 越前市中学生ロボットコンテスト 2012（共催）及び表彰式に参加
10 月	北陸技術交流テクノフェア 2012 に参加（専攻科 2 年生によるシーズ発表） 2012 マナビフェスティバル（若狭）に出展 企業技術者等活用プログラム第 1 回全体講習会の開催 地域連携テクノセンター News letter Vol.2 発行
11 月	第 8 回 FIT ネット商談会に出展 さばえものづくり博覧会 2012 に参加・出展 TECH Biz EXPO 2012 に参加 JOINT フォーラム 2012（シーズ・ニーズ発表会）の開催
12 月	第 18 回マグネットコンテスト（主催）最終審査会の開催 エコプロダクツ 2012 に参加 第 6 回きのくに学生ロボットコンテスト・小学生部門（支援事業）に参加 企業技術者等活用プログラム第 2 回全体講習会の開催
2 月	第 18 回マグネットコンテスト（主催）表彰式の開催
3 月	第 2 回小水力発電アイデアコンテストの発表会に参加 アカデミア会員企業見学会の開催



## 2. 点検・評価

地域等における各種イベントへの出展、主催・共催事業については、例年どおりの活動ができ、新規事業も実施することができた。よって、達成度評価はAと判断する。

共同研究と受託研究の受け入れについては、件数、金額ともに昨年度を下回った。よって、達成度評価はBと判断する。

## 3. 改善課題・方策

共同研究と受託研究の件数、金額ともに、ここ数年減少傾向にある。そのため、テクノセンターの活動の見える化、地域連携アカデミアとの連携事業の活性化、研究シーズ集の充実など、産官学共同研究の促進に繋がる活動を行う。そのためには、産官学の連携をサポートするコーディネーターの存在が必要不可欠であり、今後はその任用方法と研究支援体制について、研究改善委員会と連携して検討する。

## ○ 教育研究支援センター

### 1. 現状

#### (1) 基本方針

平成16年4月に開設した教育研究支援センターは、技術職員の教育支援業務や技術支援業務を組織立って、かつ、効率よく行うことを使命とし、それらを円滑に全うするために「業務推進委員会」を設置している。さらに、技術職員の素養や意欲を高めるとともに地域社会に貢献する趣旨のもとに、3つの「ワーキンググループ」を置いて活動している。また、技術職員の行動目標に“職務期間を通して学習・自己研鑽を継続すること”、“論理的コミュニケーション能力の習得と向上に努めること”、“技術者倫理を重んじて社会や技術の発展に寄与すること”を掲げている。

#### (2) 活動状況（平成24年度）

##### ① 教育支援

本科ではものづくり科学、コンピュータ科学入門、化学実験、物理実験、工学基礎物理（実験）のほか専門5学科の製図、実験、実習、演習、卒業研究などの支援業務に、また、専攻科では環境システム工学実験の支援業務にあたった。

##### ② 技術支援

専門学科より依頼のキャンパスウォーク（5月）、キャンパスツアー（8月）、キャンパスリサーチ（10月）や公開講座、出前授業、コンテストなどの支援業務を担った。さらに、福井県和紙工業協同組合より委託の水質検査及び東海・北陸地区高等専門学校ロボットコンテストに出場するロボットの製作指導を行った。

##### ③ ワーキンググループ

###### ア 研修ワーキンググループ

平成24年9月19日、大会議室において『研修出張報告会』を開催した。

研修名称と報告者は次のとおり。

- |                                   |               |
|-----------------------------------|---------------|
| ○ 独立行政法人 国立高等専門学校機構 初任職員研修        | 舟洞職員          |
| ○ 東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員研修           | 片岡職員          |
| ○ 独立行政法人 国立高等専門学校機構 東日本地域高等専門学校   |               |
|                                   | 技術職員特別研修 坪川職員 |
| ○ 東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修－電気・電子コース |               |
|                                   | 清水職員          |
| ○ 東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修－電気・電子コース |               |
|                                   | 北川職員          |
| ○ 東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修－機械コース    | 藤田職員          |
| ○ 東海・北陸地区国立高等専門学校技術職員技術長連絡会議      | 齋藤職員          |

当日は、上記の報告会に引き続き『科学研究費補助金（奨励研究）の取得

に向けた勉強会』も開催した。申請者は6名であり、昨年を2名上回った。

平成25年3月12日には、大会議室で全教職員を対象に『平成24年度教育 研究支援センター発表会』を若手技術職員6名による発表会を開催する予定である。

#### イ 学外貢献ワーキンググループ

教育研究支援センターとして初めて“校長裁量経費によるプロジェクト等の募集”に「公開講座等新規テーマ構築プロジェクト（平成25年夏季実施予定）」及び「新規公開講座開講プロジェクト（平成24年秋季実施）」の名称で申請、採択された。

平成24年7月22日に公開講座『親子科学教室－科学は身近にあふれている。さあ、科学の扉を開けましょう！』を、11月3日には『親子で作る初めてのオリジナル写真年賀状』を開催した。前者の参加者は39名、後者は12名であり、事後アンケートにはいずれも“適切なテーマであった”、“次の機会も申し込みたい”との回答を多く得た。

#### ウ 広報・総務ワーキンググループ

教育研究支援センターのホームページの逐次更新、サーバに収められている多様なフォルダーの整理（フォルダーの削除や新設、フォルダー内の各種ファイルの整合）ならびに保存の規則（案）の作成を行った。ここで、サーバ内部の再構築は次年度にわたる作業となるが、完了の折には必要な資料を即座に検索して閲覧可能な態勢が整うことになる。

活動広報誌である『教育研究支援センター 平成24年度年次報告－第8号』を企画、編集して平成25年3月に発行する予定である。

#### ④ 情報の共有化

再雇用を含む全ての技術職員を構成員とする「連絡会」を定期的を開催して「教育研究支援センター運営委員会」や「業務推進委員会」での審議内容を詳細に報告するとともに、各ワーキンググループで立案、検討している事項や話題を紹介することで情報の共有化と理解の深化とを図っている。

平成24年度は「連絡会」を7回開催し、例えば長期におよぶ、あるいは、短期間で解決できる複数の課題を見出して、センターの運営にあたりそれらを導入・活用する方策について忌憚の無い意見を交わした。

## 2. 点検・評価

常勤の技術職員自らが記入した当該年度の担当業務シート及び業務改善目標管理シートをもとにセンター長との期首面談（5月）、期中面談（10月）、期末面談（3月）に臨んで進捗状況を確認、改善意識の持続・向上に努めている。さらに、期末に提出する職務行動点検・評価シートと併せて当該年度の達成度を自己分析することに

よって、センター全体の次なる目標設定に役立てている。

このことと前項2に記載した活動状況、さらに、運営委員会の組織に総務課長と学生課長を新たに加えて“教員－事務職員－技術職員の連携強化”を図った点、教育支援（授業担当）依頼書の様式を改めて“技術職員が担う業務の明確化”を図った点などに鑑み、平成24年度の達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

教育研究支援センター開設8年が経過したのを機に、次年度まで継続する課題として『より安全な実験、実習を行うための方策（仮称）』の検討に着手した。平成24年度は、技術職員の立場で経験した危険な事例（ヒヤリハットを含む）の収集・整理に重きを置いた。引き続き、対策の提案に移行するが、この課題は当センターにおけるPDCAサイクルのC（チェック）にあたるものと認識しており、印刷物の刊行などによる成果の公表をもってA（アクション）にいたることを達成目標としている。

## IV-4. 委員会等に関する事項

### ○ 教育システム推進委員会

#### 1. 現状

##### (1) 教育システム推進委員会の業務

本校の教育システムを円滑に運用し、その充実を図るために、教育システム評価委員会から平成24年2月に改正された委員会である。委員会の主な業務内容としては、教育システムに関する次の事項に関して、連絡、調整及びフォローアップ等を行う。

- ① 教育システムの実施に関すること。
- ② 教育システムの点検、評価及び改善に関すること。
- ③ その他教育システムの推進に関すること。

##### (2) 平成24年度の活動

本校のPDCAサイクルにおける役割について、旧委員会(教育システム評価委員会)は「Action」に位置付けられていたが、新委員会(教育システム推進委員会)はPDCAのいずれかに属するのではなくPDCAサイクルが決められたとおりの手順で回っているか調整・橋渡し・フォローアップを行う委員会であるといった認識のもと以下の様な取り組みを行った。

教育システム推進委員会には共有フォルダがあり、ユーザー名とパスワードにより委員のみが資料保存・閲覧可能となっており、平成16年度から昨年度までの教育システム評価委員会の資料も保存されており、必要な時に過去のアンケート結果などが閲覧可能である。そこで、

- ① 教育システムの実施に関することとして、共有フォルダ中のPDCAファイルへの書き込み状況を確認した。

ア 平成23年度PDCAサイクルの記載状況(アンケート結果などのデータ含む)

イ 平成24年度PDCAサイクルの平成23年度からの変更点等の確認(各種委員会からの提案)や記載(データ含む)

また、外部評価や第三者評価、学内の学生からのアンケートに対する対応は不可欠であることから、

- ② 教育システムの点検、評価及び改善に関することとして、以下を確認した。

ウ 平成20年度専攻科10年審査と卒業生・修了生・進路先アンケートへの対応の集約

エ 平成21、22年度外部有識者会議における各委員からの意見・提言・その対応委員会及びその後の検討結果の集約



オ 平成23年度教育環境アンケートへの回答の集約

カ 平成24年度教育環境アンケートへの回答の各種委員会への依頼と集約

- ③ その他教育システムの推進に関することとして、平成23年度の外部有識者会議における各委員からの意見等に関する対応委員会を決定し、回答を集約した。平成24年度の外部有識者会議は平成25年3月上旬に開催されることから、意見等への対応委員会の決定等は平成25年度の教育システム推進委員会に持ち越すことが考えられる。

## 2. 点検・評価

アに関しては確認した。イに関しては平成23年度からの変更点を含めて共有フォルダ中のPDCAファイルに現在でも書き込み中である。よって、達成度評価はBと判断する。

ウ、エに関しては集約済である。オに関しては平成24年5月の学校運営会議で報告し、学生課を通して学生掲示板で回答している。カに関しては平成25年の1月下旬にアンケート結果が集計されたため、各種委員会への回答を求めているところである。よって、達成度評価はBと判断する。

③に関しては、平成23年度分に関しては集約済みである。よって、達成度評価はAと判断する。

## 3. 改善課題・方策

達成度評価がBとなっている項目は、1月末では全てのデータがそろっていないことが原因である。

教育システム推進委員会は平成24年度から本校のPDCAサイクルを円滑に推進するために体制を整えたばかりであるため、今後、更なる教育システムを確立するための方策を図っていく。

## ○ 情報セキュリティ推進委員会

### 1. 現状

第1回委員会を平成24年11月7日に開催した。委員会では、国立情報学研究所が構築している学術認証フェデレーションへ参加することを審議し、異議なく承認された。このことについて、上部委員会である情報セキュリティ管理委員会で本案件を審議していただき、審議の結果、承認された。

高専機構では、平成24年度より各高専の情報セキュリティ監査を実施している。本高専は平成25年度の監査実施予定校である。監査を受けるにあたって、平成25年3月末を目標に本委員会のもとで情報セキュリティ管理規定、情報セキュリティ推進規定、情報セキュリティ教職員規定を見直し、不備な点があれば修正（案）の策定を行い、平成25年度早々には成案を得、整備する。

### 2. 点検・評価

学術認証フェデレーションへの参加は、本校の認証サーバーに登録しているユーザーIDとパスワードで商用のデータベースサービスや他機関（大学及び高専）のサービスをシングル・サイン・オンで利用できるものであり、教職員・学生の利便性向上が期待されるものである。現状において記載したとおり、学術認証フェデレーションへの参加は教職員・学生の利便性に寄与する効果をもたらすものである。

平成25年度中の情報セキュリティ監査へ向けて、情報セキュリティ管理規定、情報セキュリティ推進規定、情報セキュリティ教職員規定の整備に向けてのタイムスケジュール、必要な作業等の洗い出しなど準備作業に着手できている。

以上のような実績を残しているので達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

特に改善すべき課題はない。

## ○ J A B E E委員会

### 1. 現状

今年度は中間審査の受審年度であり、2012年度版J A B E E基準に照らして自己点検書（概要編、自己点検結果編、添付資料編）を作成し、11月初旬に実地審査を受審した。正式な結果は、2013年5月頃に通知される。

### 2. 点検・評価

改定を行った本校の「環境生産システム工学」プログラムが目指す技術者像、学習・教育目標及びそれらの評価方法等を、自己点検書及び実地審査を通して審査団に伝えることができた。したがって、達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

3年後の継続審査に向けての準備を開始することが今後の活動目的となる。J A B E Eの求めるものは継続的な教育改善であることから、J A B E E基準に照らして、常に、改善がなされるように教務委員会及び専攻科委員会に提言を行っていくことを第一とする。

また、2012年度版J A B E E基準による自己点検書は、自己点検が記述しやすく改良されているため、すべての項目に対して自己点検が行いやすい。したがって、今後は、毎年度自己点検書を作成し、J A B E E基準による自己点検を委員会で円滑に実施することが可能となるシステムの構築を検討していく。

## ○ 研究紀要委員会

### 1. 現状

第1回研究紀要委員会を6月11日に開催した。第1回委員会では各学科に投稿依頼をお願いするとともに、原稿締め切りを9月11日に、公聴会の期間を9月中とすることなどを審議し、了承された。また、投稿手引きの英文要旨に和訳をつける項目に関して、その必要性を学科・教室等で議論し、次回の委員会で審議することにした。

第2回研究紀要委員会を10月4日に開催した。第2回委員会では投稿論文の査読報告書もとに物質工学科、環境都市工学科、一般科目教室の各委員から公聴会の状況及び論文審査について報告があった。一部語句の修正、タイトルの変更があったもののその他に特に問題はなく、投稿されたすべての論文が研究紀要への掲載に適するものであるとの報告であった。この結果、投稿されたすべての論文を研究紀要46号に掲載することにした。また、英文要旨の和訳提出については、各科教室での意見聴取の結果、次年度以降は英文要旨に和訳を付けないことになった。

12月に例年どおり研究紀要46号を刊行した。

### 2. 点検・評価

今年度の投稿件数は自然・工学系 4編、人文・社会系 5編の計9編であった。過去3年間の投稿件数は次のとおりである。

平成23年度 自然・工学系 7編、人文・社会系 5編 計14編

平成22年度 自然・工学系 5編、人文・社会系 2編 計7編

平成21年度 自然・工学系 3編、人文・社会系 4編 計7編

この状況から、今年度の投稿件数も例年並みであると考えられるため、今年度の達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

ここ数年、特に自然・工学系においては投稿件数が低迷しており、さらに今後も減少する傾向にあると思われる。このことは研究紀要が研究業績の対象となっていないことに原因はあるが、投稿件数を増加させるための、新たな改善方策を検討することは必要であると思われる。しかし、現在その具体策はない。

## ○ 遺伝子組換え委員会

### 1. 現状

(1) 平成24年度遺伝子組換え実験の申請及びその実験実施の承認（下記10件）。

実験責任者：物質工学科教授・高山勝己

番号	第二種使用等の名称	拡散防止措置の区分	実験実施期間
24-1	有機リン加水分解酵素を表面発現した酵母を用いる有機リンセンサーの開発	P1 レベル	2012. 4-2013. 3
24-2	KIKF 及び KikGR 遺伝子の大腸菌発現実験（微生物等使用実験）	P1 レベル	2012. 4-2013. 3
24-3	pUC19 を用いる遺伝子組換え学生実験（微生物等使用実験）	P1 レベル	2012. 4-2013. 3
24-4	変異原性試験 umu-テスト ウムラック AT（微生物等使用実験）	P2 レベル	2012. 4-2013. 3
24-5	Esherichia coli ニトロレダクターゼ遺伝子の酵母表層発現	P1 レベル	2012. 4-2013. 3
24-6	Hexa-His, YMT, 人工フィトキラチン表層発現させた酵母の創製	P2 レベル	2012. 4-2013. 3
24-7	Acinetobacter, Pseudomonas, Gluonobacter 属を用いるバイオ燃料電池の研究	P2 レベル	2012. 4-2013. 3
24-10	シロイヌナズナを対象とした遺伝子組換え実験	P1 レベル	2012. 12-2013. 3

実験責任者：物質工学科講師・川村敏之

番号	第二種使用等の名称	拡散防止措置の区分	実験実施期間
24-8	トランスジェニックメダカの作製	P1 レベル	2012. 4-2013. 3
24-9	GFP 発現大腸菌（遺伝子組換え実験キット使用学生実験）	P1 レベル	2012. 12-2013. 3

(2) 文部科学省「病原性微生物等の保管・管理の徹底及び保有状況等の調査」の実施及び調査報告書を提出した。

(3) 厚生労働省からの「臨床研究に関する倫理指針」の周知徹底依頼（通知）について、本校において臨床研究に携わる関係者に対して、再度当該臨床研究指針の周知徹底及びその遵守のための指導を実施した。



- (4) 文部科学省ライフサイエンス課からの「ライフサイエンスに関する生命倫理・安全対策等」の周知依頼について、本校の関係研究者に対して、「生命倫理・安全対策等に関する最近の動向について」(配付資料)を基に、ライフサイエンス実験等についての留意・注意事項等の指導を実施した。

## 2. 点検・評価

本年度の実施・活動状況については例年同様の実績と成果が見込まれ、達成度評価はBと判断する。

## 3. 改善課題・方策

ライフサイエンスに関する生命倫理・安全対策、特に、遺伝子組換え実験等に関する安全対策について、本校においては、社会の動向や研究の進展を踏まえつつ、法令や指針の適切かつ効率的な運用及びその遵守のための必要な体制を更に整備するとともに、関係研究者へのなお一層の周知徹底を図る。

## ○ 知的財産教育委員会

### 1. 現状

特許に関しては、出願中の1件が認可された。また、1件が職務発明としての出願が認められた。また、知的財産に関する講演会を2件開催した。1件は、本科1年生対象であり、講師は株式会社村田製作所の技術者（本校卒業生）、題目は「自転車型ロボット“ムラタセイサク君®”の開発と知的財産」である。もう1件は、夏休み期間中にインターンシップに参加する専攻科1年生が対象であり、講師は弁理士の方、題目は「会社等における知的財産管理」である。いずれも、今後の知的財産を扱う技術者に必要な知識を身につける有意義な機会であった。

### 2. 点検・評価

学生への知的財産教育の一環として講演会を実施し、教員による特許取得も実現できた。よって、達成度評価はBと判断する。

### 3. 改善課題・方策

モデルコアカリキュラムの観点から、知財教育をカリキュラムに組み込むことが求められている。今後、教務委員会や専攻科委員会と連携した協議が必要である。また、本校教職員による特許出願をさらに増加させるための支援体制の構築が必要である。

## ○ ネットワーク委員会

### 1. 現状

第1回委員会を平成24年7月26日に開催した。委員会では、環境都市工学科棟改修に伴う移転先でのネットワーク仮設工事の概要を報告した。続いて、平成25年4月より運用開始予定である校内LAN基幹サーバー系等を更新する校内LANシステム仕様書（案）に基づき、整備の基本的な計画案、仕様案、及び導入日程（案）を審議した。審議の結果、校内LANシステムの整備の案は原案どおり承認された。

### 2. 点検・評価

校内LANシステムは、平成24年4月に機構本部の一括調達によってファイアウォールと認証サーバーを導入し、問題なく稼働している。本委員会で審議した校内LANシステムの整備計画案は、これに続くものであり、新しい校内LANシステムを作り上げるものである。その点において、整備計画案では、新しい技術を導入するサーバー群と現行のグループウェアをより機能豊富なシステムに更新するものである。

現状において記載したとおり、校内LANシステムの整備計画案では新しい技術要素を取り入れること、グループウェアを重視して更新するなど意欲的に計画を実施しようというものである。

以上のような実績を残している。よって、達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

特に改善すべき課題はない。

## ○ 安全衛生委員会

### 1. 現状

安全衛生委員会は、本校教職員の健全な就労環境と健康の維持を主目的にしたものであるが、その達成のため以下のことを行っている。

#### (1) 健全な就労環境維持：

- ① 月1回の巡視による危険箇所や不衛生なところなどを行い、規則に適した状態を維持するように指導・助言・監督を行うこと。
- ② 就業上のリスク管理（安全教育やマニュアルの作成など）が適切に行われているかのチェック
- ③ 心身にハンディキャップを持つ教職員に対して、産業医との連携の下で適切な作業負担を考慮しつつ就労環境の整備に努めている。

#### (2) 健康維持・管理：

- ① 法定の健康診断（定期・特定）を実施し、異常が認められた者には産業医との面談等を含め適切な措置を講じるよう指導を行っている。
- ② メンタルヘルスに関しては、カウンセラーによる相談（随時）や高専機構の相談室の利用を勧め、必要があれば産業医のアドバイスも受けられるよう体制を整えている。また、定期健康診断時に合わせてストレスチェック（アンケート形式）を行い、過重なストレスが健康に悪影響を及ぼすことの無いよう、産業医・カウンセラーと連携を取りながら対処している。
- ③ 健康増進に関しては、軽作業が多い就労環境であることを考慮して、エアロバイクやルームランナーなどを設置したり、休憩時間等の散歩などを勧め、運動量を増やす工夫を行っている。また、リスク管理の観点から、感染症対策に努めており、麻疹やインフルエンザ等のワクチン接種における経費の全額または一部を補助することで接種率の向上を図っている。

### 2. 点検・評価

健全な就労環境の維持に関しては、適切に運営され、支障の無い環境が維持されているといえる。また、健康の維持管理においては、絶対評価が難しい側面はあるが、サポート体制において十分な体制を整えていると考える。よって、達成度評価はAと判断する。

### 3. 改善課題・方策

健全な就労環境の維持に関しては現行を継続し、評価疲れにならないよう工夫をしながら巡視やアンケートを行い、結果を適切にフィードバックして行くことに努める。また、健康維持管理に関しては、個人意識の啓発を図り、重篤化する前に専門機関に相談するように勧奨していく。

## V. 総括

前章で行った自己点検・評価を事項ごとに、自己点検・評価委員会として総括する。

### (1) 全学的に関する事項

教務関係については、本校の基本理念に基づいて、学生が学習・教育目標を達成するよう教育が行われている。数年来続けている原子力人材育成や長岡技術科学大学との戦略的技術者育成協働教育のプログラムが効果的に実施されている。また、本校の教育レベルの維持・向上を図るため、本校を紹介するリーフレットを作成して福井県の全中学生に配布し、年3回のオープンキャンパス等を開催するなどして入学者確保の努力が鋭意なされている。さらに、推薦選抜の推薦要件や100分授業の問題点解決のための検討が行われ、積極的な改善活動がなされている。

学生指導関係については、高専独自の5年一貫の担任による指導体制が、社会から高い評価を受けている。学生を対象とした講演会、ボランティア活動やものづくりコンテスト等の課外活動の奨励、健康管理・安全管理及びメンタルヘルス関連の対応強化など、人格形成の人間教育が実践され、学生支援及び学生の主な活動は効果的に行われている。

学寮関係については、遠隔地の学生に就学の便を与え、共同生活を通して人間形成を図っている。平成23年度からは短期の外国人留学生の受け入れを実施し、留学生と寮生の交流を促進している。寮監と関係教員との連携、寮生の安全確保への取り組みなど、成果を上げている。また、寮生アンケートの結果もおおむね満足であることが読み取れ、学寮の運営が適切に行われている。

進路指導関係については、低学年から「社会において自立できる力の養成」を活動の方針とし、2年生での校外研修、3年生での工場見学旅行、4年生でのインターンシップなど、5年での進路選択に向けて、多様な進路指導が適切に行われている。キャリアポートフォリオ、先輩講座、合同企業説明会なども行われ、複数のキャリア教育の実践があり、十分に成果を上げている。

研究活動関係については、毎年実施している「研究活動評価調査」において、Aランクの教員が全体の8割弱である。豊橋技術科学大学との人事交流も行われている。科学研究費補助金の申請率は6割程度であり、外部資金獲得額の改善傾向はみられるが、外部資金獲得への継続的支援体制の構築が望まれる。

地域・社会貢献活動関係については、公開講座、出前授業、大学連携リーグや、クラシックコンサートなど様々な活動を行っている。平成24年度の公開講座は21講座に235名が参加し、アンケートでは90%の参加者が「とても面白い」又は「面白い」と回答し、満足度も高い。出前授業や公開講座への学生の参加協力も多く、その教育効果も期待できる。

国際交流関係については、プリンスオブソンクラ大学（タイ）との交流協定の締結に向



けての交渉も進んでおり、海外インターンシップ派遣、姉妹校との交流事業などを通して、国際交流分野における意識向上を図っており、効果が上がっている。

施設整備関係については、老朽化及び狭溢化解消、耐震、バリアフリー化を目的とした改修が年間を通して、予定以上に実施されており、学内の学習環境、生活環境の改善、施設マネジメントの充実に努めている。

## （２）各学科・教室等に関する事項

本科の専門学科（機械工学科・電気電子工学・電子情報工学科・物質工学科・環境都市工学科）は、それぞれのカリキュラム内で基礎学力の増強とともに、創成科目や実験実習科目などの体験型科目を重用し、実践的で国際化・高度情報社会に対応できる技術者の養成を図っている。また、各学科の特色ある教育を打ち出して、将来の重点目標を立て、取り組んでいる。しかも、複数の学科では、女子の志望者拡大に努力している。氷河期とも言われるこの時期に、各学科の就職状況は、大学等と比較すると、大変良好であり、中堅技術者となることを希望する女子中学生の志望者増が期待できる。また、本科卒業生の半数近くが高専専攻科及び大学編入しているが、高専本科で得た知識及び技術力を活かして、社会で活躍することが推察できる。このような高専の優位性を周知するため、オープンキャンパスの充実、出前講座や公開講座を増やすなど活発にPR活動していることは評価できる。情報設備や実験施設に関しては、今年度の補正予算によるマスタープランの実施により、より一層の設備の充実が図られることが期待できる。

一般科目教室は、大学の教養課程に匹敵するレベルを目指しているのに加えて、物理や数学をはじめ、ほとんどの科目で、専門学科の教員と一緒にネットワークを組み、意見交換を行いつつ、教育改善につなげていることで着実に成果を上げている。また、英語科では、校内で英検やTOEIC・IPを実施するなど、アウトプット重視の活動が目立ち、効果を上げている。

本科生が進学する専攻科（生産システム工学、環境システム工学）では、デザイン教育の充実、及び海外に学生を派遣する活動を積極的に行い、グローバル社会に適応した人材育成に努めている。魅力ある専攻科の充実を図っており、その成果が認められる。

さらに、各学科・教室・専攻科とも、時代に適応したアドミッションポリシーや授業カリキュラムの改正に取り組むことによって、独創性に富み、社会に貢献できる人材を輩出する姿勢が見られる。

## （３）センター等に関する事項

学生相談室では、本年度専門カウンセラーの来校回数を増やし、来談学生の対応に当たっている。加えて、教職員の研修会への参加を積極的に進めている。保健室では看護師 2 名体制を採ったこと等により、インテーカーとしての役割がより充実し、利用者数の増加にも効果的な役割を果たしている。

図書館では、図書館システムを全国高専統一システムに切り替え、経費削減等業務の効率化とともに利用者サービスの向上を図っている。一方で、グループディスカッション等の多様な目的に対応するための空間整備が十分ではないことから、改修等の際には配慮が必要である。

創造教育開発センターでは、継続的に実施されている授業アンケートやFD研修会等の内容を、少しずつ改善する取り組みが進められている。平成24年度は教員間ネットワークの拡充に努めており、今後の成果が期待される。公開授業や大学間連携事業等では、これまでセンター員以外の教員の参加率が低い傾向が見られたものの、センターの努力により改善が進んでいる。

総合情報処理センターでは、ICカードによる入室管理システムを導入し利用者サービスの向上に努めるとともに、プリント管理システムの導入によりプリンタ用紙の半減を達成するなどきめ細かな対応が行われている。

地域連携テクノセンターでは、これまで実施してきた事業の一部を精査した上で、新規事業を展開している。一方で、共同研究や受託研究の受入が減少傾向にあり、充実した情報発信が求められている。これに対し、ニュースレターの発行による事業の「見える化」等、意欲的な広報活動が推進されている。

教育研究支援センターでは、3つのワーキンググループの設置ならびに年3度の面談を通してスタッフとの意思疎通を図っている。加えて、職務行動点検・評価シートによる自己分析機会の設定や、科研費申請に向けた勉強会の実施等、自己研鑽を促す仕組みが構築されている。

#### (4) 委員会等に関する事項

教育システム推進委員会は本校のPDCAサイクルが決められたとおりの手順で回っているか調整・橋渡し・フォローアップを行う委員会であり、アンケート等の各種委員会における教育システムの実施状況に関するデータについて確認しているため、本校の教育システム推進に効果的な役割を果たしている。

情報セキュリティ委員会は本校の情報セキュリティに関して、教職員・学生の利便性向上に寄与する効果が期待される国立情報科学研究所が構築している学術認証フェデレーションへの参加について積極的に取り組んでおり、成果を上げている。

JABEE委員会はJABEE受審に向けて学内への提言・自己点検書の作成を行っており、平成24年度の中間審査では本校の教育方法及び評価方法等を審査団に対して伝えるなど適切な役割を果たしている。

研究紀要委員会は本校研究紀要の発行について効果的な役割を果たしているが、投稿件数の低迷が問題となっており、その改善が望まれる。

知的財産教育委員会では、学生への知的財産教育の一環として講演会を実施し、教員による特許取得も実現できており、成果を上げている。

## VI. 資 料 一 覽

# 科学研究費助成事業（科研費）申請・採択状況一覧

年度	研究種目名 金額・件数等		新学術領域研究（研究領域提案型）	基盤研究（B）一般	基盤研究（B）一般【助成基金】	基盤研究（B）海外学術調査	基盤研究（C）一般	基盤研究（C）一般【助成基金】	挑戦的萌芽研究（萌芽研究）	挑戦的萌芽研究【助成基金】	若手研究（B）	若手研究（B）【助成基金】	若手研究（A）	若手研究（A）【助成基金】
	金額（単位：千円）	件数（単位：件）												
	申請総額	採択総額	申請件数	採択件数										
平成21年度	214,514	51(7)	0	2(1)	0	0	21(6)	0	10(0)	16(0)	2(0)	0(0)	2(0)	0(0)
平成22年度	163,105	40(5)	0	1(1)	0	0	17(3)	0	7(0)	14(1)	1(0)	0(0)	1(0)	0(0)
平成23年度	161,936	39(2)	1	2	1	0	2(2)	10	6	18	0	0	0	0
平成24年度	204,451	47(4)	1(1)	1	1	1	2(2)	17	6(1)	18	1	3	0	0

※平成23年度から、基盤研究（C）一般【助成基金】・挑戦的萌芽研究【助成基金】・若手研究（B）【助成基金】が新設された。  
 ※平成24年度から、基盤研究（B）一般【助成基金】・若手研究（A）【助成基金】が新設された。

注1. ( )書は、継続で内数。【申請件数と採択件数に相異があるのは、研究者の転出による減】  
 注2. は、当該年度の科学研究費補助金制度にない研究種目

注3. 採択金額の ( ) 書きは間接経費で内数。

# 科学研究費助成事業（科研費）採択内訳

研究科目	所 属	職 名	氏 名	申請額		研 究 課 題
				直接経費	間接経費	
新学術領域研究	機械工学科	教授	加藤寛敬	2,800	840	バルクナノメタルの特異なトライボロジー特性の解明
基盤研究（B）	機械工学科	教授	安丸尚樹	5,000	1,500	表面改質層のフェムト秒レーザー援用ナノ構造化による高機能金属表面の創製
基盤研究（C）	機械工学科	教授	加藤寛敬	800	240	摩擦表面層のトライボメタラジーとその応用
	環境都市工学科	教授	吉田雅穂	700	210	温暖化対策と林業活性化に貢献する間伐材を用いた地盤補強技術の開発
挑戦的萌芽研究	電気電子工学科	教授	川本 昂	700	210	ナノカーボンを用いたペーストフリー脳波電極の開発
若手研究（B）	一般科目教室	講師	山田孝禎	2,200	660	運動中のセカンドウインド促進のための骨格筋代謝産物の除去に対するアミノ酸摂取効果
	電気電子工学科	准教授	西 仁司	2,500	750	高専における組み込みシステム開発者教育手法の研究
	環境都市工学科	准教授	辻野和彦	2,100	630	地域の防災力向上に資する防災マップの作製に関する研究
合 計			8件	16,800	5,040	
				21,840		

平成24年度

平成24年度

研究科目	所 属	職 名	氏 名	申 請 額		研 究 課 題
				直接経費	間接経費	
平成23年度 新学術領域研究 基盤研究（C）	機械工学科	教授	加藤寛敬	3,200	960	バルクナノメタルの特異なトライボロジー特性の解明
	機械工学科	教授	加藤寛敬	800	240	摩擦表面層のトライボメタラジーとその応用
	環境都市工学科	教授	吉田雅穂	1,200	360	温暖化対策と林業活性化に貢献する間伐材を用いた地盤補強技術の開発
挑戦的萌芽研究	電気電子工学科	教授	川本 昂	1,200	360	ナノカーボンを用いたペーストフリー脳波電極の開発
合 計			4件	6,400	1,920	
				8,320		

平成23年度



# 科学研究費助成事業（科研費）採択内訳

研究科目	所 属	職 名	氏 名	申請額		研 究 課 題
				直接経費	間接経費	
基盤研究(B)	機械工学科	教授	安丸尚樹	1,600	480	フェルト秒レーザー援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究
	一般科目教室	教授	坪川武弘	900	270	気候変動の数値モデルを題材とした数学教材の調査と開発
基盤研究 (C)	機械工学科	教授	加藤寛敬	1,700	510	摩擦表面のトライボメタラジーとその応用
	環境都市工学科	准教授	吉田雅穂	1,600	480	温暖化対策と林業活性化に貢献する間伐材を用いた地盤補強技術の開発
若手研究 (B)	電子情報工学科	助教	奥田篤士	900	270	学生実験指導における効果的な動画教材作成と評価の研究
合 計			5件	6,700	2,010	
				8,710		

研究科目	所 属	職 名	氏 名	申請額		研 究 課 題
				直接経費	間接経費	
基盤研究 (B)	機械工学科	教授	安丸尚樹	2,700	810	フェルト秒レーザ <sup>*</sup> 援用ナノ構造硬質薄膜による次世代表面設計技術の開発研究
	一般科目教室	教授	長水壽寛	600	180	新たな数学教育を推進するためのカリキュラムおよび評価に関する実証的な研究
	機械工学科	教授	加藤寛敏	800	240	摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製とそのトライボロジー <sup>*</sup> 特性評価
	環境都市工学科	教授	山田幹雄	500	150	浚渫土および廃石膏ボード粉を活用した袋詰め固化物の剛性評価と構築路床への適用策
基盤研究 (C)	一般科目教室	教授	坪川武弘	900	270	気候変動の数値モデルを題材とした数学教材の調査と開発
	環境都市工学科	准教授	辻子裕二	700	210	豊かな保水性のもとに植生の自然治癒力を最大限に活かす表層崩壊斜面の安定処理策
	一般科目教室	准教授	北浦 守	2,500	750	二価マンガンイオンを用いた希土類蛍光体代替材料の量子材料設計
	電子情報工学科	助教	奥田篤士	1,200	360	学生実験指導における効果的な動画教材作成と評価の研究
合 計			8件	9,900	2,970	
				12,870		

# 外部資金受入一覧

【単位：件, 千円】

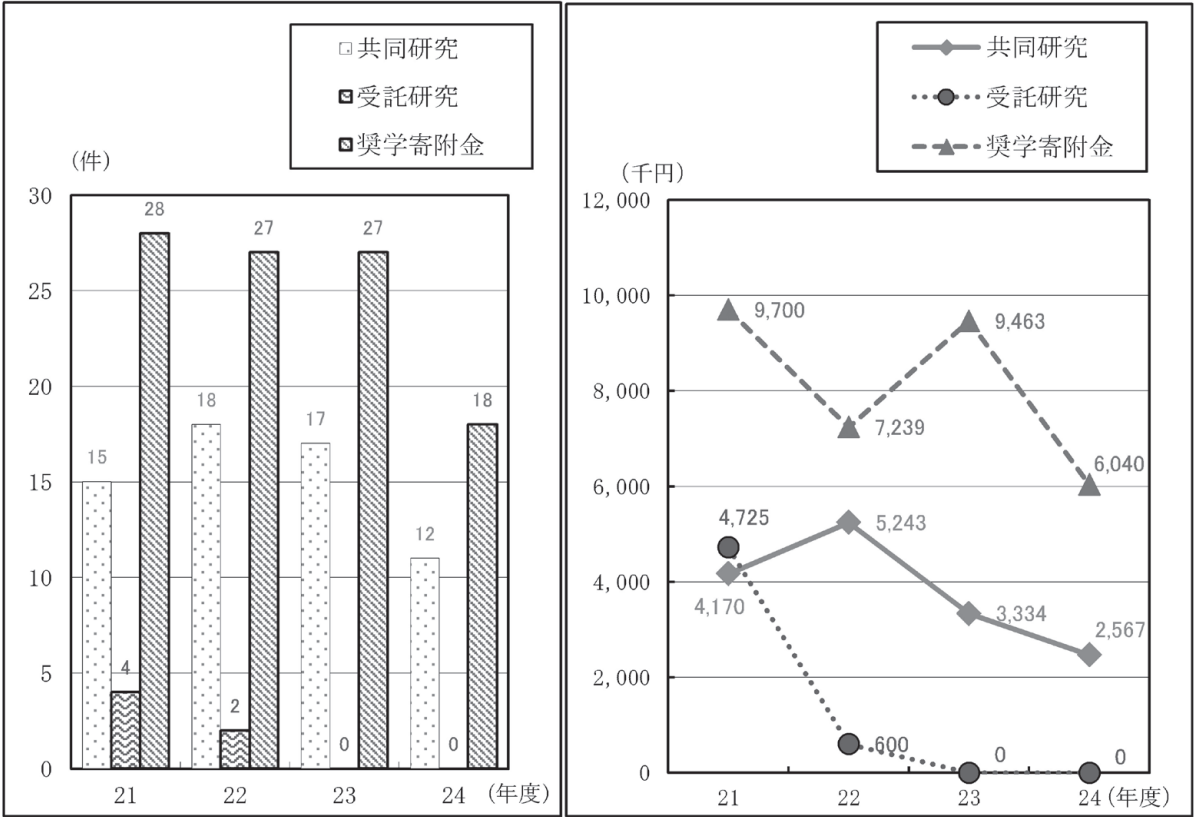
区 分	21年度		22年度		23年度		24年度	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
共同研究	15 ( 3)	4, 170	18 ( 6)	5, 243	17 ( 7)	3, 334	12 ( 5)	2, 567
受託研究	4	4, 725	2	600	0	0	0	0
奨学寄附金	28	9, 700	27	7, 239	27	9, 463	18	6, 040
計	47	18, 595	47	13, 082	44	12, 797	30	8, 607

※平成24年12月31日現在

☆共同研究の件数欄（ ）内の数字は、研究費を伴わない共同研究契約件数で、内数となっています。

件数(H21-24)

金額(H21-24)



## 民間等との共同研究受入内訳（平成24年度）

研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入金額
安価なセルラーゼを活用した同時糖化法の基礎研究	関西電力（株）研究開発室 エネルギー利用技術研究所	物質工学科 嘱託教授 吉村忠興志	平成24. 7. 11～平成25. 3. 29	462, 000
太陽光パネル表面における特殊皮膜塗装効果の検証	（株）イングス	電気電子工学科 助教 竹本泰敏	平成24. 7. 3～平成25. 3. 31	440, 000
植物の発芽・成長関連タンパク質の発現に及ぼす電界効果	（財）若狭湾エネルギー 研究センター	物質工学科 教授 高山勝己	平成24. 7. 24～平成25. 2. 28	1, 050, 000
Bacillus属細菌の渦状コロニーにおける左右認識機構の解明	長岡技術科学大学	物質工学科 講師 川村敏之	平成24. 7. 31～平成25. 3. 31	250, 000
河川等の水位表示方法と表示装置及び構築用ブロックの開発	丸高コンクリート工業（株）	電気電子工学科 准教授 米田知晃 環境都市工学科 准教授 辻野和彦 環境都市工学科 助教 田安正茂	平成24. 8. 21～平成25. 3. 31	100, 000
監視カメラの画像を利用した斜面崩壊・地すべりの検知	豊田工業（株）	環境都市工学科 准教授 辻野和彦	平成24. 9. 13～平成25. 3. 31	165, 000
稲わらおよびもみ殻などの有効活用についての研究	（有）林工務店	物質工学科 教授 高山勝己	平成25. 1. 22～平成26. 3. 31	100, 000
ウェットプロセスによるシリコンインターポーザ形成技術の開発	（財）若狭湾エネルギー 研究センター	物質工学科 教授 常光幸美	平成23. 9. 1～平成25. 3. 31	0
ウェットプロセスによるシリコンインターポーザ形成技術に関する基礎研究	（独）産業総合研究所	物質工学科 教授 常光幸美	平成23. 11. 1～平成24. 10. 31	0
次世代シミュレーション技術者教育プログラムの開発	豊橋技術科学大学	物質工学科 嘱託教授 吉村忠興志	平成24. 7. 1～平成25. 3. 15	0
「人間力」養成プロジェクト～課外活動など～	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 助教 江本晃美	平成24. 7. 1～平成25. 3. 15	0
摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製と評価～超微細組織摩擦表層の特性評価と応用～	（財）若狭湾エネルギー 研究センター	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成24. 11. 26～平成26. 3. 31	0
計	12件			2, 567, 000

## 民間等との共同研究受入内訳（平成23年度）

研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入金額
機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター長 山田幹雄	平成23.5.24～平成24.2.29	650,000
有用なセルラーゼ生成トリコデルマ菌の探索と有効利用に関する調査研究	関西電力（株）研究開発室 エネルギー利用技術研究所	物質工学科 教授 吉村忠興志	平成23.6.21～平成24.3.30	404,250
ウッドピッチを有効活用する舗装材の研究開発	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科 教授 武井幸久 物質工学科 教授 小泉貞之	平成23.7.1～平成24.3.23	1,000,000
河川等の水位表示方法及び構築用ブロックの開発	丸高コンクリート工業（株）	電気電子工学科 准教授 米田知晃 電子情報工学科 助教 奥田篤士 環境都市工学科 准教授 辻野和彦 環境都市工学科 助教 田安正茂	平成23.7.16～平成24.3.31	300,000
高密度格子欠陥を有するサブミクロン結晶粒バルク金属のトライボロジー特性	豊橋技術科学大学	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成23.7.11～平成24.3.15	50,000
シミュレーション技術者育成を旨とした教育手法と教材の開発	豊橋技術科学大学	物質工学科 教授 吉村忠興志 物質工学科 助教 佐々和洋	平成23.7.11～平成24.3.15	150,000
マルチモーダルセンサによる極限センシングシステム開発	豊橋技術科学大学	物質工学科 准教授 高山勝己	平成23.7.11～平成24.3.15	130,000
大規模系バイオ・ナノ・メタマテリアルの高精度ハイブリッド・シミュレーション研究	豊橋技術科学大学	物質工学科 助教 佐々和洋	平成23.7.11～平成24.3.15	150,000
カーボンナノチューブ分散ゴムを用いた脳波電極の開発	長岡技術科学大学	電気電子工学科 教授 川本昂	平成23.7.22～平成24.3.15	300,000
鯖江市災害時サポートガイドブック及び避難所運営管理マニュアル作成のための共同研究	(株)サンワコン	環境都市工学科 准教授 辻子裕二	平成24.2.2～平成24.3.25	200,000
摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製と評価	(財)若狭湾エネルギー 研究センター	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成22.6.1～平成24.3.31	0
高専-技科大の連続性を考慮した複合領域標準テキストの作成－空間情報学を事例に－	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 准教授 辻子裕二 環境都市工学科 准教授 辻野和彦	平成23.7.11～平成24.3.15	0
急増する広域災害に対する植生効果を考慮した対策技術の確立	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 准教授 辻子裕二	平成23.7.11～平成24.3.15	0
「人間力」養成プロジェクト～課外活動など～	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 助教 江本晃美	平成23.7.11～平成24.3.15	0
ウェットプロセスによるシリコンインターポーザ形成技術の開発	(財)若狭湾エネルギー 研究センター	物質工学科 教授 常光幸美	平成23.9.1～平成25.3.31	0
蛋白質表層発現酵母に供するプラスミドDNAの構築	(財)若狭湾エネルギー 研究センター	物質工学科 准教授 高山勝己	平成23.11.1～平成24.3.31	0
ウェットプロセスによるシリコンインターポーザ形成技術に関する基礎研究	(財)産業総合研究所	物質工学科 教授 常光幸美	平成23.11.1～平成24.10.31	0
	17件			3,334,250

# 民間等との共同研究受入内訳（平成22年度）

研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
河川等の水位表示方法及び構築用ブロックの開発	丸高コンクリート工業（株）	電気電子工学科 准教授 米田知晃 電子情報工学科 助教 奥田篤士 環境都市工学科 准教授 辻野和彦 環境都市工学科 助教 田安正茂	平成22.5.1～平成23.3.31	700,000
木タールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科 教授 武井幸久 物質工学科 教授 小泉貞之	平成22.5.11～平成23.3.25	1,000,000
高効率燃料の開発	(株)ウイングシステム	物質工学科 教授 小泉貞之 機械工学科 教授 藤田克志	平成22.5.17～平成23.3.31	500,000
有用なセルラーゼ生成トリコデルマ菌の探索と有効利用に関する調査研究	関西電力（株）研究開発室 エネルギー利用技術研究所	物質工学科 教授 吉村忠興志	平成22.5.20～平成23.3.31	369,600
機能面及びデザイントレンドを考慮したメガネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター センター長 山田幹雄	平成22.5.21～平成23.2.28	700,000
シミュレーション技術者育成を目指した教育手法と教材の開発	豊橋技術科学大学	物質工学科 教授 吉村忠興志	平成22.7.1～平成23.3.15	100,000
強ひずみ加工により作製したサブミクロン結晶粒バルク純Feの摩擦特性	豊橋技術科学大学	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成22.7.1～平成23.3.15	250,000
機能性バイオ・ナノ材料の分子シミュレーション解析	豊橋技術科学大学	物質工学科 助教 佐々和洋	平成22.7.1～平成23.3.15	200,000
有機塩素系農薬に対する分解菌の探索と同定	長岡技術科学大学	物質工学科 准教授 高山勝己	平成22.7.23～平成23.3.31	300,000
砂浜海岸に派出する小規模河川の河口閉塞に関する共同研究	長岡技術科学大学	環境都市工学科 助教 田安正茂	平成22.7.23～平成23.3.31	250,000
電界とハイブリッド光源による植物の発芽・成長制御システムの開発	植エニジニアリング(株)	電気電子工学科 教授 川本昂	平成22.10.15～平成23.3.31	273,000
ナノカーボンを用いたペーストレス脳波電極の開発	長岡技術科学大学	電気電子工学科 教授 川本昂	平成23.1.19～平成23.3.31	600,000
摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製と評価	(財)若狭湾エネルギー 研究センター	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成22.5.1～平成23.3.31	0
高専・技科大の連続性を考慮した複合領域標準テキストの作成－空間情報学を事例に－	豊橋技術科学大学	環境年工学科 准教授 辻野和彦	平成22.7.1～平成23.3.15	0
技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メソッドの開発	豊橋技術科学大学	環境年工学科 助教 江本晃美	平成22.7.1～平成23.3.15	0
防災マップのピクトグラムの視認性向上に向けたデザイン規格考案に関する取り組み	豊橋技術科学大学	環境年工学科 助教 江本晃美	平成22.7.1～平成23.3.15	0
インテリジェント医療・生物・農業 検査センサデバイスと応用研究	豊橋技術科学大学	物質工学科 准教授 高山勝己	平成22.7.1～平成23.3.15	0
分解能・偏波・波長帯の異なる複数のSARデータを用いた斜面崩壊・進路被害の把握	豊橋技術科学大学	環境年工学科 准教授 辻野和彦	平成22.7.1～平成23.3.15	0
計	18件			5,242,600



## 民間等との共同研究受入内訳（平成21年度）

研 究 題 目	申 請 企 業	研究担当教員	研究期間	受入額（円）
木タールを添加した再生アスファルト舗装材の研究開発	(財)福井県建設技術公社	環境都市工学科 教授 武井幸久 物質工学科 教授 小泉貞之	平成21.5.20～平成22.3.26	1,000,000
機能面及びデザイントレンドを考慮したメカネ等のデザイン開発	鯖江商工会議所	地域連携テクノセンター センター長 山田幹雄	平成21.7.1～平成22.2.28	700,000
メタバースを利用した高専・大学統合型協調プロジェクトベース学習手法の研究	長岡技術科学大学	電子情報工学科 助教 奥田篤士	平成21.7.24～平成22.3.31	100,000
有害残留農薬分解除去システムの基盤構築	長岡技術科学大学	物質工学科 准教授 高山勝己	平成21.8.3～平成22.2.28	280,000
超強加工した金属材料の力学特性・磨耗特性の解明	豊橋技術科学大学	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
インテリジェント医療・生物・農薬検査センサデバイスとの応用研究	豊橋技術科学大学	物質工学科 准教授 高山勝己	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
セラミック蛍光体を添加したLED封止用樹脂の開発	豊橋技術科学大学	一般科目教室 准教授 北浦守	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
機能性バイオ・ナノ材料の分子シミュレーション解析	豊橋技術科学大学	物質工学科 助教 佐々和洋	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
技術者教育としての課外活動の可能性の提示と「人間力」養成メソッドの開発	豊橋技術科学大学	環境年工学科 助教 江本晃美	平成21.8.3～平成22.2.28	200,000
衛星画像を用いた地震による道路被害早期把握に関する研究	豊橋技術科学大学	環境年工学科 講師 辻野和彦	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
森林の影響を考慮した自然斜面崩壊の力学的メカニズムに関する基礎的研究	豊橋技術科学大学	環境都市工学科 准教授 辻子裕二	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
コロイド滴定法を用いた生物由来産業廃棄物の表面電荷評価と新たな環境浄化剤の創製	豊橋技術科学大学	物質工学科 教授 小泉貞之	平成21.8.3～平成22.2.28	270,000
有用なセルラーゼ生成トリコデルマ菌の探索と有効利用に関する調査研究	関西電力株式会社 研究開発室エネルギー 利用技術研究所	物質工学科 教授 吉村忠興志	平成21.5.18～平成22.3.31	0
パルスレーザー照射表面ナノ加工による低フリクション自動車摺動部品の製造技術の開発	独立行政法人 科学技術振興機構	機械工学科 教授 安丸尚樹	平成21.4.1～平成21.12.31	0
摩擦を利用したナノ結晶微細構造表面膜の創製と評価	(財)若狭湾エネルギー 研究センター	機械工学科 教授 加藤寛敬	平成21.7.29～平成22.3.31	0
合 計	15件			4,170,000

# 受託研究受入内訳

年度	研 究 題 目	委 託 者	研究担当教員	研究期間	受入額 (円)
平成22年度	竹粉の有効活用に係る調査研究	(株) サバエコンストラクト	物質工学科 教授 小泉貞之	平成22. 7. 20～平成23. 3. 31	200, 000
	軟弱粘性土地盤における周面摩擦支持力丸太の開発と有効性の実証	兼松日産農林 (株)	環境都市工学科 准教授 吉田雅穂	平成22. 11. 1～平成23. 2. 28	400, 000
	合 計	2 件			600, 000

年度	研 究 題 目	委 託 者	研究担当教員	研究期間	受入額 (円)
平成21年度	和紙事業所における安価な排水処理システム開発に関する研究	越前市	環境都市工学科 准教授 奥村充司	平成21. 4. 15～平成22. 3. 31	200, 000
	カーボンナノチューブを用いた脳波電極の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JST/ハ・ジョンステライト滋賀	電気電子工学科 教授 川本 昂	平成21. 8. 22～平成22. 3. 31	2, 000, 000
	有機色素クラスター形成による高効率金属検出ー凝集技術の開発	独立行政法人科学技術振興機構 JST/ハ・ジョンステライト滋賀	物質工学科 准教授 松井栄樹	平成21. 8. 22～平成22. 3. 31	2, 000, 000
	越前岬水仙ランド再整備構想策定	越前町	環境都市工学科 教授 武井幸久 講師 辻野和彦 助教 江本晃美	平成21. 9. 17～平成21. 11. 30	525, 000
	合 計	4 件			4, 725, 000

## 寄附金受入内訳（平成24年度）

寄 附 者 名	寄 附 の 目 的	寄附金額（円）	担当教員等
藤産業株式会社	環境都市工学科 山田幹雄教授 の教育研究奨励	500,000	環境都市工学科 山田幹雄教授
東工シャッター株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
ジビル調査設計株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社ホクシン	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
坂川建設株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社ホクコン	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
藤産業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
株式会社福井銀行	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
武生特殊鋼材株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社アタゴ	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
吉岡幸株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
信越化学工業株式会社 武生工場	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	1,000,000	地域連携テクノセンター
大和建設株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	地域連携テクノセンター
株式会社デンソー	小水力発電アイデアコンテストのため	300,000	丸山、田安、竹本先生
ナカヤ化学産業株式会社	図書・雑誌の購入	200,000	福井工業高等専門学校長
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成	500,000	福井工業高等専門学校長
酒井化学工業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究 及び課外活動の援助・助成	3,000,000	福井工業高等専門学校長
合 計	18件	6,040,000	

## 寄附金受入内訳（平成23年度）

寄 附 者 名	寄 附 の 目 的	寄附金額（円）	担当教員等
轟産業株式会社	環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究奨励	500,000	環境都市工学科 山田幹雄教授
株式会社ホクコン	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社若吉製作所	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
酒井化学工業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	地域連携テクノセンター
東工シャッター株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社関組	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
ジビル調査設計株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
吉 岡 幸 株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
株式会社アタゴ	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
大和建設株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	地域連携テクノセンター
武生特殊鋼材株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社ホクシン	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 環境都市工学科 辻子裕二	環境都市工学科 辻子裕二准教授の教育研究奨励	151,250	環境都市工学科 辻子裕二准教授
轟産業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
信越化学工業株式会社 武生工場	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	1,000,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 地域連携テクノセンター	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	271,958	地域連携テクノセンター
丸文通商株式会社福井支店	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,500,000	福井工業高等専門学校長
サカイオーベックス株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
坂川建設株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
スガイ化学工業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
ナカヤ化学産業株式会社	図書・雑誌の購入	200,000	福井工業高等専門学校長
財団法人長岡技術科学大学 技術開発教育研究振興会	物質工学科 高山勝己准教授の教育研究奨励	200,000	物質工学科 高山勝己准教授
公益財団法人天田財団	機械工学科 安丸尚樹教授の教育研究奨励	1,400,000	機械工学科 安丸尚樹教授
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,500,000	福井工業高等専門学校長
株式会社不二越	機械工学科 田中嘉津彦教授の教育研究奨励	1,000,000	機械工学科 田中嘉津彦教授
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,120,000	福井工業高等専門学校長
合 計	27件	9,463,208	

## 寄附金受入内訳（平成22年度）

寄 附 者 名	寄 附 の 目 的	寄附金額（円）	担当教員等
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校長
轟産業株式会社	環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究奨励	500,000	環境都市工学科 山田幹雄教授
株式会社アタゴ	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
酒井化学工業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	地域連携テクノセンター
武生特殊鋼材株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社ホクコン	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
大和建設株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	地域連携テクノセンター
吉岡幸株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
スガイ化学工業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
東工シャッター株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
信越化学工業株式会社 武生工場	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	800,000	地域連携テクノセンター
株式会社サカイエルコム	電気電子工学科 山本幸男准教授の教育研究奨励	100,000	電気電子工学科 山本幸男准教授
轟産業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
ナカヤ化学産業株式会社	図書・雑誌の購入	200,000	福井工業高等専門学校長
福井工業高等専門学校 環境都市工学科 間瀬実郎	環境都市工学科 間瀬実郎准教授の教育研究奨励	38,815	環境都市工学科 間瀬実郎准教授
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	500,000	福井工業高等専門学校長
ジビル調査設計株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社関組	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,500,000	福井工業高等専門学校長
生越 久靖	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	50,000	福井工業高等専門学校長
公益財団法人 中部電気利用基礎研究振興財団	一般科目教室 池田昌弘講師の教育研究奨励	140,000	一般科目教室応用物理 池田昌弘 講師
株式会社若吉製作所	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
株式会社不二越	機械工学科 田中嘉津彦教授の教育研究奨励	600,000	機械工学科 田中嘉津彦教授
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	400,000	福井工業高等専門学校長
株式会社カズマ	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
大日コンサルタント株式会社	環境都市工学科 辻野和彦准教授の教育研究奨励	600,000	環境都市工学科 辻野和彦准教授
福井県和紙工業協同組合	物質工学科 上島晃智教授の教育研究奨励	250,000	物質工学科 上島晃智教授
合 計	27件	7,238,815	



## 寄附金受入内訳（平成21年度）

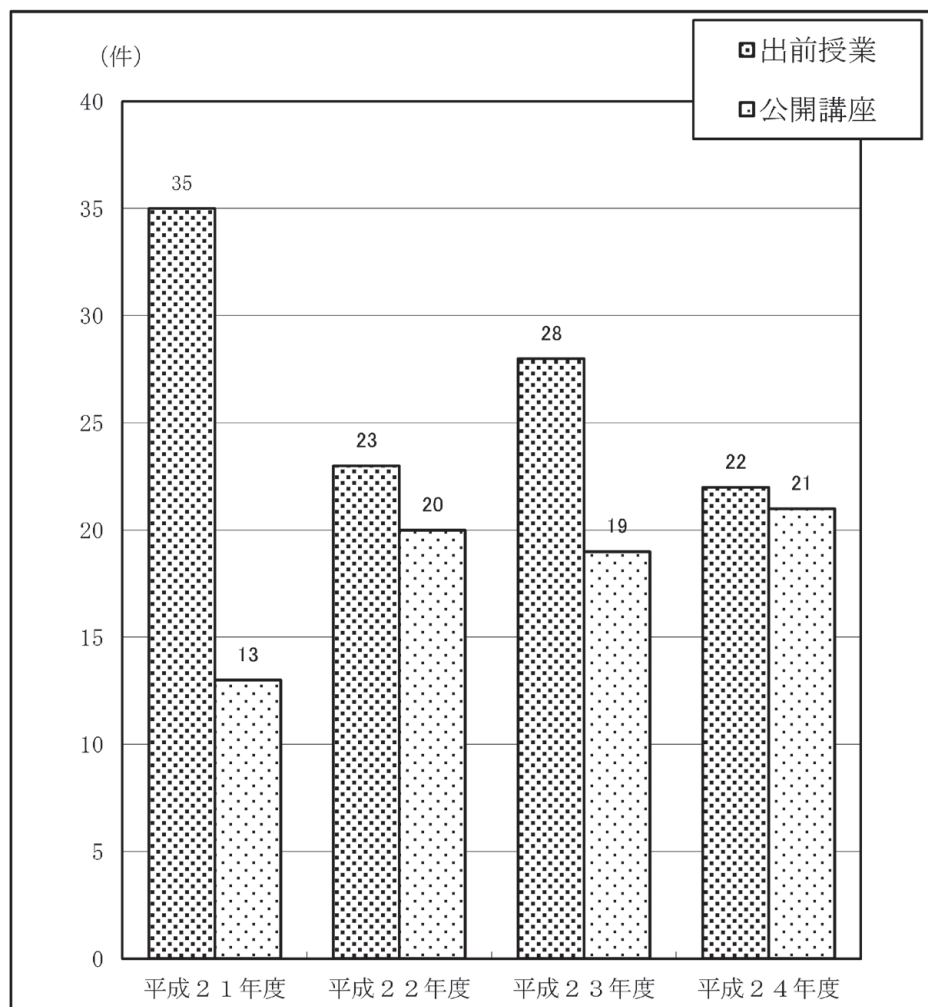
寄 附 者 名	寄 附 の 目 的	寄附金額（円）	担当教員等
福井県和紙工業協同組合	物質工学科 上島晃智教授の教育研究奨励	300,000	物質工学科 上島晃智教授
藤産業株式会社	環境都市工学科 山田幹雄教授の教育研究奨励	500,000	環境都市工学科 山田幹雄教授
株式会社ホクシン	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
武生特殊鋼材株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
東工シャッター株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
酒井化学工業株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	地域連携テクノセンター
株式会社アタゴ	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
丸一調査設計株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	60,000	地域連携テクノセンター
有限会社古川陶苑	電気電子工学科 川本昂教授の教育研究奨励	200,000	電気電子工学科 川本昂教授
株式会社ホクコン	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	100,000	地域連携テクノセンター
大和建設株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	200,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校長
株式会社カズマ	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
丸文通商株式会社福井支店	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 機械工学科 岡田 将人	機械工学科 岡田将人講師の教育研究奨励	2,000,000	機械工学科 岡田将人講師
オムロン株式会社	国立高等専門学校における制御技術に係る教育研究支 援のため	1,000,000	福井工業高等専門学校長
ナカヤ化学産業株式会社	図書・雑誌の購入	200,000	福井工業高等専門学校長
北陸テレコム懇談会	福井工業高等専門学校の教育研究助成	20,000	福井工業高等専門学校長
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校長
信越化学工業株式会社 武生工場	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	300,000	地域連携テクノセンター
株式会社サンルックス	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
信越化学工業株式会社 武生工場	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	500,000	地域連携テクノセンター
吉岡幸株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	40,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	1,000,000	福井工業高等専門学校長
スガイ化学工業 株式会社	地域連携テクノセンターの教育研究奨励	20,000	地域連携テクノセンター
福井工業高等専門学校 教育後援会	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	500,000	福井工業高等専門学校長
坂田 憲彦	福井工業高等専門学校学生の学習・研究及び課外活動 の援助・助成	150,000	福井工業高等専門学校長
福井県和紙工業協同組合	物質工学科 上島晃智教授の教育研究奨励	250,000	物質工学科 上島晃智教授
合 計	28件	9,700,000	

## 出前授業・公開講座実施一覧

(件)

年 度	出前授業	公開講座	合 計
平成 2 1 年度	35	13	48
平成 2 2 年度	23	20	43
平成 2 3 年度	28	19	47
平成 2 4 年度	22	21	43
合 計	108	73	181

※平成 2 5 年 1 月 2 1 日現在



# 出前授業実施内訳（平成24年度）

実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 一般科目教室				
10月27日	清明小学校（福井市）	正多面体を作ろう	井之上 和代、朝倉 相一、坪川 武弘、中谷 実伸、柳原 祐治、山田 哲也 他 補助学生3名	小学生 6年生 84名
■ 機械工学科				
6月16日	大虫小学校（越前市）	親子でおもちゃ作り体験	田中 嘉津彦、芳賀 正和、村中 貴幸、藤田 祐介 他 補助学生9名	大虫小 5年生と保護者 120名
6月17日	明新小学校（福井市）	親子で作る工作	加藤 寛敬、亀山 建太郎、五味 伸之 他 補助学生4名	明新小 4年生と保護者 74名
8月21日	越前市生涯学習センター	親子でおもちゃを作って遊ぼう！	加藤 寛敬、千徳 英介、金田 直人 他 補助学生5名	小学生とその保護者 47名
10月27日	王子保小学校（越前市）	親子でおもちゃづくり体験	加藤 寛敬、藤田 克志、金田 直人、五味 伸之 他 補助学生6名	小学生とその保護者 81名
12月8日	河和田公民館	おもちゃの水車を作ろう	藤田 克志 他 補助学生3名	小学 4～6年生とその保護者 22名
■ 電気電子工学科				
7月7日	東十郷小学校体育館ランチルーム	おもしろ科学実験とものづくり	川本 昂 他 補助学生1名	小学高学年とその保護者 107名
7月14日	東小学校多目的ホール（鯖江市）	おもしろ科学実験とものづくり	川本 昂 他 補助学生1名	小学 6年生とその保護者 61名
8月22日	神山保育園学童そらぐみ（越前市）	おもしろ科学実験とものづくり	川本 昂 他 補助学生1名	小学 1～3年生 30名
8月27日	越前市生涯学習センター	光と色のファンタジー	川本 昂、石栗 慎一	幼稚園（年中）～小学 6年生とその保護者 33名
10月20日、21日	福井県児童科学館	青少年のための科学の祭典2012「光を利用したものづくり」	川本 昂 他	小学低学年～高学年 284名
■ 電子情報工学科				
7月28日	武生第二中学校（越前市）	越前市中学ロボットコンテスト製作教室	西 仁司、亀山 建太郎（機械工学科）	越前市内中学生 40名
8月19日	福井市エルバ	備みがきロボット工作教室	斉藤 徹	小学生とその保護者 18名
8月25日	武生第二中学校（越前市）	越前市中学ロボットコンテスト製作教室	西 仁司、亀山 建太郎（機械工学科）	越前市内中学生 40名
12月9日	鯖江市・らてんば	子供向けプログラミング教室	蘆田 昇 他 補助学生2名	小学生とその保護者 10名
1月19日	鯖江市・らてんば	子供向けプログラミング教室及びIT教室	蘆田 昇 他 補助学生5名	小学生とその保護者 25名

## 出前授業実施内訳（平成24年度）

実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 物 質 工 学 科				
5月13日	国高ふれあいセンター	液体窒素とスライム時計	西野 純一、津田 良弘、片岡 裕一、野村 栄市	小学5～6年生とその保護者 30名
6月30日	和田小学校（福井市）	超低温の世界	西野 純一、上嶋 晃智、片岡 裕一、野村 栄市	小学4年生とその保護者 100名
7月29日	定友公民館（越前市）	超低温の世界	西野 純一、上嶋 晃智、津田 良弘、片岡 裕一、野村 栄市	小学生とその保護者 40名
9月15日	進徳小学校（鯖江市）	超低温の世界	西野 純一、津田 良弘、加藤 敏、片岡 裕一、野村 栄市	小学5、6年生とその保護者 60名
9月21日	清水中学校（福井市）	超低温の世界	西野 純一、津田 良弘、片岡 裕一、野村 栄市	中学生 80名
■ 環 境 都 市 工 学 科				
9月22日	鯖江市民活動交流センター	防災ゲーム	辻子 裕二 他 補助学生3名	小学生21名、ボランティアスタッフ10名
計				2 2 件

## 出前授業実施内訳（平成23年度）

実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 一般科目教室				
9月5日	岡本公民館	夏の夜空、星を見よう（星の物理と観望）	岡本 拓夫、吉田 三郎、補助学生1名	小学生47名、保護者、公民館関係（約100名）
■ 機械工学科				
6月18日	大虫小学校（越前市） 体育館	親子でおもちゃづくり体験	田中 嘉津彦 他 教職員3名、補助学生9名	大虫小5年生と保護者 130名
6月18日	和田小学校（福井市） 体育館	親子おもちゃ工作づくり体験	加藤 寛隆 他 教職員4名、補助学生5名	和田小4年生と保護者 41組 82名
10月15日	岡本小学校（越前市）	親子でおもちゃづくり体験	田中 嘉津彦 他 教職員1名、補助学生6名	小学校1～6年生とその保護者 90名
11月26日	王志保公民館 体育館	親子でおもちゃづくり体験	加藤 寛隆、藤田 克志、亀山 建太郎、補助学生6名	小学1～6年生（50名）保護者（37名） 計87名
■ 電気電子工学科				
6月20日	鯖江市豊小学校	環境学習「太陽熱利用」	川本 昂	豊小5年生42名
8月11日	越前市生涯学習センター	環境・エネルギーに関する科学実験と理科工作	川本 昂	小学1～6年生30人くらい
10月22、23日	エンゼルランドふくい	太陽電池や燃料電池および超伝導体を用いたおもしろ実験	川本 昂、石栗 慎一、ソーラーカー同好会学生（12名）	小中学生と保護者約100名 （動員数は約8000名）
11月5日	神明小学校 にここに触れ合い学級	科学不思議実験	川本 昂	小学4年生とその保護者160名
11月23日	財福井原子力センター 原子力の科学館 「あつとほうむ」	スペシャル実験ショー	川本 昂 ほか	幼児、小学生とその保護者約136名
■ 電子情報工学科				
8月9日	越前市生涯学習センター	LEGOでロボットを作ろう	西 仁司、奥田 篤士	越前市内の小学生（16名）
10月23日	中河小学校（鯖江市）	LEGOでロボットを作ろう	西 仁司、奥田 篤士	小学1～6年生30人くらいと保護者30名
11月5日	神明小学校 にここに触れ合い学級	A I B Oと遊ぼう	西 仁司 他補助学生5名	小学生と保護者80名×2回
12月18日	三国東区民館	A I B Oと遊ぼう	西 仁司、下條 雅史、補助学生2名（5Et）	三国東地区の幼稚園児・小学校児童とその保護者53名



# 出前授業実施内訳（平成23年度）

実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 物質工学科				
6月21日	岡本幼稚園（越前市） ホール	楽しい化学実験	上島 晃智、佐々 和洋	岡本幼稚園幼児20名と保護者20名 合計40名
8月9日	浜四郷公民館	超低温の世界	津田 良弘、西野 純一、加藤 敏、野村 栄一、片岡 裕一	小学1～6年生30人くらいと保護者5名
8月20日	くすのき児童館	超低温の世界	津田 良弘、上島 晃智、加藤 敏、野村 栄一、片岡 裕一	幼児と保護者及び小学1～6年生30名くらい
9月3日	和田小学校（福井市） 体育館	超低温の世界	津田 良弘、上島 晃智、平井 恵子、西野 純一、加藤 敏、野村 栄一、片岡 裕一	和幼小2年生と保護者 80組（160名）
9月9日	清水中学校	超低温の世界	津田 良弘、上島 晃智、野村 栄一、片岡 裕一	中学生40名
9月14日	王志保小学校（越前市）理科室	超低温の世界	小泉 貞之、松井 栄樹、高山 勝巳	小学生25名
10月15日	岡本小学校（越前市）	超低温の世界	加藤 敏、野村 栄一	小学生と保護者80名
10月23日	中河小学校（鯖江市）	身の回りのおもしろ化学	吉村 忠与志、加藤 敏、佐々 和洋、野村 栄一、片岡 裕一	小学1～6年生と保護者80名
11月5日	神明小学校 にここに触れ合い学級	超低温の世界	加藤 敏、野村 栄一、片岡 裕一	小学生と保護者40名
11月26日	（財）福井原子力センター 原子力の科学館 「あつとほうむ」	カラフルな人工イクラを作ろう カラースライムを作ろう	津田 良弘、加藤 敏、佐々 和洋、野村 栄一、片岡 裕一	小学生とその保護者 160名
■ 環境都市工学科				
7月15日	安居中学校 2年教室	地球を測る！	辻子 裕二、研究生1名	安居中学校2年生28名
9月10日	どうじゅく（さばえNPOセンター）	知ってるかな？防災のこと	辻子 裕二、研究生1名	どうじゅく塾生21名（小学生4・5・6年生）
10月15日	岡本小学校（越前市）	バスターでタワーを作ろう	阿部 孝弘、補助学生3名	児童とその親120名
11月3日	アオッサ 6階工作実習室	サイコロコロコロ エコロジーをかんがえよう！	奥村 充司	小学1～6年生20～30名
計				28 件

## 出前授業実施内訳（平成22年度）

実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 一般科目教室				
9月15日	ハツ杉千年の森	天体の観望と星のお話	岡本拓夫, 吉田三郎, 学生2名	今立地区小学生 約20名
10月7日	武生第一中学校	宇宙のはなし	加藤清考	中学3年生 48人 (24人×2回)
■ 機械工学科				
7月31日	福井高専メディアホール	越前市ロボットコンテスト講習会	亀山建太郎, 西仁司(Ei)	越前市内の中学生19人
10月31日	清明小学校	おもちゃづくり体験	加藤寛敬, 田中嘉津彦, 村中貴幸, 岡田将人, 吉田敏實, 藤田祐介, 本科生6名	小学4年生、保護者180人
10月31日	中河小学校	親子でおもちゃづくり体験	藤田克志, 専攻科生2名, 本科生4名	小学1～6年生とその保護者 59人
■ 電気電子工学科				
10月23, 24日	福井県児童科学館	青少年のための科学の祭典福井大会2010出展	川本昂	県内小中学生 ブースでのものづくり体験者 (70名)
■ 電子情報工学科				
8月6日	越前市生涯学習センター	LEGOでロボットを作ろう	西仁司, 奥田篤士	小学生16名
10月30日	武生東小学校	ロボット操作体験教室	西仁司	小学生20～25名
10月30日	越前市武生東児童館	AIBOと遊ぼう	西仁司, 学生5名	小学生およびその保護者25名
■ 物質工学科				
7月21日	王子保児童センター	越前市男女共同参画センター出前講座「わくわくサイエンス」	高山勝己ほか	小学1～3年生35人
7月30日	武生東児童センター	超低温の科学	吉村忠興志, 上島晃智, 津田良弘, 高山勝己, 佐々和洋, 野村栄市	小学1～6年生50人
8月4日	南中山児童館	超低温の科学	吉村忠興志, 上島晃智, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～3年生25人
8月11日	北日野児童館	超低温の科学	吉村忠興志, 上島晃智, 津田良弘, 西野純一, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～3年生30人
8月17日	越前市生涯学習センター	超低温の科学	上島晃智, 津田良弘, 加藤敏, 野村栄一, 片岡裕一	小学1～6年生約30人
8月24日	神山保育園	超低温の科学	吉村忠興志, 小泉貞之, 津田良弘, 常光幸美, 川村敏之, 野村栄市	小学1～3年生約42人

## 出前授業実施内訳（平成22年度）

実 施 日	出前授業先	概 要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 物 質 工 学 科				
8月26日	味間野児童センター	超低温の科学	吉村忠興志, 小泉貞之, 西野純一, 野村栄市	小学1～6年生30人
8月31日	国高児童センター	超低温の科学	吉村忠興志, 上島晃智, 津田良弘, 西野純一, 松井栄樹, 野村栄一, 片岡裕一	小学1～3年生40人
9月3日	福井市清水中学校	超低温の科学	津田良弘, 西野純一, 野村栄市, 片岡裕一	中学1～3年生60人
9月11日	鳴鹿公民館	超低温の科学	吉村忠興志, 上島晃智, 津田良弘, 松井栄樹, 川村敏之, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～6年生50人
10月2日	順化小学校	身の回りのおもしろ科学（化学）と超低温の世界	吉村忠興志, 小泉貞之, 高山勝己, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～3年生と保護者 36人
10月30日	東郷小学校	身の回りのおもしろ科学（化学）と超低温の世界	吉村忠興志, 上島晃智, 高山勝己, 野村栄市, 片岡裕一	小学5年生と保護者 35人
12月6, 7日	社中学校	バイオエタノールの生成と活用実験	高山勝己, 吉村忠興志	中学3年生30名
■ 環 境 都 市 工 学 科				
10月7日	武生第一中学校	環境のはなし	奥村充司	中学3年生 48人（24人×2回）
計				23 件

# 出前授業実施内訳（平成21年度）

実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 機械工学科				
7月11日	大虫小学校	親子でおもちゃづくり体験	田中嘉津彦、藤田克志、芳賀正和、村中貴幸、吉田敏實、学生11名	小学校5年生とその保護者（120名）
8月12日	越前市社会福祉センター	バルーンカーとホバークラフトの作製	藤田克志、亀山建太郎、金田直人、ほか学生6名	小学1～3年生（40名）
10月3日	日野小学校	親子でおもちゃづくり体験	田中嘉津彦、村中貴幸、吉田敏實	小学校5年生とその保護者
10月25日	中河小学校	親子でおもちゃづくり体験	芳賀正和、学生4名	小学生および保護者（40名）
3月14日	鯖江市神明健康スポーツセンター	アイデアロボットの演習と操縦体験	安丸尚樹、藤沢秀雄、学生6名	小学生、保護者、神明公民館関係者、地区子供会役員（約100名）
■ 電気電子工学科				
6月17日	東陽中学校	カラフル燃料電池の実験	川本 昂	第2学年理科選択生徒（17名）
9月5日	越前中学校	プラズマ発光と他の発光	川本 昂、学生1名	全学年生徒（33名）
9月28日	東安居小学校	科学不思議体験	川本昂、学生1名	小学4年生（69名）
11月18日	東陽中学校	太陽熱発電について	川本昂	第2学年理科選択生徒（17名）
1月20日	東陽中学校	白熱電球、蛍光電球、LED電球の省エネ性の比較実験	川本昂	第2学年理科選択生徒（17名）
1月27日	東陽中学校	ソーラーパネルの特性評価	川本昂	第2学年理科選択生徒（17名）
■ 電子情報工学科				
8月6日	越前市生涯学習センター	LEGOでロボットを作ろう	西仁司、奥田篤士	越前市内の小学生（15名）
8月7日	越前市生涯学習センター	LEGOでロボットを作ろう	西仁司、奥田篤士	越前市内の小学生（16名）
8月29日	夢みらい館・さばえ	レゴブロックでロボットを作ろう	西仁司、奥田篤士	鯖江市内の小中学生（23名）
10月29日	文殊小学校	南極教室	前川公男	3～6年生児童、保護者 4年生は新型インフルエンザのため閉鎖（100名）
11月8日	福井県生活学習館	アイボくん操作体験	西仁司、学生4名	女性団体会員（11名）
11月25日	服間小学校	南極教室	前川公男	4・6年生、教職員、保護者（45名）※5年生は新型インフルエンザのため学年閉鎖で不参加
2月14日	清水南公民館	LEGOブロックでロボット作り	西仁司、奥田篤士	小学生、保護者、公民館職員（6名）

# 出前授業実施内訳（平成21年度）

実施日	出前授業先	概要	担当教職員	対象者（参加者数）
■ 電子情報工学科				
2月23日	武生西幼稚園	ロボットによる出前授業	西仁司, 奥田篤士	幼稚園児, 保護者, 職員 (29名)
■ 物質工学科				
7月1日	神山公民館	身の回りのおもしろ科学 (化学)	津田良弘, 小泉貞之, 松井栄樹, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一	神山小学校4年生 (27名)
7月5日	和田小学校	超低温の世界を体験	吉村忠興志, 小泉貞之, 津田良弘, 西野純一, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一	小学2年生とその保護者
7月22日	南中山公民館	超低温の世界を体験	吉村忠興志, 加藤敏, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～3年生 (18名)
8月4日	今立南部児童館	超低温の世界の体験とアルコールクエクト	上島晃智, 西野純一, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～3年生 (35名)
8月5日	国高公民館	超低温の世界を体験	吉村忠興志, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～6年生 (18名)
8月12日	越前市社会福祉センター	身の回りのおもしろ科学 (化学)	上島晃智, 小泉貞之, 津田良弘, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～4年生 (45名)
8月18日	味真野児童センター	身の回りのおもしろ科学 (化学) と超低温の世界を体験	津田良弘, 上島晃智, 加藤敏, 佐々和洋, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～6年生 (20名)
8月22日	北日野公民館	身の回りのおもしろ科学 (化学) と超低温の世界を体験	津田良弘, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～2年生と保護者 (20名)
8月25日	大虫公民館	身の回りのおもしろ科学 (化学) と超低温の世界を体験	加藤敏, 高山勝己, 西野純一, 松井栄樹	小学1～3年生 (54名)
9月4日	清水中学校 (学園祭)	超低温の世界を体験	吉村忠興志, 上島晃智, 津田良弘, 片岡裕一	学園祭での希望者の中学1～3年生 (60名)
9月16日	味真野小学校	超低温の世界を体験	小泉貞之, 上島晃智, 川村敏之, 野村栄市	理科クラブ (20名)
10月28日	東陽中学校	酸化還元反応を用いた身近な化学反応	小泉貞之, 佐々和洋	第2学年理科選択生徒 (17名)
11月4日	東陽中学校	バイオマスエネルギーとしてのバイオエタノール	吉村忠興志, 片岡裕一, 学生2名	第2学年理科選択生徒 (16名)
3月30日	北新庄公民館	身の回りのおもしろ科学 (化学)	小泉貞之, 野村栄市, 片岡裕一	小学1～3年生 (7名)
■ 環境都市工学科				
12月2日	東陽中学校 (理科室)	生き物のかたちの不思議から構造を学ぶ	阿部孝弘, 奥村充司	2年生理科選択生徒 (14名)
2月10日	東陽中学校 (理科室)	地球を測るぞ	辻子裕二, 阿部孝弘, 学生1名	2年生理科選択生徒 (14名)
計 35 件				



## 公開講座実施内訳（平成24年度）

実 施 日	講 座 名	受講対象者／募集定員	受講者数
6月16日	自律ロボット製作入門	中学生／8名	8名
7月22日	親子科学教室「科学は身近にあふれてる。さあ科学のとびらを開きましょう！」	小学3～6年生（保護者要同伴）／21組 ※	16組
7月28日	小さな大工さん講座「建築模型をつくろう！！」	小学5～6年生，中学生／16名 ※	15名
7月28日	電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	中学生／10名	7名
7月29日	やってみよう ソーラーカー手作り教室	小学生（保護者要同伴）／20組	20組
7月29日	夏休みの自由研究講座「ちからとかたち」	小学4～6年生／13名 ※	12名
8月5日	中学生のための作文講座	中学3年生／15名	15名
8月10日	光を追いかけるロボットカーを作ろう	中学生／10名	10名
8月11日	多面体を作ろう	小学生，中学生／20名	4名
8月11日	電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」	小学4～6年生（保護者要同伴），中学生／10組	10組
8月11日	光ったり動いたりする「スライム」や「人工いくら」を作ってみよう	小学生（低学年は保護者要同伴）／15組 ※	15組
8月18日	関数を体験しよう	中学生／20名	11名
8月25日，26日	中学生のための社会科講座－高専の入試問題で学ぼう	中学3年生／30名 ※	13名
8月28日，29日	中学から始めるバスケットボール・オブエンス編－1on1を得意にする！－	中学生／10名	2名
9月1日，2日	初めての簡単プログラミング	小学4～6年生／10名	8名
9月1日	オリジナル葉をつくろう2012	中学生／5名	4名
9月22日，29日，11月4日	英検3級合格をめざして－受験対策講座－	中学生以上／20名	11名
9月29日，30日	英検準2級合格をめざして	中学生以上（英検3級取得者が望ましい）／20名	7名
11月3日	親子で作るはじめてのオリジナル写真年賀状	小学生～中学生／15組	7組
12月9日	中学生のための国語講座－古典の心を読む	中学3年生／20名 ※	18名
12月15日，16日	英文法基礎講座	中学3年生／20名	15名
合 計	21件		

※は追加募集有りの募集定員

## 公開講座実施内訳（平成23年度）

実 施 日	講 座 名	受講対象者／募集定員	受講者数
5月14日	防災マップ作成講座①	一般／10名	8名
6月18日	自律ロボット製作入門	小学校5～6年生，中学生／8名	
6月19日	防災マップ作成講座②	一般／10名	4名
7月3日	防災マップ作成講座③	一般／10名	
7月24日	親子理科教室（作ってみよう！やってみよう！）	小学校3～6年生／15名	15名
7月28日	電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	中学生／10名	11名
7月30日	小さな大工さん講座「建築模型をつくろう！！」	小学校5～6年生，中学生／8名	6名
7月30日	手作りビー玉スターリングエンジン	中学生／20名	20名
7月31日	やってみよう ソーラーカー手作り教室	小学生／20名	19名
7月31日	夏休みの自由研究講座 「ちからとかたち」	小学校4～6年生／12名	12名
7月31日	紙コプターを作ってみよう	中学生／20名	16名
8月13日	電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」	小学校4～6年生，中学生／10名	9名
9月10日	オリジナルの葉をつくろう2011	中学生／5名	1名
9月10日	光るタンパク質の不思議（遺伝子組換え実験にチャレンジしよう）	中学生／5名	3名
9月10日，11日	初めての簡単プログラミング	小学校4～6年生／10名	7名
9月24日，25日，11月5日	英検合格をめざして（準2級）	中学生以上／20名	2名
10月1日，2日，11月5日	英検3級合格をめざしてー受験対策講座ー	中学生以上／20名	11名
11月3日	紫式部を読む	高校生以上／15名	10名
12月17日，18日	英文法基礎講座	中学校3年生／20名	
合 計	19件		

## 公開講座実施内訳（平成22年度）

実 施 日	講 座 名	受講対象者／募集定員	受講者数
5月16日（日）	防災マップ作成講座①	一般／30名	1名
5月29日（土）	危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座①	中学生以上／12名	1名
5月30日（日）	危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座②	中学生以上／12名	／
6月20日（日）	防災マップ作成講座②	一般／30名	
7月18日（日）	防災マップ作成講座③	一般／30名	／
7月24日（土）	小さな大工さん講座 「木造住宅模型をつくろう！！」	小学校4～6年生，中学生／12名	
7月25日（日）	夏休みの自由研究講座 「ちからとかたち」	小学校4～6年生，中学生／12名	10名
7月30日（金）	電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	中学生／10名	8名
7月31日（土）	手作り風車を作ってみよう	中学生／10名	3名
7月31日（土），8月1日（日）	『楽しい電子回路入門』 ーマイコンでロボットを動かしてみよう！ー	中学生／6名	6名
8月11日（日）	モータ制御を通して学ぶロボットのしくみ	中学生／10名	7名
8月11日（日）	やってみよう ソーラーカー手作り教室	小学校4～6年生，中学生／20名	20名
8月15日（日）	電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」	小学校4～6年生，中学生／10名	10名
8月21日（土），22日（日）	初めての簡単プログラミング	小学校4～6年生，中学生／10名	10名
9月11日（土）	オリジナル乗（しおり）をつくろう 「銅箔の合成とチタンの着色」	小学校5～6年生，中学生／10名	10名
9月11日（土），12日（日）	やさしい微生物実験講座	中学生／5名	2名
9月25日（土），26日（日） 11月6日（土）	英検準2級合格をめざして	中学生以上／20名	5名
10月2日（土）	危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座③	中学生以上／12名	／
10月3日（日）	危険物取扱者資格試験乙種第4類受験講座④	中学生以上／12名	
12月11日（土），12日（日） 12月18日（土），19日（日）	英文法基礎講座	中学校3年生／20名	21名
合 計	20件		

## 公開講座実施内訳（平成21年度）

実 施 日	講 座 名	受講対象者／募集定員	受講者数
7月25日	小さな大工さん講座 「木造住宅模型をつくろう!!!」	小学校高学年，中学生／8名	6名
7月26日	やってみよう ソーラーカー手作り教室	小学校高学年，中学生／20名	20名
7月26日	夏休みの自由研究講座 「ちからとかたち」	小学校高学年／10名	10名
7月31日	電子顕微鏡でミクロな世界を見てみよう	中学生／12名	12名
8月1日	おもちゃづくりから学ぶサイエンス	中学生／20名	12名
8月1日，2日	『楽しい電子回路入門』－マイコンでロボットを動かしてみよう！－	中学生／6名	8名
8月16日	電子工作教室「FMラジオを組み立てよう」	小学校高学年，中学生／10名	9名
8月21日	化学を楽しむ講座	高校生以上／20名	4名 2名
8月22日	蛍光体の科学－電磁波と材料の不思議な関係－	小学校高学年以上／6名	
8月29日			
9月19日	ふるさと福井のかんきょうを測る	小学校高学年，中学生／20名	16名
10月3日，4日	英検準2級合格をめざして	中学生以上／20名	5名
10月10日	初めての簡単プログラミング	小学校4年生～中学校2年生／10名	7名
12月12日，13日，19日，20日	英文法基礎講座	中学3年生／20名	11名
合 計	13件		

## 公開授業実施一覧（平成24年度）

実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
蘆田 昇	オペレーティング・システム	平成24年6月25日	斉藤 徹
五味 伸之	センサ工学	平成24年6月25日	千徳 英介
西 仁司	ものづくり科学	平成24年6月25日	蘆田 昇
吉田 三郎	英語Ⅰ	平成24年6月25日	廣重 準四郎
江本 晃美	環境都市工学設計製図Ⅳ	平成24年6月25日	辻子 裕二
村中 貴幸	材料力学Ⅱ	平成24年6月25日	山本 幸男
吉村 忠与志	情報処理演習	平成24年6月25日	平井 恵子
斉藤 徹	電子情報工学実験Ⅳ	平成24年6月25日	高久 有一
川上 由紀	コンピュータ科学入門	平成24年6月26日	村田 知也
廣重 準四郎	ドイツ語	平成24年6月26日	吉田 三郎
田安 正茂・香月 壮亮	環境都市工学実験実習Ⅰ	平成24年6月26日	辻野 和彦
西 仁司	計算機構成論Ⅰ	平成24年6月26日	下條 雅史
香月 壮亮	建築環境	平成24年6月26日	江本 晃美
佐藤 匡	現代制御工学	平成24年6月26日	荒川 正和
加藤 清考	工学基礎物理Ⅰ	平成24年6月26日	芳賀 正和
常光 幸美・加藤 敏	材料工学実験	平成24年6月26日	松井 栄樹
米田 知晃	情報処理Ⅰ	平成24年6月26日	丸山 晃生
阿部 孝弘	数値解析	平成24年6月26日	田安 正茂
井之上 和代	線形代数	平成24年6月26日	池田 昌弘
王 玉	中国語	平成24年6月26日	金田 直人
石栗 慎一	電気機器	平成24年6月26日	加藤 清考
石栗 慎一	電気機器	平成24年6月26日	竹本 泰敏
石栗 慎一	電気機器	平成24年6月26日	川本 昂
石栗 慎一	電気機器	平成24年6月26日	大久保 茂
荒川 正和	電気電子工学実験Ⅲ	平成24年6月26日	米田 知晃
小泉 貞之	物質工学実験Ⅰ	平成24年6月26日	津田 良弘
斉藤 徹	プログラミング応用	平成24年6月27日	村田 知也
牧野 芳之	化学	平成24年6月27日	山本 裕之
松原 邦昭	基礎解析Ⅰ	平成24年6月27日	坪川 武弘
松原 邦昭	基礎解析Ⅰ	平成24年6月27日	長水 壽寛
松原 邦昭	基礎解析Ⅰ	平成24年6月27日	朝倉 相一
金田 直人	機械製図	平成24年6月27日	藤田 克志
高久 有一	電気磁気学Ⅱ	平成24年6月27日	川上 由紀
米田 知晃	電子工学Ⅱ	平成24年6月27日	村中 貴幸
池田 昌弘	物理	平成24年6月27日	長水 壽寛



## 公開授業実施一覧（平成24年度）

実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
西野 純一	物理化学	平成24年6月27日	小泉 貞之
蘆田 昇	プログラミング基礎	平成24年6月28日	小松 貴大
蘆田 昇	プログラミング基礎	平成24年6月28日	西 仁司
阿部 孝弘	環境都市工学実験実習Ⅱ	平成24年6月28日	吉田 雅徳
辻野 和彦・香月 壮亮	環境都市工学実験実習Ⅲ	平成24年6月28日	阿部 孝弘
金田 直人	機械設計法	平成24年6月28日	村中 貴幸
金田 直人	機械設計法	平成24年6月28日	安丸 尚樹
江本 晃美	建築計画Ⅱ	平成24年6月28日	香月 壮亮
亀山 健太郎	自動制御	平成24年6月28日	五味 伸之
斉藤 徹	情報構造論	平成24年6月28日	小松 貴大
辻野 和彦	測量学	平成24年6月28日	香月 壮亮
丹尾 哲	地理	平成24年6月28日	荻野 繁春
石栗 慎一	電気回路Ⅰ	平成24年6月28日	森 芳周
William Wilki	コミュニケーションⅠ	平成24年6月29日	宮本 友紀
森 貞	英語Ⅲ	平成24年6月29日	原口 治
原口 治	英語Ⅲ	平成24年6月29日	森 貞
吉田 三郎	英語Ⅳ	平成24年6月29日	小寺 光雄
松原 邦昭	基礎解析Ⅱ	平成24年6月29日	井之上 和代
五味 伸之	機械計算力学	平成24年6月29日	村中 貴幸
五味 伸之	機械計算力学	平成24年6月29日	藤田 克志
五味 伸之	機械計算力学	平成24年6月29日	田中 嘉津彦
五味 信之	機械力学	平成24年6月29日	米田 知晃
吉田 雅徳	構造デザイン	平成24年6月29日	阿部 孝弘
丸山 晃生	情報処理システム論Ⅰ	平成24年6月29日	青山 義弘
丸山 晃生	情報処理システム論Ⅰ	平成24年6月29日	佐藤 匡
坪川 武弘	線形代数	平成24年6月29日	石栗 慎一
西野 純一	物質工学実験Ⅲ	平成24年6月29日	加藤 敏
常光 幸美	物理化学Ⅱ	平成24年6月29日	高山 勝己
常光 幸美	物理化学Ⅱ	平成24年6月29日	西野 純一
松原 邦昭	基礎解析Ⅱ	平成24年6月30日	柳原 祐治
香月 壮亮	建築環境Ⅰ	平成24年7月10日	江本 晃美、丸山 晃生
丸山 晃生	情報処理システム論Ⅰ	平成24年7月13日	香月 壮亮
村中 貴幸・亀山 健太郎 千徳 英介	知能機械演習	平成24年7月17日	加藤 寛敬
合 計	68件		

## 公開授業実施一覧（平成23年度）

実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
松尾 光恭	機械工作実習	平成23年6月15日	加藤 寛敬
米田 知晃	電気実験	平成23年6月24日	金田 直人
平井 恵子	コンピュータ科学入門	平成23年6月27日	村田 知也
河原林 友美	電子回路Ⅰ	平成23年6月27日	丸山 晃生, 前多 信博, 亀山 建太郎
山田 孝禎	保健体育	平成23年6月27日	島田 茂
森下 篤郎	建設法規	平成23年6月28日	江本 晃美
田安 正茂	水理学Ⅱ	平成23年6月28日	江本 晃美, 藤田 克志, 加藤 清考 廣部 英一, 辻子 祐二
桶谷 治寛	環境工学	平成23年6月28日	奥村 充司
常光 幸美	基礎材料化学	平成23年6月28日	小泉 貞之
加藤 清考	物理	平成23年6月28日	石栗 慎一
米田 知晃	電気電子工学実験Ⅳ	平成23年6月28日	大久保 茂
柳原 祐治	基礎解析B	平成23年6月28日	池田 昌弘
前川 公男	電子回路	平成23年6月28日	朝倉 相一
吉田 三郎	英語Ⅰ	平成23年6月28日	廣重 準四郎
小泉貞之, 片岡裕一, 野村栄一	ものづくり科学	平成23年6月29日	西野 純一
加藤 清考	工学基礎物理Ⅰ	平成23年6月29日	長水 壽寛
金田 直人	機械設計法	平成23年6月30日	辻野 和彦, 山本 幸男, 安丸 尚樹 千徳 英介, 村中 貴幸, 田中 嘉津彦
吉村 忠与志, 西野 純一	物質工学実験Ⅲ	平成23年6月30日	津田 良弘
野村 保之	電子工学基礎	平成23年6月30日	西 仁司
藤田 克志	流れ学Ⅱ	平成23年6月30日	河原林 友美
河原林 友美	電子回路Ⅱ	平成23年6月30日	川本 昂, 五味 伸之
近藤 基和	基礎解析A	平成23年6月30日	柳原 祐治
小寺 光雄	英語Ⅳ	平成23年6月30日	吉田 三郎
吉田 三郎	英語Ⅰ	平成23年6月30日	森 芳周
辻野 和彦・江本 晃美	環境都市工学設計製図Ⅱ	平成23年7月1日	阿部 孝弘
川本 昂	電力システムⅠ	平成23年7月1日	佐藤 匡
常光 幸美	電気化学	平成23年7月1日	高山 勝己
津田 良弘	卒業研究	平成23年7月1日	松井 栄樹
蘆田 昇	オペレーティングシステム	平成23年7月1日	下條 雅史
野村 保之	電気回路	平成23年7月1日	蘆田 昇
川本 昂	電力システムⅠ	平成23年7月1日	佐藤 匡
島田 茂	保健体育	平成23年7月1日	東 章弘
辻子 祐二	地盤工学Ⅱ	平成23年7月4日	江本 晃美
斉藤 徹	情報構造論	平成24年1月19日	蘆田 昇, 池田 昌弘, 高久 有一
合 計	34件		

## 公開授業実施一覧（平成22年度）

実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
辻野 和彦	測量学	平成22年6月28日	江本 晃美
西野 純一	物理化学Ⅰ	平成22年6月28日	加藤 敏
吉田 雅徳	構造力学Ⅱ	平成22年6月29日	田安 正茂, 江本 晃美
中谷 実伸	基礎解析Ⅰ	平成22年6月29日	森 芳周
吉村 忠興志	情報化学	平成22年6月29日	佐々 和洋
横井 三朗	基礎解析Ⅰ	平成22年6月29日	柳原 祐治, 坪川 武弘
岡田 将人	機械工作実習	平成22年6月29日	村中 貴幸, 丸山 晃生
小寺 光雄	英語Ⅴ	平成22年6月29日	中村 吉秀
間瀬 実郎	建築計画Ⅰ	平成22年6月29日	江本 晃美
小泉 貞之・佐々 和洋	物質工学実験Ⅰ	平成22年6月29日	西野 純一
近藤 基和	基礎解析Ⅱ	平成22年6月29日	廣重 準四郎
間瀬 実郎・江本 晃美・坪川 茂	環境都市工学設計製図Ⅰ	平成22年6月30日	辻野 和彦
西野 純一	無機化学	平成22年6月30日	小泉 貞之
大久保 茂	電気回路演習	平成22年6月30日	荒川 正和
加藤 清考	工学基礎物理Ⅰ（3M）	平成22年6月30日	藤田 克志
加藤 清考	工学基礎物理Ⅰ（3B）	平成22年6月30日	池田 昌弘
辻野 和彦	測量学	平成22年7月1日	阿部 孝弘, 奥村 充司, 坪川 武弘, 岡田 将人, 江本 晃美, 吉田 雅徳
小泉 貞之	放射線概論	平成22年7月1日	高山 勝己
近藤 基和	基礎解析Ⅱ	平成22年7月1日	朝倉 相一
吉田 三郎	英語Ⅱ	平成22年7月1日	柳原 祐治
村中 貴幸	材料力学Ⅱ	平成22年7月1日	山本 幸男
荒川 正和	電気電子工学実験Ⅱ	平成22年7月1日	佐藤 匡
西 仁司	数値計算	平成22年7月1日	下條 雅史, 蘆田 昇
吉田 三郎	英語Ⅱ	平成22年7月2日	荻野 繁春
平井 恵子・佐々 和洋	卒業研究	平成22年7月2日	松井 栄樹
高久 有一	電気磁気学Ⅱ	平成22年7月2日	西 仁司
丸山 晃生	情報処理システム論Ⅰ	平成22年7月2日	村中 貴幸, 大久保 茂
石栗 慎一	電気機器	平成22年7月2日	荒川 正和
前田 安信	国語表現	平成22年7月2日	山本 裕之
川本 昂・村中 貴幸・青山 義弘 小泉 貞之・間瀬 実郎	創造デザイン演習	平成22年7月2日	米田 知晃
藤田 克志	流れ学Ⅱ	平成22年7月2日	加藤 清考
池田 昌弘	工学基礎物理Ⅰ	平成22年7月2日	加藤 清考
辻野 和彦	測量学	平成22年7月5日	阿部 孝弘
河原林 友美	電子回路Ⅰ	平成22年7月5日	米田 知晃

## 公開授業実施一覧（平成22年度）

実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
前多 信博	計測工学Ⅰ	平成22年7月6日	河原林 友美
奥田 篤士	コンピュータ科学入門	平成22年7月6日	加藤 省三
村中 貴幸	知能機械演習	平成22年7月12日	加藤 寛敬
大久保 茂	電気回路Ⅳ	平成22年7月12日	川本 昂
田安 正茂・江本 晃美	環境都市工学実験実習Ⅰ	平成22年7月16日	間瀬 実郎
合 計	39件		

## 公開授業実施一覧（平成21年度）

実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
森 芳周	倫理社会	平成21年12月14日	小泉 貞之
小泉 貞之	分析化学Ⅰ	平成21年12月14日	江本 晃美
森 貞	英語Ⅱ	平成21年12月14日	原口 治
米田 知晃	情報処理Ⅰ	平成21年12月15日	石栗 慎一, 新谷 邦弘, 西 仁司 中谷 実伸, 丸山 晃生
齊藤 徹	プログラミング応用	平成21年12月15日	荒川 正和
石栗 慎一	コンピュータ科学入門	平成21年12月15日	米田 知晃
藤田 克志・江本 晃美 (非常勤講師) 高麗 孝弘	デザイン工学	平成21年12月15日	阿部 孝弘, 辻野 和彦
西 仁司	計算機構成	平成21年12月16日	坪川 武弘
平井 恵子	プログラミング基礎	平成21年12月16日	西野 純一, 津田 良弘
宮本 友紀	英語Ⅰ	平成21年12月16日	柳原 祐治
荒川 正和・米田 知晃 河原林 友美	電子創造工学	平成21年12月16日	大久保 茂
加藤 敏	化学工学Ⅰ	平成21年12月16日	津田 良弘
荻野 繁春	歴史	平成21年12月16日	朝倉 相一
蘆田 昇	オペレーティングシステム	平成21年12月17日	奥田 篤士
岡本 拓夫	物理(実験)	平成21年12月17日	石栗 慎一
西野 純一	ものづくり科学	平成21年12月17日	佐々 和洋
奥村 充司	環境衛生	平成21年12月17日	坪川 武弘
米田 知晃	ものづくり科学	平成21年12月17日	川本 昂
阿部 孝弘	ものづくり科学	平成21年12月17日	吉田 雅徳
芳賀 正和	熱機関	平成21年12月17日	藤田 克志
朝倉 相一	数理統計学	平成21年12月17日	廣部 英一
新谷 邦弘	電気回路Ⅰ	平成21年12月17日	米田 知晃
藤田 克志・芳賀 正和	ものづくり科学	平成21年12月17日	岡田 将人
西 仁司	ものづくり科学	平成21年12月17日	金田 直人
吉田 雅徳	構造力学Ⅰ	平成21年12月18日	村中 貴幸, 奥村 充司, 辻子 裕二 長水 壽寛, 辻野 和彦
坪川 武弘	解析Ⅲ	平成21年12月18日	柳原 祐治
藤田 卓郎	コミュニケーションⅠ	平成21年12月18日	宮本 友紀
長水 壽寛	基礎解析A	平成21年12月18日	亀山 建太郎
荒川 正和	電気工学Ⅰ	平成21年12月18日	米田 知晃
前多 信博	計測工学Ⅰ	平成21年12月18日	米田 知晃
青山 義弘	計算機構成論Ⅰ	平成21年12月18日	西 仁司
新谷 邦弘	電気機器	平成21年12月18日	河原林 友美
加藤 省三	コンピュータ科学入門	平成21年12月18日	平井 恵子
荒川 正和	電気電子工学実験Ⅲ	平成21年12月18日	佐藤 匡



## 公開授業実施一覧（平成21年度）

実施教員	授業科目	実施日	立 会 教 員
奥田 篤士	コンピュータ科学入門	平成21年12月22日	加藤 省三
亀山 建太郎	自動制御	平成22年1月14日	佐藤 匡，村中 貴幸，坪川 武弘 河原林 友美，芳賀 正和
加藤 敏	化学工学Ⅱ	平成22年1月19日	西野 純一，小泉 貞之，芳賀 正和 丸山 晃生，津田 良弘
合 計	3 7 件		

## 教員の派遣等一覧 — 平成16年度以降 —

### ■海外先進教育実践支援プログラム

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	研究題目
平成16年度	常光 幸美	物質工学科	H17.3.30 ～ H18.3.29	連合王国	めっきプロセスによる金属ナノ構造材料創製
	吉田 雅穂	環境都市工学科	H17.3.25 ～ H18.3.24	アメリカ合衆国	安全なものづくりのための力学教育法の構築

### ■国際研究集会派遣研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	研究集会名
平成17年度	吉村 忠興志	物質工学科	H17.12.15 ～ H17.12.20	アメリカ合衆国	2005環太平洋国際化学会議

### ■独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	派遣先大学名	研究題目
平成18年度	岡田 将人	機械工学科	H18.5.1 ～ H19.2.28	金沢大学大学院	CBN（立方晶窒化ホウ素） 工具を用いたハードミリング に関する研究
	田安 正茂	環境都市工学科	H18.5.1 ～ H19.2.28	長岡技術科学大学 大学院	人工構造物に作用する流体力の 数値計算法の開発およびその 現地検証
平成22年度	金田 直人	機械工学科	H22.5.1 ～ H23.2.28	金沢大学大学院	合繊仮燃加工における燃トルク 発生メカニズムに関する 研究

### ■独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先大学名	取組名称
平成19年度	丸山 晃生	電気電子工学科	H20.3.30 ～ H21.3.1	オーストラリア国立 大学（ANU）	非古典論理に対する自動推論 システムの構築とその高専教育 への展開

### ■独立行政法人国際協力機構教師海外研修

年度	氏名	学科等	渡航期間	研修先国名	研修コース名
平成24年度	山本 幸男	電気電子工学科	H24.8.19 ～ H24.8.26	フィリピン共和国 （マニラ、イロイロ）	技術系グローバル人材育成 コース
	江本 晃美	環境都市工学科	H24.8.19 ～ H24.8.26	フィリピン共和国 （マニラ、イロイロ）	技術系グローバル人材育成 コース

※平成24年12月31日現在

平成25年2月発行

編集 福井工業高等専門学校自己点検・評価委員会

発行者 独立行政法人 国立高等専門学校機構  
福井工業高等専門学校  
〒916-8507 福井県鯖江市下司町  
TEL 0778-62-1111 (代)  
FAX 0778-62-2597 (総務課)  
URL <http://www.fukui-nct.ac.jp>



# FUKUI NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY